令和6年度

病　院　年　報

第22号



日本赤十字社

高槻赤十字病院

理　　念

私たちは人道・博愛の赤十字精神に基づき、高度で安全な医療を提供し、地域の人々が誇りにする病院となるよう努めます。

方　　針

1．患者さんの人権と意思を尊重し、患者さん中心の医療をおこないます。

2．一人ひとりの患者さんを全職員が支援する、チーム医療をおこないます。

3．患者さんのホームドクターと緊密に連携し、地域で完結する医療をおこないます。

4．常に向上心と研究心をもち、最高最善の医療が実現できるように努めます。

5．健全な病院経営と地域に貢献できる医療従事者の育成に努めます。

6．災害救護活動をはじめとする赤十字にかせられた使命を果たします。

患者さんの権利の尊重

1. 患者さんは個人として常にその人格を尊重される権利があります。
2. 患者さんは良質な医療を平等に受ける権利があります。
3. 患者さんは自分が受ける治療や検査の効果や危険性、他の治療法の有無等について、分かりやすい説明を受ける権利があります。
4. 患者さんは自分が受ける治療計画を立てる過程に参加し、自分の意見を表明し、自己決定する権利があります。医療機関を選択し、転院・退院する権利があります。
5. 患者さんは自分が受けている医療について知る権利があります。
6. 患者さんは自分の情報を自分の承諾無くして第三者に開示されない権利があります。

看 護 部 の 理 念

赤十字の理念に基づき、療養生活支援の専門家として、根拠に基づいた安心・安全な看護を提供し、看護の対象者がその人なりの生活ができるよう支援します。

令和6年度病院年報出版にあたり

令和6年度（令和6年4月～令和7年3月）版病院年報がまとまりました。高槻赤十字病院のホームページにアップしています（http://www.takatsuki.jrc.or.jp）。

令和6年度は新型コロナ感染症も徐々に沈静化し、高槻赤十字病院の各病棟の改修も一段落しました。

令和６年１２月に日本医療機能評価機構から一般病院２　3rd：Ver.３.０の認定を頂きました。

令和７年２月には卒後臨床研修評価機構（JCEP）から引き続き施設認定を頂きました。

当院は今後も若い先生方にも魅力的な病院であることを目指しつつ登録医の先生方と共に地域医療に貢献していきたいと思っています。

令和8年１月末日

院長　玉田　尚

目　　次

Ⅰ　病院の沿革

病院の沿革 …… 1

Ⅱ　病院の現況

1. 病院の特色 …… 6
2. 施設の概要 …… 7
3. 各種法律に基づく医療制度指定・承認 …… 7
4. 各学会認定の認定医・専門医教育指定等状況 …… 8
5. 診療体系 …… 9
6. 施設基準 …… 11
7. 配置図 …… 15
8. 付近見取図 …… 16
9. 主な施設・機器 …… 17
10. 年　表（沿革） …… 21
11. 整備医療器械備品 …… 26

Ⅲ　組織及び職員

1. 組織図 …… 27
2. 幹部職員 …… 28
3. 職員現況表 …… 29
4. 職種別・年齢別・職員構成表 …… 29
5. 会議及び委員会 …… 30

Ⅳ　統　　計

1. 令和６年度実績表 …… 31
2. 入院患者数 …… 32
3. 入院稼働額 …… 33
4. 入院単価 …… 34
5. 外来患者数 …… 35
6. 外来稼働額 …… 36
7. 外来単価 …… 37
8. 科別患者構成比 …… 63
9. 診療科年齢別構成表 …… 64

10. 救急患者数 ……65
11. 剖検件数 ……66
12. 紹介率・逆紹介率 ……67
13. 食事別給食数 ……68
14. 栄養指導件数 ……69
15. 手術件数 ……70
16. 医業収益・費用及び医業外収益・費用の構成について ……71
17. 病院利益（損失）……72
18. 年間購入雑誌一覧 ……73
19. 医療社会事業相談内容 …… 76

Ⅴ　退院患者疾病統計
1. 月別退院患者数 ……77
2. 科別・月別退院患者数 ……78
3. 科別・転帰別退院患者数 ……79
4. 疾病大分類別・性別退院患者数 ……80
5. 疾病大分類別・診療科別退院患者数 ……81
6. 疾病大分類別・転帰別退院患者数 ……82
7. 科別死亡数および剖検数 ……83

Ⅵ　診療科・部門別活動実績
総合診療科 ……84
緩和ケア科 ……85
血液腫瘍内科 ……86
循環器科 ……87
消化器科・消化器内視鏡センター ……88
神経内科 ……91
呼吸器外科（呼吸器センター）……92
呼吸器科（呼吸器センター）……93
小児科 ……98
外科_消化器外科 …… 100
外科_乳腺外科 …… 103
脳神経外科 …… 105
整形外科 …… 106
形成外科 ……109
皮膚科・美容皮膚科 ……110
泌尿器科 ……112

産婦人科 ……114
眼　科 ……115
放射線科部 及び 核医学科部 ……116
リハビリテーション科 ……119
麻酔科 ……123
救急部 ……125
医療技術部_栄養課 ……126
医療技術部_臨床工学技術課 ……127
薬剤部 ……130
検査部 ……137
病理診断科部 ……140
看護部 ……141
医療社会事業部 ……155
医療社会事業部　訪問看護ステーション ……170
がん相談支援センター ……173
医療安全推進室 ……182
教育研修推進室 ……192
事務部 ……193
Ⅶ　委員会活動
委員会 ……195
Ⅷ　誌上・講演発表
誌　上 ……277
講　演 ……284

Ⅰ　病院の沿革

Ⅰ．病院の沿革

当院は、昭和16年11月2日、「日本赤十字社大阪支部病院分院阿武野勝景園」として誕生しました。

日本赤十字社大阪支部は、大正から昭和にかけて蔓延し、「亡国病」とまでいわれた結核の予防と治療という国家的見地に立って、昭和 10 年頃から大規模な結核療養所の建設を計画していました。この計画を知った東洋紡績株式会社からの寄付金を基金とし、各方面からの援助も得て、昭和 15 年 6 月より大規模な建設工事が始まりました。

生駒連峰を望み、北摂平野を見下ろす、林間景勝の地（当時の三島郡阿武野村、土室・奈佐原・塚原の三大字にわたる地域）にちなみ「阿武野勝景園」と命名され、敷地は約20万坪、近世式木造平屋建、一部2階建71棟、134室、250床を有し、非常時には400床の収容が可能な結核療養所が完成しました。

しかしながら、竣工式の一ヵ月後の12月8日に太平洋戦争が始まり、当院も時代の大きな渦に飲み込まれて行くこととなりました。

昭和17年5月20日からは「大阪陸軍病院阿武野赤十字病院」として、軍患者を収容することとなり、昭和20年6月6日以降は「大阪第二陸軍病院阿武野赤十字病院」として中部軍所属となり 475 名の傷病兵を受け入れ救護にあたりました。

終戦後の昭和20年11月30日、軍病院は解除され、12月1日からは「大阪赤十字病院阿武野勝景園」として軍患者以外の一般診療を開始し、昭和 22 年 9 月 1 日には、分院から昇格し「大阪阿武野赤十字病院」と改称し独立しました。

戦後の厳しい状況下にあっても、患者の食糧や燃料の欠乏を補うため、農作業や薪炭作りの勤労奉仕にあたり、また府下の有力大病院が結束して結成した結核病院協会に参画する一方、近接地域に結核相談部を開設して巡回診療を実施するなど、事業進展に最大限の努力を行った時代でもありました。

戦後20年を経て高度経済成長の時代の中、千里丘陵での万国博覧会の開催と相まって高槻市、茨木市などは京阪神のベッドタウンとして大きな発展を見せはじめました。病院の周辺においても宅地造成が進み、隣接地域に約3000戸の公団住宅が建つなど目ざましいものがありました。住民の地域医療に対する渇望に応えることが求められるようになり、時を同じくして結核患者の急速な減少が見られるようになったことから、一般各科の診療を開始し、総合病院への転換を図ることになりました。

昭和45年1月1日、病院名を現在の「高槻赤十字病院」に改称し、同年2月より第一次病院整備事業として外来診療棟を中心とした、一般科患者の入院設備も有する鉄筋コンクリート造り、地下 1 階地上 3 階の新館において診療を開始しました。とはいえ、当院の設立のいきさつもあり、この時点では、一般病床 99 床に対し、結核病床は 559 床でした。

新薬の開発など、結核の予防と治療は飛躍的に進歩しました。結核患者の減少傾向は一層加速し、懸命な経営改善への取り組みにも関わらず財政は悪化の一途をたどることとなり、ますます一般病床への移行が重要な課題となってきました。

昭和53年10月31日、鉄筋コンクリート6階建て、延床面積22,991㎡の新病棟の完成により、

二次にわたった病院整備事業は一つの区切りを迎えることができました。この新病棟の完成により同年11月21日より名実ともに総合病院としての診療業務が開始されました。この時、一般病床322床、結核病床197床、合計519床と一般病床が結核病床を上回ることとなりました。その後も結核患者の減少と疾病構造の多様化に対応するため、結核病床の削減と一般病床の開設を順次行い、昭和61年2月には、一般病床454床、結核病床65床に、そして平成9年3月末には、この65床も廃止し、厚生省（当時）の結核患者収容モデル事業による陰圧室の病床（6床）を設置することにより、一般病床 446 床、結核病床 0 床の病院となりました。

地域医療への取り組みでは、平成4年4月の医療法改定を受けて、平成8年7月には「高槻赤十字訪問看護ステーション」を開設、平成10年10月には「開放型病院」認定、平成11年8月には介護保険法の制定により「高槻赤十字病院居宅介護支援事業所」を設置するなど、訪問看護の充実、在宅介護支援、地域診療所との連携を図りつつ、地域住民への医療サービスの提供に努めてきました。

こうした中、がんの増加とそれを受けての終末期医療の充実を求める声の高まりを受けて、平成14年5月に緩和ケア病棟『LakesideHome』（20床）を尾広池の辺に開設しました。豊かな自然環境を生かした癒しの空間が特徴であり、「第1回癒しと安らぎの環境賞」の最優秀賞（ホスピス部門）を受賞しました。

また、当院の病院機能等への評価・格付けに関するところでは、平成11年4月には「臨床研修病院」の指定を受け、研修医の育成に貢献するとともに、平成14年12月には「地域がん診療拠点病院」に指定され、地域のがん診療の中核を担うこととなり、更に平成16年2月には第三者による医療機関の評価である「病院機能評価（Ver.3.1 一般病院 B）」の認定を受けました。

また、医療のIT化が叫ばれる中、平成17年11月に電子カルテシステムを稼働することができました。

医療機器の高度化・医療の IT 化に伴い、安定した電力供給は必要不可欠なものとなり、環境保全・省エネルギー・省コストとともに、商用電力との併用による電力の二重化により、万一の際にも一定の電力が確保できるように、自家発電装置以外の発電設備としてガスコージェネレーションシステムを平成 18 年 6 月から稼動させました。

更に平成 17 年度にはこれらと並行し、老朽化・狭隘化という問題を抱えていた手術室を新たに外来正面玄関前に新築移転することになり、2 階部分にバイオクリーンルーム 2 室を含む計 7 室の手術室、1 階部分には生理機能検査室と外科の外来診察室、更には緩和ケア病棟や高槻市街が眼下に広がる場所に『外来化学療法室』を持つ新手術棟・外来棟が平成18年3月に竣工しました。

続いて平成18年10月には、旧手術室を内視鏡室・血液浄化療法室などに改修するとともに、眼科・整形外科を中心に外来部門も整備改修し、診療機能の整備とアメニティの向上にも努めました。併せて病院建物全体の耐震補強工事を行い、万一の際にも赤十字病院としての医療機能を保持できるようにしました。

この病棟改修、手術棟・内視鏡室の新設・改修、外来部門の整備にあわせ、診療機能・管理体制の充実にも努めました。平成16年4月には、それまで皮膚科の中に含まれていた形成外科部門を独立した診療科として標榜するとともに、呼吸器科についても呼吸器科（呼吸器アレルギー内科）と呼吸器外科に分科し、それぞれの専門性を発揮できる体制としました。続いて平成18年7月には、「糖尿病・内分泌・生活習慣病科部」「緩和ケア科部」「血液・腫瘍内科部」

「消化器外科部」「乳腺外科部」「がん統合治療科部」を院内標榜し、患者により分かりやすい診療体制をめざしました。同時に、院長直属の機関として「医療安全推進室」を設置、専任リスクマネジャーを配置し、複雑化する医療への安全管理と患者への安心の提供のために専門に取り組む体制を強化しました。平成19年2月には、患者・家族のがんに関する不安や悩みの相談に応え、各種の要望に迅速かつ適切に対応するために、『がん相談支援センター』を設置しました。

この目まぐるしい病院運営の中にありながら、平成18年11月には、全国の赤十字病院が集う『第42回日本赤十字社医学会総会』を「地域の人々が感動し、誇りにする病院」をメインテーマに、当院の主催で国立京都国際会館にて開催し、全国から様々な職種が集い、1,000名余りの参加を得て大成功を収めることができました。

近年急性期病院としての必須の機能であり、長年の懸案であったICUについて、施設基準としての特定集中治療室管理料は届出しないものの、その機能を十分に持った6床を平成19年10月に３病棟の一画に開設することができました。

また、看護師確保対策として“看護職員が働きやすい職場を作り上げる”を主軸とした、院内保育所（高槻日赤保育園『すくすく』）と病児保育室を院内に開設するなどの対策を施し、看護師の採用を積極的に行うことで平成20年2月には念願の7対1入院基本料を算定できるようになりました。

更に同年7月にはDPC対象病院として承認されました。厚生労働省では平成15年4月より大学病院などを中心とした「特定機能病院」で診断群分類別包括支払（DPC）と呼ばれる診療報酬の包括評価制度を導入し、以後徐々にその対象を広げ、当院でも導入の必要性を認めた事から、平成17年1月、事務部内に「診療情報管理課」を設置し、平成18年より“DPC準備病院”として調査データの提出を厚生労働省に対して行ってまいりました。

平成20年度より導入を進めてきた「放射線治療装置リニアック」も平成22年度4月には文部科学省の認可が下り、同年10月には厚生労働省“高エネルギー放射線治療”の稼働が許可されて放射線治療を開始。翌年2月には正式に施設基準として認可され、大阪府がん診療拠点病院とし癌治療に対する近代医療を提供することが可能となりました。

平成23年11月25日、医療機能の役割分担と連携、自院の役割の明確化と地域医療への貢献を主旨とし、かねてより計画していた「地域医療支援病院」を取得。救急、紹介、特殊な技術を要する高機能外来など、急性期を中心とした医療提供体制を構築することができました。

平成24年2月には、より高度な内視鏡検査・治療に対応するため、消化器内視鏡センターを開設。また平成24年８月には緩和ケア診療科を開設し、緩和サポートチームが入院・外来を問わず患者のさまざまな苦痛の緩和、ご家族の抱える負担や気がかりへの関わり、治療方針や治療の場の選択にかかる意思決定などの支援を行い、ホスピスを提供する緩和ケア病棟と合わせ、緩和ケアにおける診療機能を充実させました。

平成26年1月26日には高槻市制70周年記念事業高槻市全域大防災訓練が開催され、当院から救護班として 25 名が参加、消防や各機関と連携して災害救護活動を実施し、赤十字病院としての使命を果たしました。

病院機能評価としては平成16年において病院機能評価Ver.3.1の認定、平成21年において病院機能評価Ver.5.0の認定を受けてから5年が経過し、平成26年3月に機能種別版評価項目 3rdG:Ver.1.0 の医療機関として改めて認定されました。

平成26年度から新たに「医療の質の評価を継続的に向上させる事業」ＱＩプロジェクトに参加を開始し、他の参加病院から医療の質改善の事例やノウハウを学ぶなど、病院経営や運営管理に生かす動きを行っています。

平成 26 年 7 月から患者支援センターを開設し、地域医療の中核病院としてかかりつけ医である開業医の先生方や回復期医療・福祉関連施設との連携を図り、地域における良質な医療を提供できる体制を確保し、紹介患者増加に努めています。

平成26年7月26日には医療の現場を知ってもらうことを目的として地域の中学生・高校生を対象にブラックジャックセミナー（手術体験セミナー）を開催し、地域社会への医療教育の貢献を行いました。

平成26年8月にはフェイスブック(SNS)を開設、11月には病院診療科案内の冊子を初めて発行するなど様々な病院情報を発信し、広報戦略を展開させました。

平成27年3月から新たに眼科二次救急当直を毎週木曜日に開始し、医業収益の増収を図るとともに、地域に必要とされる医療提供を行っています。

平成29年9月にＪＲ摂津富田～病院間にてシャトルバスの運行を開始、また平成30年6月には JR 総持寺駅へ運行エリアを拡大し、病院へのアクセス改善を行っています。

平成30年12月には無菌治療室を9床（個室1室、4人部屋2室）増床、これまでの個室3室を合わせ合計 12 床とし、免疫機能が低下した造血幹細胞移植やがん化学療法の患者さんの入院受入体制を充実させました。

平成 31 年 4 月に電子カルテシステムを更新し、業務の効率化、迅速化を図りました。

令和元年 5 月には老朽化及び大阪府北部地震による損傷のため使用が困難な 2 病棟を 8 病棟に移動し、新たにレディース病棟としてリニューアルオープンし、新入院患者の増加を図りました。

令和 2 年 8 月に新型コロナウイルス感染症拠点病院「重点医療機関」と認定される。

令和 3 年 3 月には、老朽化及び大阪府北部地震による損傷のため使用が困難な 2 病棟及び休棟となっていました4病棟併せて104床分を返還し、ダウンサイジングすることで、当院の身の丈にあった病床数 335 床へ変更となりました。

令和3年11月には創立80周年を迎え、新型コロナウイルス感染症に対して積極的な立ち位置を堅持して地域医療に貢献してきました。

令和 4 年 4 月に総合診療科を設置し診療機能を充実させました。

令和5年2月には卒後臨床研修評価機構（JCEP）の認定となりました。また、4月にはがん相談支援センターを設置しました。

令和６年５月に、当院は日本医療機能評価機構による病院機能評価（一般病院2 3rdG:Ver.3.0）の審査を受審し、同年 12 月に「認定病院」として正式に認定されました。
また、令和６年８月には LINE 公式アカウントを開設し、医療情報の発信をはじめました。
さらに、令和7年3月には本館病棟のリニューアル工事が完了し療養環境の一層の改善を図ることができました。

今後も赤十字の使命として災害救護活動をもとに、災害医療対応も地域と共同して推進し「人道・博愛」の精神に基づいた、安全・安心な医療を提供するとともに、さらなる急性期医療提供体制の強化と“継続と変革”を高いレベルで補完し、永続的な発展を行える医療機関として日々邁進していきます。

Ⅱ　病院の現況

1. 病院の特色

医療機能

◎ 大阪府より『地域医療支援病院』に承認され、地域医療連携室を通じ、登録医の先生方との連携を密にし、地域に根差した病院として尽力しています。また、地域の登録医からの入院用に『開放病床』を 49 床設置しています。

◎ 大阪府より『がん診療拠点病院』の指定を受けており、地域のがん診療の中心的役割を担っています。また、『がん相談支援センター』の設置、平成 22 年 10 月には『放射線治療装置リニアック』の導入を行いましたが、令和 7 年末をもってリニアックの運用は中断しております。

◎ 『2 次救急告示病院』として地域の救急医療に貢献しています。

◎ 三島地区における『大阪府災害医療協力病院』として災害発生時の医療体制の提供を担っており、大規模災害時や救急時に対応できるように、ヘリコプターが離発着できるヘリポート用グラウンドを有しています。

◎ DPC 対象病院として、平成 20 年 7 月より包括請求を実施しています。

◎ 看護体制を整備し、『急性期一般入院料 1 』を取得しています。

◎ 『光・水・緑』豊かな環境を生かした『緩和ケア病棟』を開設し、がん患者のケア施設として、身体的苦痛だけでなく、孤独感や不安を軽減し、患者さんがその人らしく尊厳を持って生きることのできる環境を提供しています。

◎ HCU を設置し、さらなる急性期医療の充実に努めています。

◎ 院長直属の組織として『医療安全推進室』を設置し、専任リスクマネージャーのもと、医療安全の推進に取り組んでいます。

◎ 一部の診療科はセンター化を行っており、より専門的な臓器別診療科や特殊外来の充実に努めています。

◎ 患者さんやそのご家族が住み慣れた地域で療養生活が継続できるよう他職種による協同支援体制を目的とした患者支援センターを開設しています。

その他

◎ 厚生労働省の臨床研修病院『基幹型臨床研修病院』として、また京都大学や大阪医科薬科大学の臨床研修協力病院（施設）として、医師の初期研修の場として貢献しています。

◎ 電子カルテシステムを運用しており、診療情報の共有、医療の質の向上に努めています。

◎ 看護職員等の労働環境改善のために、『院内保育所』や『病児保育所』を開設しています。

◎ 医師職員の労働環境改善のため『医師事務補助職員』の導入を行っています。

2. 施設の概要

病　　院

所　在　地　　高槻市阿武野一丁目 1 番 1 号
敷　　地　　58,841.39㎡
建物建築面積　　11,242.47㎡
建物延床面積　　30,154.96㎡

付属施設

訪問看護ステーション
　所　在　地　　高槻市阿武野一丁目 1 番 1 号

3. 各種法律に基づく医療制度指定・承認

保険医療取扱機関
労災保険指定病院
生活保護法指定病院
原子爆弾被爆者医療指定機関
公害健康被害補償法公害医療機関
大阪府がん診療拠点病院
救急告示病院(第二次救急指定病院)
地域医療支援病院
小児慢性特定疾病指定医療機関
救急救命士病院実習受入病院
大阪府アレルギー疾患医療連携協力病院
国民健康保険療養取扱機関
母体保護法指定病院
第二種感染症指定医療機関
児童福祉法医療給付指定医療機関
厚生労働省臨床研修指定病院（基幹型）
大阪府災害医療協力病院(三島ブロック)
大阪府肝炎専門医療機関
難病指定医療機関
DPC 対象病院
マンモグラフィ検診施設
開放型病院

4. 各学会認定の認定医・専門医教育指定等状況

担当診療科	名称
	日本がん治療認定医機構認定研修施設
	日本老年医学会老年科専門研修施設
内科	日本内科学会認定専門研修プログラム
血液・腫瘍内科	日本血液学会認定専門研修認定施設 非血縁者間骨髄採取認定施設 非血縁者間造血幹細胞移植認定診療科 成人白血病治療共同研究機構認定準施設
循環器科	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
消化器科	日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医指導施設 日本肝臓学会肝臓専門医制度特別連携施設
呼吸器科 呼吸器外科	呼吸器外科専門医合同委員会認定専門研修連携施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本呼吸器学会認定施設
外科	日本外科学会外科専門医制度修練施設 日本腹部救急医学会腹部救急認定医・教育医制度認定施設 National Clinical Database 施設会員（外科領域）
消化器外科	日本消化器外科学会専門医修練施設 日本食道学会全国登録認定施設
乳腺外科	日本乳癌学会専門医制度認定施設
乳腺外科 放射線科	日本乳がん検診精度管理中央機構マンモグラフィ検診施設・画像認定施設
整形外科	日本整形外科学会専門医制度研修施設
形成外科	日本形成外科学会認定施設
皮膚科	日本皮膚科学会認定専門医研修施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設
泌尿器科	日本泌尿器科学会泌尿器科専門医教育施設
麻酔科	日本麻酔科学会麻酔科認定病院
病理診断科	日本病理学会研修登録施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本臨床細胞学会教育研修施設
薬剤部	日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設（基幹施設） 日本医療薬学会医療薬学専門薬剤師研修施設（基幹施設） 日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師研修施設（基幹施設）

栄　　養　　課	日本栄養治療学会 NST 稼働施設
放　射　線　科	日本医学放射線学会画像診断管理認証施設（MRI 安全管理に関する事項）
検　　査　　部	日本輸血・細胞治療学会輸血機能評価認定制度（I&A 制度）認証施設

5. 診療体系

診療科目　２５科

内　　科（内科、緩和ケア科）
糖尿病・内分泌・代謝内科
血 液 内 科（血液・腫瘍内科）
脳神経内科　消化器内科　循環器内科　呼吸器内科　呼吸器外科
外　　科　消化器外科　脳神経外科　整 形 外 科
産 婦 人 科　小　児　科　眼　　科　皮　膚　科　形 成 外 科
耳鼻咽喉科　ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科　泌 尿 器 科　放 射 線 科　麻　酔　科
病理診断科　乳 腺 外 科　美容皮膚科

専門外来

内　　科　リウマチ・膠原病外来、緩和ケア
糖尿病・内分泌・代謝内科　糖尿病・内分泌外来、フットケア外来
血 液 内 科　血液外来、移植後外来（造血幹）
脳神経内科　神経内科外来
消化器内科　消化器外来
循環器内科　循環器外来
呼吸器内科　睡眠時無呼吸外来、禁煙外来、ほっとひといき看護外来
呼吸器外科
外　　科　消化器外来、乳腺外来、ストマ外来
脳神経外科
整 形 外 科　脊椎外来、肩関節外来、リウマチ外来
産 婦 人 科
小　児　科　心臓外来、ダウン症候群・神経外来、乳児健診、１カ月健診
　　小児アトピー性皮膚炎外来、アレルギー外来

眼　　科	緑内障外来、ロービジョン外来、網膜外来、眼形成外来
皮　膚　科	美容皮膚科外来
形 成 外 科	レーザー外来、まぶた・眼形成
耳 鼻 咽 喉 科	めまい外来
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科	心臓リハビリテーション
泌 尿 器 科	

病　　棟

	許可病床
3 病棟	34 床
5 病棟	58 床
6 病棟	58 床
7 病棟	49 床
8 病棟	54 床
9 病棟	56 床
緩和ケア病棟	20 床
ＨＣＵ	6 床
計	335 床　　（3/31 末現在）

６．施設基準

基本診療料

医療ＤＸ推進体制整備加算

一般病棟入院基本料（急性期一般入院料1）

総合入院体制加算３

救急医療管理加算

診療録管理体制加算１

医師事務作業補助体制加算１（20対1）

急性期看護補助体制加算（50対1）

看護職員夜間配置加算（16対1配置加算1）

重症者等療養環境特別加算

無菌治療室管理加算１

無菌治療室管理加算２

栄養サポートチーム加算

医療安全対策加算１

感染対策向上加算１

患者サポート体制充実加算

重症患者初期支援充実加算

報告書管理体制加算

褥瘡ハイリスク患者ケア加算

術後疼痛管理チーム加算

後発医薬品使用体制加算１

病棟薬剤業務実施加算１

病棟薬剤業務実施加算２

データ提出加算2イ

入退院支援加算（入院時支援加算・総合機能評価加算）

認知症ケア加算

せん妄ハイリスク患者ケア加算

精神疾患診療体制加算

地域医療体制確保加算

ハイケアユニット入院医療管理料１

小児入院医療管理料５

緩和ケア病棟入院料２

特掲診療料

外来栄養食事指導料の注２に規定する基準

心臓ペースメーカー指導管理料の注５に規定する遠隔モニタリング加算

がん性疼痛緩和指導管理料

がん患者指導管理料イ

がん患者指導管理料ロ

がん患者指導管理料ハ

移植後患者指導管理料（造血幹細胞移植後）

二次性骨折予防継続管理料１

二次性骨折予防継続管理料３

院内トリアージ実施料

夜間休日救急搬送医学管理料の注３に規定する救急搬送看護体制加算

外来腫瘍化学療法診療料１

連携充実加算

ニコチン依存症管理料

開放型病院共同指導料

がん治療連携計画策定料

肝炎インターフェロン治療計画料

薬剤管理指導料

医療機器安全管理料１

在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注２に規定する遠隔モニタリング加算

骨髄微小残存病変量測定

ＢＲＣＡ１／２遺伝子検査

ＨＰＶ核酸検出及びＨＰＶ核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）

検体検査管理加算（Ⅰ）

検体検査管理加算（Ⅳ）

時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト

ヘッドアップティルト試験

神経学的検査

小児食物アレルギー負荷検査

経気管支凍結生検法

画像診断管理加算２

ＣＴ撮影及びＭＲＩ撮影

冠動脈ＣＴ撮影加算

心臓ＭＲＩ撮影加算

乳房ＭＲＩ撮影加算

小児鎮静下ＭＲＩ撮影加算

抗悪性腫瘍剤処方管理加算

外来化学療法加算１

無菌製剤処理料

心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）

脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）

運動器リハビリテーション料（Ⅰ）

呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）

がん患者リハビリテーション料

人工腎臓

導入期加算１

透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算

下肢末梢動脈疾患指導管理加算

脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術

乳癌センチネルリンパ節生検加算１及びセンチネルリンパ節生検（併用）

乳癌センチネルリンパ節生検加算２及びセンチネルリンパ節生検（単独）

食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、等

ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術

大動脈バルーンパンピング法（ＩＡＢＰ法）

腹腔鏡下リンパ節群郭清術（側方）

内視鏡的逆流防止粘膜切除術

腹腔鏡下肝切除術

腹腔鏡下膵腫瘍摘出術

腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術

早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術

腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術

人工尿道括約筋植込・置換術

腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術

医科点数表第２章第10部手術の通則の16に掲げる手術

周術期栄養管理実施加算

輸血管理料Ⅰ

輸血適正使用加算

自己生体組織接着剤作成術

胃瘻造設時嚥下機能評価加算

麻酔管理料（Ⅰ）

周術期薬剤管理加算

高エネルギー放射線治療

病理診断管理加算１

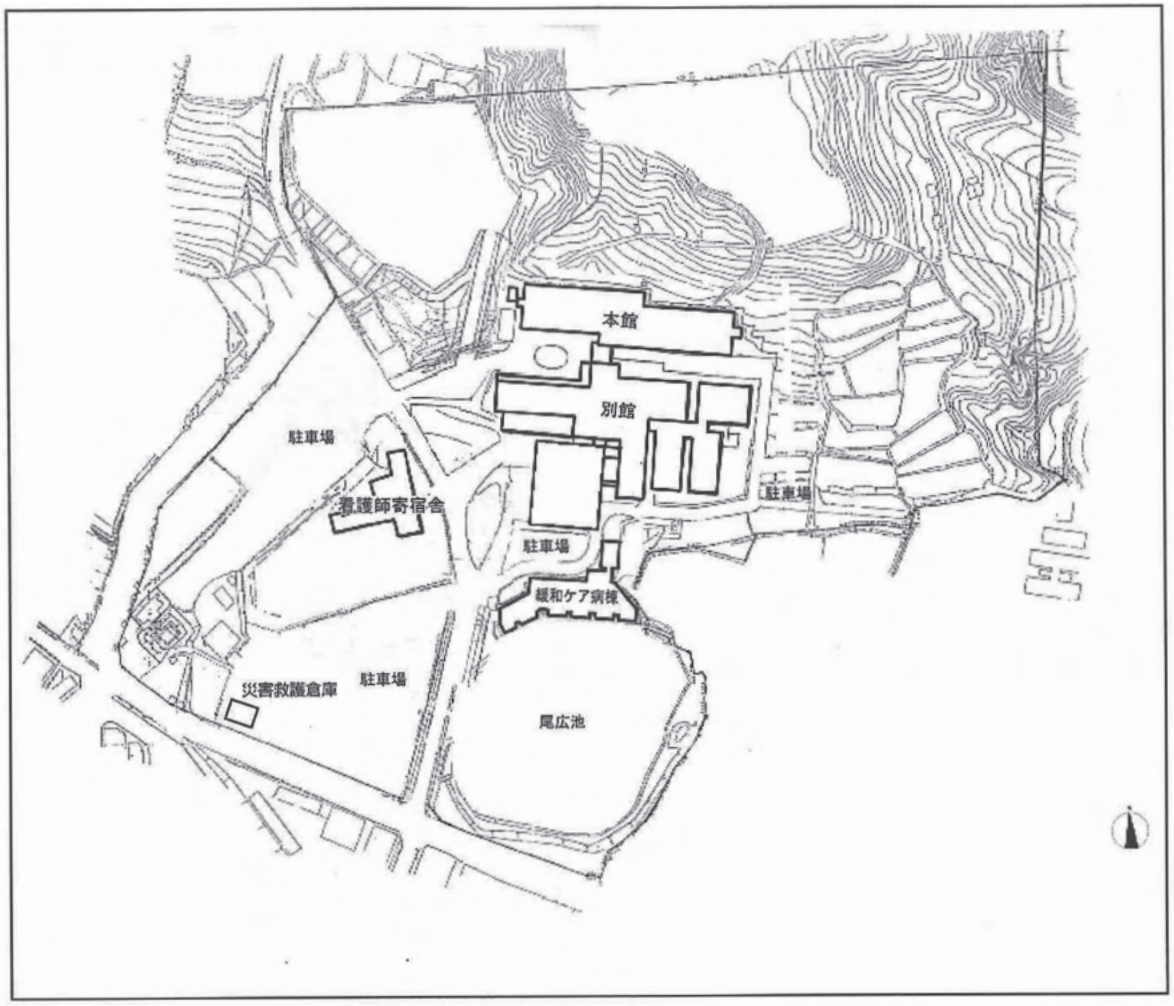
悪性腫瘍病理組織標本加算

看護職員処遇改善評価料５０

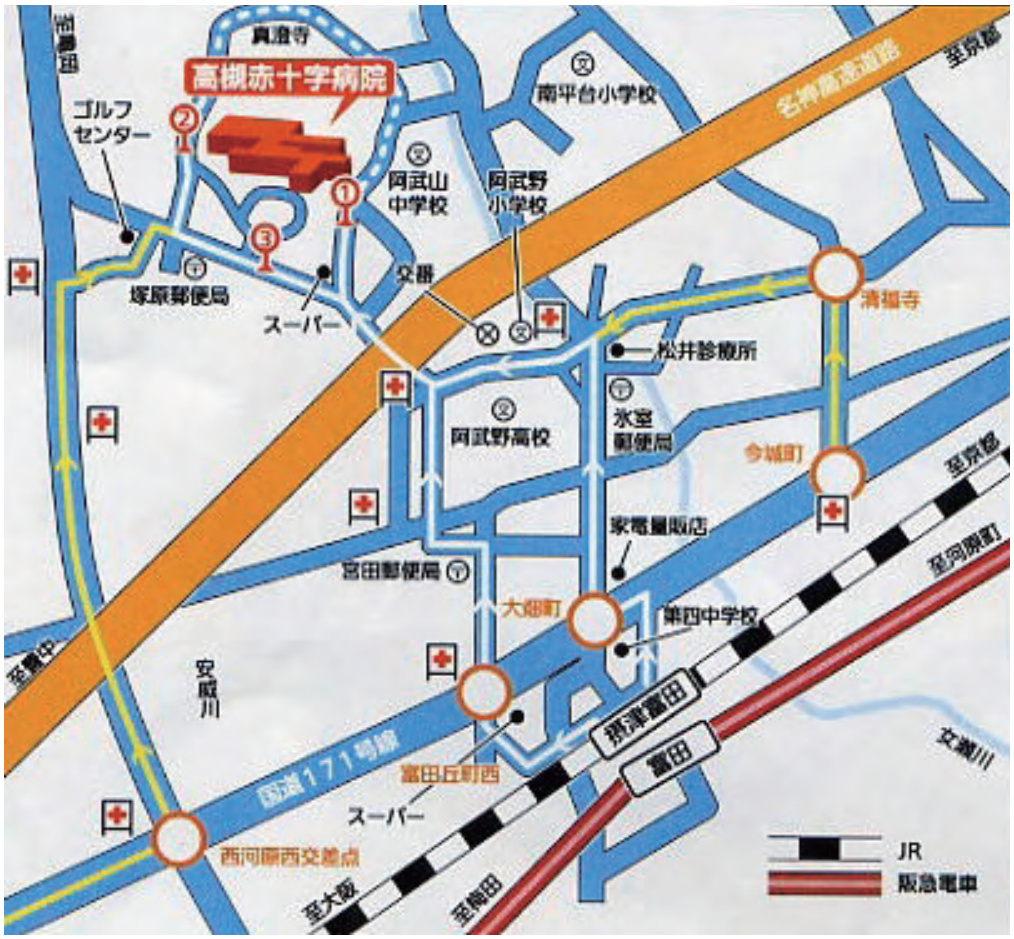
外来・在宅ベースアップ評価料（Ⅰ）

入院ベースアップ評価料６６

7.配　置　図



8. 付近見取図



印は当院の看板　　は病院への市バス路線

印は当院の看板　　は病院への自動車道路

9. 主な施設・機器

PillCam カプセル内視鏡画像診断システム
・富士フィルムﾒﾃﾞｨｶﾙ ﾀﾞﾌﾞﾙﾊﾞﾙｰﾝ内視鏡
Pillicam　ﾚｺｰﾀﾞ DR3ﾊﾟｯｸ
QuantStudio5 ﾘｱﾙﾀｲﾑPCRｼｽﾃﾑ 96ｳｪﾙ PC 付ﾊﾟｯｹｰｼﾞ
Qｽｲｯﾁﾙﾋﾞｰﾚｰｻﾞｰ IB101
R5ﾃﾚｽｺｰﾌﾟ 70°
RI 系統空調機更新工事
SHARP 製　超音波洗浄装置　UT-607H 他 一式
Solemio 情報ﾀｰﾐﾅﾙIT-1
SonoSite MicroMaxx(携帯型超音波診断装置)
Synergy　Resection　ｼｪｰﾊﾞｰｺﾝｿｰﾙ 一式
Synergy　Resectionｼｪｰﾊﾞｰ
Synergy RF
Synergy　RF　ｺﾝｿｰﾙ 一式
Synergy　ｺﾝﾃｨﾆｱｽｳｪｰﾌﾞ 4 関節鏡ﾎﾟﾝﾌﾟ
TOFｳｫｯﾁSX
VIO3 5ｿｹｯﾄﾓﾃﾞﾙ(超音波切開装置)
VLFT10 エネルギープラットフォーム
X 線骨密度測定装置 PRODIGY Fuga C Lite
X 線撮影ｼｽﾃﾑ RADspeed Pro【第 1 撮影室】
X 線循環器診断ｼｽﾃﾑ AlphenixSky INFX-8000C/TJ
ｱﾏﾉ ﾍﾞｯﾄﾞﾊﾞｽ fino SP110 一式
ｱﾑｺ 高周波手術装置 VIO50C 一式
ｱﾗｲﾄﾞ AT-X510L-28GT (ﾒｲﾝｽｲｯﾁ L3-SW)
ｲｿLT－2000CS　4 点支持ﾏｯﾄ　他 一式
ｲﾝﾊﾞｰﾀ式ｺｰﾄﾞﾚｽ移動型 X 線装置
ｳｫｯｼｬｰﾃﾞｨｽｲﾝﾌｪｸﾀｰ ﾀﾞﾌﾞﾙ
ｳﾙﾌ ﾈﾌﾛｽｺｰﾌﾟ 20°　鉗子孔 10.5Fr
ｴｱｳｪｲﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄﾓﾊﾞｲﾙｽｺｰﾌﾟﾋﾞﾃﾞｵｽｺｰﾌﾟ　2 台
ｴｸｽｹｱﾊﾞｲｸ　RG-EM400
ｴﾀﾞｯﾌﾟ (Laborie 社) 全自動尿流量計ﾌﾛｰｽﾀｰ
エネルギーチェッカー　AX-103V
エルゴメーター
オージオメータ
オートレフケラトメーター
ｵｰﾄﾚﾝｽﾞﾒｰﾀｰ　LM1800PD
ｵﾘﾝﾊﾟｽ ｴｱｳｪｲﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄﾓﾊﾞｲﾙｽｺｰﾌﾟ MAF-TM2
ｵﾘﾝﾊﾟｽ ｼｽﾃﾑ生物顕微鏡
ｷｾﾉﾝ光線治療器 ICON
ｸﾘｰﾝﾊﾟｰﾃｰｼｮﾝ　ACP-897AH
ｸﾘｰﾝﾊﾟｰﾃｰｼｮﾝ　ACP-897CH
ｹﾞｲﾄﾄﾚｰﾆﾝｸﾞｼｽﾃﾑ 一式
ｻﾞｲｵｽﾃｰｼｮﾝ2
ｼｽﾃﾑ9ｺｰﾄﾞﾚｽﾊﾝﾄﾞﾋﾟｰｽ 4605-000-000 他 一式
システム生物顕微鏡
ｼﾞﾝﾏｰ HALL50ｼﾝｸﾞﾙﾄﾘｶﾞｰﾊﾝﾄﾞﾋﾟｰｽ 一式
ｼﾞﾝﾏｰ Mﾊﾟﾜｰ2ｽﾀｰﾅﾑｿｰﾊﾝﾄﾞﾋﾟｰｽ 一式
スーチャーカッター
超音波画像診断装置 Vivid iq Ultra Edition V206 一式
超音波画像診断装置SonoSite M-Turbo
超音波式眼軸長測定装置
超音波診断装置　Affiniti70
超音波診断装置 Aplio a Verifia
超音波診断装置 ARIETTA50
超音波診断装置 ARIETTA70
超音波診断装置　CX50　Xper
超音波診断装置　EPIQ　Elite　DS
超音波診断装置 Prosound α6
超音波診断装置 SONOVISTA FX premium edition
超音波診断装置　Viamo　SV7
超音波診断装置CX50 Ultrasound System
超音波洗浄装置用乾燥槽
超低温ﾌﾘｰｻﾞｰ　MDF-DC200V－PJ
超低温槽　UD-80W74NF
長時間心電図解析装置
長時間心電図記録器RAC-2512
長時間心電図記録器RAC-5103
低温ｲﾝｷｭｰﾍﾞｰﾀｰ　MIR-154－PJ
電気ﾒｽ　maXium(ﾏｷｼｳﾑ)
電気ﾒｽﾃｽﾀ　QA-ESⅢ他一式
電気手術器　SHAPPER mini 一式
電子スパイロメータ
電子処方箋ｼｽﾃﾑ(ｿﾌﾄｳｪｱ)
電動昇降ﾘﾌﾄ式体重計　AD-6082
電動油圧手術台
統合型臨床情報ｼｽﾃﾑ
内視鏡ｼｽﾃﾑ VISERA PRO
内視鏡支援ｼｽﾃﾑSolemio QUEVｿﾌﾄｳｪｱ類
内視鏡用診察台　EX-ESD
内視鏡用炭酸ガス送気装置UCR
脳波計 EEG-1260 一式
白内障手術装置　CENTURION　Vision System
搬送用ﾓﾆﾀ　BSM-1763
汎用超音波画像診断装置 LOGIQ E10s R4
汎用超音波画像診断装置(心臓超音波診断装置) Vivid E95
汎用冷凍手術ﾕﾆｯﾄ ERBECRYO2
泌尿器科用X線テレビ装置　UROVISIONⅡ
分娩監視装置 ｱｸﾄｶﾙﾃﾞｨｵｸﾞﾗﾌ
歩行訓練用階段　SP-220
包埋ﾌﾞﾛｯｸ作製装置　HistCore　Arcadia
麻酔ﾁｬｰﾄｼｽﾃﾑ
網膜硝子体手術器械ｺﾝｽﾃﾚｰｼｮﾝﾋﾞｼﾞｮﾝｼｽﾃﾑ
薬用保冷庫　FMS-650L
薬用冷蔵ｼｮｰｹｰｽ MPR-1014-PJ
薬用冷蔵ｼｮｰｹｰｽ MPR-514-PJ
薬用冷蔵ｼｮｰｹｰｽ　MPR-N450FH－PJ

ｽﾃﾗｯﾄﾞﾋｰﾄｼｰﾗｰ 1000
ステリルガードⅢ
ｽﾄﾗｲｶｰ 1588 CLARTYｾｯﾄ(ｶﾒﾗｾｯﾄ) 他 (ﾘｰｽから振替)
ｽﾄﾚｰﾄｼｮｯﾄM4ﾊﾝﾄﾞﾋﾟｰｽ
ｽﾍﾟｷｭﾗｰﾏｲｸﾛｽｺｰﾌﾟ
ｽﾍﾟｸﾄﾗｵﾌﾟﾃｨｱ血液成分分離装置
ｽﾘｯﾄﾗﾝﾌﾟ　ｶﾒﾗ監視装置ｼｽﾃﾑ
ｾﾝﾃｯｸﾃﾞｼﾞﾀﾙﾓﾆﾀｰｼｽﾃﾑ
ｾﾝﾄﾗﾙﾓﾆﾀ　CNS-2101 他 一式（32 人用）
ｾﾝﾄﾗﾙﾓﾆﾀ CNS-6101 一式
ｾﾝﾄﾗﾙﾓﾆﾀ　CNS-6201 他 一式
ｾﾝﾄﾗﾙﾓﾆﾀｰ WEP-5204
ｿﾆｰ製 ZEISS 眼科手術顕微鏡用ｶﾒﾗ装置 一式
ｿﾉｻｰｼﾞｼﾞｪﾈﾚｰﾀｰ(超音波切開装置)
ｿﾌｨｰﾙｷｬｽﾀｰｽﾃｯﾌﾟ
ﾀｶｷﾞ LCD 視力検査装置 VC-60
ﾀﾌﾞﾚｯﾄ超音波診断装置　Lumify10.1ｲﾝﾁ　LA3-SL
ﾃﾞｨﾌﾞﾘﾚｰﾀｰ(除細動器) TEC-5631
ﾃﾞｼﾞﾀﾙｺﾙﾎﾟｽｺｰﾌﾟ 一式
ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾏﾝﾓｸﾞﾗﾌｨCAD
ﾃﾞｼﾞﾀﾙ式乳房用 X 線撮影装置 (ﾏﾝﾓｸﾞﾗﾌｨｰｼｽﾃﾑ AMULET Innovality)
ﾃﾞｽﾌﾙﾗﾝ用気化器 Drager D-Vapor-desflurane
ﾃﾞﾌｨﾌﾞﾘﾚｰﾀ(除細動器) TEC-5631
ﾃﾞﾙﾌｧｲﾋﾟｰﾃｨｰｴｽｿｰ(整形外科手術用ﾀﾆｹｯﾄ) 60-1000-101-00
ﾃﾙﾓ ｼﾘﾝｼﾞﾎﾟﾝﾌﾟ（小型）
ﾄﾞﾚｰｹﾞﾙ 人工呼吸器 Evita V600 一式
ﾄﾞﾚｰｹﾞﾙ 人工呼吸器 Savina300
ﾄﾞﾚｰｹﾞﾙ　全身麻酔装置
ﾄﾝﾌﾟｿﾝ ﾘﾄﾗｸﾀ(開創器)
ﾆｺﾝ 顕微鏡用ﾃﾞｼﾞﾀﾙｶﾒﾗ
ﾆｽﾀﾓ 眼球運動検査機器 IRN-2 平衡機能検査ｼｽﾃﾑ VOR-2
ﾆﾁｵﾝ ﾀﾞｲｱﾓﾝﾄﾞﾌﾚｯｸｽﾘﾄﾗｸﾀｰ
ノンコンタクトトノパキメーター
ﾊｲｴﾝﾄﾞｸﾘﾆｶﾙﾌﾛｰｻｲﾄﾒｰﾀｰ NAVIOS EX 2ﾚｰｻﾞｰ6ｶﾗｰ
ﾊﾞｲｵﾊｻﾞｰﾄﾞ対策用ｸﾗｽⅡｷｬﾋﾞﾈｯﾄ(安全ｷｬﾋﾞﾈｯﾄ) VH-1303BH-2B2
ﾊﾞｲｵﾊｻﾞｰﾄﾞ対策用ｸﾗｽⅡｷｬﾋﾞﾈｯﾄ(安全ｷｬﾋﾞﾈｯﾄ) VH-853BH-2A2
ﾊﾞｲｵﾏﾙﾁｸｰﾗｰ
ﾊﾞｲｵﾒﾃﾞｨｶﾙﾌﾘｰｻﾞｰ　MDF-137-PJ
バイオメディカルペースメーカーテスタ
ﾊｲｽﾋﾟｰﾄﾞﾄﾞﾘﾙﾌﾟﾘﾝﾄﾞ２ 一式
ﾊｲﾌﾞﾘｯﾄﾞ高速冷却遠心機　一式
ﾊﾟﾜｰﾌﾟﾛ･ｼｽﾃﾑ　ｽﾓｰﾙﾊﾝﾄﾞﾋﾟｰｽ等
ﾊﾝﾌﾘｰﾌｨｰﾙﾄﾞｱﾅﾗｲｻﾞｰ
ﾋﾞｰﾗｲﾝ BeeFiles for HFA(800ｼﾘｰｽﾞ)
ﾋﾞｼﾞﾗﾝｽﾍﾓﾀﾞｲﾅﾐｯｸﾓﾆﾀｰ(心拍出量測定装置)
ﾋｽﾄｺｱﾊﾟｰﾙ （自動固定包埋装置）
ﾋﾞﾃﾞｵ縦隔鏡ｾｯﾄ
ﾌｨﾘｯﾌﾟｽ 成人用人工呼吸器 V60 ﾍﾞﾝﾁﾚｰﾀ Auto-Track+
ﾌｸﾀﾞ電子 睡眠評価装置ﾊﾟﾙｽﾘｰﾌﾟ LS-140 一式 2 台
ﾌﾗｯﾄﾊﾟﾈﾙ　ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾗｼﾞｵｸﾞﾗﾌｨｰ　AeroDR 一式
薬用冷蔵ｼｮｰｹｰｽ　MPR-S150H－PJ
薬用冷蔵ｼｮｰｹｰｽ　MPR-S300H－PJ
薬用冷凍冷蔵庫 FMS-F304G
誘発電位検査装置　Neuropack　S3
涙道ﾌｧｲﾊﾞｰｽｺｰﾌﾟ　0.9mm　CK10
涙道ﾌｧｲﾊﾞｰｽｺｰﾌﾟ（曲）
涙道ﾌｧｲﾊﾞｰｽｺｰﾌﾟ0.9mm
連動昇降式平行棒　ｼﾝｸﾛｰﾚﾙ　SP-735S
膀胱用音波画像診断装置　ﾌﾞﾗｯﾀﾞｰｽｷｬﾝ　BVI6100
核医学ﾜｰｸｽﾃｰｼｮﾝ
角膜形状屈折力解析装置OPD-ScanⅢ(中古品)
感染症検査業務支援ｼｽﾃﾑ　SMILE　Honest
感染対策空気清浄ﾕﾆｯﾄ　NRC-601D
感染対策空気清浄排気ﾕﾆｯﾄ　NEU-10
感染防止機能付 クリオスタット
眼科用 ﾔｸﾞﾚｰｻﾞｰ手術装置　YC-1800
眼科用手術顕微鏡
眼科用手術台ﾒﾌﾟﾛ4J
眼底観察ｼｽﾃﾑResight700
気管支ﾋﾞﾃﾞｵｽｺｰﾌﾟ　BF-290
気管支ﾋﾞﾃﾞｵｽｺｰﾌﾟ　BF-Q290
逆浸透水処理(RO)装置
吸収補正用CT付き 核医学診断撮影装置(RI)
近大式中心ﾌﾘｯｶｰ値測定器Ⅲ型
携帯型超音波診断装置
血圧脈波検査装置　FORM-5
血液ｶﾞｽ分析装置　ﾗﾋﾟｯﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ500
血液浄化装置 AcuFil Multi55X-Ⅲ
血液保冷庫　MBR-107T4-PJ
検診台　ﾒｸﾞｼﾞｮｲｼﾝﾌﾟﾙﾛｰｽﾞﾋﾟﾝｸ 一式
顕微鏡　BX43-33
個人用多用途透析装置　TYPE　AWF
個人用透析装置NCU-12
光学視管0°Φ2.7㎜
光学視管12°Φ4㎜
光学視管30°Φ2.7㎜
光学式眼軸長測定装置
光干渉断層計　RS-3000(OCT)
抗がん薬調製支援ｼｽﾃﾑ
硬性尿管鏡　ｳﾚﾃﾛﾚﾉｽｺｰﾌﾟ 一式
高圧蒸気滅菌器　HV-25Ⅱ
高周波手術装置　VIO3
高精細ﾓﾆﾀ 2Mｶﾗｰﾓﾆﾀ RX270
骨塩量測定装置ﾀﾞｲｸﾛﾏｽｷｬﾝ Dichroma Scan
骨手術器械　ｼｽﾃﾑ8　ﾊﾟﾜｰｼｽﾃﾑ 一式
採痰ﾌﾞｰｽ VCM-980N2S
細隙灯　ﾎﾟｰﾀﾌﾞﾙｽﾘｯﾄﾗﾝﾌﾟ
散薬監査ｼｽﾃﾑ
酸素ﾌﾞﾚﾝﾀﾞ（PMB-5000用酸素ブレンダ）
酸素流量計ﾁｪｯｶｰ

ﾌﾘｰｽﾞ　NF-75HC（冷凍庫）
ﾌﾚｯｸｽｱｰﾑ(ｽｺｰﾌﾟﾎﾙﾀﾞｰ)　99702 他 一式
ﾌﾛｱ型冷却遠心機
ﾍﾞｯﾄﾞｻｲﾄﾞﾓﾆﾀ BSM-3562-Q21 一式 (BIS モニタ付)
ﾍﾞｯﾄﾞｻｲﾄﾞﾓﾆﾀ CU-172R 他 一式
ﾍﾞｯﾄﾞｻｲﾄﾞﾓﾆﾀ　PVM-4761 一式
ﾍﾞｯﾄﾞｻｲﾄﾞﾓﾆﾀ　PVM-4763 他 一式
ﾍﾓｸﾛﾝ ﾚｽﾎﾟﾝｽ(血液凝固計)
ﾍﾞﾝﾀﾅﾍﾞﾝﾁﾏｰｸGX
ﾎﾟﾘｸﾞﾗﾌ　RMC-5000
ﾏｲｸﾛ FET2
ﾏﾙﾁｶﾗｰｽｷｬﾝﾚｰｻﾞｰ光凝固装置 MC-500Vixi
ﾒｲﾌｨｰﾙﾄﾞ型頭部三点固定器 4-0-A-1059 他 一式
ﾒﾃﾞｨｶﾙHDﾚｺｰﾀﾞｰ　HVO-550MD/SUR
ﾒﾃﾞｨｶﾙﾃﾞｨｽｸｼｽﾃﾑ(AOC 操作端末 EPSON PP-100Ⅲ他 一式)
ﾒﾃﾞｨｶﾙﾋﾞﾃﾞｵﾚｺｰﾀﾞｰ　UR-4MD
ﾒﾃﾞｨｺﾝ 吸引式組織生検用針向け装置 (ﾊﾞｲｵﾌﾟｼｰ機器 EnCor ENSPIREｼｽﾃﾑ)
ﾒﾃﾞｨｻｰﾑⅢ(高・低体温維持装置)
ﾒﾗ　改良ﾓｰｽ開胸器　0452008500
ﾒﾗ遠心血液ﾎﾟﾝﾌﾟｼｽﾃﾑ(拡張ﾕﾆｯﾄ付）一式
メラ高頻度ジェットベンチレータ
ﾗﾌﾟﾗﾀｲｽｰﾁｬｰｸﾘｯﾌﾟｱﾌﾟﾗｲﾔｰ
ﾘｱﾙﾀｲﾑPCRｼｽﾃﾑ QuantStudio5
リトクラスト２
リューザブルエンドスコープショート
ﾚｲｵﾝ機器製　遺体用冷蔵庫　R1-1SH 他 一式
レッグ CPM L4KD-100
ﾚﾋﾞﾃｰﾀｰ　I-LHPAMUR　623-003-01　他 一式
ﾚﾋﾞﾃｰﾀｰ(両支脚器) 2 個入
ﾚﾋﾞﾃｰﾀｰ（両足）2 個入
安全ｷｬﾋﾞﾈｯﾄ　BHG-T701ⅡA2-G
3DﾒﾃﾞｨｶﾙHDﾚｺｰﾀﾞｰ　HVO-3300MT
５３２レーザー眼科光凝固装置　ピュアポイント
AWS-h(AMULET Innovality 制御ﾜｰｸｽﾃｰｼｮﾝ)
BD Elevation ﾊﾞｲｵﾌﾟｼｰｼｽﾃﾑ(ﾄﾞﾗｲﾊﾞｰ) EVDRIVER
BISﾌﾟﾛｾｯｻ
BJﾆｰﾄﾞﾙ ｼﾝｸﾞﾙｱｸｼｮﾝ ﾗﾁｪｯﾄﾊﾝﾄﾞﾙ
CC01 イオンチャンバー
ClassⅡ安全ｷｬﾋﾞﾈｯﾄ SSｲﾝﾃﾘｱ W1300mm ﾊﾟｯｹｰｼﾞ
Climbﾋﾞｭｰﾜｰ
C-MAC（気管支鏡）
CO2ｲﾝｷｭﾍﾞｰﾀｰ
CO2ｾﾝｻｷｯﾄ
COOL-TIP　RFAｼﾞｪﾈﾚｰﾀｰ
CUSA　Clarity
CV5030 カバーガラス自動封入装置
CVC 穿刺挿入ｼﾐｭﾚｰﾀⅡCVCｶﾃﾊﾟｯﾄﾞｾｯﾄ
CVC 穿刺挿入ｼﾐｭﾚｰﾀⅡ超音波ﾊﾟｯﾄﾞⅡｾｯﾄ
DAM ｼｭﾐﾚｰﾀ ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞﾓﾃﾞﾙ
DEAL　EYESｽｺｰﾌﾟ　AC4MM30°
視覚誘発反応測定装置(ERG)
治療台　ﾄﾘｰﾄﾒﾝﾄﾍﾞｯﾄﾞ5ｾｸｼｮﾝ　油圧
治療用電気手術器 Valleylab FT10
耳鼻咽喉科ﾌｧｲﾊﾞｰｽｺｰﾌﾟ　ENF-GP2
自己血回収ｼｽﾃﾑ ｾﾙｾｰﾊﾞｰ ｴﾘｰﾄﾌﾟﾗｽ
自動遺伝子装置　TRCReady-80 一式
自動血球洗浄遠心機 MC450
自動再来受付機ｼｽﾃﾑ
自動視力計　NV-350
自動浸透圧測定装置ｵｽﾞﾓｽﾃｰｼｮﾝ
自動染色装置　AUTOSTAINER　XL
集細胞遠心装置 ｻｲﾄｽﾋﾟﾝ4
循環器動画ｻｰﾊﾞｰ　Cardio AgentPro
除細動器　TEC-5631
心臓ﾏｯｻｰｼﾞｼｽﾃﾑVer.3.1　LUCASⅢ
心臓ﾘﾊﾋﾞﾘｼｽﾃﾑ 一式
心電計　ECG-2450
新生児用聴力検査装置
診察券発行機　DP-3000A
診察券発行機　DP-3000M
診断用X線撮影システム　RADIOTEX【第２撮影室】
診療費支払機　MERSYS-SR　FHP-S10　2式
人工呼吸器　HAMILTON-C1
人工呼吸器 Infinity EvitaV500
人工呼吸器 NKV-330他 一式
腎盂鏡　ﾈﾌﾛｽｺｰﾌﾟ 20°
睡眠評価装置 ｿﾑﾉHD(SOMNO－HD) Eco-plus 一式
据置型ﾃﾞｼﾞﾀﾙ式汎用X線透視診断装置 EXAVISTA 一式
生体情報ﾓﾆﾀ Vital Sensor S
生体情報管理ｼｽﾃﾑ
全自動化学発光酵素免疫測定ｼｽﾃﾑ　ﾙﾐﾊﾟﾙｽL2400
全自動散薬分包機(2枚円盤ﾀｲﾌﾟ)
全自動錠剤分包機
全身麻酔器　Apollo
全身麻酔装置 Atlan A300
全身用X線CT装置 Aquilion Prime SP/i Edition
送信機　ZS-630P
造影剤自動注入装置
多目的ﾃﾞｼﾞﾀﾙX線TVｼｽﾃﾑ
体外式ﾍﾟｰｽﾒｰｶｰ
大研 ﾏｾﾚｰﾀｰ ﾎﾞﾙﾃｯｸｽﾌﾟﾗｽ
大腸細径ﾋﾞﾃﾞｵｽｺｰﾌﾟ
大動脈内ﾊﾞﾙｰﾝﾎﾟﾝﾌﾟｼｽﾃﾑ IABP CARDIOSAVE Hybrid,3.1 Edition
炭酸ｶﾞｽﾚｰｻﾞｰ手術装置 ﾚｰｻﾞ
中央採血室患者呼出ｼｽﾃﾑ BC・ROBO-8001RFID他 一式
注射薬自動払出装置
調剤注射支援ｼｽﾃﾑ
超音波画像診断装置
超音波画像診断装置 SonoSite EdgeⅡ 一式
超音波画像診断装置 SonoSite M-Turbo

DEAL　EYESｽｺｰﾌﾟ　AC4MM70°
ECU4　ﾊﾞﾝﾄﾞﾙｾｯﾄ　ECU4B1000他 一式
ERCP用防護具　TI-Ultimax用-18
FF式32号業務用給湯器
GE 超音波診断装置Vivid E9
HEPAﾌｨﾙﾀｰ付ﾊﾟｰﾃｰｼｮﾝ(除染除去ﾀｲﾌﾟ)
HEPAﾌｨﾙﾀｰ付ﾊﾟｰﾃｰｼｮﾝ(清浄供給ﾀｲﾌﾟ)
Humeca ｺｰﾄﾞﾚｽﾃﾞﾙﾏﾄｰﾑ D42 一式
IABP駆動装置 ｺﾗｰﾄBP
ICG付眼底ｶﾒﾗ+無散瞳ｼｽﾃﾑ
IDEAL EYESｽｺｰﾌﾟ AC4cm 30° ｽﾋﾟｰﾄﾞﾛｯｸ
JMP11.2 Windows日本語版
MDbankｻｰﾊﾞ
MED ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙｱｰﾑｻﾎﾟｰﾄｱｯｾﾝﾌﾞﾘ 9560523
MERSYS-MR 窓口支払機　1号機
MERSYS-MR 窓口支払機　2号機
MRI撮影装置　Vantage　Fortain 一式
NKﾓﾆﾀ連携ﾎﾞｰﾄﾞ　NCI-700NK
OESﾋｽﾃﾛﾌｧｲﾊﾞｰｽｺｰﾌﾟ
移動型手術台MEERA
医用ﾃﾚﾒｰﾀ　Wep-1450他
医療機器ﾁｪｯｶｰ
医療用リニアック　Clinac　iX
一酸化窒素ｶﾞｽ分析装置ﾅｲｵｯｸｽ NIOX VERO
一包化錠剤仕分け装置
陰圧ﾌﾞｰｽ　CL-905他 一式
陰圧式ｴｱｰﾃﾝﾄ　NP-45
陰圧排気/空気清浄機ﾕﾆｯﾄ
運動負荷血圧計TangoM2
永島医科製　SNﾕﾆｯﾄ　ｾｸｾﾚﾝｽ230A他 一式
黄疸計
加温加湿ﾌﾛｰｼﾞｪﾈﾚｰﾀｰ　Airvo2 一式
可動式ﾊﾟｰﾃｰｼｮﾝ　KX-ZC12
過酸化水素ｶﾞｽ低温滅菌装置
回診用X線撮影装置　MobileArt　Evolution
回診用X線撮影装置 MobileArt Evolution MX7 version
回診用X線撮影装置　MobleArt　Lumina
外科用X線ﾃﾚﾋﾞｼｽﾃﾑ

10. 年　　表（沿革）

昭和１５年	６月　８日	療養所起工式並びに地鎮祭
昭和１６年	１１月　２日	日本赤十字社大阪支部病院分院「阿武野勝景園」竣工
昭和１７年	５月２０日	「大阪陸軍病院阿武野赤十字病院」として軍患者を収容。
昭和１８年	１月　１日	日本赤十字社支部病院管理規則により「大阪赤十字病院阿武野分院」に改称。
昭和２０年	６月　６日	「大阪第二陸軍病院阿武野赤十字病院」として中部軍属となる。
	１１月３０日	軍病院を解除。
	１２月　１日	大阪赤十字病院分院阿武野勝景園として一般診療開始。
昭和２２年	９月　１日	分院より昇格（独立）大阪阿武野赤十字病院と称す。
昭和２３年	６月　９日	大阪阿武山赤十字病院と改称。
昭和２６年	１１月　１日	完全看護制度実施。
昭和２７年	５月　６日	医療社会事業部を新設。
	１０月１５日	勝景園神社を阿武山神社と改称。
	１１月２０日	中央材料室開設。
昭和３４年	４月１０日	病院機関紙として「阿武山ニュース」（現：日赤たかつき）創刊号発行。
	１１月　５日	手術棟（鉄筋コンクリート平屋建）竣工。
昭和３５年	１月１８日	北朝鮮帰還列車添乗派遣を開始。
昭和４４年	１２月　５日	病院第一次増改築工事竣工式。
昭和４５年	１月　１日	高槻赤十字病院と改称。
	２月　２日	新館開設、一般外来及び入院診療開始。 （一般９９床、結核５５９床）
昭和４５年	９月　１日	大阪府労災指定病院に承認。
	１１月　３日	大阪府救急指定病院に指定。
昭和４７年	２月　１日	一般病棟（新館）「特類看護」の承認。
昭和４９年	１２月　３日	看護婦寄宿舎（鉄筋コンクリート４階建）竣工式。
昭和５２年	７月　１日	耳鼻咽喉科の診療開始、総合病院となる。
	１０月３１日	病院第二次増改築工事竣工式。医療法による許可病床を４２１床とする。（一般２２４床、結核１９７床）
	１２月　１日	理学診療科部（現：リハビリテーション科部）新設。
昭和５４年	１月	放射線科部にＲＩ検査を新設。
昭和５５年	４月１６日	１病棟開設、定床３７床。医療法による許可病床４５８床。（一般２６１床、結核１９７床）
	４月１６日	全身用東芝ＣＴ－60Ａ型スキャナー導入。
昭和５８年	８月１７日	障害等級２・３級の小児転地療養事業（健康回復キャンプ）実施。

昭和６１年　２月２４日	８病棟（結核病棟）を閉鎖、一般科病棟に転換、実働病床３７５床（一般３１０床、結核６５床）。
昭和６２年　５月１１日	上の池（溜池）を埋立て、駐車場用地とする。
昭和６３年　４月　１日	理学診療科（現：リハビリテーション科）に作業療法室を開設。
平成　３年１１月　５日	創立５０周年記念祝賀会開催。
平成　４年１０月　１日	麻酔科部の設置
１２月１８日	外来増改築工事完成。
平成　５年　９月　１日	総合リハビリテーション承認施設。
平成　６年１０月２１日	許可病床数、５１９床より５１１床へ変更。
平成　７年　１月１７日	兵庫県南部地震（阪神・淡路大地震）による被災者救護活動開始。
８月　１日	高槻赤十字訪問看護ステーション開所式。
平成　８年　９月　２日	「ＭＲＩ棟」増改築工事完成。病院構造設備使用許可。
平成　９年　３月３１日	結核病棟廃止。（一般病床４４６床、結核０床）
平成１０年１０月　１日	開放型病院の指定。（１２床）（平成１１年６月～　４０床、平成１３年１０月～　４９床）
１１月２６日	剖検慰霊祭を以後毎年実施。
平成１１年　４月　１日	厚生省臨床研修病院の指定。
８月３１日	指定居宅介護支援事業者となる。
平成１２年　１月　１日	院外処方箋の実施。
８月２１日	アレルギー科の診療を開始する。
１０月　１日	病診連携係（現：地域医療連携課）設置。
平成１３年　３月　１日	産婦人科病棟全面改修。
４月　１日	脳神経外科開設。
７月　９日	７病棟全面改修。４８床（血液内科、透析、外科、化学療法）運用開始。
平成１４年　５月　７日	緩和ケア病棟開設。（全室２０床）
１０月　１日	業務委託による診療材料の定数管理（ＳＰＤ）実施。
１０月１５日	駐車ゲートシステム導入、外来患者以外の駐車有料化実施。
１２月　９日	地域がん診療拠点病院の指定を得る。
平成１５年　１月	業務委託による検査室共同運営（ＦＭＳ）実施。
７月　１日	一般病棟１群入院基本料１許可。（２対１看護）
平成１６年　２月１６日	病院機能評価 Ver.3.1(一般病院種別Ｂ)認定。
４月　１日	形成外科、呼吸器外科の開設。（アレルギー科の廃止）
１２月　７日	４・５・６・８・９病棟の改修終了 ＭＲＩ装置入れ替え実施。
平成１７年　１月　１日	診療情報管理課設置 事務部総務課に医療安全係設置。

１月　４日	亜急性期病床開設（２０床）
３月　１日	救急部設置。
１０月２７日	ＮＳＴ運用開始。
１１月　１日	電子カルテ稼動。
平成１８年　３月２７日	新手術棟完成　竣工式。 （１階外科外来・生理検査部門／２階手術室・中央材料室）
平成１８年　６月　１日	ガスコージェネレーションシステム運用開始
平成１８年　７月　１日	「医療安全推進室」設置、「癌統合治療科部」設置。 「第一内科」を「糖尿病・内分泌・生活習慣病科部」と「緩和ケア科部」に分科。「第二内科部」を「血液・腫瘍内科部」に名称変更、「第一外科部」を「消化器外科部」に名称変更、「第二外科部」を「乳腺外科部」に名称変更。
平成１８年１０月	全手術部門及び外来改造工事、病院建物（本館・別館）の耐震工事、並びに３病棟改修工事完了。
平成１８年１０月２０日	マルチスライスCT６４列の導入。
平成１８年１１月１６日	第４２回日本赤十字社医学会総会主催（於国立京都国際会館）。
平成１８年１２月１６日	日本人間ドック学会「人間ドック健診施設機能評価」認定。
平成１９年　１月　４日	院内保育所高槻日赤保育園『すくすく』開園。
平成１９年　２月　１日	がん相談支援センター室設置。 病児保育室を委託開設。
平成１９年　４月　１日	「医療技術部」を新設（臨床工学技術課、栄養課を設置）。 医療社会事業部地域医療連携課内に「がん相談支援センター室係」を新設。
平成１９年　７月　１日	教育研修推進室設置。
平成１９年１０月　１日	ＩＣＵ（院内基準）開設。
平成２０年　２月　１日	一般病棟７対１入院基本料施設基準届出受理。
平成２０年　２月　８日	地域がん診療連携拠点病院の指定更新。
平成２０年　６月　１日	週休二日制実施。
平成２０年　７月　１日	ＤＰＣ対象病院として請求開始。 放射線画像等フィルムレス運用開始。
平成２１年　２月１６日	病院機能評価 Ver.5.0 認定
平成２１年　８月１５日	兵庫県佐用町の台風９号水害による被災者救援活動のため、医療救援班を派遣。
平成２２年　３月１５日	Ｘ線アンギオ装置（血管造影装置）の入れ替え実施。
平成２２年　３月	災害救護倉庫の整備。
平成２２年　４月　１日	事務部医療安全課設置。
平成２２年　６月	エコロジーガーデン設置。
平成２２年１０月	患者・家族向け図書コーナー設置。

平成２２年１０月　１日	放射線治療システム「リニアック」導入完了・治療開始。
平成２３年　３月１５日	東日本大震災により、宮城県庁前・岩手県山田町へ 医療救護班を派遣（3/15～5/26）。
平成２３年　３月３０日	震災により石巻赤十字病院支援派遣(3/30～4/4･5/9～5/14)。
平成２３年　４月　１日	神経内科開設。
平成２３年１１月２５日	地域医療支援病院に承認される。
平成２４年　２月　１日	消化器内視鏡センター開設。
平成２４年　８月　１日	緩和ケア診療科開設。
平成２４年１２月　１日	医療社会事業部地域連携推進課設置。
平成２５年　４月　１日	事務部研修課設置。
平成２６年　３月　７日	機能種別版日評価項目３rdG:Ｖer.1.0 認定。
平成２６年　７月	患者支援センター開設。
平成２６年　９月	病理診断科標榜。
平成２８年　３月	消化器外科標榜。
平成２９年　９月　１日	病院～JR 摂津富田駅間でシャトルバス運行開始。 （令和６年５月３１日　運行終了）
平成３０年　１月	糖尿病・内分泌内科、血液内科標榜。
平成３０年　４月	事務部人事課設置。
平成３０年　６月	シャトルバスの運行をＪＲ総持寺駅へ拡大。
平成３０年１２月	無菌治療室を９床増設（合計１２床)。
平成３１年　４月	電子カルテシステムの更新
令和元年　　５月	病棟の再編成実施。２病棟を８病棟に移動し、 レディース病棟として運用。
令和元年　１１月	乳腺外科、美容皮膚科標榜。
令和元年　　２月	駐車場リニューアル。(駐車スペース増加、一般駐車場全面舗装)
令和２年　　２月	新型コロナウィルス感染症帰国者・接触者外来設置
令和２年　　３月	新型コロナウィルス感染症入院受け入れ開始
令和２年　　４月	新型コロナウィルス感染症「重点医療機関」に指定及び 発熱外来設置 病床管理室設置
令和２年　　８月	新型コロナウィルス感染症 PCR 検査委託事業を受託開始
令和２年　１２月	CT-80 列装置の入れ替え実施
令和３年　　３月	２病棟、４病棟病床返還。医療法による許可病床３３５床
令和３年　　５月	新型コロナウィルス感染症高槻市民を対象にワクチン接種実施
令和３年　１０月	創立８０周年記念号発刊
令和４年　　２月	３病棟（３４床）を休棟し、稼働病床３０１床へ
令和５年　　２月	卒後臨床研修評価機構（JCEP）認定
令和５年　　４月	がん相談支援センターを設置

令和６年	１２月	病院機能評価（一般病院２　3rdG:Ver.3.0）認定
令和７年	３月	病棟リニューアル工事完了

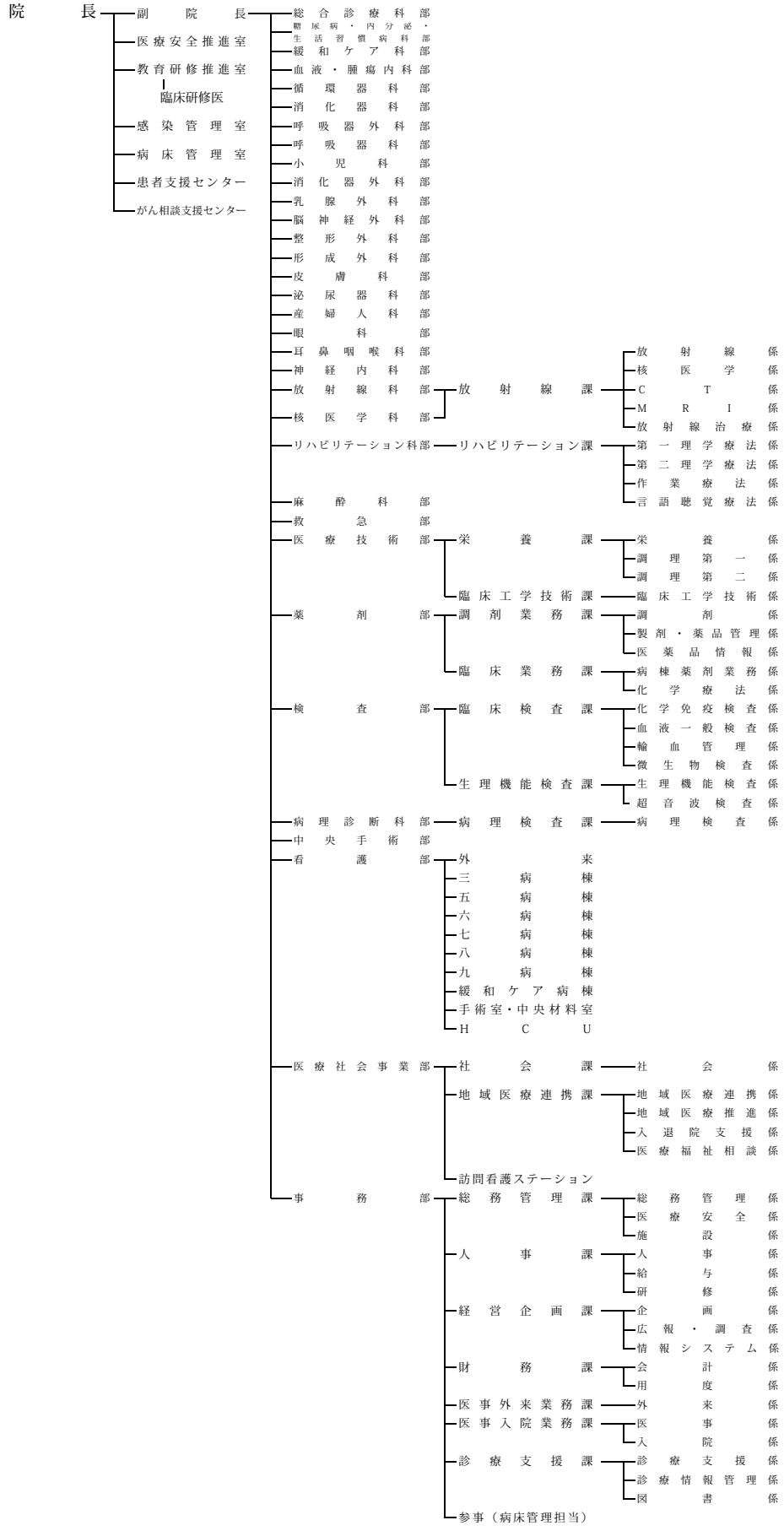
11.整備医療機器備品

メーカー名	固定資産名	規格型式
日本医化器械製作所	ﾊﾞｲｵﾊｻﾞｰﾄﾞ対策用ｸﾗｽⅡｷｬﾋﾞﾈｯﾄ（安全ｷｬﾋﾞﾈｯﾄ） VH-853BH-2A2	VH-853BH-2A2
日本光電工業	送信機 ZS-630P	ZS-630P
日本光電工業	ﾍﾞｯﾄﾞｻｲﾄﾞﾓﾆﾀ PVM-4763他	PVM-4763他
日本光電工業	心電計 ECG-2450	ECG-2450
村中	酸素流量計ﾁｪｯｶｰ	FLC-103 M94-001-06
大研	大研 ﾏｾﾚｰﾀｰ ﾎﾞﾙﾃｯｸｽﾌﾟﾗｽ	2041ZA001
日本光電工業	ｴﾈﾙｷﾞｰﾁｪｯｶｰ AX-103V	AX-103V
日本光電工業	医療機器ﾁｪｯｶｰ	AX-410G
ﾃﾙﾓ	ﾃﾙﾓ ｼﾘﾝｼﾞﾎﾟﾝﾌﾟ （小型）	TE-362N
シーメンス	血液ｶﾞｽ分析装置 ﾗﾋﾟｯﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ500e	ﾗﾋﾟｯﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ500
日本光電工業	ｾﾝﾄﾗﾙﾓﾆﾀ CNS-2101他一式（32人用）	CNS-2101他
㈱富士ﾌｨﾙﾑｿﾉｻｲﾄ・ｼﾞｬﾊﾟﾝ	超音波画像診断装置 SonoSite Edge Ⅱ 一式	L21590他
大研	大研 ﾏｾﾚｰﾀｰ ﾎﾞﾙﾃｯｸｽﾌﾟﾗｽ	2041ZA001
ナビス	点滴作業台	8-7003-05
EPSON	ﾒﾃﾞｨｶﾙﾃﾞｨｽｸｼｽﾃﾑ（AOC操作端末EPSON PP-100Ⅲ他一式）	PP-100Ⅲ他一式
日本光電工業	患者監視装置 Wep-1450他一式（１２人用）	Wep-1450他
日本光電工業	人工呼吸器 NKV-330他 一式	NKV-330他
大研	大研 ﾏｾﾚｰﾀｰ ﾎﾞﾙﾃｯｸｽﾌﾟﾗｽ	2041ZA001
ストライカー	ｼｽﾃﾑ9ｺｰﾄﾞﾚｽﾊﾝﾄﾞﾋﾟｰｽ 4605-000-000他 一式	4605-000-000他
ｲｿﾒﾃﾞｨｶﾙ	ｲｿLT－2000CS ４点支持ﾏｯﾄ 他一式	LT-2000CS
SONY	3DﾒﾃﾞｨｶﾙHDﾚｺｰﾀﾞｰ HVO-3300MT	3DﾒﾃﾞｨｶﾙHDﾚｺｰﾀﾞｰ HVO-3300MT
タカギセイコウ	ﾀｶｷﾞ LCD視力検査装置 VC-60	VC-60
ナビス	点滴作業台	8-7003-05
ジンマー	ﾃﾞﾙﾌｧｲﾋﾟｰﾃｨｰｴｽｿｰ（整形外科手術用ﾀﾆｹｯﾄ）60-1000-101-00	60-1000-101-00
日本光電工業	ﾎﾟﾘｸﾞﾗﾌ RMC-5000	RMC-5000
瑞穂医科工業	整形外科用手術台 一式	MOS-1302B他
ｷﾔﾉﾝﾒﾃﾞｨｶﾙｼｽﾃﾑｽﾞ㈱	Ｘ線循環器診断ｼｽﾃﾑ AlphenixSky INFX-8000C/TJ	INFX-8000C/T
ｷﾔﾉﾝﾒﾃﾞｨｶﾙｼｽﾃﾑｽﾞ㈱	循環器動画ｻｰﾊﾞｰ Cardio AgentPro	
日機装	個人用多用途透析装置 一式	DBB-200Si
ナビス	点滴作業台	8-7003-05
ｱﾄﾑﾒﾃﾞｨｶﾙ㈱	検診台 ﾒｸﾞｼﾞｮｲｼﾝﾌﾟﾙﾛｰｽﾞﾋﾟﾝｸ 一式	1147550
GEﾍﾙｽｹｱ・ｼﾞｬﾊﾟﾝ㈱	超音波画像診断装置 Vivid iq Ultra Edition V206 一式	V206
ﾌｸﾀﾞ電子㈱	睡眠評価装置 ｿﾑﾉHD（SOMNO－HD） Eco-plus 一式	HDEcoーplusーBTR

Ⅲ　組織及び職員

1. 組織図

2024/10/01



2. 幹部職員

（令和６年度末現在）

院長	玉田　尚
副院長	神田　直樹
副院長	小林　稔弘
事務部長（兼）	玉田　尚
看護部長	岸　恵美
総合診療科部長	大中　玄彦
糖尿病･内分泌･生活習慣病科部長（兼）	大中　玄彦
緩和ケア科部長	橋本　典夫
血液・腫瘍内科部長（兼）	玉田　尚
循環器科部長	木澤　隼
消化器科部長（兼）	神田　直樹
呼吸器外科部長（兼）	小林　稔弘
呼吸器科部長	北　英夫
小児科部長	河上　千尋
消化器外科部長	恒松　一郎
乳腺外科部長（兼）	小林　稔弘
脳神経外科部長（兼）	小林　稔弘
整形外科部長	徳山　文人
形成外科部長（兼）	小林　稔弘
皮膚科部長（兼）	玉田　尚
泌尿器科部長	六車　光英
産婦人科部長	中村　路彦
眼科部長（兼）	小林　稔弘
耳鼻咽喉科部長（兼）	玉田　尚
神経内科部長	中川　朋一
放射線科部長	後藤　公男
核医学科部長	山室　正樹
リハビリテーション科部長（兼）	大中　玄彦
麻酔科部長	宇田　るみ子
麻酔科・手術部長	澤井　俊幸
救急部長	中村　保清
医療技術部長（兼）	小林　稔弘
薬剤部長	小島　一晃
検査部長（兼）	神田　直樹
病理診断科部長（兼）	神田　直樹
中央手術部長（兼）	小林　稔弘
看護副部長	西　ひろみ
看護副部長	髙橋　晶子
医療社会事業部長（兼）	大中　玄彦
社会課長（兼）	渡部　悟
地域医療連携課長	渡部　悟
事務副部長	萩原　大介
総務管理課長（兼）	萩原　大介
人事課長	佐橋　克哉
経営企画課長	仁志出　裕介
財務課長	眞清水　裕子
医事外来業務課長（兼）	大川　健
医事入院業務課長	大川　健
診療支援課長	日高　利明

3. 職員現況表

会計決算書より（令和７年３月31日現在）

区分	①病院 医師	薬剤師	放射線技師	検査技師	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	臨床工学技師	視能訓練士	栄養管理士	助産師	看護師	准看護師	看護助手	医療技術補助者	事務職員	その他職員	小計
常勤	62.0	20.0	16.0	17.0	11.0	3.0	2.0	7.0	1.0	4.0	4.0	222.0	0.0	21.0	1.0	51.0	10.0	452.0
非常勤	9.8	0.8	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	1.1	15.8	0.0	2.8	0.0	3.1	4.0	38.9
計	71.8	20.8	16.0	17.9	11.0	3.0	2.0	7.0	1.6	4.0	5.1	237.8	0.0	23.8	1.0	54.1	14.0	490.9

区分	②病院(医療社会事業) 看護師	管理栄養士	事務職員	医療社会事業司	小計
常勤	2.0	0.0	7.0	5.0	14.0
非常勤	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計	2.0	0.0	7.0	5.0	14.0

区分	③訪問看護ステーション 事務職員	看護師	理学療法士	小計
常勤	1.0	6.0	1.0	8.0
非常勤	0.7	0.6	0.0	1.3
計	1.7	6.6	1.0	9.3

区分	総合計 ①＋②＋③
常勤	474.0
非常勤	40.2
計	514.2

4. 職種別・年齢別・職員構成表

（令和７年３月31日現在）

		３０才未満	３０才～４０才未満	４０才～５０才未満	５０才～５５才未満	５５才～６０才未満	６０才～６２才未満	６２才～６５才未満	６５才以上	計
一般職(一)	男	1	2	11	6	0	0	4	0	24
	女	4	9	12	14	3	1	2	0	45
一般職(二)	男	0	0	1	2	1	1	0	1	6
	女	0	1	3	13	7	4	4	3	35
医療職(一)	男	7	10	11	4	7	0	5	4	48
	女	3	5	5	1	0	0	0	2	16
医療職(二)	男	2	14	17	9	0	3	0	0	45
	女	4	17	11	5	2	0	1	1	41
医療職(三)	男	3	6	7	0	1	1	0	0	18
	女	28	51	74	40	32	7	6	5	243
計	男	13	32	47	21	9	5	9	5	141
	女	39	83	105	73	44	12	13	11	380
										521

５．会議及び委員会

（令和７年３月31日現在）

◎会　　議

四役会議

病院連絡会議

◎委　員　会

院内感染防止対策委員会
ＩＣＴ(感染制御ﾁｰﾑ)
AST（抗菌薬適正支援チーム）委員会
医療安全管理委員会
医療事故院内検証委員会
医事紛争処理委員会
医療ガス安全管理委員会
放射線安全委員会
医療放射線管理委員会
化学療法委員会
キャンサーボード
血液浄化療法委員会
褥瘡委員会
ＮＳＴ(栄養ｻﾎﾟｰﾄﾁｰﾑ)
給食委員会
認知症ケアサポート委員会
輸血療法委員会
救急委員会
ＨＣＵ運営委員会
手術室運営委員会
薬事委員会
保険委員会
ＳＰＤ・診療材料購入審査委員会
購買委員会
ＤＰＣ・診療情報管理委員会
クリニカルパス委員会
治験審査委員会
臨床検査適正化委員会
地域医療支援病院運営委員会
患者支援センター運営委員会
がん診療関連機能充実委員会
研修運営委員会
研修管理委員会
個人情報保護委員会
広報委員会
図書委員会
倫理委員会
臨床倫理委員会
業務改善委員会
ハラスメント防止委員会
労働安全衛生委員会
防火防災・災害対策委員会
患者サービス向上委員会
病床管理運営委員会
病床再編成検討委員会
新病院新築移転構想検討委員会
情報システム管理委員会
教育・研修推進委員会
病院機能評価審査委員会

Ⅳ　統　　計

1. 令和６年度実績表

	入院					外来					合計
	患者延数	1日平均	在院日数	診療稼働額	診療単価	患者延数	1日平均	通院日数	診療稼働額	診療単価	診療稼動額
内科	394	1.1	2.6	3,387,598	8,598.0	3,046	12.5	1.8	73,924,627	24,269.4	77,312,225
糖・内・代	0	0.0		0		3,624	14.9	129.4	51,880,380	14,315.8	51,880,380
血液内科	10,164	27.8	25.0	1,047,699,068	103,079.4	5,965	24.5	61.5	710,984,260	119,192.7	1,758,683,328
腎臓内科	0	0.0		0		1,694	7.0	211.8	44,681,757	26,376.5	44,681,757
消化器内科	18,482	50.6	8.0	1,031,858,177	55,830.4	15,429	63.5	16.8	380,509,690	24,662.0	1,412,367,867
循環器科	10,493	28.7	17.6	638,262,206	60,827.4	11,788	48.5	32.1	139,487,950	11,833.0	777,750,156
脳神経内科	1,993	5.5	16.7	106,124,599	53,248.7	3,521	14.5	23.0	31,404,008	8,919.1	137,528,607
呼吸器科	11,080	30.4	12.6	601,063,362	54,247.6	11,951	49.2	18.6	475,043,035	39,749.2	1,076,106,397
呼吸器外科	1,377	3.8	11.4	173,867,512	126,265.4	1,978	8.1	219.8	39,679,880	20,060.6	213,547,392
外科	5,007	13.7	9.3	429,138,226	85,707.7	8,934	36.8	34.0	284,116,484	31,801.7	713,254,710
脳神経外科	0	0.0		0		432	1.8	27.0	4,557,920	10,550.7	4,557,920
整形外科	11,966	32.8	16.1	785,888,190	65,676.8	12,274	50.5	16.0	92,308,547	7,520.7	878,196,737
産婦人科	382	1.0	9.3	23,257,176	60,882.7	2,506	10.3	18.2	19,649,850	7,841.1	42,907,026
小児科	617	1.7	2.6	58,239,230	94,391.0	2,150	8.8	12.7	13,906,360	6,468.1	72,145,590
眼科	516	1.4	0.7	71,665,560	138,886.7	6,569	27.0	20.9	88,349,227	13,449.4	160,014,787
皮膚科	909	2.5	10.4	38,144,039	41,962.6	9,854	40.6	26.9	43,668,531	4,431.6	81,812,570
形成外科	925	2.5	8.6	60,728,081	65,652.0	3,026	12.5	7.8	25,533,234	8,437.9	86,261,315
耳鼻咽喉科	0	0.0		0		2,291	9.4	14.3	12,868,945	5,617.2	12,868,945
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科	0	0.0		0		3,824	15.7		18,416,629	4,816.1	18,416,629
泌尿器科	2,280	6.2	6.5	158,071,266	69,329.5	6,555	27.0	28.4	115,143,170	17,565.7	273,214,436
緩和ケア	4,538	12.4	30.6	251,651,314	55,454.2	153	0.6	3.1	564,512	3,689.6	252,215,826
放射線科	0	0.0		0		108	0.4	1.3	0	0	0
その他	0	0.0		0		2,166	8.9	108.3	30,736,970	14,190.7	30,736,970
合計	81,123	222.3	11.5	5,479,045,604	67,540.0	119,838	493.2	17.3	2,697,415,966	22,508.9	8,176,461,570
前年度	82,664	226.5	11.5	5,457,346,218	66,018.4	122,522	506.3	13.5	2,740,424,720	22,366.8	8,197,770,938
増減率	-1.9%	-1.9%	0.0%	0.4%	2.3%	-2.2%	-2.6%	28.1%	-1.6%	0.6%	-0.3%

※その他は、救急科とリウマチ・膠原病とドック・健診を足したものです。

2. 入院患者数

	合　計	4　月	5　月	6　月	7　月	8　月	9　月	10　月	11　月	12　月	1　月	2　月	3　月
内　科	394	20	25	26	34	49	45	23	19	41	36	38	38
糖・内・代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
血液内科	10,164	846	859	809	913	894	895	981	967	931	802	686	581
腎臓内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消化器内科	18,482	1,717	1,501	1,699	1,527	1,654	1,559	1,525	1,375	1,561	1,485	1,375	1,504
循環器科	10,493	797	704	807	947	927	812	908	781	770	981	993	1,066
脳神経内科	1,993	146	109	151	164	160	142	250	139	200	232	177	123
呼吸器科	11,080	848	898	894	834	748	828	900	944	1,057	1,222	902	1,005
呼吸器外科	1,377	124	107	132	42	161	159	145	136	126	30	108	107
外　科	5,007	390	347	357	456	431	358	326	359	420	458	507	598
脳神経外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
整形外科	11,966	1,193	898	1,022	1,165	945	972	789	824	804	1,149	1,137	1,068
産婦人科	382	12	58	40	33	3	23	29	46	25	25	34	54
小　児　科	617	46	69	76	39	84	57	55	76	57	22	24	12
眼　科	516	29	57	38	45	44	31	44	48	37	40	55	48
皮　膚　科	909	140	108	64	60	54	14	93	127	80	47	55	67
形成外科	925	46	34	71	145	162	83	75	76	70	53	42	68
耳鼻咽喉科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	2,280	130	127	173	235	231	223	221	188	186	176	215	175
緩和ケア	4,538	305	350	354	383	403	345	318	278	469	448	474	411
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
そ　の　他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合　計	81,123	6,789	6,251	6,713	7,022	6,950	6,546	6,682	6,383	6,834	7,206	6,822	6,925
1日平均	222.3	226.3	201.6	223.8	226.5	224.2	218.2	215.5	212.8	220.5	232.5	243.6	223.4
前　年　度	82,664	6,926	7,188	6,590	6,521	7,206	6,656	6,753	6,085	7,418	7,421	6,844	7,056
1日平均	226.5	230.9	231.9	219.7	210.4	232.5	221.9	217.8	202.8	239.3	239.4	244.4	227.6
増　減　率	-1.9%	-2.0%	-13.0%	1.9%	7.7%	-3.6%	-1.7%	-1.1%	4.9%	-7.9%	-2.9%	-0.3%	-1.9%

3. 入院稼働額

	合　計	4　月	5　月	6　月	7　月	8　月	9　月	10　月	11　月	12　月	1　月	2　月	3　月
内　科	3,387,598	176,120	129,930	356,620	62,580	434,538	626,550	220,580	63,340	415,570	0	392,050	509,720
糖・内・代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
血液内科	1,047,699,068	79,460,422	92,679,982	78,447,897	103,082,368	96,227,418	87,134,397	108,139,090	91,787,452	89,726,894	81,179,142	70,801,643	69,032,363
腎臓内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消化器内科	1,031,858,177	91,759,617	79,808,650	92,644,231	90,669,002	95,890,871	89,286,598	88,727,172	77,749,674	93,244,222	78,756,081	74,693,382	78,628,677
循環器科	638,262,206	47,124,927	41,048,680	51,062,654	60,468,042	56,863,333	47,310,367	56,390,287	47,180,823	51,478,594	57,960,687	62,143,036	59,230,776
脳神経内科	106,124,599	6,836,943	5,315,945	6,842,072	10,010,403	9,850,741	7,612,390	11,156,397	6,411,913	12,790,360	12,854,754	9,194,960	7,247,721
呼吸器科	601,063,362	41,787,068	50,007,352	48,454,073	49,692,558	42,225,570	44,671,771	48,082,064	47,248,690	59,396,670	67,177,737	49,380,612	52,939,197
呼吸器外科	173,867,512	18,159,836	14,674,260	13,461,311	6,863,220	16,201,380	19,206,996	14,453,404	18,772,478	15,134,000	6,166,640	15,630,464	15,143,523
外　科	429,138,226	36,805,098	27,633,000	30,155,076	36,129,727	28,197,196	33,472,404	33,934,163	34,428,021	42,248,477	34,249,165	43,584,461	48,301,438
脳神経外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
整形外科	785,888,190	73,959,053	54,542,422	68,940,069	73,856,481	62,790,168	63,177,727	59,521,852	59,092,127	51,087,916	79,534,675	73,745,773	65,639,927
産婦人科	23,257,176	971,016	2,897,260	2,560,650	2,412,250	213,000	1,109,160	2,773,790	2,374,290	970,580	2,195,150	1,933,150	2,846,880
小　児　科	58,239,230	4,842,790	5,849,340	6,016,430	4,608,740	5,441,030	5,011,090	5,342,670	6,279,160	5,412,370	3,474,520	2,697,490	3,263,600
眼　科	71,665,560	3,488,916	7,645,094	5,050,800	5,715,362	6,895,490	4,361,330	6,679,200	5,835,028	5,455,682	5,707,070	7,899,354	6,932,234
皮　膚　科	38,144,039	5,043,750	3,924,434	3,589,720	2,954,942	2,432,893	659,550	4,290,560	4,402,736	3,354,590	2,607,000	2,157,584	2,726,280
形成外科	60,728,081	2,774,384	3,038,754	4,590,464	8,933,371	8,626,308	4,888,687	5,862,862	6,731,497	4,790,078	4,278,390	2,310,140	3,903,146
耳鼻咽喉科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	158,071,266	7,349,404	10,344,682	12,764,160	18,827,350	15,329,658	16,436,626	16,199,250	11,741,240	12,583,006	13,070,212	12,223,042	11,202,636
緩和ケア	251,651,314	18,142,902	21,164,008	21,043,469	21,158,106	19,929,830	18,814,700	18,227,550	14,746,999	26,790,773	25,879,700	24,045,282	21,707,995
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
そ　の　他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合　計	5,479,045,604	438,682,246	420,703,793	445,979,696	495,444,502	467,549,424	443,780,343	480,000,891	434,845,468	474,879,782	475,090,923	452,832,423	449,256,113
前　年　度	5,356,542,770	430,469,794	470,162,495	444,174,692	431,972,269	472,871,014	437,056,638	457,870,218	404,756,525	471,632,540	463,788,340	434,500,312	437,287,933
増　減　率	2.3%	1.9%	-10.5%	0.4%	14.7%	-1.1%	1.5%	4.8%	7.4%	0.7%	2.4%	4.2%	2.7%

4. 入院単価

	合　計	4　月	5　月	6　月	7　月	8　月	9　月	10　月	11　月	12　月	1　月	2　月	3　月
内　科	8,598.0	8,806.0	5,197.2	13,716.2	1,840.6	8,868.1	13,923.3	9,590.4	3,333.7	10,135.9	0.0	10,317.1	13,413.7
糖・内・代	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
血液内科	103,079.4	93,924.8	107,892.9	96,969.0	112,905.1	107,636.9	97,356.9	110,233.5	94,919.8	96,376.9	101,220.9	103,209.4	118,816.5
腎臓内科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
消化器内科	55,830.4	53,441.8	53,170.3	54,528.7	59,377.2	57,975.1	57,271.7	58,181.8	56,545.2	59,733.6	53,034.4	54,322.5	52,279.7
循環器科	60,827.4	59,127.9	58,307.8	63,274.7	63,852.2	61,341.2	58,264.0	62,103.8	60,410.8	66,855.3	59,083.3	62,581.1	55,563.6
脳神経内科	53,248.7	46,828.4	48,770.1	45,311.7	61,039.0	61,567.1	53,608.4	44,625.6	46,128.9	63,951.8	55,408.4	51,948.9	58,924.6
呼吸器科	54,247.6	49,277.2	55,687.5	54,199.2	59,583.4	56,451.3	53,951.4	53,424.5	50,051.6	56,193.6	54,973.6	54,745.7	52,675.8
呼吸器外科	126,265.4	146,450.3	137,142.6	101,979.6	163,410.0	100,629.7	120,798.7	99,678.6	138,032.9	120,111.1	205,554.7	144,726.5	141,528.3
外　科	85,707.7	94,372.0	79,634.0	84,468.0	79,231.9	65,422.7	93,498.3	104,092.5	95,899.8	100,591.6	74,779.8	85,965.4	80,771.6
脳神経外科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
整形外科	65,676.8	61,994.2	60,737.7	67,456.0	63,396.1	66,444.6	64,997.7	75,439.6	71,713.7	63,542.2	69,220.8	64,860.0	61,460.6
産婦人科	60,882.7	80,918.0	49,952.8	64,016.3	73,098.5	71,000.0	48,224.3	95,647.9	51,615.0	38,823.2	87,806.0	56,857.4	52,720.0
小　児　科	94,391.0	105,278.0	84,773.0	79,163.6	118,172.8	64,774.2	87,913.9	97,139.5	82,620.5	94,953.9	157,932.7	112,395.4	271,966.7
眼　科	138,886.7	120,307.4	134,124.5	132,915.8	127,008.0	156,715.7	140,688.1	151,800.0	121,563.1	147,450.9	142,676.8	143,624.6	144,421.5
皮　膚　科	41,962.6	36,026.8	36,337.4	56,089.4	49,249.0	45,053.6	47,110.7	46,135.1	34,667.2	41,932.4	55,468.1	39,228.8	40,690.7
形成外科	65,652.0	60,312.7	89,375.1	64,654.4	61,609.5	53,248.8	58,899.8	78,171.5	88,572.3	68,429.7	80,724.3	55,003.3	57,399.2
耳鼻咽喉科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
泌尿器科	69,329.5	56,533.9	81,454.2	73,781.3	80,116.4	66,362.2	73,706.8	73,299.8	62,453.4	67,650.6	74,262.6	56,851.4	64,015.1
緩和ケア	55,454.2	59,484.9	60,468.6	59,444.8	55,243.1	49,453.7	54,535.4	57,319.3	53,046.8	57,123.2	57,767.2	50,728.4	52,817.5
放射線科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
そ　の　他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合　計	67,540.0	64,616.6	67,301.8	66,435.2	70,556.0	67,273.3	67,794.1	71,834.9	68,125.6	69,487.8	65,929.9	66,378.3	64,874.5
前　年　度	64,799.0	62,152.7	65,409.4	67,401.3	66,243.3	65,621.8	65,663.6	67,802.5	66,517.1	63,579.5	62,496.7	63,486.3	61,973.9
増　減　率	4.2%	4.0%	2.9%	-1.4%	6.5%	2.5%	3.2%	5.9%	2.4%	9.3%	5.5%	4.6%	4.7%

5. 外来患者数

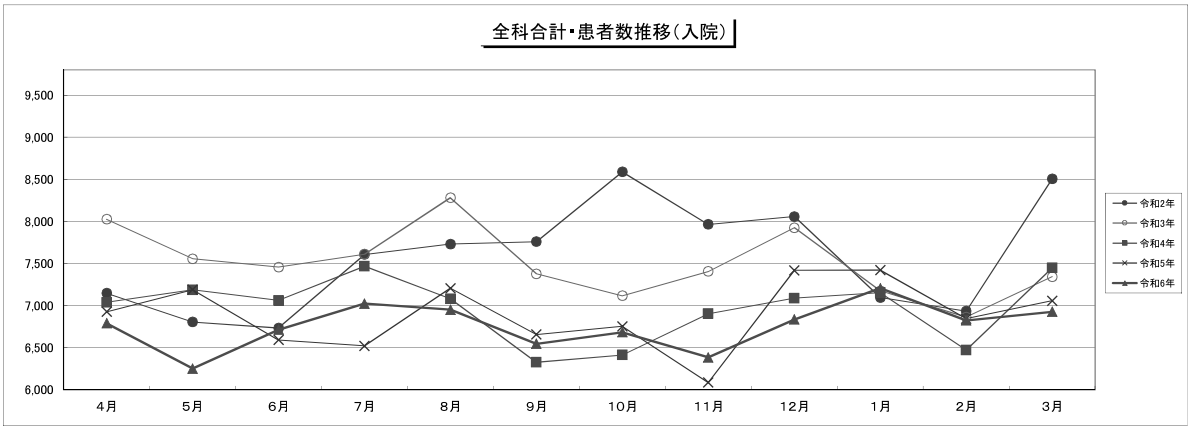
	合　計	4　月	5　月	6　月	7　月	8　月	9　月	10　月	11　月	12　月	1　月	2　月	3　月
内　　科	3,046	247	240	257	349	128	242	267	218	327	317	215	239
糖・内・代	3,624	316	329	302	316	337	282	310	277	321	281	269	284
血液内科	5,965	595	574	467	540	429	474	521	474	485	516	386	504
腎臓内科	1,694	139	160	142	170	133	141	148	137	129	137	121	137
消化器内科	15,429	1,324	1,232	1,212	1,397	1,202	1,243	1,446	1,320	1,360	1,217	1,188	1,288
循環器科	11,788	1,037	961	1,015	1,084	917	1,012	1,037	882	1,052	886	862	1,043
脳神経内科	3,521	310	285	273	338	279	302	317	290	294	284	252	297
呼吸器科	11,951	949	1,030	949	1,031	992	996	1,088	1,064	946	982	903	1,021
呼吸器外科	1,978	195	172	140	171	172	151	179	154	165	192	137	150
外　　科	8,934	765	779	776	768	720	731	786	724	721	731	732	701
脳神経外科	432	28	40	42	25	34	32	44	36	46	36	31	38
整形外科	12,274	971	1,058	1,048	1,145	1,044	983	1,086	964	1,007	963	972	1,033
産婦人科	2,506	203	192	180	279	213	217	202	175	222	199	180	244
小　児　科	2,150	183	161	162	170	157	192	197	170	215	198	129	216
眼　　科	6,569	561	600	542	565	544	542	603	505	546	524	492	545
皮　膚　科	9,854	846	854	821	867	852	793	879	815	852	789	710	776
形成外科	3,026	219	243	271	273	287	260	265	252	267	224	233	232
耳鼻咽喉科	2,291	193	224	185	182	188	183	179	196	186	161	174	240
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科	3,824	324	382	362	388	337	333	331	285	270	245	267	300
泌尿器科	6,555	547	617	574	566	550	550	547	517	548	554	474	511
緩和ケア	153	17	17	15	9	9	7	17	10	16	11	16	9
放射線科	108	0	0	0	0	108	0	0	0	0	0	0	0
そ　の　他	2,166	171	191	188	213	178	175	211	161	179	162	160	177
合　　計	119,838	10,140	10,341	9,923	10,846	9,810	9,841	10,660	9,626	10,154	9,609	8,903	9,985
1 日 平 均	493.2	507.0	544.3	451.0	542.3	445.9	492.1	533.0	481.3	507.7	505.7	468.6	453.9
前　年　度	122,522	9,798	9,884	10,847	10,284	10,580	10,115	10,489	10,141	10,519	9,778	9,638	10,449
1 日 平 均	551.9	489.9	520.2	493.0	514.2	480.9	505.8	524.5	507.1	526.0	514.6	507.3	475.0
増　減　率	-2.2%	3.5%	4.6%	-8.5%	5.5%	-7.3%	-2.7%	1.6%	-5.1%	-3.5%	-1.7%	-7.6%	-4.4%

6. 外来稼働額

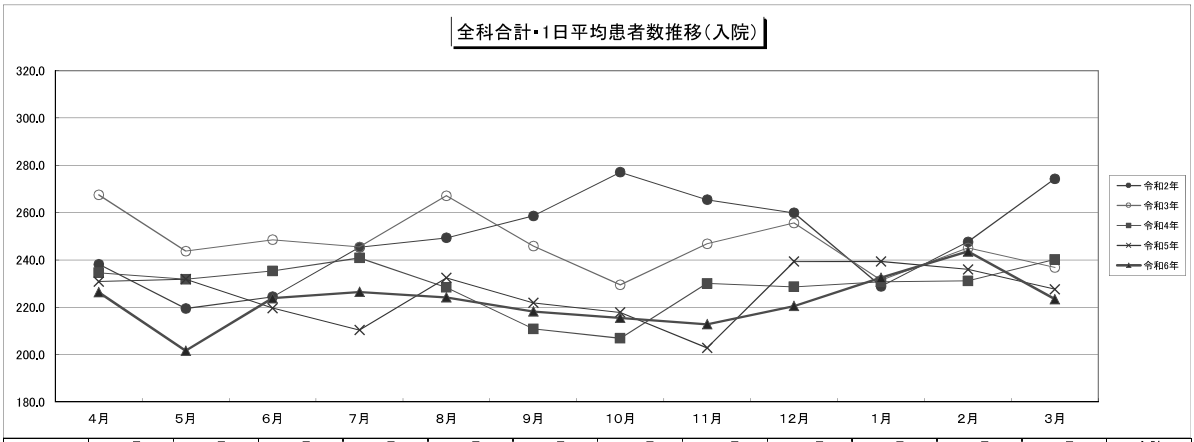
	合　計	4　月	5　月	6　月	7　月	8　月	9　月	10　月	11　月	12　月	1　月	2　月	3　月
内　科	73,924,627	6,204,880	5,586,270	5,846,204	7,949,277	5,893,885	5,969,527	6,524,547	5,307,730	7,195,604	6,191,440	5,568,168	5,687,095
糖・内・代	51,880,380	4,660,340	4,311,900	4,083,870	4,807,660	4,862,360	4,148,420	4,160,560	3,981,130	4,758,270	4,205,700	3,726,450	4,173,720
血液内科	710,984,260	63,393,340	63,893,510	63,178,380	60,803,840	60,052,850	57,140,900	61,665,320	57,579,370	54,109,760	56,957,330	58,732,900	53,476,760
腎臓内科	44,681,757	3,708,550	3,973,190	2,694,230	4,760,700	3,514,270	3,560,100	3,954,930	3,534,610	3,437,030	3,917,400	3,636,730	3,990,017
消化器内科	380,509,690	35,774,449	33,553,180	26,836,710	37,074,221	27,255,850	30,617,890	37,731,080	38,175,040	30,497,900	28,821,010	26,259,410	27,912,950
循環器科	139,487,950	11,925,550	11,026,180	12,806,100	12,950,920	10,609,550	13,111,360	13,074,000	10,798,910	11,317,410	8,927,690	10,143,710	12,796,570
脳神経内科	31,404,008	2,031,853	2,688,310	2,248,275	2,601,919	2,688,512	2,776,775	2,804,104	2,753,890	2,533,032	1,944,300	2,375,863	3,957,175
呼吸器科	475,043,035	41,591,304	41,719,727	44,919,502	46,792,501	40,104,126	37,267,867	41,430,991	38,482,419	31,307,781	38,889,385	35,112,067	37,425,365
呼吸器外科	39,679,880	3,846,990	3,690,470	2,656,070	3,404,290	3,165,440	3,006,230	3,795,780	2,690,280	3,457,640	3,661,920	3,060,710	3,244,060
外　科	284,116,484	26,546,560	30,114,610	26,534,050	25,603,885	22,552,605	20,500,520	21,948,560	23,293,620	21,527,324	23,764,070	22,070,150	19,660,530
脳神経外科	4,557,920	254,450	430,620	403,540	255,620	393,420	303,610	526,570	515,050	466,940	359,260	292,500	356,340
整形外科	92,308,547	6,982,871	7,581,029	7,032,204	8,362,406	7,845,391	6,867,006	8,964,861	6,435,668	8,112,240	7,598,324	8,587,194	7,939,353
産婦人科	19,649,850	1,556,750	1,347,300	1,388,860	2,250,700	1,800,500	1,713,310	1,401,680	1,122,020	1,612,560	1,705,800	1,811,870	1,938,500
小　児　科	13,906,360	1,215,790	1,001,210	1,078,370	1,192,330	1,222,910	1,066,690	1,197,610	1,011,960	1,516,600	1,212,810	910,480	1,279,600
眼　科	88,349,227	6,515,180	7,252,433	7,056,587	7,938,400	7,795,420	7,607,320	8,891,047	6,362,550	7,721,890	7,492,940	7,402,340	6,313,120
皮　膚　科	43,668,531	3,845,260	3,313,140	3,926,994	3,464,080	4,062,525	4,214,797	3,838,509	3,224,859	3,845,447	2,446,230	3,599,240	3,887,450
形成外科	25,533,234	1,961,292	2,066,575	2,465,769	2,214,241	2,413,536	2,201,860	2,647,194	2,244,677	2,261,113	1,695,396	1,747,120	1,614,461
耳鼻咽喉科	12,868,945	997,130	1,327,330	1,065,580	1,210,810	1,259,880	949,905	1,109,420	959,840	1,115,340	898,430	907,270	1,068,010
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科	18,416,629	1,513,760	1,869,586	1,788,801	1,976,725	1,644,223	1,674,183	1,476,518	1,426,125	1,298,663	1,266,071	1,127,605	1,354,369
泌尿器科	115,143,170	8,669,950	9,668,750	9,550,270	11,112,540	9,996,740	10,172,440	10,783,960	9,472,610	9,110,730	9,318,630	8,914,070	8,372,480
緩和ケア	564,512	62,670	81,071	35,870	22,740	39,640	7,580	43,420	66,737	40,147	54,400	45,497	64,740
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	30,736,970	2,915,510	2,328,260	2,674,920	2,711,890	2,778,810	2,740,180	2,775,100	2,169,370	2,700,090	2,122,240	2,169,920	2,650,680
合　計	2,697,415,966	236,174,429	238,824,651	230,271,156	249,461,695	221,952,443	217,618,470	240,745,761	221,608,465	209,943,511	213,450,776	208,201,264	209,163,345
前年度	2,710,751,433	223,837,493	225,964,692	229,199,009	206,334,018	222,179,787	218,871,060	233,321,089	228,268,096	234,240,236	236,846,859	214,979,983	236,709,111
増減率	-0.5%	5.5%	5.7%	0.5%	20.9%	-0.1%	-0.6%	3.2%	-2.9%	-10.4%	-9.9%	-3.2%	-11.6%

7. 外来単価

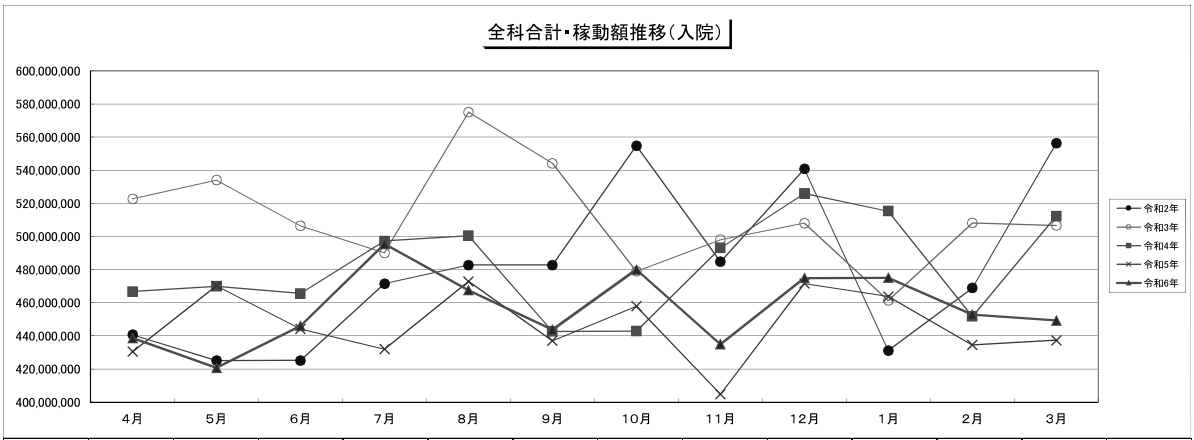
	合　計	4　月	5　月	6　月	7　月	8　月	9　月	10　月	11　月	12　月	1　月	2　月	3　月
内　科	24,269.4	25,121.0	23,276.1	22,747.9	22,777.3	46,046.0	24,667.5	24,436.5	24,347.4	22,004.9	19,531.4	25,898.5	23,795.4
糖・内・代	14,315.8	14,747.9	13,106.1	13,522.7	15,214.1	14,428.4	14,710.7	13,421.2	14,372.3	14,823.3	14,966.9	13,853.0	14,696.2
血液内科	119,192.7	106,543.4	111,312.7	135,285.6	112,599.7	139,983.3	120,550.4	118,359.5	121,475.5	111,566.5	110,382.4	152,157.8	106,104.7
腎臓内科	26,376.5	26,680.2	24,832.4	18,973.5	28,004.1	26,423.1	25,248.9	26,722.5	25,800.1	26,643.6	28,594.2	30,055.6	29,124.2
消化器内科	24,662.0	27,020.0	27,234.7	22,142.5	26,538.5	22,675.4	24,632.3	26,093.4	28,920.5	22,424.9	23,682.0	22,103.9	21,671.5
循環器科	11,833.0	11,500.0	11,473.7	12,616.8	11,947.3	11,569.8	12,955.9	12,607.5	12,243.7	10,758.0	10,076.4	11,767.6	12,269.0
脳神経内科	8,919.1	6,554.4	9,432.7	8,235.4	7,698.0	9,636.2	9,194.6	8,845.8	9,496.2	8,615.8	6,846.1	9,428.0	13,323.8
呼吸器科	39,749.2	43,826.5	40,504.6	47,333.5	45,385.5	40,427.5	37,417.5	38,080.0	36,167.7	33,094.9	39,602.2	38,883.8	36,655.6
呼吸器外科	20,060.6	19,728.2	21,456.2	18,971.9	19,908.1	18,403.7	19,908.8	21,205.5	17,469.4	20,955.4	19,072.5	22,340.9	21,627.1
外　科	31,801.7	34,701.4	38,658.0	34,193.4	33,338.4	31,323.1	28,044.5	27,924.4	32,173.5	29,857.6	32,509.0	30,150.5	28,046.4
脳神経外科	10,550.7	9,087.5	10,765.5	9,608.1	10,224.8	11,571.2	9,487.8	11,967.5	14,306.9	10,150.9	9,979.4	9,435.5	9,377.4
整形外科	7,520.7	7,191.4	7,165.4	6,710.1	7,303.4	7,514.7	6,985.8	8,254.9	6,676.0	8,055.8	7,890.3	8,834.6	7,685.7
産婦人科	7,841.1	7,668.7	7,017.2	7,715.9	8,067.0	8,453.1	7,895.4	6,939.0	6,411.5	7,263.8	8,571.9	10,065.9	7,944.7
小　児　科	6,468.1	6,643.7	6,218.7	6,656.6	7,013.7	7,789.2	5,555.7	6,079.2	5,952.7	7,054.0	6,125.3	7,058.0	5,924.1
眼　科	13,449.4	11,613.5	12,087.4	13,019.5	14,050.3	14,329.8	14,035.6	14,744.7	12,599.1	14,142.7	14,299.5	15,045.4	11,583.7
皮　膚　科	4,431.6	4,545.2	3,879.6	4,783.2	3,995.5	4,768.2	5,315.0	4,366.9	3,956.9	4,513.4	3,100.4	5,069.4	5,009.6
形成外科	8,437.9	8,955.7	8,504.4	9,098.8	8,110.8	8,409.5	8,468.7	9,989.4	8,907.4	8,468.6	7,568.7	7,498.4	6,958.9
耳鼻咽喉科	5,617.2	5,166.5	5,925.6	5,759.9	6,652.8	6,701.5	5,190.7	6,197.9	4,897.1	5,996.5	5,580.3	5,214.2	4,450.0
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科	4,816.1	4,672.1	4,894.2	4,941.4	5,094.7	4,879.0	5,027.6	4,460.8	5,003.9	4,809.9	5,167.6	4,223.2	4,514.6
泌尿器科	17,565.7	15,850.0	15,670.6	16,638.1	19,633.5	18,175.9	18,495.3	19,714.7	18,322.3	16,625.4	16,820.6	18,806.1	16,384.5
緩和ケア	3,689.6	3,686.5	4,768.9	2,391.3	2,526.7	4,404.4	1,082.9	2,554.1	6,673.7	2,509.2	4,945.5	2,843.6	7,193.3
放射線科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
そ　の　他	14,190.7	17,049.8	12,189.8	14,228.3	12,731.9	15,611.3	15,658.2	13,152.1	13,474.3	15,084.3	13,100.2	13,562.0	14,975.6
合　計	22,508.9	23,291.4	23,094.9	23,205.8	23,000.3	22,625.1	22,113.5	22,584.0	23,021.9	20,675.9	22,213.6	23,385.5	20,947.8
前　年　度	22,124.6	22,845.2	22,861.7	21,130.2	20,063.6	21,000.0	21,638.3	22,244.4	22,509.4	22,268.3	24,222.4	22,305.5	22,653.8
増　減　率	1.7%	2.0%	1.0%	9.8%	14.6%	7.7%	2.2%	1.5%	2.3%	-7.2%	-8.3%	4.8%	-7.5%



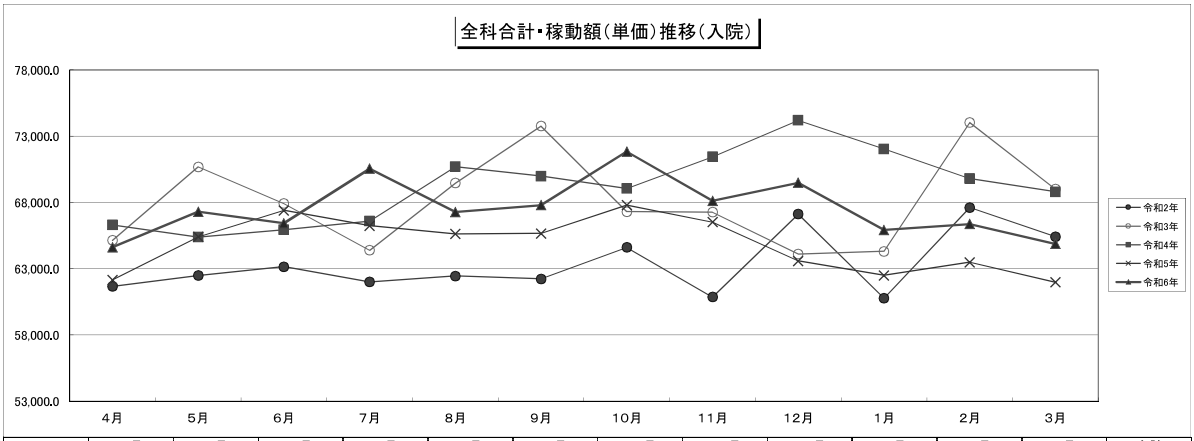
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年	7,146	6,803	6,733	7,606	7,730	7,758	8,588	7,964	8,057	7,094	6,934	8,504	90,917
令和3年	8,024	7,555	7,456	7,611	8,280	7,377	7,116	7,405	7,924	7,174	6,863	7,342	90,127
令和4年	7,038	7,186	7,060	7,466	7,079	6,325	6,412	6,902	7,088	7,153	6,471	7,446	83,626
令和5年	6,926	7,188	6,590	6,521	7,206	6,656	6,753	6,085	7,418	7,421	6,844	7,056	82,664
令和6年	6,789	6,251	6,713	7,022	6,950	6,546	6,682	6,383	6,834	7,206	6,822	6,925	81,123



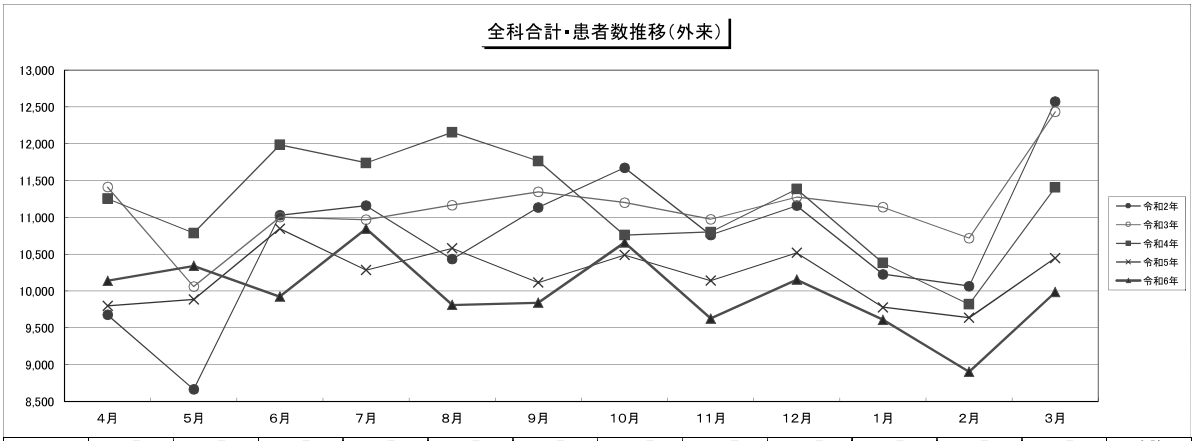
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年	238.2	219.5	224.4	245.4	249.4	258.6	277.0	265.5	259.9	228.8	247.6	274.3	249.1
令和3年	267.5	243.7	248.5	245.5	267.1	245.9	229.5	246.8	255.6	231.4	245.1	236.8	246.9
令和4年	234.6	231.8	235.3	240.8	228.4	210.8	206.8	230.1	228.6	230.7	231.1	240.2	229.1
令和5年	230.9	231.9	219.7	210.4	232.5	221.9	217.8	202.8	239.3	239.4	236.0	227.6	225.9
令和6年	226.3	201.6	223.8	226.5	224.2	218.2	215.5	212.8	220.5	232.5	243.6	223.4	222.3



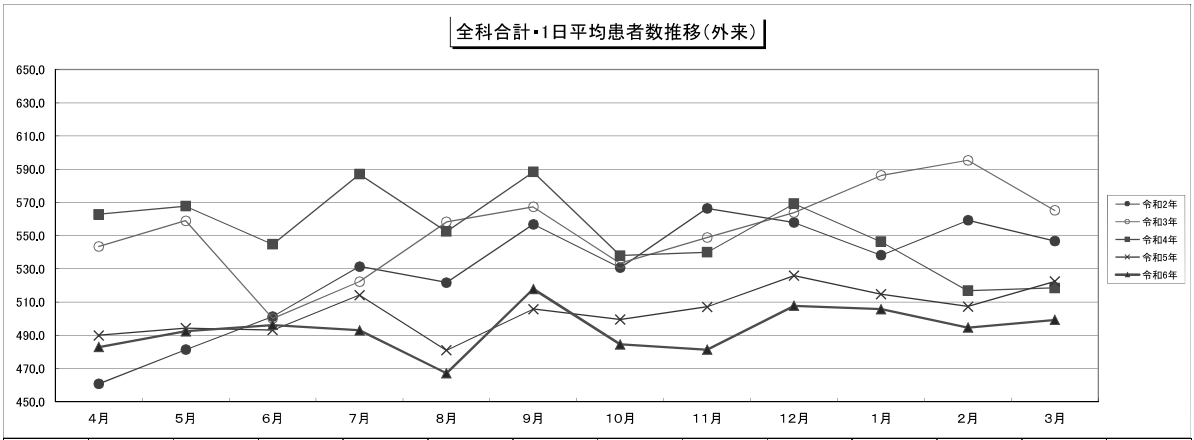
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年	440,635,911	425,039,975	425,133,265	471,537,638	482,727,547	482,759,435	554,848,656	484,697,745	540,834,738	431,100,798	468,858,600	556,280,767	5,764,455,075
令和3年	522,685,361	534,050,561	506,390,933	490,095,729	575,125,083	544,189,095	478,950,919	498,107,916	508,009,272	461,336,751	508,084,689	506,636,454	6,133,662,763
令和4年	466,654,205	469,865,607	465,545,644	497,199,394	500,437,706	442,621,311	442,810,545	493,090,573	525,895,575	515,293,602	451,683,887	512,256,606	5,783,354,655
令和5年	430,469,794	470,162,495	444,174,692	431,972,269	472,871,014	437,056,638	457,870,218	404,756,525	471,632,540	463,788,340	434,500,312	437,287,933	5,356,542,770
令和6年	438,682,246	420,703,793	445,979,696	495,444,502	467,549,424	443,780,343	480,000,891	434,845,468	474,879,782	475,090,923	452,832,423	449,256,113	5,479,045,604



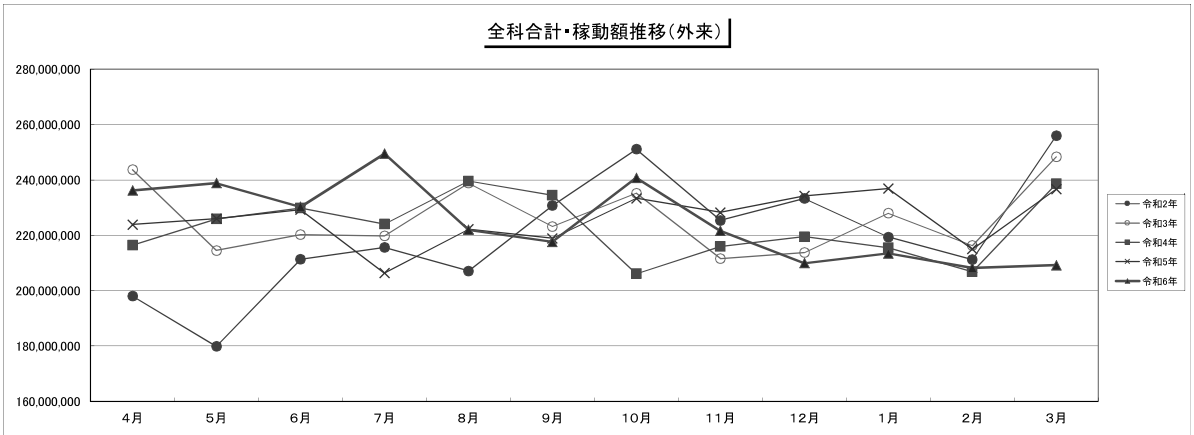
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年	61,661.9	62,478.3	63,141.7	61,995.5	62,448.6	62,227.3	64,607.4	60,861.1	67,126.1	60,769.8	67,617.3	65,414.0	63,403.5
令和3年	65,140.2	70,688.4	67,917.2	64,393.1	69,459.6	73,768.3	67,306.2	67,266.4	64,110.2	64,306.8	74,032.4	69,005.2	68,055.8
令和4年	66,304.9	65,386.3	65,941.3	66,595.2	70,693.3	69,979.7	69,059.7	71,441.7	74,195.2	72,038.8	69,801.2	68,796.2	69,157.4
令和5年	62,152.7	65,409.4	67,401.3	66,243.3	65,621.8	65,663.6	67,802.5	66,517.1	63,579.5	62,496.7	63,486.3	61,973.9	64,799.0
令和6年	64,616.6	67,301.8	66,435.2	70,556.0	67,273.3	67,794.1	71,834.9	68,125.6	69,487.8	65,929.9	66,378.3	64,874.5	67,540.0



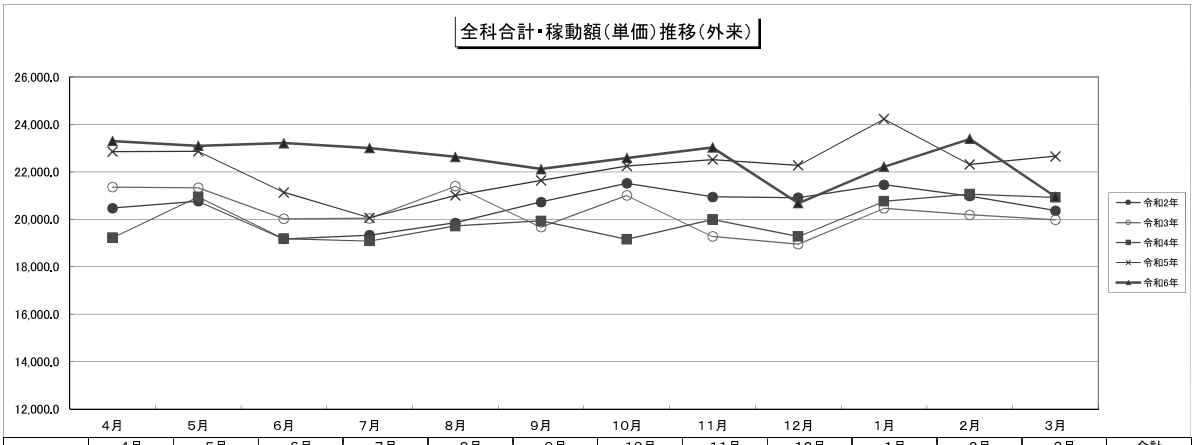
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年	9,676	8,664	11,028	11,158	10,434	11,136	11,674	10,762	11,158	10,226	10,066	12,575	128,557
令和3年	11,412	10,060	11,003	10,969	11,165	11,346	11,200	10,975	11,276	11,138	10,717	12,435	133,696
令和4年	11,256	10,787	11,985	11,740	12,155	11,766	10,758	10,800	11,386	10,380	9,819	11,406	134,238
令和5年	9,798	9,884	10,847	10,284	10,580	10,115	10,489	10,141	10,519	9,778	9,638	10,449	122,522
令和6年	10,140	10,341	9,923	10,846	9,810	9,841	10,660	9,626	10,154	9,609	8,903	9,985	119,838



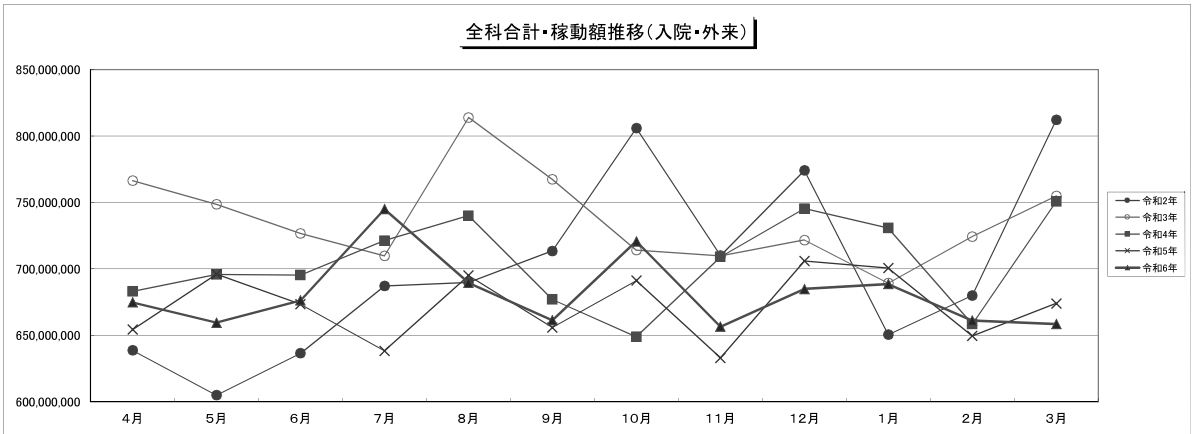
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年	460.8	481.3	501.3	531.3	521.7	556.8	530.6	566.4	557.9	538.2	559.2	546.7	529.0
令和3年	543.4	558.9	500.1	522.3	558.3	567.3	533.3	548.8	563.8	586.2	595.4	565.2	550.2
令和4年	562.8	567.7	544.8	587.0	552.5	588.3	537.9	540.0	569.3	546.3	516.8	518.5	552.4
令和5年	489.9	494.2	493.0	514.2	480.9	505.8	499.5	507.1	526.0	514.6	507.3	522.5	504.2
令和6年	482.9	492.4	496.2	493.0	467.1	517.9	484.5	481.3	507.7	505.7	494.6	499.3	493.2



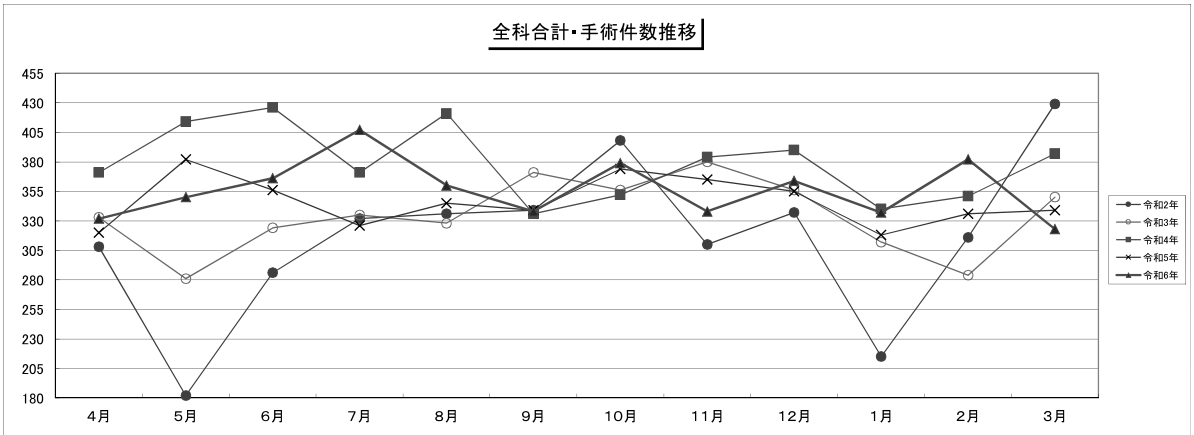
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年	198,024,282	179,859,658	211,326,740	215,613,076	207,064,253	230,763,365	251,134,054	225,346,626	233,293,430	219,353,880	211,165,347	256,005,111	2,638,949,822
令和3年	243,671,640	214,499,652	220,242,779	219,757,551	238,803,486	223,155,360	235,183,502	211,559,830	213,717,946	227,930,077	216,297,370	248,337,642	2,713,156,835
令和4年	216,367,363	225,896,910	229,804,728	223,998,104	239,601,074	234,444,363	206,062,435	215,919,112	219,452,114	215,501,594	206,798,147	238,600,895	2,672,446,839
令和5年	223,837,493	225,964,692	229,199,009	206,334,018	222,179,787	218,871,060	233,321,089	228,268,096	234,240,236	236,846,859	214,979,983	236,709,111	2,710,751,433
令和6年	236,174,429	238,824,651	230,271,156	249,461,695	221,952,443	217,618,470	240,745,761	221,608,465	209,943,511	213,450,776	208,201,264	209,163,345	2,697,415,966



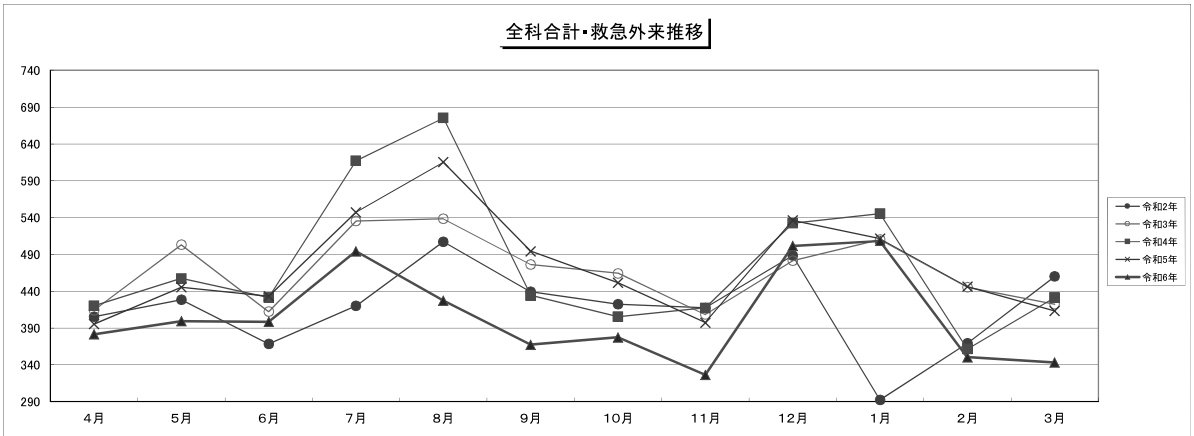
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年	20,465.5	20,759.4	19,162.7	19,323.6	19,845.1	20,722.3	21,512.3	20,939.1	20,908.2	21,450.6	20,978.1	20,358.3	20,527.5
令和3年	21,352.2	21,322.0	20,016.6	20,034.4	21,388.6	19,668.2	20,998.5	19,276.5	18,953.3	20,464.2	20,182.6	19,970.9	20,293.5
令和4年	19,222.4	20,941.6	19,174.4	19,079.9	19,712.1	19,925.6	19,154.3	19,992.5	19,273.9	20,761.2	21,061.0	20,918.9	19,908.3
令和5年	22,845.2	22,861.7	21,130.2	20,063.6	21,000.0	21,638.3	22,244.4	22,509.4	22,268.3	24,222.4	22,305.5	22,653.8	22,124.6
令和6年	23,291.4	23,094.9	23,205.8	23,000.3	22,625.1	22,113.5	22,584.0	23,021.9	20,675.9	22,213.6	23,385.5	20,947.8	22,508.9



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年	638,660,193	604,899,633	636,460,005	687,150,714	689,791,800	713,522,800	805,982,710	710,044,371	774,128,168	650,454,678	680,023,947	812,285,878	8,403,404,897
令和3年	766,357,001	748,550,213	726,633,712	709,853,280	813,928,569	767,344,455	714,134,421	709,667,746	721,727,218	689,266,828	724,382,059	754,974,096	8,846,819,598
令和4年	683,021,568	695,762,517	695,350,372	721,197,498	740,038,780	677,065,674	648,872,980	709,009,685	745,347,689	730,795,196	658,482,034	750,857,501	8,455,801,494
令和5年	654,307,287	696,127,187	673,373,701	638,306,287	695,050,801	655,927,698	691,191,307	633,024,621	705,872,776	700,635,199	649,480,295	673,997,044	8,067,294,203
令和6年	674,856,675	659,528,444	676,250,852	744,906,197	689,501,867	661,398,813	720,746,652	656,453,933	684,823,293	688,541,699	661,033,687	658,419,458	8,176,461,570

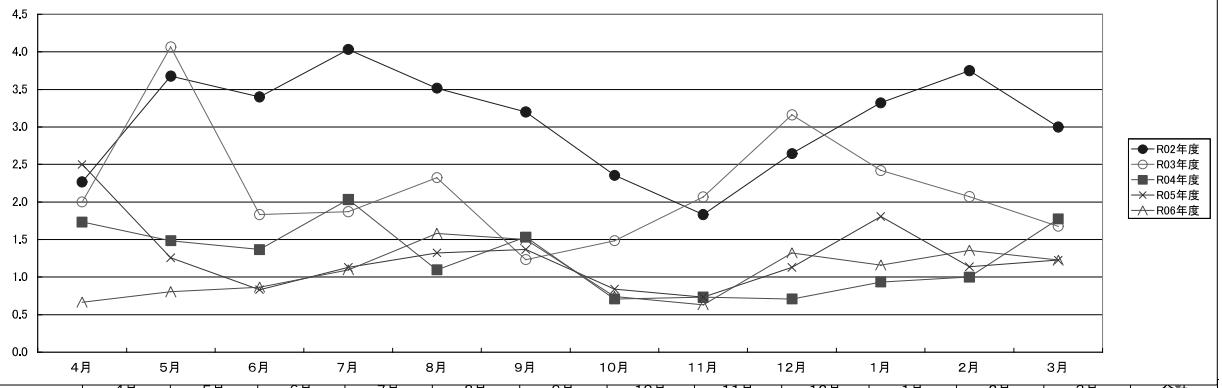


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年	308	182	286	332	336	339	398	310	337	215	316	429	3,788
令和3年	333	281	324	335	328	371	356	380	356	312	284	350	4,010
令和4年	371	414	426	371	421	336	352	384	390	340	351	387	4,543
令和5年	320	382	356	326	345	339	374	365	355	318	336	339	4,155
令和6年	332	350	366	407	360	338	379	338	364	337	382	323	4,276



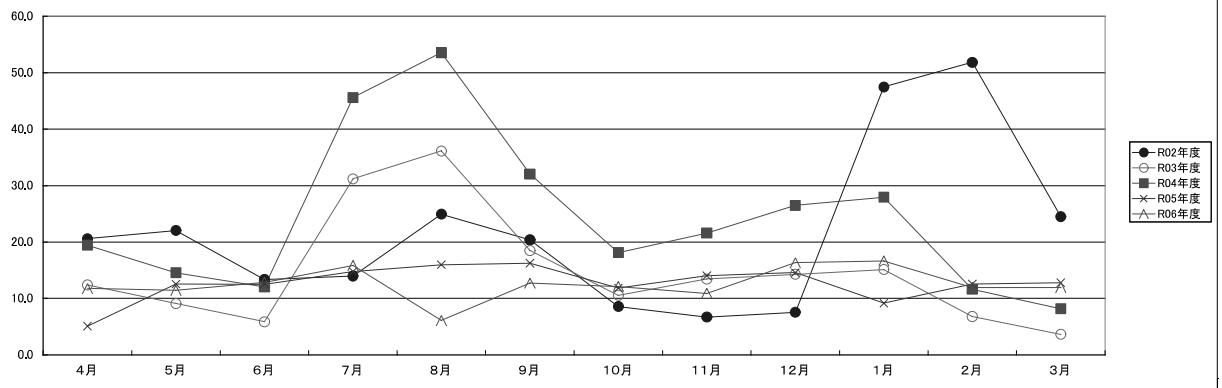
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年	405	428	368	420	507	439	422	417	488	292	369	460	5,015
令和3年	414	503	412	535	538	476	464	408	481	510	445	422	5,608
令和4年	420	457	431	617	675	434	405	417	532	545	361	431	5,725
令和5年	395	445	433	547	615	494	451	397	536	511	446	413	5,683
令和6年	381	399	398	494	427	367	377	326	501	508	350	343	4,871

内科・1日平均入院患者数



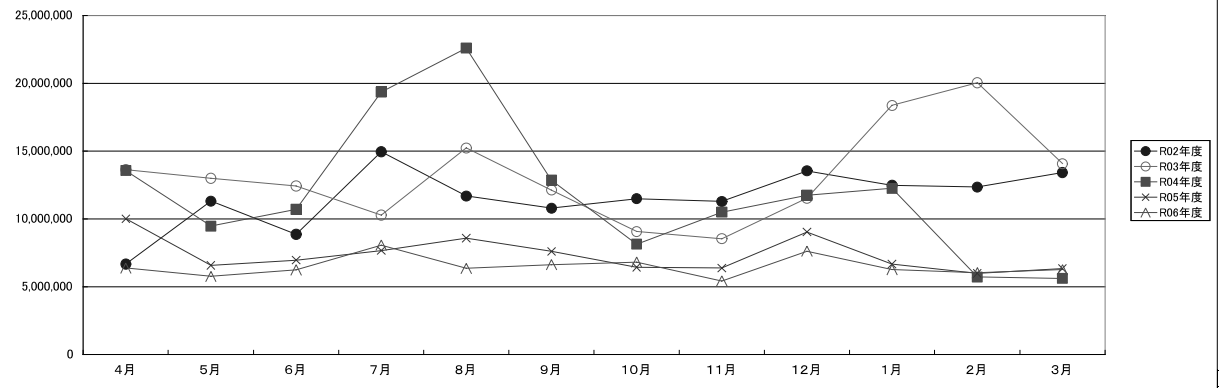
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	2.3	3.7	3.4	4.0	3.5	3.2	2.4	1.8	2.6	3.3	3.8	3.0	3.1
R03年度	2.0	4.1	1.8	1.9	2.3	1.2	1.5	2.1	3.2	2.4	2.1	1.7	2.2
R04年度	1.7	1.5	1.4	2.0	1.1	1.5	0.7	0.7	0.7	0.9	1.0	1.8	1.3
R05年度	2.5	1.3	0.8	1.1	1.3	1.4	0.8	0.7	1.1	1.8	1.1	1.2	1.3
R06年度	0.7	0.8	0.9	1.1	1.6	1.5	0.7	0.6	1.3	1.2	1.4	1.2	1.1

内科・1日平均外来患者数

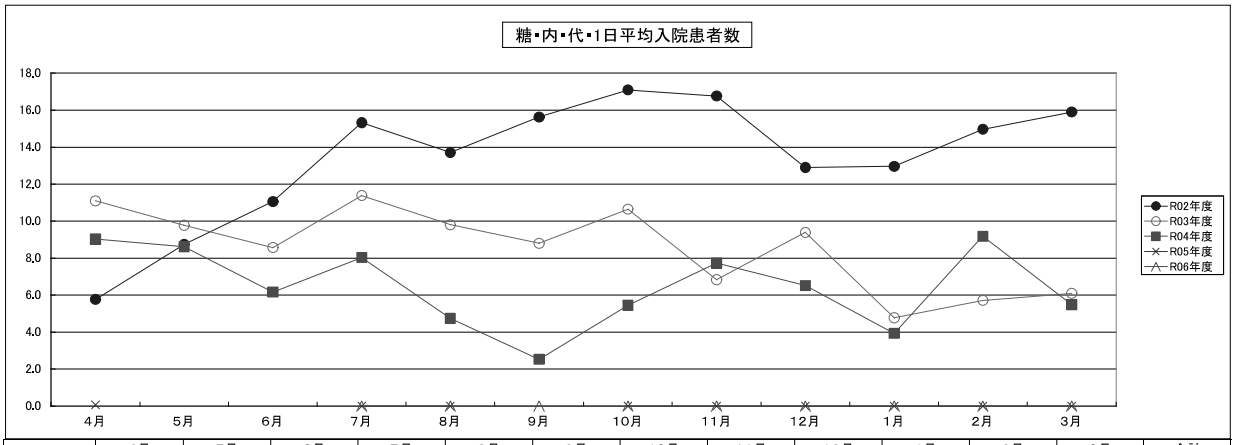


R02年度	20.6	22.1	13.4	14.0	25.0	20.4	8.6	6.7	7.6	47.5	51.8	24.5	21.4
R03年度	12.4	9.1	5.9	31.2	36.1	18.5	10.6	13.5	14.3	15.2	6.8	3.6	14.8
R04年度	19.5	14.6	12.0	45.6	53.5	32.1	18.2	21.6	26.5	27.9	11.6	8.2	24.4
R05年度	5.1	12.6	12.5	14.8	16.0	16.3	11.9	14.1	14.6	9.2	12.6	12.8	12.7
R06年度	11.8	11.4	12.9	15.9	6.1	12.7	12.1	10.9	16.4	16.7	11.9	12.0	12.5

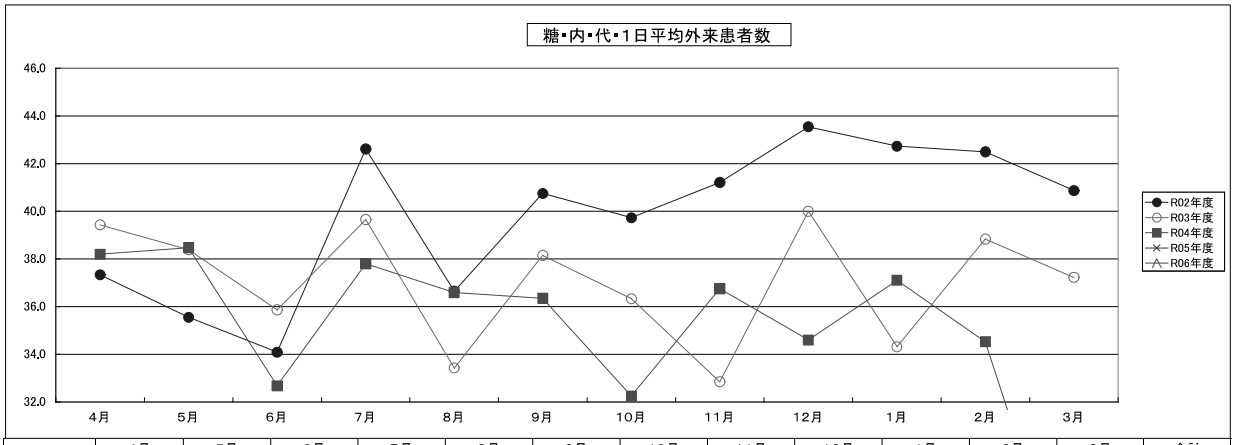
内科・合計稼働額



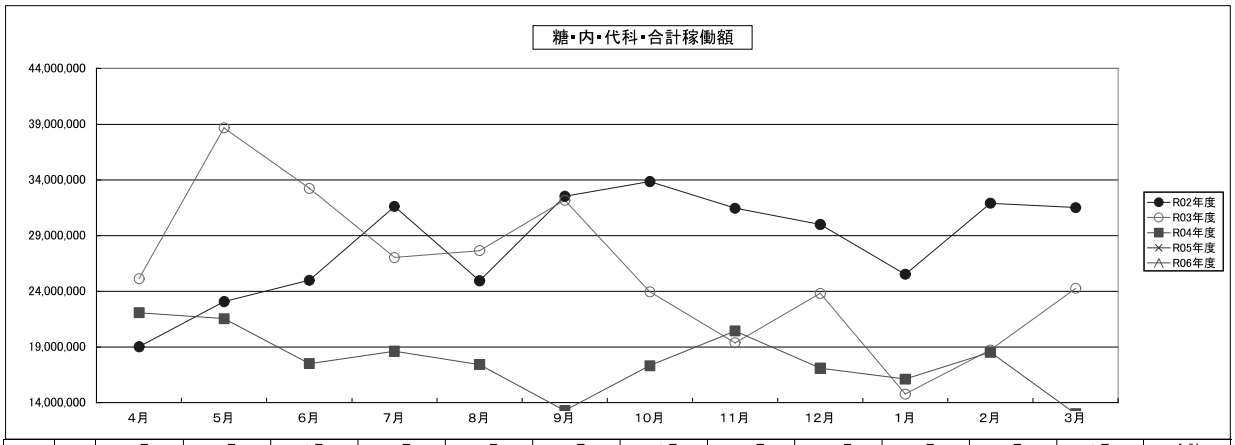
R02年度	入院	1,865,420	7,059,128	3,458,850	6,986,573	3,096,010	3,352,790	3,721,035	1,524,370	2,579,112	3,199,114	3,419,252	1,740,966	42,002,620
	外来	4,808,720	4,247,040	5,409,070	7,960,316	8,586,853	7,439,905	7,761,030	9,755,920	10,962,090	9,269,830	8,925,766	11,668,900	96,795,440
	合計	6,674,140	11,306,168	8,867,920	14,946,889	11,682,863	10,792,695	11,482,065	11,280,290	13,541,202	12,468,944	12,345,018	13,409,866	138,798,060
R03年度	入院	1,804,502	2,561,580	1,712,720	910,190	1,569,606	543,960	668,760	2,005,858	4,305,880	2,849,254	4,043,794	2,145,370	25,121,474
	外来	11,816,850	10,430,083	10,715,158	9,370,710	13,656,815	11,584,318	8,398,785	6,532,901	7,213,750	15,509,629	15,992,158	11,921,800	133,142,957
	合計	13,621,352	12,991,663	12,427,878	10,280,900	15,226,421	12,128,278	9,067,545	8,538,759	11,519,630	18,358,883	20,035,952	14,067,170	158,264,431
R04年度	入院	2,845,810	666,410	783,658	1,929,688	774,164	540,040	158,110	354,850	450,580	17,500	0	1,159,710	9,680,520
	外来	10,714,346	8,802,470	9,914,926	17,424,281	21,815,339	12,304,590	7,977,816	10,145,637	11,293,444	12,232,641	5,717,980	4,453,370	132,796,840
	合計	13,560,156	9,468,880	10,698,584	19,353,969	22,589,503	12,844,630	8,135,926	10,500,487	11,744,024	12,250,141	5,717,980	5,613,080	142,477,360
R05年度	入院	3,011,750	763,260	180,440	0	0	396,690	898,720	120,430	1,682,674	0	0	0	7,053,964
	外来	6,993,904	5,818,874	6,776,463	7,671,538	8,583,930	7,203,500	5,533,710	6,257,664	7,353,632	6,673,860	5,990,230	6,345,060	81,202,365
	合計	10,005,654	6,582,134	6,956,903	7,671,538	8,583,930	7,600,190	6,432,430	6,378,094	9,036,306	6,673,860	5,990,230	6,345,060	88,256,329
R06年度	入院	176,120	149,730	370,920	62,580	447,738	626,550	230,810	63,340	415,570	0	418,450	509,720	3,471,528
	外来	6,206,623	5,611,867	5,878,586	8,002,660	5,905,939	5,998,576	6,583,409	5,360,311	7,205,454	6,264,947	5,616,863	5,747,914	74,383,149
	合計	6,382,743	5,761,597	6,249,506	8,065,240	6,353,677	6,625,126	6,814,219	5,423,651	7,621,024	6,264,947	6,035,313	6,257,634	77,854,677



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	5.8	8.7	11.1	15.3	13.7	15.6	17.1	16.8	12.9	13.0	15.0	15.9	13.4
R03年度	11.1	9.8	8.6	11.4	9.8	8.8	10.6	6.8	9.4	4.8	5.7	6.1	8.6
R04年度	9.0	8.6	6.2	8.0	4.7	2.5	5.5	7.7	6.5	3.9	9.2	5.5	6.4
R05年度	0.1			0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
R06年度				0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

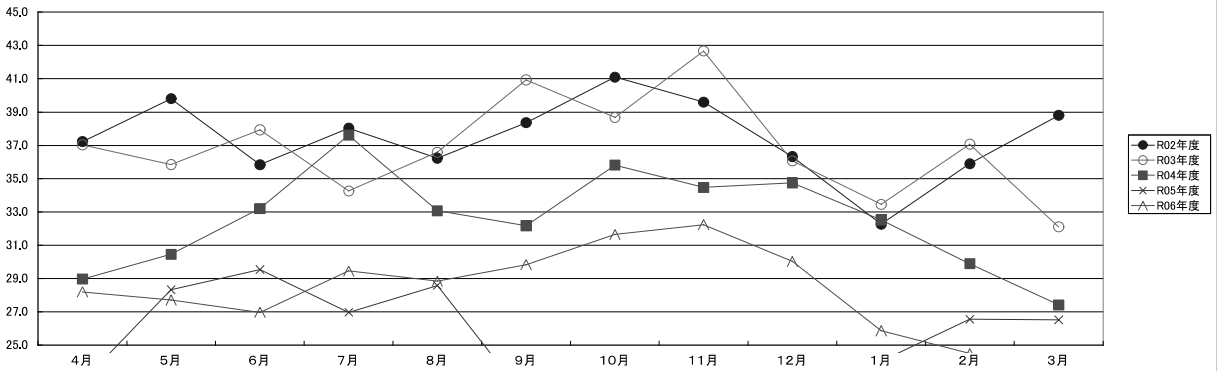


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	37.3	35.6	34.1	42.6	36.7	40.8	39.7	41.2	43.6	42.7	42.5	40.9	39.8
R03年度	39.4	38.4	35.9	39.7	33.4	38.2	36.3	32.9	40.0	34.3	38.8	37.2	37.0
R04年度	38.2	38.5	32.7	37.8	36.6	36.4	32.3	36.8	34.6	37.1	34.5	23.1	34.7
R05年度	19.3	15.9	16.5	18.1	17.0	16.5	17.8	15.5	17.5	16.9	16.0	16.2	16.9
R06年度	15.0	15.7	15.1	14.4	16.0	14.8	14.1	13.9	16.1	14.8	14.9	14.2	14.9



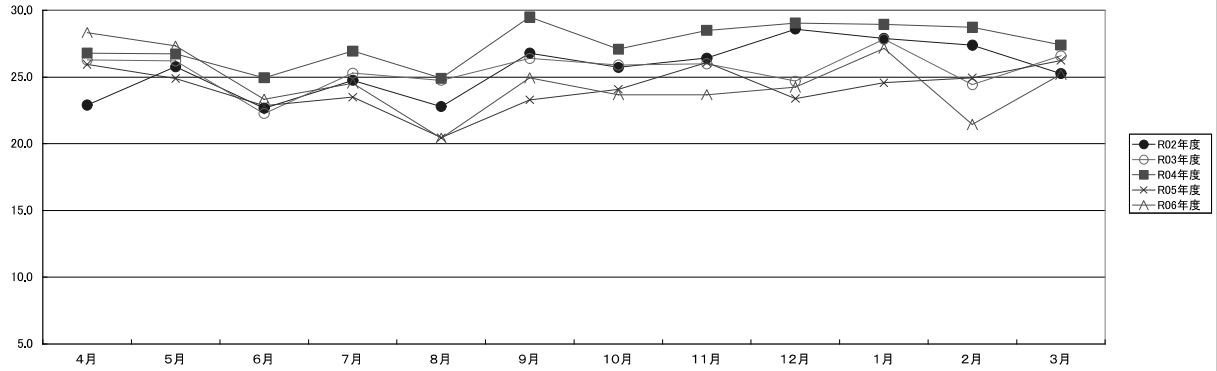
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	入院	8,043,700	14,312,211	15,100,524	19,331,744	15,536,586	21,045,268	22,018,403	19,528,609	18,233,211	14,300,257	21,347,160	18,370,261	207,167,934
	外来	10,985,700	8,763,660	9,887,130	12,282,980	9,405,660	11,481,590	11,821,720	11,920,810	11,764,690	11,221,460	10,557,090	13,139,590	133,232,080
	合計	19,029,400	23,075,871	24,987,654	31,614,724	24,942,246	32,526,858	33,840,123	31,449,419	29,997,901	25,521,717	31,904,250	31,509,851	340,400,014
R03年度	入院	12,561,914	29,338,288	22,353,182	15,552,940	18,715,170	20,988,608	12,974,912	9,898,044	12,375,890	5,974,460	8,425,051	12,185,716	181,344,175
	外来	12,574,220	9,346,670	10,875,880	11,481,230	8,933,230	11,175,910	10,979,670	9,478,620	11,437,650	8,788,690	10,305,240	12,078,040	127,455,050
	合計	25,136,134	38,684,958	33,229,062	27,034,170	27,648,400	32,164,518	23,954,582	19,376,664	23,813,540	14,763,150	18,730,291	24,263,756	308,799,225
R04年度	入院	12,025,654	11,248,368	8,474,664	8,945,596	7,131,918	3,039,944	8,240,262	10,400,582	8,055,504	6,660,176	9,566,428	7,209,796	100,998,892
	外来	10,058,200	10,296,366	9,037,130	9,680,090	10,295,250	10,247,466	9,076,210	10,044,230	9,050,880	9,457,110	8,962,930	5,794,700	112,000,562
	合計	22,083,854	21,544,734	17,511,794	18,625,686	17,427,168	13,287,410	17,316,472	20,444,812	17,106,384	16,117,286	18,529,358	13,004,496	212,999,454
R05年度	入院	102,850	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	102,850
	外来	5,251,370	3,396,680	4,380,970	4,750,270	4,510,620	4,127,120	4,985,660	4,261,820	4,182,290	5,280,590	4,465,100	4,454,270	54,046,760
	合計	5,354,220	3,396,680	4,380,970	4,750,270	4,510,620	4,127,120	4,985,660	4,261,820	4,182,290	5,280,590	4,465,100	4,454,270	54,149,610
R06年度	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外来	4,660,340	4,319,668	4,087,318	4,814,420	4,868,960	4,155,120	4,163,960	3,981,130	4,761,710	4,205,800	3,726,450	4,174,890	51,919,766
	合計	4,660,340	4,319,668	4,087,318	4,814,420	4,868,960	4,155,120	4,163,960	3,981,130	4,761,710	4,205,800	3,726,450	4,174,890	51,919,766

血液内科・1日平均入院患者数



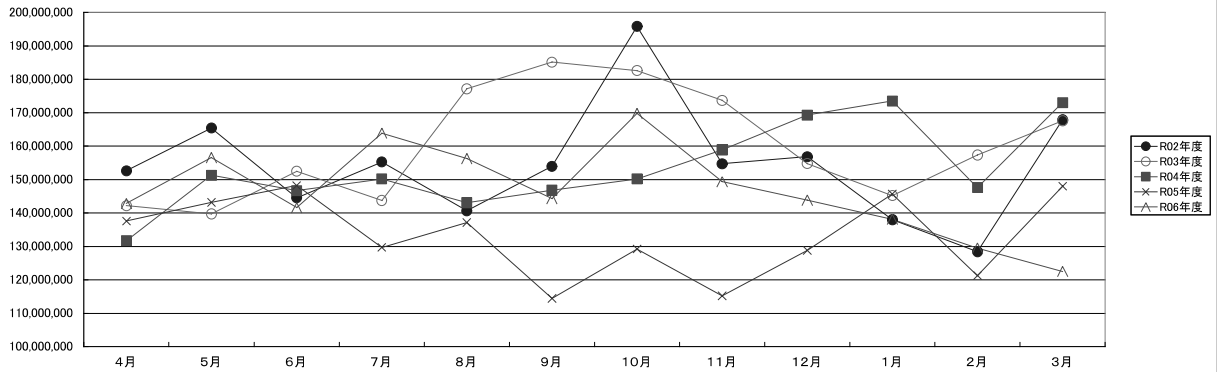
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	37.2	39.8	35.8	38.0	36.2	38.4	41.1	39.6	36.3	32.3	35.9	38.8	37.5
R03年度	37.0	35.8	37.9	34.3	36.6	40.9	38.7	42.7	36.1	33.5	37.1	32.1	36.9
R04年度	29.0	30.5	33.2	37.6	33.1	32.2	35.8	34.5	34.7	32.5	29.9	27.4	32.6
R05年度	22.8	28.3	29.5	27.0	28.6	21.8	23.0	18.6	24.1	24.0	26.6	26.5	25.1
R06年度	28.2	27.7	27.0	29.5	28.8	29.8	31.6	32.2	30.0	25.9	24.5	18.7	27.8

血液内科・1日平均外来患者数

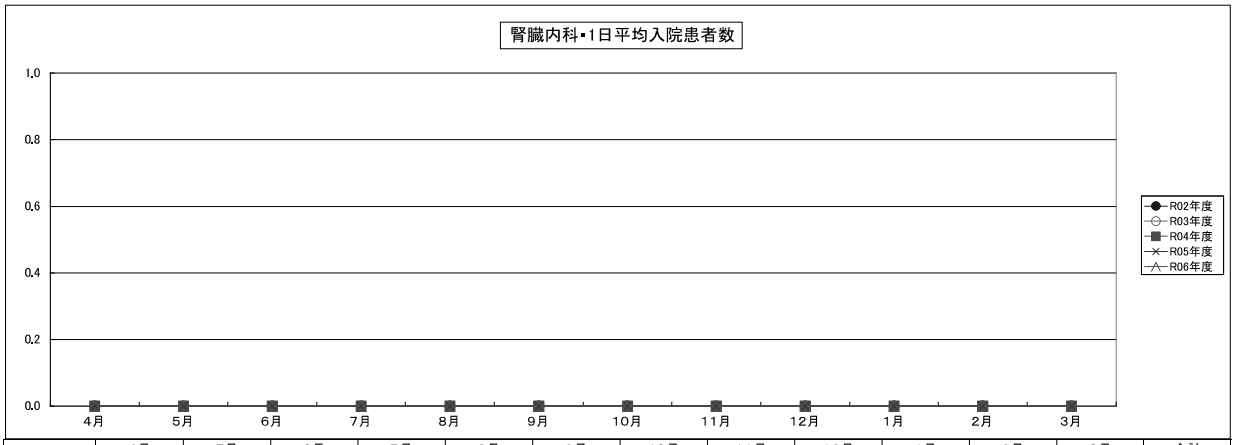


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	22.9	25.8	22.7	24.8	22.8	26.8	25.7	26.4	28.6	27.9	27.4	25.3	25.5
R03年度	26.3	26.2	22.3	25.3	24.8	26.4	25.9	26.0	24.7	27.8	24.4	26.6	25.5
R04年度	26.8	26.7	25.0	27.0	24.9	29.5	27.1	28.5	29.1	28.9	28.7	27.4	27.4
R05年度	26.0	24.9	22.9	23.5	20.5	23.3	24.1	26.1	23.4	24.6	24.9	26.3	24.1
R06年度	28.3	27.3	23.4	24.5	20.4	24.9	23.7	23.7	24.3	27.2	21.4	25.2	24.5

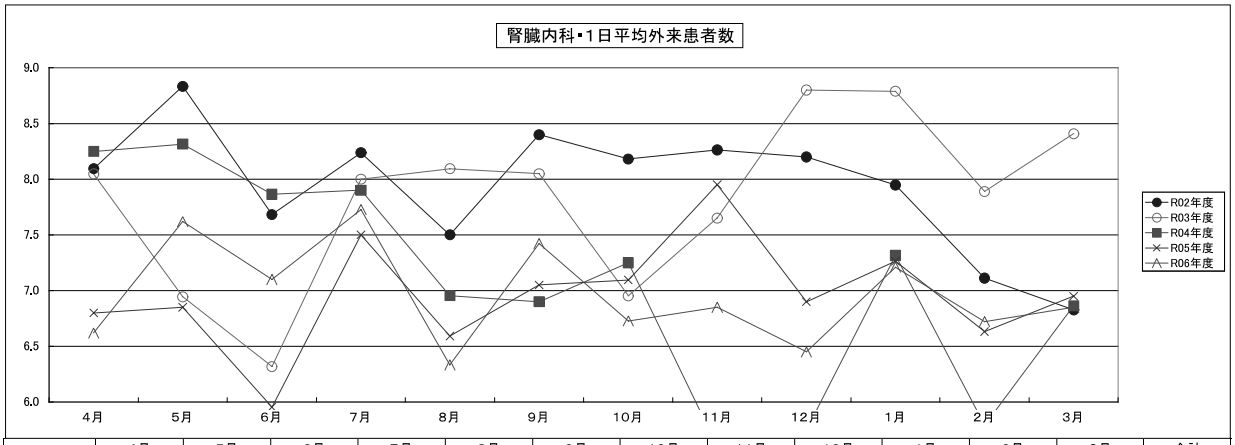
血液内科・合計稼働額



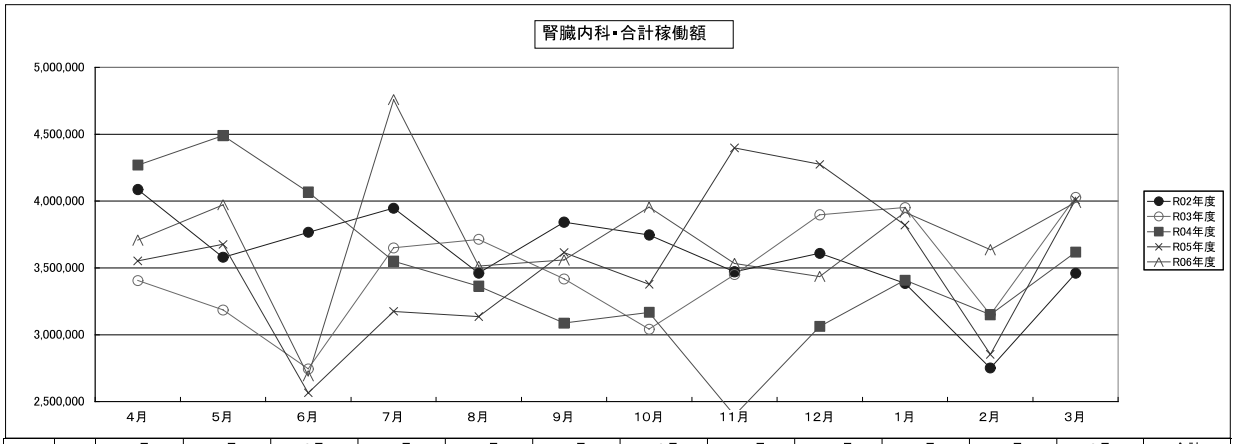
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	入院	111,645,747	123,215,072	99,257,529	111,486,062	103,054,539	97,542,829	130,982,744	97,173,264	104,692,589	81,614,172	81,908,592	110,011,695	1,252,584,834
	外来	40,974,520	42,201,250	45,312,730	43,785,060	37,596,030	56,430,860	64,892,020	57,570,480	52,155,360	56,379,450	46,528,550	57,873,620	601,699,930
	合計	152,620,267	165,416,322	144,570,259	155,271,122	140,650,569	153,973,689	195,874,764	154,743,744	156,847,949	137,993,622	128,437,142	167,885,315	1,854,284,764
R03年度	入院	89,107,699	101,462,007	110,618,144	102,055,931	119,878,218	142,820,472	123,100,521	124,385,406	104,728,374	89,034,244	103,183,880	103,941,302	1,314,316,198
	外来	53,069,430	38,288,700	41,874,270	41,703,510	57,268,260	42,341,940	59,554,990	49,299,310	50,075,520	56,185,310	54,158,070	63,643,580	607,462,890
	合計	142,177,129	139,750,707	152,492,414	143,759,441	177,146,478	185,162,412	182,655,511	173,684,716	154,803,894	145,219,554	157,341,950	167,584,882	1,921,779,088
R04年度	入院	78,646,963	86,862,332	87,403,533	91,282,880	85,029,663	81,837,186	98,237,002	101,215,674	114,967,230	113,986,533	87,295,142	99,766,838	1,126,530,976
	外来	53,077,480	64,414,570	59,274,730	58,915,280	58,060,850	64,977,160	51,953,240	57,657,800	54,297,540	59,500,230	60,316,210	73,259,050	715,704,140
	合計	131,724,443	151,276,902	146,678,263	150,198,160	143,090,513	146,814,346	150,190,242	158,873,474	169,264,770	173,486,763	147,611,352	173,025,888	1,842,235,116
R05年度	入院	71,480,060	84,329,861	91,659,882	84,433,431	80,108,210	58,998,276	68,667,110	56,166,564	69,386,112	74,659,548	69,263,192	77,188,266	886,340,512
	外来	66,102,610	58,821,590	56,553,010	45,283,850	57,040,570	55,468,180	60,585,290	59,056,070	59,414,560	71,014,730	52,043,440	70,807,360	712,191,260
	合計	137,582,670	143,151,451	148,212,892	129,717,281	137,148,780	114,466,456	129,252,400	115,222,634	128,800,672	145,674,278	121,306,632	147,995,626	1,598,531,772
R06年度	入院	79,460,422	92,679,982	78,447,897	103,082,368	96,227,418	87,134,397	108,139,090	91,787,452	89,726,894	81,179,142	70,801,643	69,032,363	1,047,699,068
	外来	63,393,340	63,893,510	63,178,380	60,803,840	60,052,850	57,140,900	61,665,320	57,579,370	54,109,760	56,957,330	58,732,900	53,476,760	710,984,260
	合計	142,853,762	156,573,492	141,626,277	163,886,208	156,280,268	144,275,297	169,804,410	149,366,822	143,836,654	138,136,472	129,534,543	122,509,123	1,758,683,328



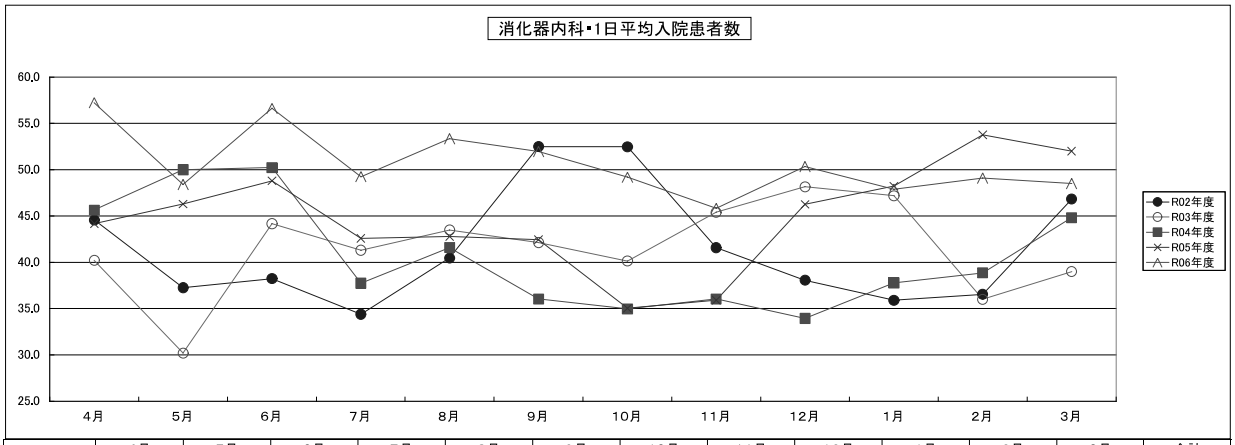
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
R03年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
R04年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
R05年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
R06年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0



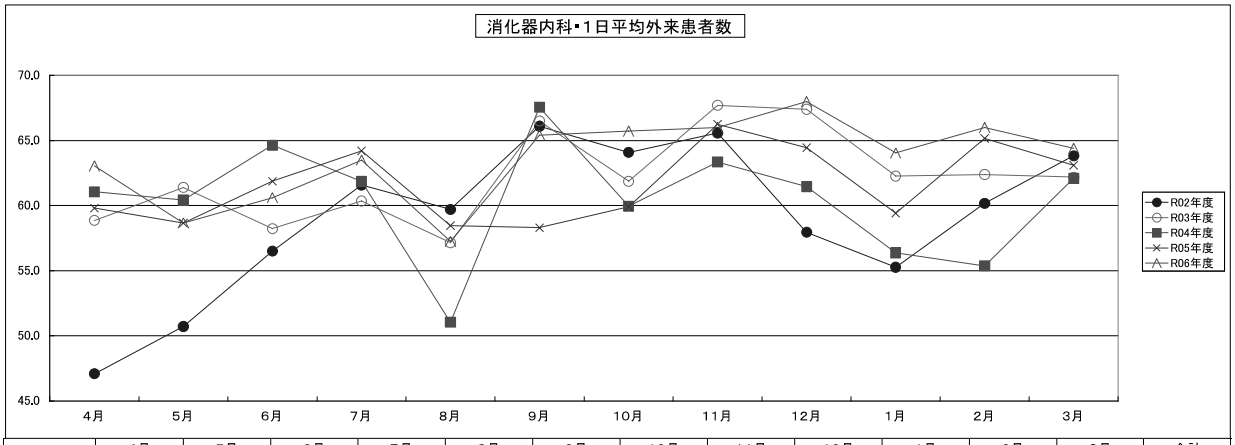
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	8.1	8.8	7.7	8.2	7.5	8.4	8.2	8.3	8.2	7.9	7.1	6.8	7.9
R03年度	8.0	6.9	6.3	8.0	8.1	8.1	7.0	7.7	8.8	8.8	7.9	8.4	7.8
R04年度	8.3	8.3	7.9	7.9	7.0	6.9	7.3	5.6	5.8	7.3	5.8	6.9	7.1
R05年度	6.8	6.9	6.0	7.5	6.6	7.1	7.1	8.0	6.9	7.3	6.6	7.0	7.0
R06年度	6.6	7.6	7.1	7.7	6.3	7.4	6.7	6.9	6.5	7.2	6.7	6.9	7.0



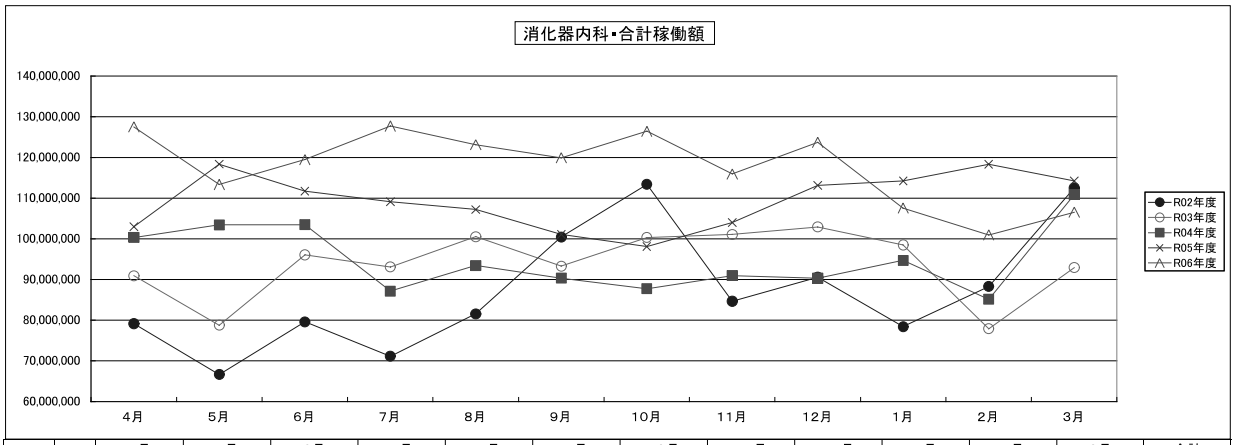
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外来	4,086,510	3,580,450	3,766,740	3,947,410	3,461,470	3,842,300	3,746,920	3,471,950	3,609,630	3,385,970	2,751,970	3,460,950	43,112,270
	合計	4,086,510	3,580,450	3,766,740	3,947,410	3,461,470	3,842,300	3,746,920	3,471,950	3,609,630	3,385,970	2,751,970	3,460,950	43,112,270
R03年度	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外来	3,405,850	3,186,110	2,745,490	3,650,760	3,714,270	3,418,690	3,042,500	3,451,130	3,898,010	3,952,200	3,151,440	4,028,960	41,645,410
	合計	3,405,850	3,186,110	2,745,490	3,650,760	3,714,270	3,418,690	3,042,500	3,451,130	3,898,010	3,952,200	3,151,440	4,028,960	41,645,410
R04年度	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外来	4,269,090	4,491,300	4,067,150	3,550,150	3,363,760	3,087,860	3,168,380	2,397,680	3,062,670	3,408,350	3,150,860	3,618,580	41,635,830
	合計	4,269,090	4,491,300	4,067,150	3,550,150	3,363,760	3,087,860	3,168,380	2,397,680	3,062,670	3,408,350	3,150,860	3,618,580	41,635,830
R05年度	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外来	3,553,190	3,676,360	2,565,440	3,175,700	3,137,130	3,616,540	3,377,720	4,398,365	4,274,720	3,820,950	2,853,660	4,010,780	42,460,555
	合計	3,553,190	3,676,360	2,565,440	3,175,700	3,137,130	3,616,540	3,377,720	4,398,365	4,274,720	3,820,950	2,853,660	4,010,780	42,460,555
R06年度	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外来	3,708,550	3,973,190	2,694,230	4,760,700	3,514,270	3,560,100	3,954,930	3,534,610	3,437,030	3,917,400	3,636,730	3,990,017	44,681,757
	合計	3,708,550	3,973,190	2,694,230	4,760,700	3,514,270	3,560,100	3,954,930	3,534,610	3,437,030	3,917,400	3,636,730	3,990,017	44,681,757



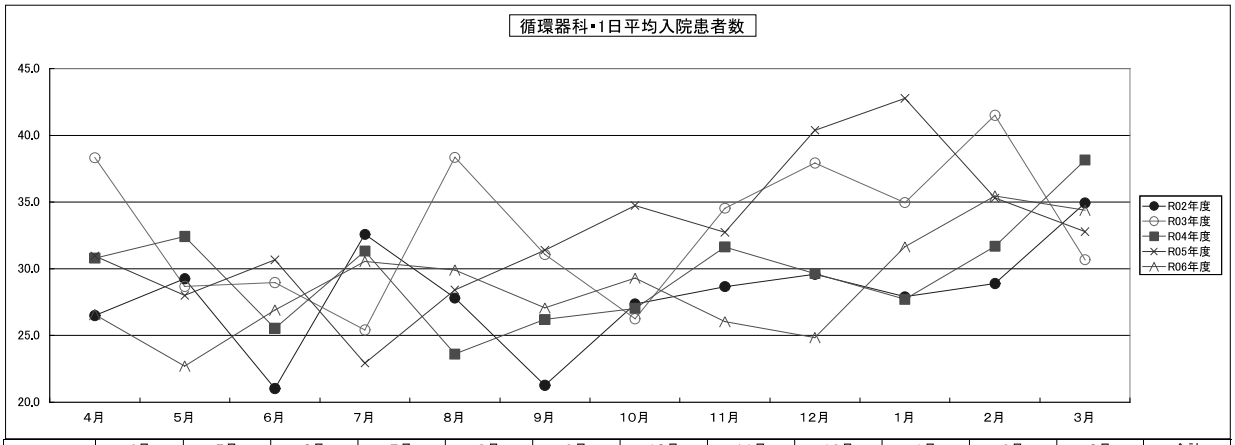
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	44.6	37.3	38.2	34.4	40.5	52.5	52.5	41.6	38.1	35.9	36.5	46.8	41.6
R03年度	40.2	30.2	44.2	41.3	43.5	42.1	40.1	45.4	48.2	47.2	36.0	39.0	41.5
R04年度	45.6	50.0	50.2	37.7	41.6	36.0	35.0	36.0	33.9	37.8	38.9	44.8	40.6
R05年度	44.2	46.3	48.8	42.6	42.8	42.4	35.0	35.9	46.3	48.2	53.8	52.0	44.8
R06年度	57.2	48.4	56.6	49.3	53.4	52.0	49.2	45.8	50.4	47.9	49.1	48.5	50.6



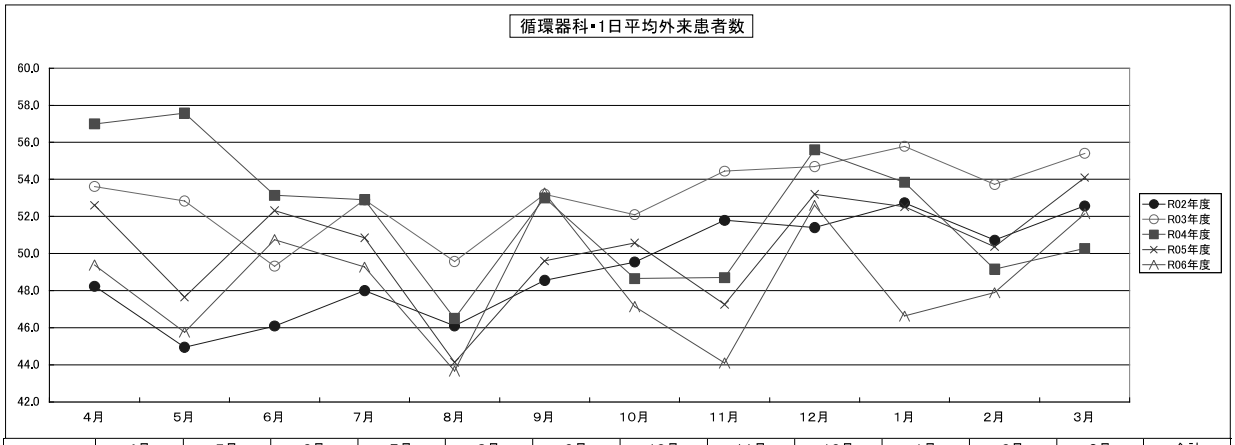
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	47.1	50.7	56.5	61.6	59.7	66.1	64.1	65.6	58.0	55.3	60.2	63.8	59.1
R03年度	58.9	61.4	58.2	60.4	57.1	66.5	61.9	67.7	67.4	62.3	62.4	62.2	62.1
R04年度	61.1	60.4	64.6	61.9	51.0	67.6	60.0	63.4	61.5	56.4	55.4	62.1	60.4
R05年度	59.8	58.7	61.9	64.2	58.5	58.3	59.9	66.3	64.5	59.4	65.2	63.1	61.6
R06年度	63.0	58.7	60.6	63.5	57.2	65.4	65.7	66.0	68.0	64.1	66.0	64.4	63.5



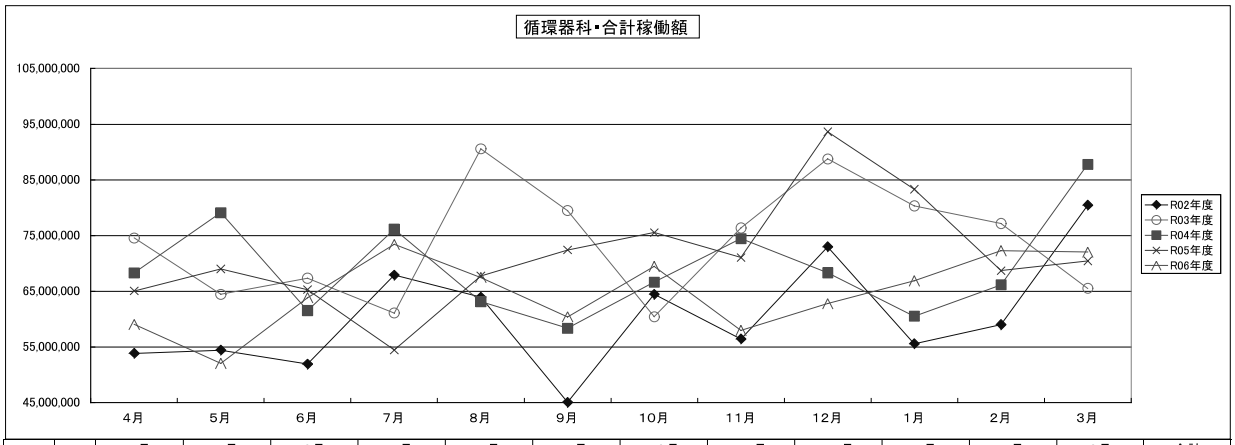
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	入院	61,677,625	50,503,520	57,284,891	49,281,629	60,037,950	76,066,647	88,734,726	60,580,763	63,667,679	53,633,451	60,325,204	79,838,631	761,632,716
	外来	17,486,575	16,194,384	22,328,663	21,899,860	21,537,642	24,363,779	24,650,153	24,087,801	26,874,257	24,773,918	27,982,865	32,641,401	284,821,298
	合計	79,164,200	66,697,904	79,613,554	71,181,489	81,575,592	100,430,426	113,384,879	84,668,564	90,541,936	78,407,369	88,308,069	112,480,032	1,046,454,014
R03年度	入院	60,527,994	50,749,534	66,953,858	64,864,935	70,639,037	66,472,813	71,040,730	75,694,237	79,660,765	75,041,897	57,907,191	64,224,022	803,777,013
	外来	30,382,658	28,047,422	29,122,051	28,239,091	29,870,750	26,804,683	29,282,199	25,386,955	23,272,783	23,457,581	20,015,065	28,728,437	322,609,675
	合計	90,910,652	78,796,956	96,075,909	93,104,026	100,509,787	93,277,496	100,322,929	101,081,192	102,933,548	98,499,478	77,922,256	92,952,459	1,126,386,688
R04年度	入院	77,211,064	82,236,836	79,343,881	63,121,975	72,657,931	64,102,315	63,918,187	65,258,966	66,771,213	69,986,080	61,997,642	79,772,278	846,378,368
	外来	23,117,736	21,185,601	24,138,192	24,016,627	20,781,258	26,240,112	23,840,363	25,718,946	23,564,758	24,699,913	23,169,713	31,102,034	291,575,253
	合計	100,328,800	103,422,437	103,482,073	87,138,602	93,439,189	90,342,427	87,758,550	90,977,912	90,335,971	94,685,993	85,167,355	110,874,312	1,137,953,621
R05年度	入院	74,563,985	80,947,519	80,709,033	79,486,222	78,457,130	68,402,144	62,487,233	67,542,363	78,947,752	83,601,085	85,491,432	86,185,609	926,821,507
	外来	28,424,951	37,389,110	31,009,031	29,610,577	28,740,697	32,672,596	35,640,642	36,442,430	34,177,962	30,628,240	32,819,356	28,039,927	385,595,519
	合計	102,988,936	118,336,629	111,718,064	109,096,799	107,197,827	101,074,740	98,127,875	103,984,793	113,125,714	114,229,325	118,310,788	114,225,536	1,312,417,026
R06年度	入院	91,759,617	79,808,650	92,644,231	90,669,002	95,890,871	89,286,598	88,727,172	77,749,674	93,244,222	78,756,081	74,693,382	78,628,677	1,031,858,177
	外来	35,774,449	33,553,180	26,836,710	37,074,221	27,255,850	30,617,890	37,731,080	38,175,040	30,497,900	28,821,010	26,259,410	27,912,950	380,509,690
	合計	127,534,066	113,361,830	119,480,941	127,743,223	123,146,721	119,904,488	126,458,252	115,924,714	123,742,122	107,577,091	100,952,792	106,541,627	1,412,367,867



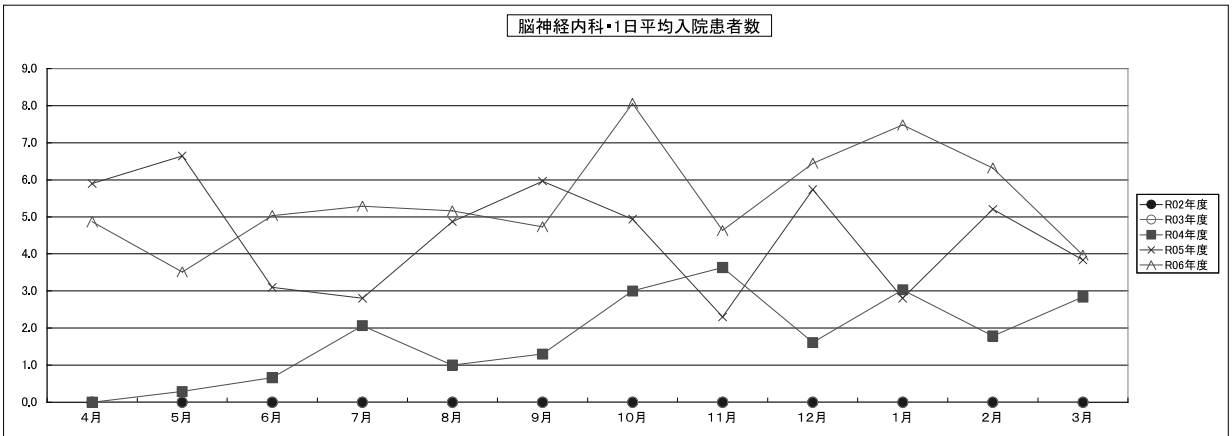
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	26.5	29.3	21.0	32.6	27.8	21.3	27.4	28.7	29.6	27.9	28.9	34.9	28.0
R03年度	38.3	28.7	29.0	25.4	38.4	31.1	26.3	34.5	37.9	35.0	41.5	30.7	33.0
R04年度	30.8	32.4	25.5	31.3	23.6	26.2	27.0	31.6	29.6	27.7	31.7	38.2	29.6
R05年度	31.0	28.0	30.7	22.9	28.4	31.4	34.7	32.7	40.4	42.8	35.3	32.8	32.6
R06年度	26.6	22.7	26.9	30.5	29.9	27.1	29.3	26.0	24.8	31.6	35.5	34.4	28.7



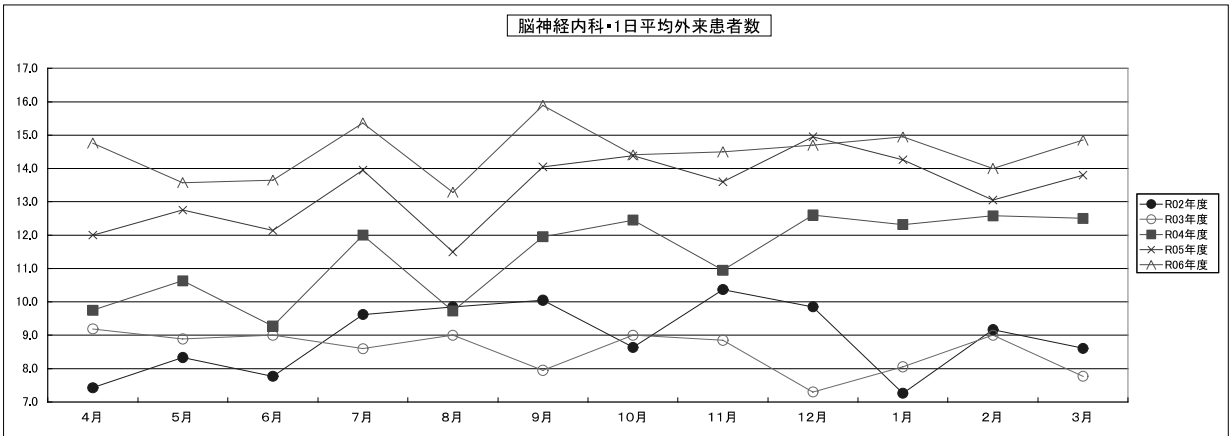
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	48.2	44.9	46.1	48.0	46.1	48.6	49.5	51.8	51.4	52.7	50.7	52.6	49.2
R03年度	53.6	52.8	49.3	52.9	49.6	53.2	52.1	54.5	54.7	55.8	53.7	55.4	53.1
R04年度	57.0	57.6	53.1	52.9	46.5	53.0	48.7	48.7	55.6	53.8	49.2	50.3	52.1
R05年度	52.6	47.7	52.3	50.9	44.1	49.6	50.6	47.3	53.2	52.5	50.4	54.1	50.4
R06年度	49.4	45.8	50.8	49.3	43.7	53.3	47.1	44.1	52.6	46.6	47.9	52.2	48.5



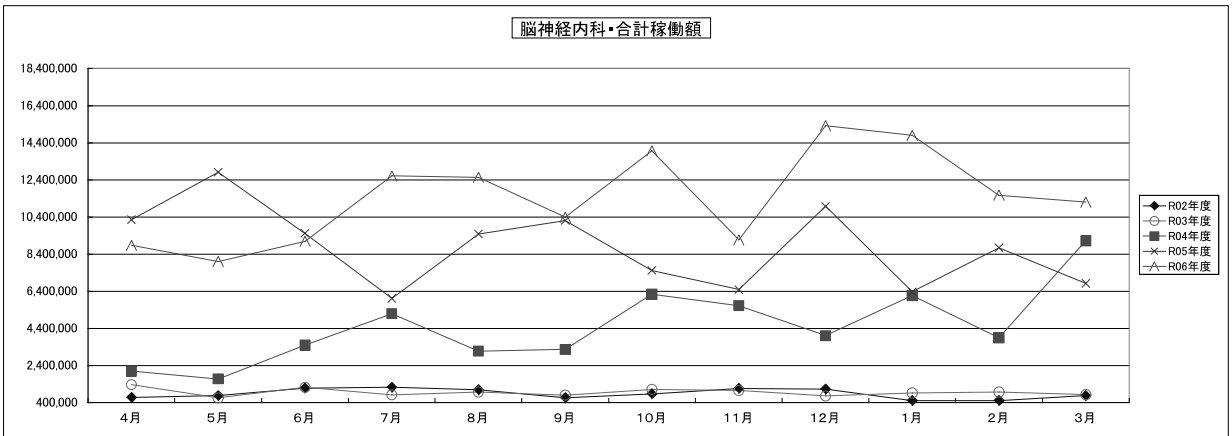
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	入院	44,717,010	46,875,808	41,908,015	58,453,752	54,733,261	35,984,685	54,195,315	46,622,192	62,998,488	46,281,199	50,052,163	67,542,176	610,364,064
	外来	9,157,350	7,556,221	10,024,230	9,431,960	9,212,310	9,051,950	10,266,431	9,834,310	9,991,850	9,305,190	8,966,150	12,923,463	115,721,415
	合計	53,874,360	54,432,029	51,932,245	67,885,712	63,945,571	45,036,635	64,461,746	56,456,502	72,990,338	55,586,389	59,018,313	80,465,639	726,085,479
R03年度	入院	64,499,393	54,666,771	57,647,304	51,507,596	81,025,586	69,330,719	49,886,756	65,130,772	78,596,405	69,235,545	67,838,743	53,745,641	763,111,231
	外来	10,067,862	9,794,560	9,689,251	9,593,900	9,541,524	10,161,944	10,547,840	11,234,780	10,157,921	11,085,230	9,318,760	11,785,130	122,978,702
	合計	74,567,255	64,461,331	67,336,555	61,101,496	90,567,110	79,492,663	60,434,596	76,365,552	88,754,326	80,320,775	77,157,503	65,530,771	886,089,933
R04年度	入院	55,463,891	67,352,088	49,321,006	66,189,386	53,130,877	48,617,391	56,752,407	63,809,113	57,448,309	50,106,122	56,411,579	76,448,499	701,050,668
	外来	12,833,543	11,747,560	12,221,540	9,944,654	10,014,220	9,760,410	9,888,120	10,637,230	10,872,390	10,422,330	9,741,739	11,331,350	129,415,086
	合計	68,297,434	79,099,648	61,542,546	76,134,040	63,145,097	58,377,801	66,640,527	74,446,343	68,320,699	60,528,452	66,153,318	87,779,849	830,465,754
R05年度	入院	53,051,022	58,554,605	53,379,501	44,808,574	58,409,348	62,518,830	64,526,871	61,325,769	81,946,583	72,443,889	58,380,426	56,479,462	725,824,880
	外来	12,014,050	10,457,959	11,915,710	9,647,050	9,355,350	9,904,340	11,010,560	9,722,630	11,687,970	10,864,360	10,317,080	13,968,370	130,865,429
	合計	65,065,072	69,012,564	65,295,211	54,455,624	67,764,698	72,423,170	75,537,431	71,048,399	93,634,553	83,308,249	68,697,506	70,447,832	856,690,309
R06年度	入院	47,124,927	41,048,680	51,062,654	60,468,042	56,863,333	47,310,367	56,390,287	47,180,823	51,478,594	57,960,687	62,143,036	59,230,776	638,262,206
	外来	11,925,550	11,026,180	12,806,100	12,950,920	10,609,550	13,111,360	13,074,000	10,798,910	11,317,410	8,927,690	10,143,710	12,796,570	139,487,950
	合計	59,050,477	52,074,860	63,868,754	73,418,962	67,472,883	60,421,727	69,464,287	57,979,733	62,796,004	66,888,377	72,286,746	72,027,346	777,750,156



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
R03年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
R04年度	0.0	0.3	0.7	2.1	1.0	1.3	3.0	3.6	1.6	3.0	1.8	2.8	1.8
R05年度	5.9	6.6	3.1	2.8	4.9	6.0	4.9	2.3	5.7	2.8	5.2	3.8	4.5
R06年度	4.9	3.5	5.0	5.3	5.2	4.7	8.1	4.6	6.5	7.5	6.3	4.0	5.5

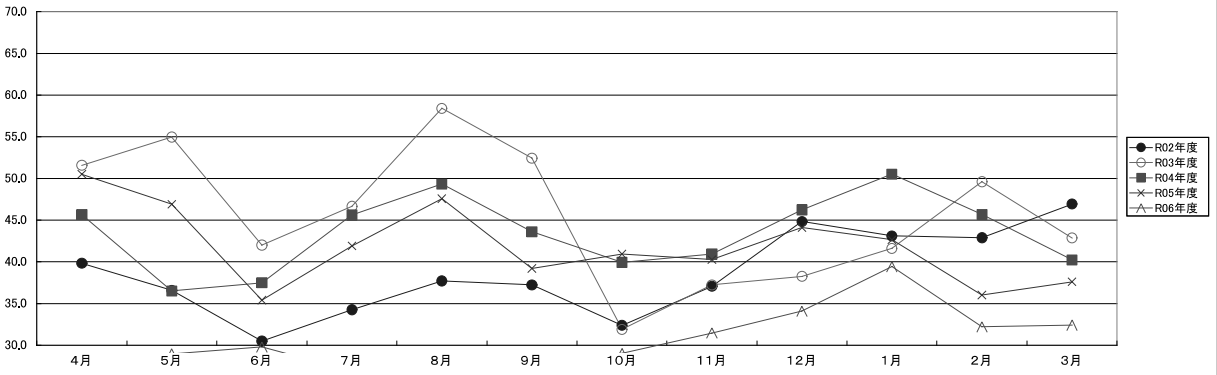


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	7.4	8.3	7.8	9.6	9.9	10.1	8.6	10.4	9.9	7.3	9.2	8.6	8.9
R03年度	9.2	8.9	9.0	8.6	9.0	8.0	9.0	8.9	7.3	8.1	9.0	7.8	8.5
R04年度	9.8	10.6	9.3	12.0	9.7	12.0	12.5	11.0	12.6	12.3	12.6	12.5	11.4
R05年度	12.0	12.8	12.1	14.0	11.5	14.1	14.4	13.6	15.0	14.3	13.1	13.8	13.3
R06年度	14.8	13.6	13.7	15.4	13.3	15.9	14.4	14.5	14.7	14.9	14.0	14.9	14.5



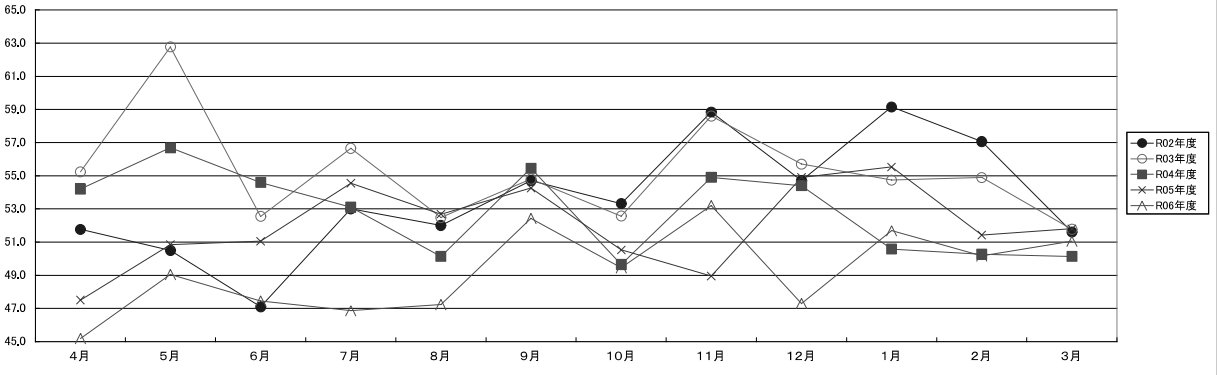
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外来	676,530	772,480	1,180,610	1,218,591	1,091,020	657,171	873,640	1,167,380	1,125,500	507,910	510,770	775,900	10,557,502
	合計	676,530	772,480	1,180,610	1,218,591	1,091,020	657,171	873,640	1,167,380	1,125,500	507,910	510,770	775,900	10,557,502
R03年度	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外来	1,372,820	653,560	1,224,280	819,180	971,410	802,080	1,115,120	1,052,310	757,460	917,940	965,980	831,945	11,484,085
	合計	1,372,820	653,560	1,224,280	819,180	971,410	802,080	1,115,120	1,052,310	757,460	917,940	965,980	831,945	11,484,085
R04年度	入院	0	464,370	1,881,880	3,527,550	1,505,485	1,572,550	4,238,850	3,879,382	2,081,842	4,429,956	2,504,620	7,278,972	33,365,457
	外来	2,106,385	1,213,400	1,620,423	1,671,200	1,675,100	1,702,890	2,001,430	1,747,640	1,931,100	1,741,463	1,396,188	1,840,263	20,647,482
	合計	2,106,385	1,677,770	3,502,303	5,198,750	3,180,585	3,275,440	6,240,280	5,627,022	4,012,942	6,171,419	3,900,808	9,119,235	54,012,939
R05年度	入院	8,131,521	10,849,814	7,671,770	3,967,820	7,728,720	7,969,816	5,587,304	4,537,682	9,029,224	4,975,557	7,206,890	5,438,402	83,094,520
	外来	2,126,555	1,966,049	1,849,343	2,054,500	1,758,669	2,238,719	1,936,781	1,955,269	1,944,786	1,395,773	1,542,440	1,392,137	22,161,021
	合計	10,258,076	12,815,863	9,521,113	6,022,320	9,487,389	10,208,535	7,524,085	6,492,951	10,974,010	6,371,330	8,749,330	6,830,539	105,255,541
R06年度	入院	6,836,943	5,315,945	6,842,072	10,010,403	9,850,741	7,612,390	11,156,397	6,411,913	12,790,360	12,854,754	9,194,960	7,247,721	106,124,599
	外来	2,031,853	2,688,310	2,248,275	2,601,919	2,688,512	2,776,775	2,804,104	2,753,890	2,533,032	1,944,300	2,375,863	3,957,175	31,404,008
	合計	8,868,796	8,004,255	9,090,347	12,612,322	12,539,253	10,389,165	13,960,501	9,165,803	15,323,392	14,799,054	11,570,823	11,204,896	137,528,607

呼吸器内科・1日平均入院患者数



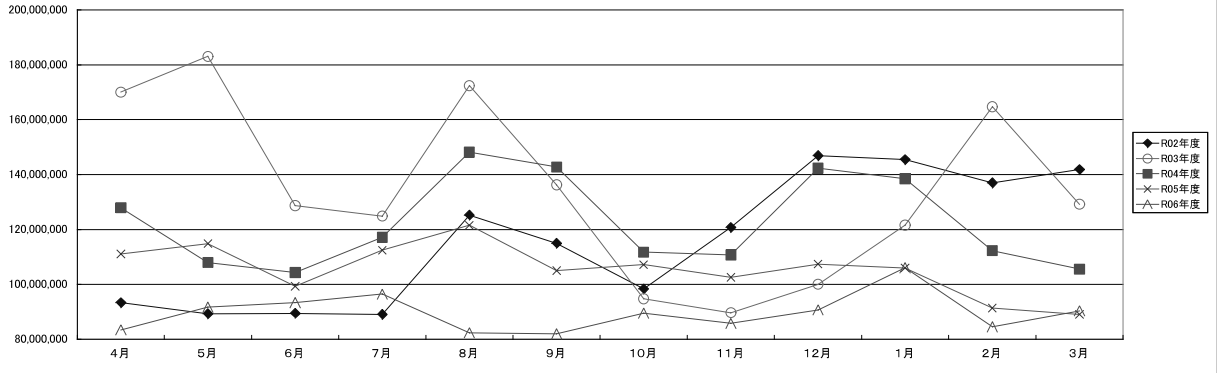
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	39.8	36.6	30.5	34.3	37.7	37.2	32.4	37.1	44.8	43.1	42.9	46.9	38.6
R03年度	51.6	55.0	42.0	46.6	58.4	52.4	31.9	37.2	38.3	41.6	49.6	42.9	45.6
R04年度	45.7	36.5	37.5	45.6	49.3	43.6	39.9	40.9	46.2	50.5	45.7	40.2	43.5
R05年度	50.5	46.9	35.4	41.9	47.6	39.2	40.9	40.3	44.1	42.6	36.0	37.6	42.0
R06年度	28.3	29.0	29.8	26.9	24.1	27.6	29.0	31.5	34.1	39.4	32.2	32.4	30.4

呼吸器内科・1日平均外来患者数



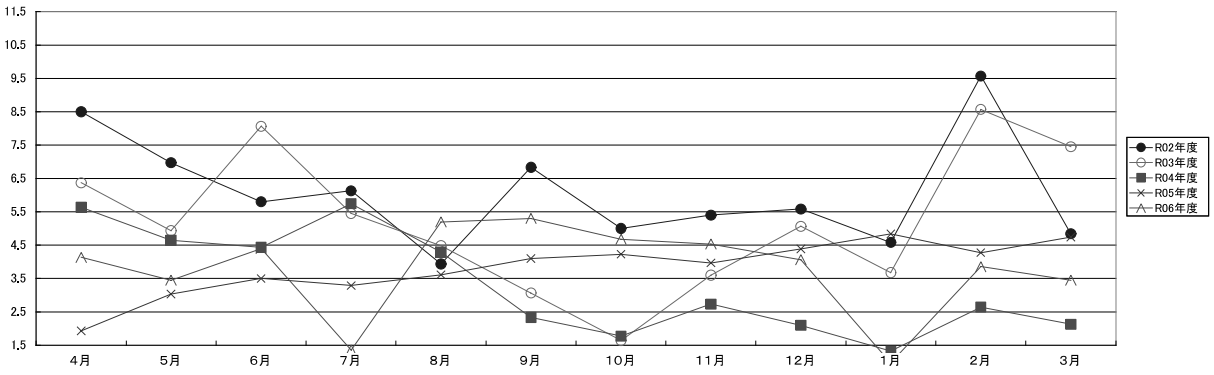
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	51.8	50.5	47.1	53.0	52.0	54.7	53.3	58.8	54.7	59.2	57.1	51.6	53.5
R03年度	55.2	62.8	52.5	56.7	52.5	54.8	52.6	58.6	55.7	54.7	54.9	51.8	55.1
R04年度	54.2	56.7	54.6	53.1	50.1	55.5	49.7	54.9	54.4	50.6	50.3	50.1	52.8
R05年度	47.5	50.9	51.0	54.6	52.7	54.3	50.5	49.0	54.9	55.5	51.4	51.8	52.0
R06年度	45.2	49.0	47.5	46.9	47.2	52.4	49.5	53.2	47.3	51.7	50.2	51.1	49.2

呼吸器内科・合計稼働額



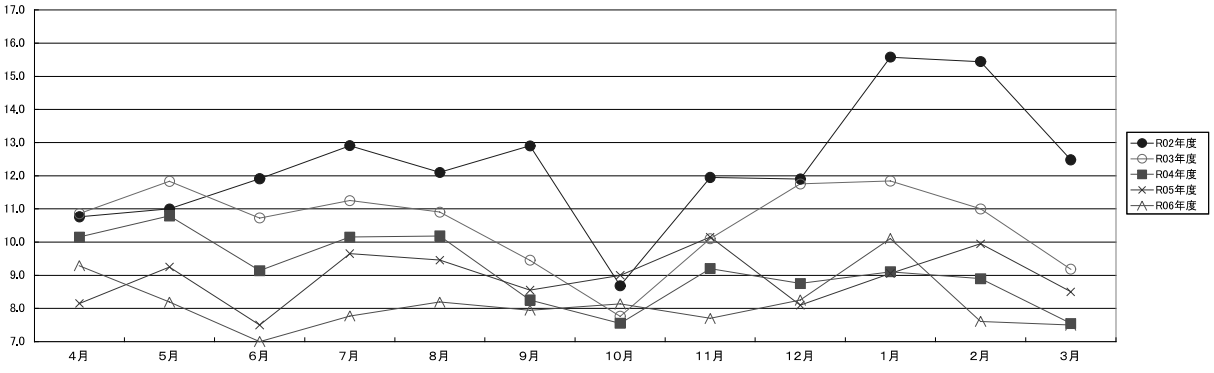
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	入院	53,769,502	54,185,935	45,806,887	49,926,311	81,898,087	72,789,548	52,759,745	81,307,167	105,161,027	107,178,338	99,988,572	100,245,432	905,016,551
	外来	39,564,690	35,112,020	43,632,554	39,133,610	43,340,305	42,173,711	45,601,875	39,434,000	41,744,687	38,273,145	36,985,368	41,573,453	486,569,418
	合計	93,334,192	89,297,955	89,439,441	89,059,921	125,238,392	114,963,259	98,361,620	120,741,167	146,905,714	145,451,483	136,973,940	141,818,885	1,391,585,969
R03年度	入院	123,947,869	135,985,529	80,368,817	83,855,539	128,541,310	91,887,653	51,737,852	51,776,078	61,507,260	80,300,099	125,937,616	91,137,592	1,106,983,214
	外来	46,106,717	47,097,775	48,304,420	41,040,405	43,861,712	44,401,610	43,003,717	37,888,957	38,539,446	41,296,507	38,754,585	38,035,402	508,331,253
	合計	170,054,586	183,083,304	128,673,237	124,895,944	172,403,022	136,289,263	94,741,569	89,665,035	100,046,706	121,596,606	164,692,201	129,172,994	1,615,314,467
R04年度	入院	88,283,039	67,594,109	62,976,443	83,629,302	105,341,344	102,946,986	74,120,599	68,068,832	101,382,770	104,318,796	76,471,042	66,190,488	1,001,323,750
	外来	39,611,651	40,376,128	41,358,081	33,508,516	42,804,810	39,785,336	37,628,335	42,679,269	40,937,909	34,141,047	35,801,738	39,382,628	468,015,448
	合計	127,894,690	107,970,237	104,334,524	117,137,818	148,146,154	142,732,322	111,748,934	110,748,101	142,320,679	138,459,843	112,272,780	105,573,116	1,469,339,198
R05年度	入院	72,275,945	72,117,229	54,272,457	70,741,986	80,940,597	64,818,852	67,106,610	63,999,508	67,379,340	64,535,496	52,303,811	52,774,406	783,266,237
	外来	38,814,195	42,754,630	45,050,357	41,708,450	40,589,373	40,209,835	40,076,443	38,562,504	40,006,697	41,478,253	39,074,520	36,299,283	484,624,540
	合計	111,090,140	114,871,859	99,322,814	112,450,436	121,529,970	105,028,687	107,183,053	102,562,012	107,386,037	106,013,749	91,378,331	89,073,689	1,267,890,777
R06年度	入院	41,787,068	50,007,352	48,454,073	49,692,558	42,225,570	44,671,771	48,082,064	47,248,690	59,396,670	67,177,737	49,380,612	52,939,197	601,063,362
	外来	41,591,304	41,719,727	44,919,502	46,792,501	40,104,126	37,267,867	41,430,991	38,482,419	31,307,781	38,889,385	35,112,067	37,425,365	475,043,035
	合計	83,378,372	91,727,079	93,373,575	96,485,059	82,329,696	81,939,638	89,513,055	85,731,109	90,704,451	106,067,122	84,492,679	90,364,562	1,076,106,397

呼吸器外科・1日平均入院患者数



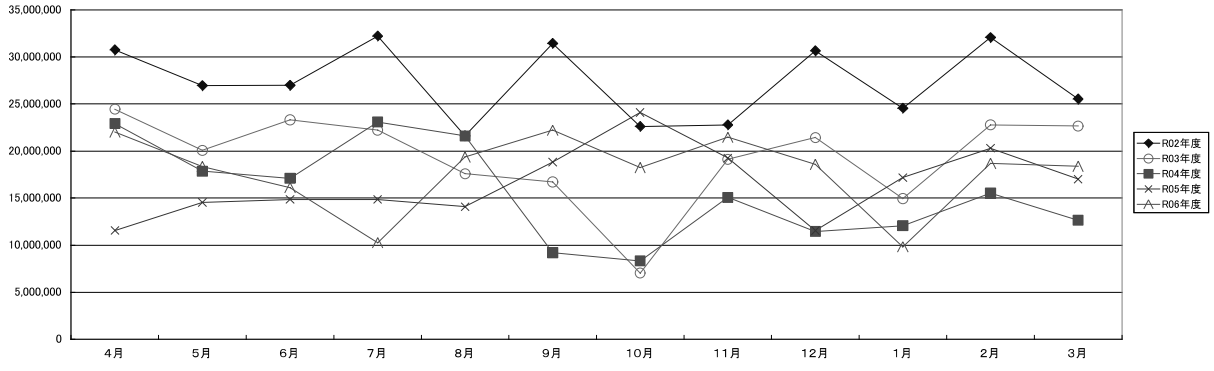
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	8.5	7.0	5.8	6.1	3.9	6.8	5.0	5.4	5.6	4.6	9.6	4.8	6.1
R03年度	6.4	4.9	8.1	5.5	4.5	3.1	1.6	3.6	5.1	3.7	8.6	7.5	5.2
R04年度	5.6	4.6	4.4	5.7	4.3	2.3	1.8	2.7	2.1	1.3	2.6	2.1	3.3
R05年度	1.9	3.0	3.5	3.3	3.6	4.1	4.2	4.0	4.4	4.8	4.3	4.7	3.8
R06年度	4.1	3.5	4.4	1.4	5.2	5.3	4.7	4.5	4.1	1.0	3.9	3.5	3.8

呼吸器外科・1日平均外来患者数



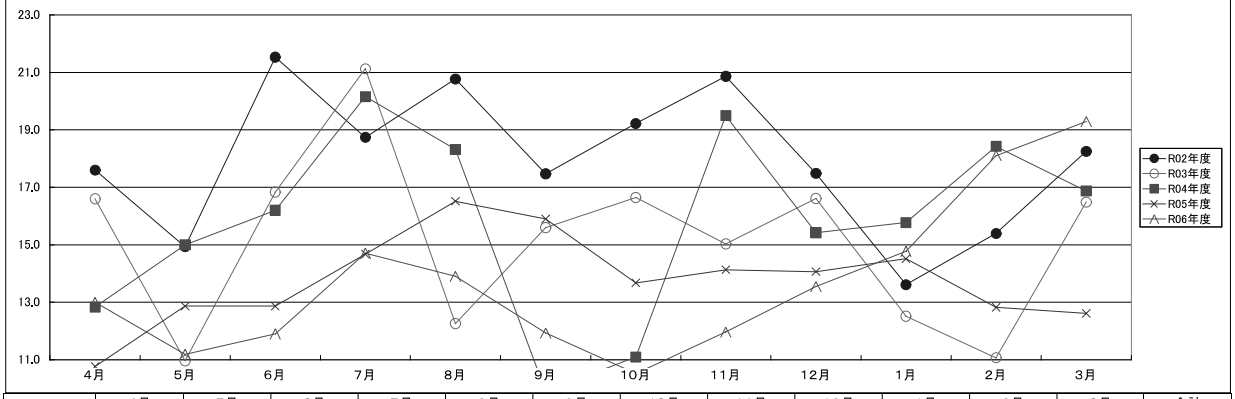
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	10.8	11.0	11.9	12.9	12.1	12.9	8.7	11.9	11.9	15.6	15.4	12.5	12.2
R03年度	10.9	11.8	10.7	11.3	10.9	9.5	7.8	10.1	11.8	11.8	11.0	9.2	10.5
R04年度	10.2	10.8	9.1	10.2	10.2	8.3	7.6	9.2	8.8	9.1	8.9	7.5	9.1
R05年度	8.2	9.3	7.5	9.7	9.5	8.6	9.0	10.2	8.1	9.1	9.9	8.5	8.9
R06年度	9.3	8.2	7.0	7.8	8.2	7.9	8.1	7.7	8.3	10.1	7.6	7.5	8.1

呼吸器外科・合計稼働額



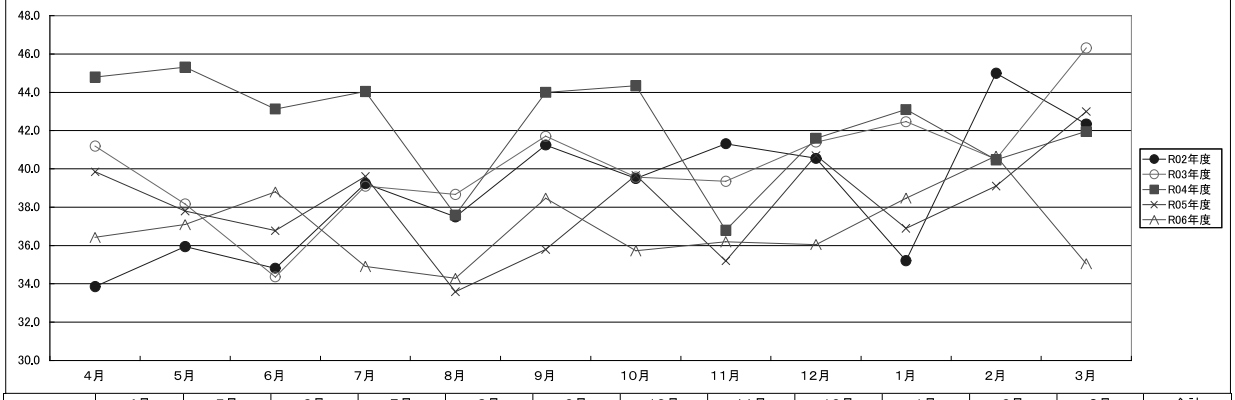
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	入院	20,022,307	18,892,536	16,290,746	22,218,502	10,050,480	20,238,454	9,440,685	13,466,864	19,178,442	12,051,926	20,531,906	14,422,772	196,805,620
	外来	10,745,550	8,056,970	10,698,750	10,020,700	11,579,540	11,221,340	13,175,780	9,322,960	11,485,100	12,490,160	11,543,000	11,098,740	131,438,590
	合計	30,767,857	26,949,506	26,989,496	32,239,202	21,630,020	31,459,794	22,616,465	22,789,824	30,663,542	24,542,086	32,074,906	25,521,512	328,244,210
R03年度	入院	16,836,676	12,050,810	17,017,301	15,364,996	10,991,920	10,591,598	3,842,080	15,498,422	17,150,170	10,525,784	18,871,960	18,189,442	166,931,159
	外来	7,609,425	8,017,490	6,292,960	6,860,181	6,593,990	6,131,870	3,196,260	3,618,710	4,282,550	4,426,080	3,911,600	4,468,450	65,409,566
	合計	24,446,101	20,068,300	23,310,261	22,225,177	17,585,910	16,723,468	7,038,340	19,117,132	21,432,720	14,951,864	22,783,560	22,657,892	232,340,725
R04年度	入院	18,913,432	14,036,943	13,519,737	19,746,398	17,315,918	6,447,560	6,201,570	12,360,910	8,552,282	9,046,670	13,113,556	10,447,364	149,702,340
	外来	4,000,050	3,825,530	3,577,820	3,340,440	4,284,090	2,754,230	2,127,240	2,711,140	2,899,530	3,022,450	2,417,196	2,194,877	37,154,593
	合計	22,913,482	17,862,473	17,097,557	23,086,838	21,600,008	9,201,790	8,328,810	15,072,050	11,451,812	12,069,120	15,530,752	12,642,241	186,856,933
R05年度	入院	8,980,326	11,289,910	12,410,450	12,145,554	10,909,590	16,079,120	20,588,836	15,267,640	8,761,920	13,753,270	16,741,174	14,031,092	160,958,882
	外来	2,583,048	3,247,900	2,447,060	2,711,470	3,179,740	2,739,710	3,501,390	3,984,480	2,790,270	3,426,780	3,556,520	2,976,210	37,144,578
	合計	11,563,374	14,537,810	14,857,510	14,857,024	14,089,330	18,818,830	24,090,226	19,252,120	11,552,190	17,180,050	20,297,694	17,007,302	198,103,460
R06年度	入院	18,159,836	14,674,260	13,461,311	6,863,220	16,201,380	19,206,996	14,453,404	18,772,478	15,134,000	6,166,640	15,630,464	15,143,523	173,867,512
	外来	3,846,990	3,690,470	2,656,070	3,404,290	3,165,440	3,006,230	3,795,780	2,690,280	3,457,640	3,661,920	3,060,710	3,244,060	39,679,880
	合計	22,006,826	18,364,730	16,117,381	10,267,510	19,366,820	22,213,226	18,249,184	21,462,758	18,591,640	9,828,560	18,691,174	18,387,583	213,547,392

外科▪1日平均入院患者数



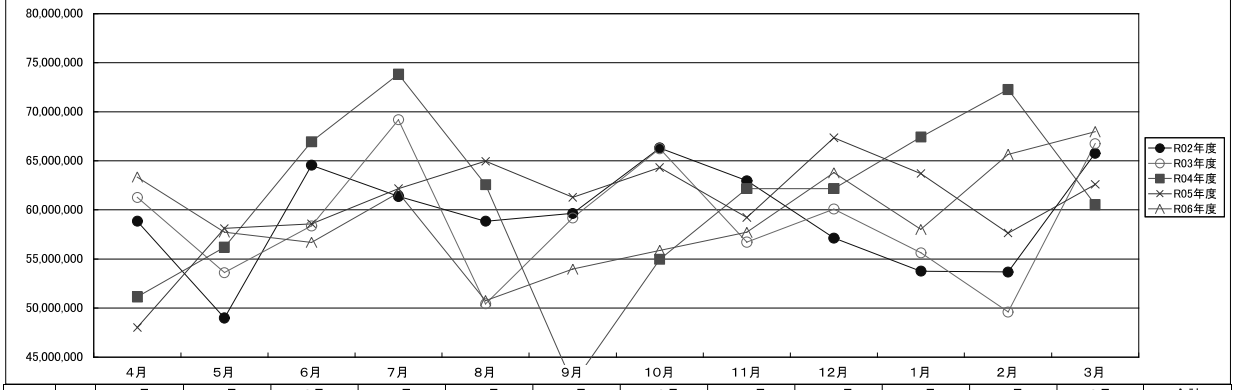
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	17.6	14.9	21.5	18.7	20.8	17.5	19.2	20.9	17.5	13.6	15.4	18.3	18.0
R03年度	16.6	11.0	16.8	21.1	12.3	15.6	16.6	15.0	16.6	12.5	11.1	16.5	15.2
R04年度	12.8	15.0	16.2	20.2	18.3	9.9	11.1	19.5	15.4	15.8	18.4	16.9	15.8
R05年度	10.8	12.9	12.9	14.7	16.5	15.9	13.7	14.1	14.1	14.5	12.8	12.6	13.8
R06年度	13.0	11.2	11.9	14.7	13.9	11.9	10.5	12.0	13.5	14.8	18.1	19.3	13.7

外科▪1日平均外来患者数

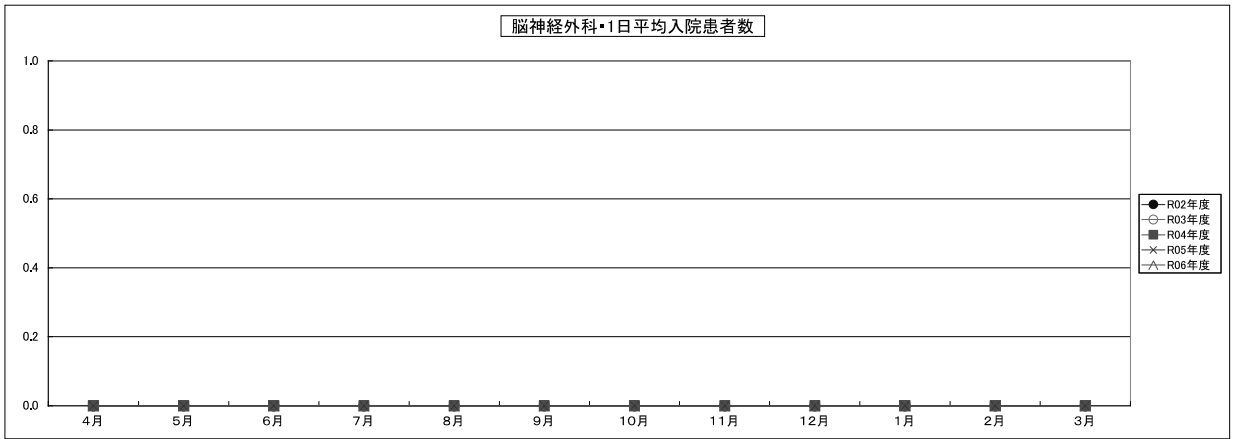


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	33.9	35.9	34.8	39.2	37.5	41.3	39.5	41.3	40.6	35.2	45.0	42.3	38.9
R03年度	41.2	38.2	34.4	39.1	38.7	41.7	39.6	39.4	41.4	42.5	40.5	46.3	40.2
R04年度	44.8	45.3	43.1	44.1	37.6	44.0	44.4	36.8	41.6	43.1	40.5	42.0	42.2
R05年度	39.9	37.8	36.8	39.6	33.6	35.8	39.7	35.2	40.7	36.9	39.1	43.0	38.1
R06年度	36.4	37.1	38.8	34.9	34.3	38.5	35.7	36.2	36.1	38.5	40.7	35.1	36.8

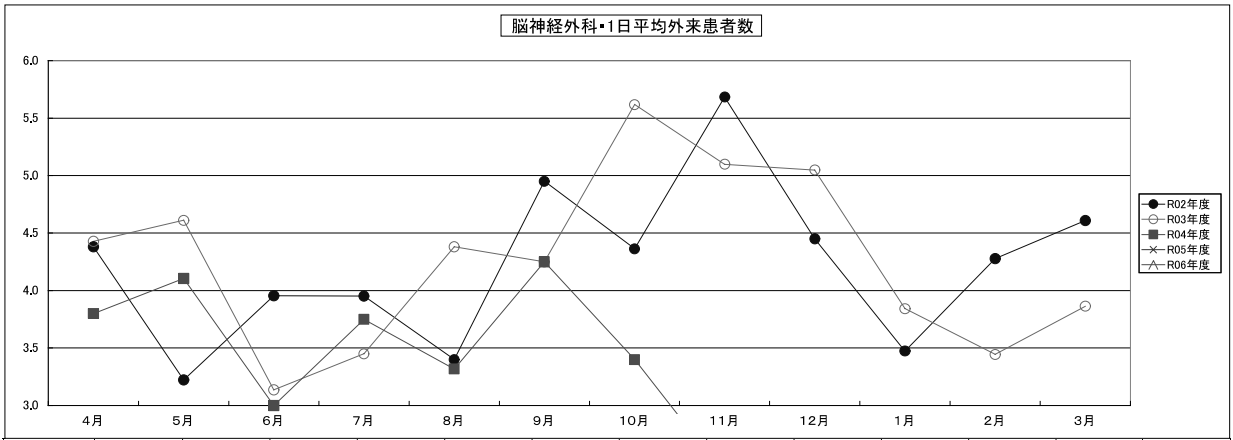
外科▪合計稼働額



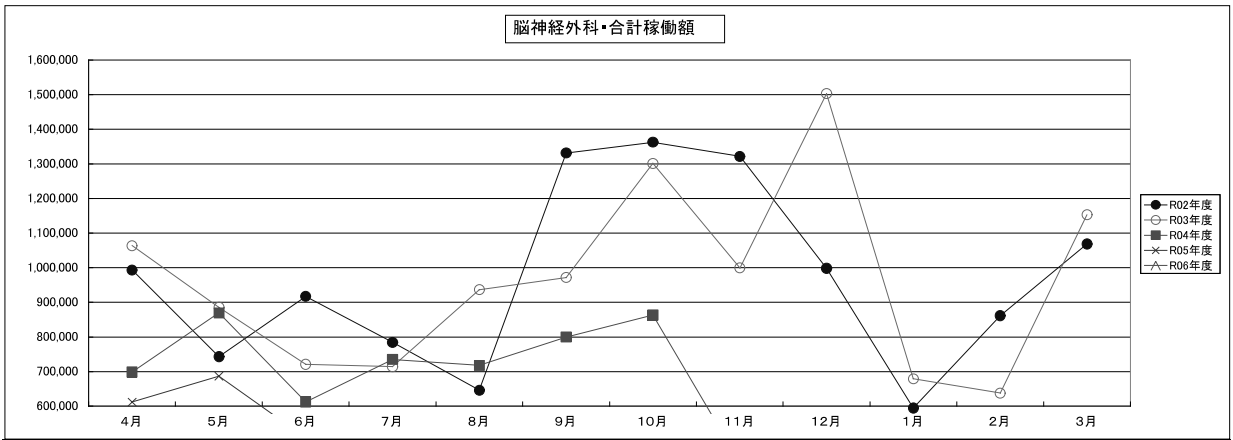
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	入院	38,040,247	30,245,265	44,044,823	38,880,762	38,766,885	37,298,933	42,209,116	40,763,156	35,160,398	34,125,431	31,992,846	39,556,484	451,084,346
	外来	20,805,610	18,752,710	20,508,380	22,503,187	20,073,580	22,339,400	24,105,147	22,201,090	21,973,630	19,638,500	21,678,760	26,212,060	260,792,054
	合計	58,845,857	48,997,975	64,553,203	61,383,949	58,840,465	59,638,333	66,314,263	62,964,246	57,134,028	53,763,931	53,671,606	65,768,544	711,876,400
R03年度	入院	34,541,771	31,170,256	36,620,166	46,463,879	26,748,778	36,190,046	43,186,130	35,611,578	38,606,296	33,582,517	28,539,646	41,124,586	432,385,649
	外来	26,728,270	22,438,400	21,748,770	22,718,800	23,693,838	23,000,470	23,048,119	21,114,570	21,480,420	22,048,120	21,069,520	25,616,863	274,706,160
	合計	61,270,041	53,608,656	58,368,936	69,182,679	50,442,616	59,190,516	66,234,249	56,726,148	60,086,716	55,630,637	49,609,166	66,741,449	707,091,809
R04年度	入院	32,134,000	34,723,825	44,539,712	52,698,856	38,790,554	21,717,540	34,168,212	44,785,990	43,116,661	45,992,295	50,768,681	35,618,105	479,054,431
	外来	19,013,210	21,473,796	22,401,050	21,127,511	23,779,853	20,577,509	20,808,870	17,384,005	19,048,532	21,423,515	21,493,490	24,919,316	253,450,657
	合計	51,147,210	56,197,621	66,940,762	73,826,367	62,570,407	42,295,049	54,977,082	62,169,995	62,165,193	67,415,810	72,262,171	60,537,421	732,505,088
R05年度	入院	25,880,482	33,249,979	34,843,414	35,964,291	40,041,584	38,090,920	36,597,891	32,933,547	36,587,105	36,318,419	29,928,966	34,043,785	414,480,383
	外来	22,147,163	24,860,910	23,745,230	26,202,490	24,908,960	23,182,540	27,706,683	26,301,350	30,757,407	27,384,730	27,713,740	28,550,410	313,461,613
	合計	48,027,645	58,110,889	58,588,644	62,166,781	64,950,544	61,273,460	64,304,574	59,234,897	67,344,512	63,703,149	57,642,706	62,594,195	727,941,996
R06年度	入院	36,805,098	27,633,000	30,155,076	36,129,727	28,197,196	33,472,404	33,934,163	34,428,021	42,248,477	34,249,165	43,584,461	48,301,438	429,138,226
	外来	26,546,560	30,114,610	26,534,050	25,603,885	22,552,605	20,500,520	21,948,560	23,293,620	21,527,324	23,764,070	22,070,150	19,660,530	284,116,484
	合計	63,351,658	57,747,610	56,689,126	61,733,612	50,749,801	53,972,924	55,882,723	57,721,641	63,775,801	58,013,235	65,654,611	67,961,968	713,254,710



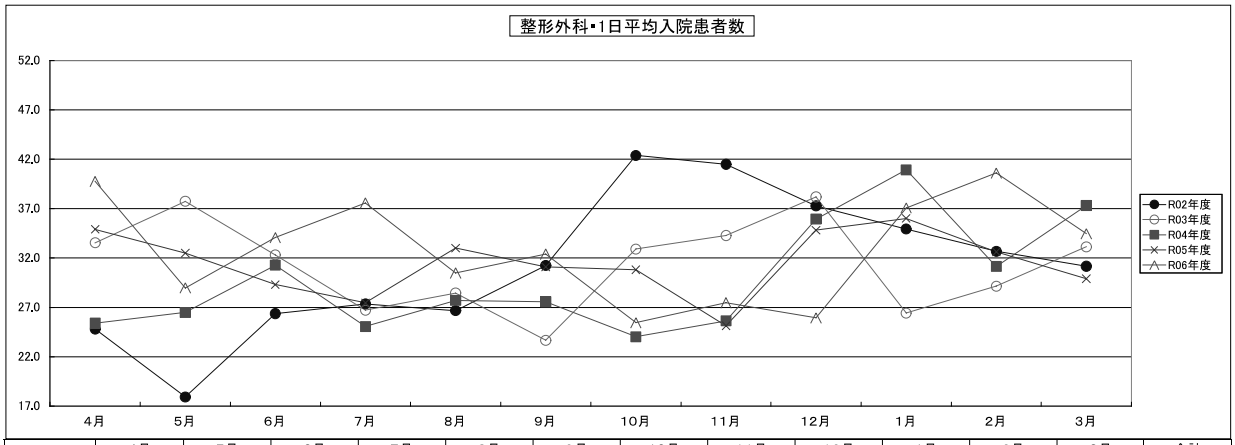
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
R03年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
R04年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
R05年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
R06年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0



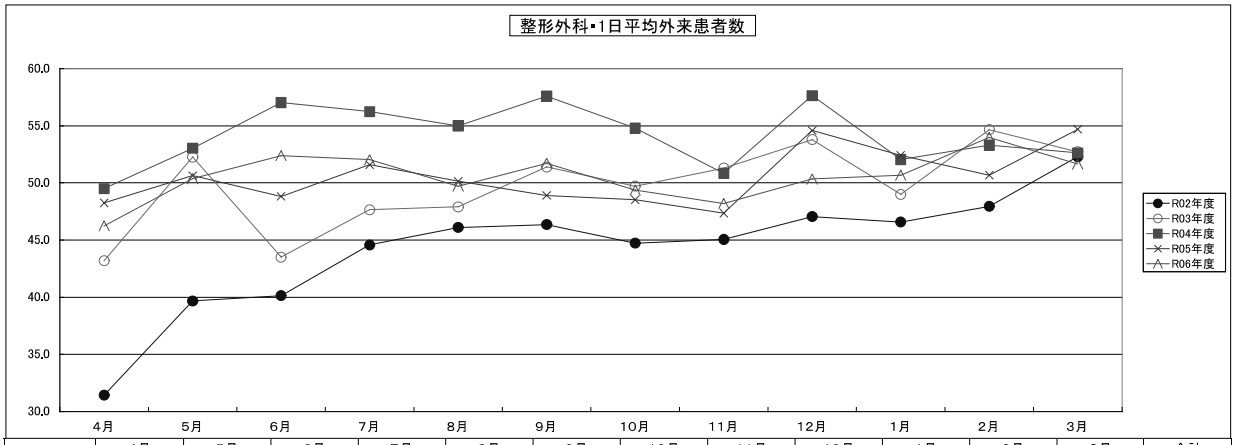
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	4.4	3.2	4.0	4.0	3.4	5.0	4.4	5.7	4.5	3.5	4.3	4.6	4.2
R03年度	4.4	4.6	3.1	3.5	4.4	4.3	5.6	5.1	5.1	3.8	3.4	3.9	4.3
R04年度	3.8	4.1	3.0	3.8	3.3	4.3	3.4	2.4	2.8	2.2	1.8	1.4	3.0
R05年度	2.6	2.6	2.1	2.0	1.7	1.9	2.2	2.1	2.5	2.0	1.6	1.6	2.1
R06年度	1.3	1.9	2.1	1.1	1.6	1.7	2.0	1.8	2.3	1.9	1.7	1.9	1.8



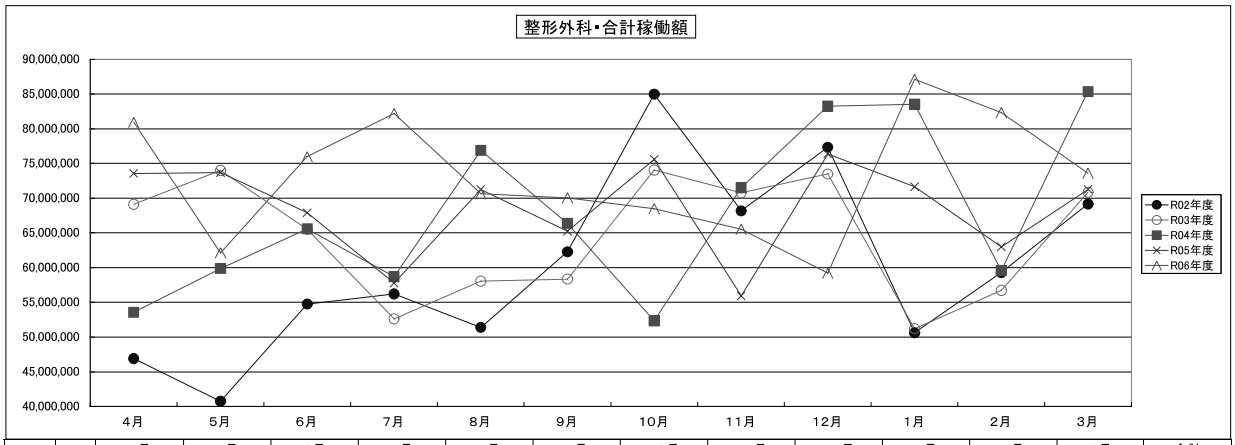
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外来	993,420	743,260	917,200	784,522	645,840	1,331,020	1,362,740	1,321,250	998,275	594,330	861,480	1,068,590	11,621,927
	合計	993,420	743,260	917,200	784,522	645,840	1,331,020	1,362,740	1,321,250	998,275	594,330	861,480	1,068,590	11,621,927
R03年度	入院	0	25,390	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25,390
	外来	1,063,580	860,010	721,040	714,307	936,590	971,680	1,301,130	999,330	1,502,970	679,070	637,495	1,153,030	11,540,232
	合計	1,063,580	885,400	721,040	714,307	936,590	971,680	1,301,130	999,330	1,502,970	679,070	637,495	1,153,030	11,565,622
R04年度	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外来	698,854	869,390	612,050	735,116	717,960	799,860	863,290	436,340	513,850	332,120	330,900	213,240	7,122,970
	合計	698,854	869,390	612,050	735,116	717,960	799,860	863,290	436,340	513,850	332,120	330,900	213,240	7,122,970
R05年度	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外来	611,740	687,070	508,780	366,810	486,590	371,540	483,540	556,170	418,420	298,930	293,180	325,430	5,408,200
	合計	611,740	687,070	508,780	366,810	486,590	371,540	483,540	556,170	418,420	298,930	293,180	325,430	5,408,200
R06年度	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外来	254,450	430,620	403,540	255,620	393,420	303,610	526,570	515,050	466,940	359,260	292,500	356,340	4,557,920
	合計	254,450	430,620	403,540	255,620	393,420	303,610	526,570	515,050	466,940	359,260	292,500	356,340	4,557,920



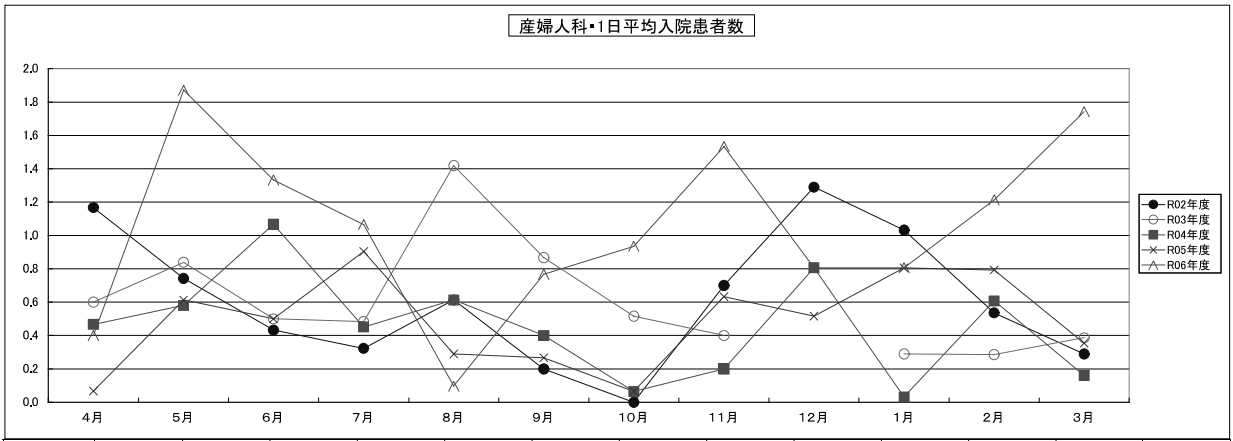
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	24.8	17.9	26.4	27.4	26.7	31.2	42.4	41.5	37.3	34.9	32.7	31.2	31.2
R03年度	33.5	37.7	32.3	26.7	28.5	23.7	32.9	34.3	38.2	26.4	29.1	33.1	31.4
R04年度	25.4	26.5	31.3	25.1	27.7	27.6	24.0	25.6	35.9	40.9	31.1	37.3	29.9
R05年度	34.9	32.5	29.3	27.5	33.0	31.1	30.8	25.1	34.8	36.0	32.6	29.9	31.5
R06年度	39.8	29.0	34.1	37.6	30.5	32.4	25.5	27.5	25.9	37.1	40.6	34.5	32.8



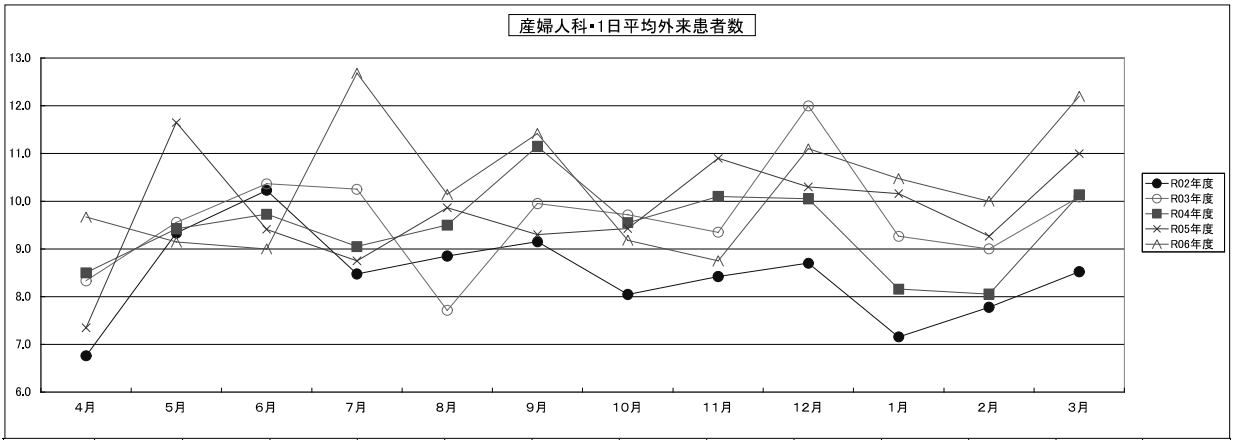
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	31.4	39.7	40.1	44.6	46.1	46.4	44.7	45.1	47.1	46.6	47.9	52.3	44.3
R03年度	43.2	52.3	43.5	47.7	47.9	51.4	49.7	51.3	53.8	49.0	54.7	52.7	49.6
R04年度	49.5	53.1	57.0	56.3	55.0	57.6	54.8	50.9	57.7	52.1	53.3	52.6	54.2
R05年度	48.3	50.7	48.8	51.6	50.1	48.9	48.5	47.4	54.6	52.4	50.7	54.7	50.5
R06年度	46.2	50.4	52.4	52.0	49.7	51.7	49.4	48.2	50.4	50.7	54.0	51.7	50.5



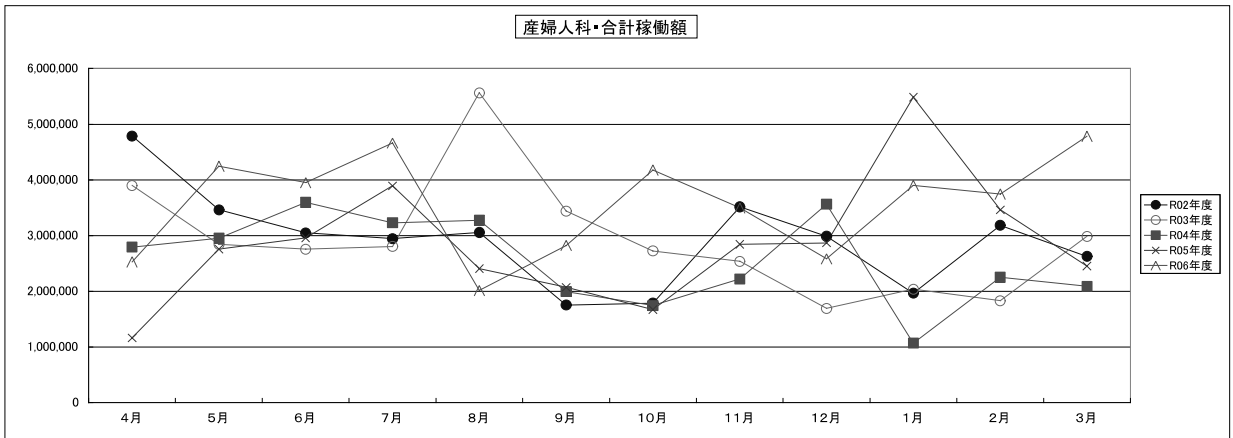
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	入院	42,889,193	35,750,360	48,810,840	49,960,159	44,737,903	56,127,687	77,981,630	62,673,970	70,531,404	44,436,922	53,597,555	60,741,192	648,238,815
	外来	4,019,178	5,008,129	5,945,252	6,264,155	6,650,617	6,165,071	6,992,249	5,516,338	6,803,038	6,199,478	5,701,130	8,429,768	73,694,403
	合計	46,908,371	40,758,489	54,756,092	56,224,314	51,388,520	62,292,758	84,973,879	68,190,308	77,334,442	50,636,400	59,298,685	69,170,960	721,933,218
R03年度	入院	62,217,133	66,891,726	58,882,785	45,596,797	50,809,783	51,357,352	65,918,673	63,643,783	66,216,147	44,986,897	49,531,432	63,036,469	689,088,977
	外来	6,902,265	7,105,973	6,640,911	7,029,168	7,255,196	7,001,536	8,122,036	7,137,846	7,265,180	6,238,743	7,190,022	7,805,914	85,694,790
	合計	69,119,398	73,997,699	65,523,696	52,625,965	58,064,979	58,358,888	74,040,709	70,781,629	73,481,327	51,225,640	56,721,454	70,842,383	774,783,767
R04年度	入院	46,410,737	53,238,696	56,857,772	51,078,619	68,411,359	59,232,644	44,890,141	65,452,476	76,093,196	77,014,502	53,534,501	78,986,797	731,201,440
	外来	7,169,095	6,633,899	8,730,015	7,627,202	8,466,048	7,129,992	7,466,607	6,054,339	7,161,699	6,514,035	6,064,592	6,375,739	85,393,262
	合計	53,579,832	59,872,595	65,587,787	58,705,821	76,877,407	66,362,636	52,356,748	71,506,815	83,254,895	83,528,537	59,599,093	85,362,536	816,594,702
R05年度	入院	66,704,990	66,547,693	60,705,840	51,436,592	63,550,948	58,970,349	67,644,590	49,695,141	68,271,739	63,721,032	56,246,407	62,867,820	736,363,141
	外来	6,851,879	7,135,648	7,196,170	6,343,306	7,707,664	6,287,398	7,938,142	6,242,126	8,099,520	7,943,549	6,734,975	8,391,532	86,871,909
	合計	73,556,869	73,683,341	67,902,010	57,779,898	71,258,612	65,257,747	75,582,732	55,937,267	76,371,259	71,664,581	62,981,382	71,259,352	823,235,050
R06年度	入院	73,959,053	54,542,422	68,940,069	73,856,481	62,790,168	63,177,727	59,521,852	59,092,127	51,087,916	79,534,675	73,745,773	65,639,927	785,888,190
	外来	6,982,871	7,581,029	7,032,204	8,362,406	7,845,391	6,867,006	8,964,861	6,435,668	8,112,240	7,598,324	8,587,194	7,939,353	92,308,547
	合計	80,941,924	62,123,451	75,972,273	82,218,887	70,635,559	70,044,733	68,486,713	65,527,795	59,200,156	87,132,999	82,332,967	73,579,280	878,196,737



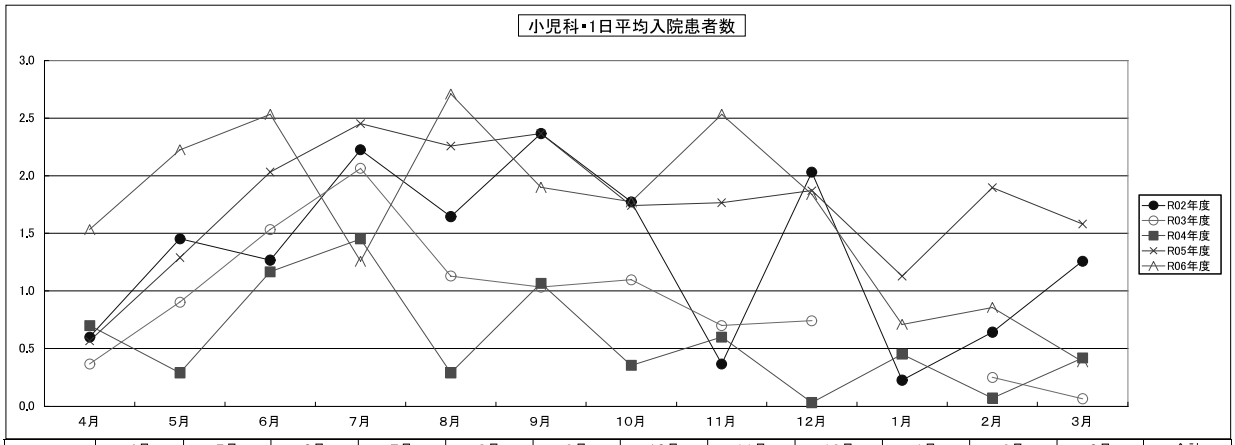
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	1.2	0.7	0.4	0.3	0.6	0.2	0.0	0.7	1.3	1.0	0.5	0.3	0.6
R03年度	0.6	0.8	0.5	0.5	1.4	0.9	0.5	0.4		0.3	0.3	0.4	0.6
R04年度	0.5	0.6	1.1	0.5	0.6	0.4	0.1	0.2	0.8	0.0	0.6	0.2	0.5
R05年度	0.1	0.6	0.5	0.9	0.3	0.3	0.1	0.6	0.5	0.8	0.8	0.4	0.5
R06年度	0.4	1.9	1.3	1.1	0.1	0.8	0.9	1.5	0.8	0.8	1.2	1.7	1.0



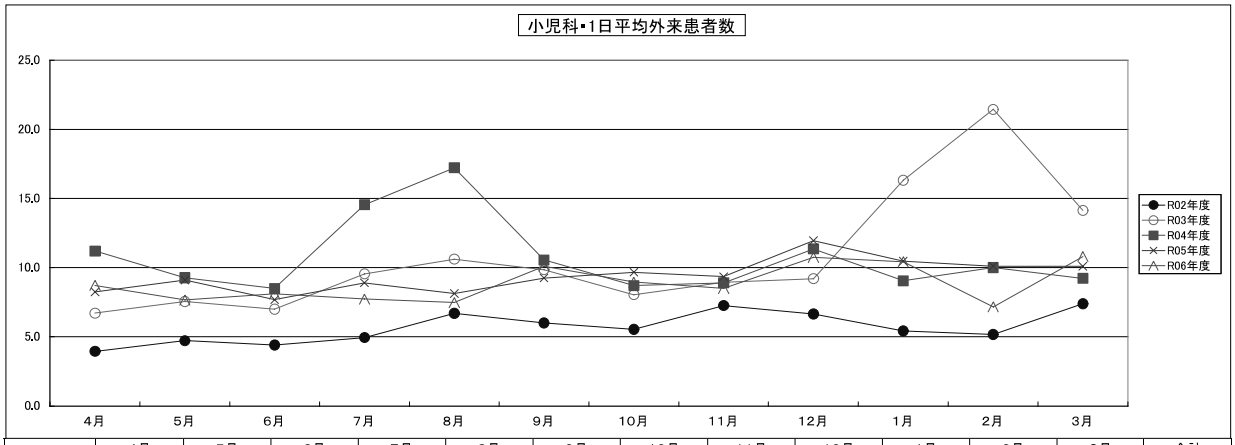
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	6.8	9.3	10.2	8.5	8.9	9.2	8.0	8.4	8.7	7.2	7.8	8.5	8.5
R03年度	8.3	9.6	10.4	10.3	7.7	10.0	9.7	9.4	12.0	9.3	9.0	10.1	9.6
R04年度	8.5	9.4	9.7	9.1	9.5	11.2	9.6	10.1	10.1	8.2	8.1	10.1	9.5
R05年度	7.4	11.7	9.4	8.8	9.9	9.3	9.4	10.9	10.3	10.2	9.3	11.0	9.8
R06年度	9.7	9.1	9.0	12.7	10.1	11.4	9.2	8.8	11.1	10.5	10.0	12.2	10.3



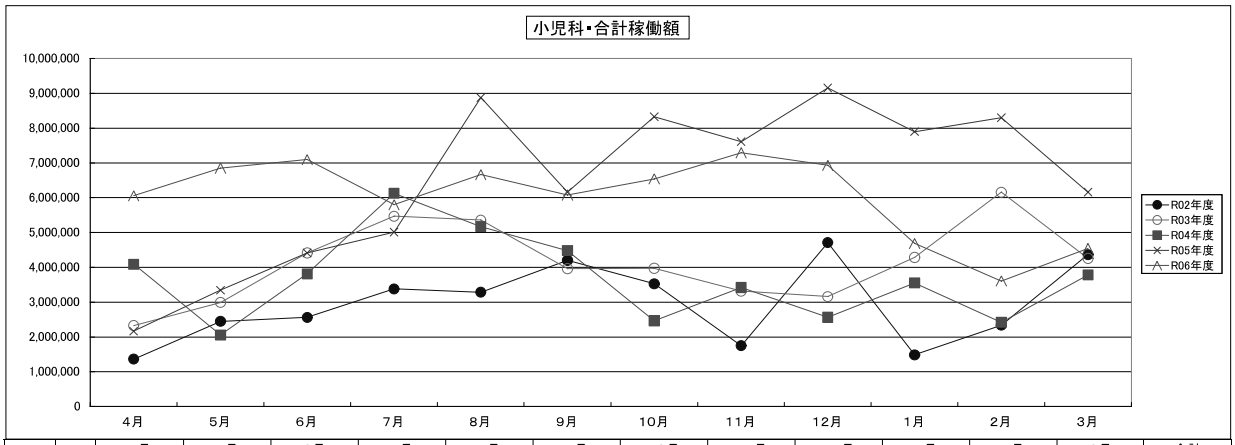
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	入院	3,603,270	2,279,110	1,273,010	1,450,360	1,654,020	271,080	0	2,271,930	1,740,750	933,350	1,884,920	1,153,340	18,515,140
	外来	1,184,920	1,182,820	1,774,870	1,494,480	1,400,630	1,483,240	1,786,320	1,244,670	1,245,950	1,034,050	1,298,330	1,473,250	16,603,530
	合計	4,788,190	3,461,930	3,047,880	2,944,840	3,054,650	1,754,320	1,786,320	3,516,600	2,986,700	1,967,400	3,183,250	2,626,590	35,118,670
R03年度	入院	2,404,590	1,505,020	1,282,116	1,079,276	4,437,260	1,887,840	1,398,670	1,108,300	0	701,190	824,060	1,346,340	17,974,662
	外来	1,493,760	1,336,850	1,473,380	1,725,750	1,126,040	1,550,390	1,325,870	1,428,910	1,692,140	1,337,100	1,006,960	1,638,870	17,136,020
	合計	3,898,350	2,841,870	2,755,496	2,805,026	5,563,300	3,438,230	2,724,540	2,537,210	1,692,140	2,038,290	1,831,020	2,985,210	35,110,682
R04年度	入院	1,658,430	1,603,510	2,112,165	1,685,638	1,757,330	665,910	145,800	683,810	2,252,940	75,500	1,181,940	554,730	14,377,703
	外来	1,134,640	1,347,620	1,484,140	1,543,860	1,517,090	1,328,370	1,597,900	1,538,200	1,309,330	994,990	1,069,100	1,534,260	16,399,500
	合計	2,793,070	2,951,130	3,596,305	3,229,498	3,274,420	1,994,280	1,743,700	2,222,010	3,562,270	1,070,490	2,251,040	2,088,990	30,777,203
R05年度	入院	135,370	841,020	1,589,100	2,693,470	958,570	801,360	136,280	1,259,950	1,476,240	3,959,700	2,442,010	805,860	17,098,930
	外来	1,028,320	1,917,300	1,370,090	1,198,860	1,448,400	1,270,340	1,535,770	1,584,240	1,392,710	1,524,830	1,019,210	1,646,680	16,936,750
	合計	1,163,690	2,758,320	2,959,190	3,892,330	2,406,970	2,071,700	1,672,050	2,844,190	2,868,950	5,484,530	3,461,220	2,452,540	34,035,680
R06年度	入院	971,016	2,897,260	2,560,650	2,412,250	213,000	1,109,160	2,773,790	2,374,290	970,580	2,195,150	1,933,150	2,846,880	23,257,176
	外来	1,556,750	1,347,300	1,388,860	2,250,700	1,800,500	1,713,310	1,401,680	1,122,020	1,612,560	1,705,800	1,811,870	1,938,500	19,649,850
	合計	2,527,766	4,244,560	3,949,510	4,662,950	2,013,500	2,822,470	4,175,470	3,496,310	2,583,140	3,900,950	3,745,020	4,785,380	42,907,026



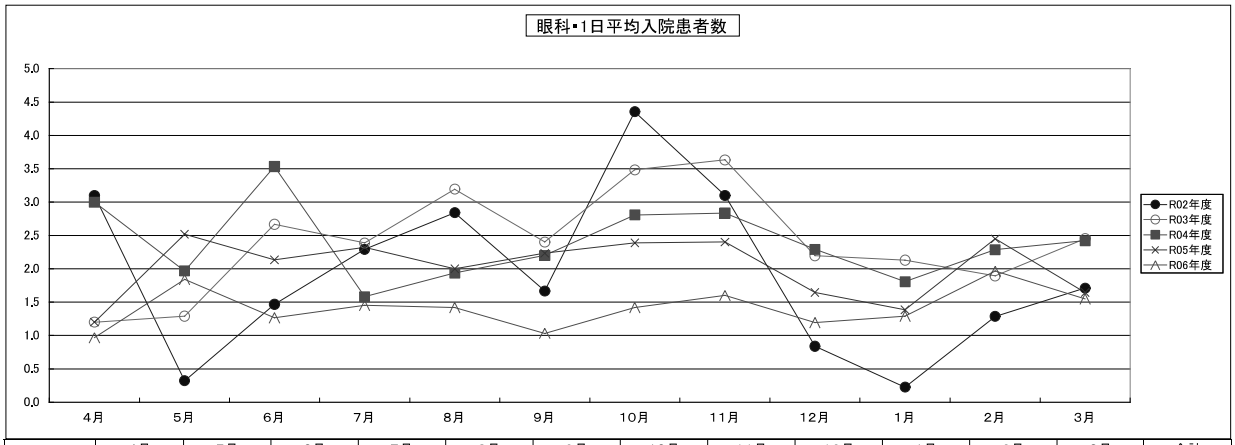
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	0.6	1.5	1.3	2.2	1.6	2.4	1.8	0.4	2.0	0.2	0.6	1.3	1.0
R03年度	0.4	0.9	1.5	2.1	1.1	1.0	1.1	0.7	0.7		0.3	0.1	0.8
R04年度	0.7	0.3	1.2	1.5	0.3	1.1	0.4	0.6	0.0	0.5	0.1	0.4	0.6
R05年度	0.6	1.3	2.0	2.5	2.3	2.4	1.7	1.8	1.9	1.1	1.9	1.6	1.7
R06年度	1.5	2.2	2.5	1.3	2.7	1.9	1.8	2.5	1.8	0.7	0.9	0.4	1.7



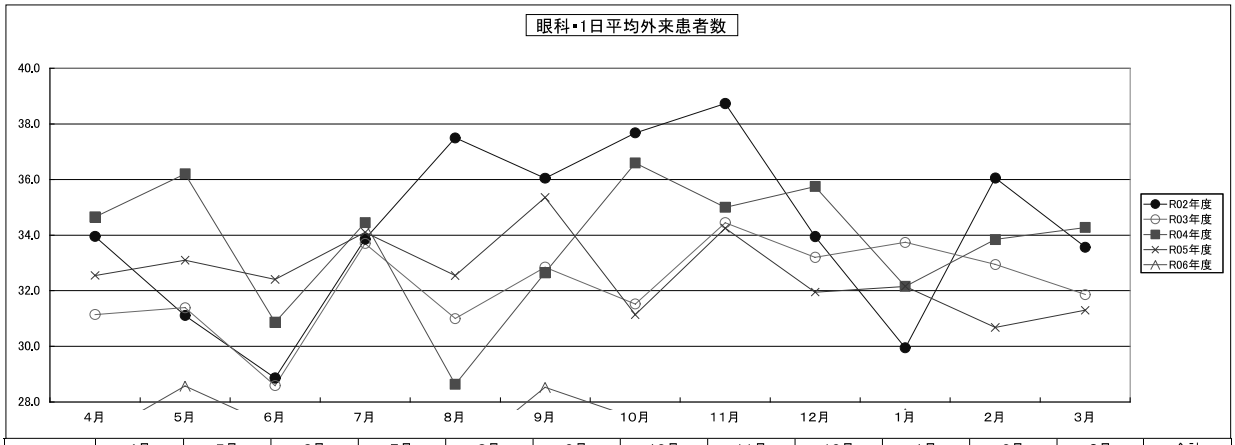
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	4.0	4.7	4.4	5.0	6.7	6.0	5.5	7.3	6.7	5.4	5.2	7.4	5.7
R03年度	6.7	7.6	7.0	9.6	10.6	9.9	8.0	9.0	9.2	16.3	21.4	14.1	10.7
R04年度	11.2	9.3	8.5	14.6	17.2	10.6	8.7	8.9	11.4	9.1	10.0	9.2	10.7
R05年度	8.3	9.1	7.7	8.9	8.1	9.3	9.7	9.4	12.0	10.5	10.1	10.1	9.4
R06年度	8.7	7.7	8.1	7.7	7.5	10.1	9.0	8.5	10.8	10.4	7.2	10.8	8.8



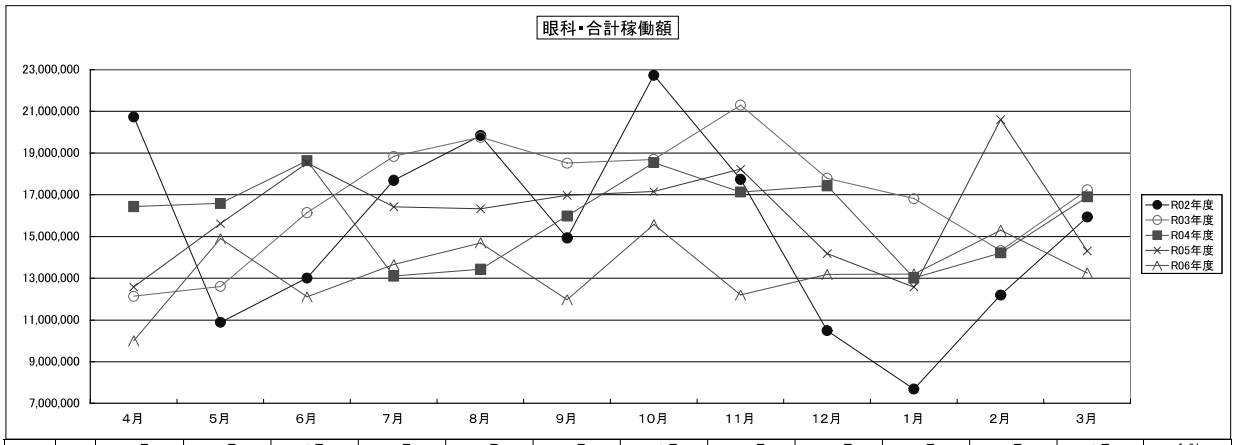
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	入院	908,360	2,021,205	2,010,765	2,718,975	1,955,055	2,981,900	2,312,395	393,580	3,493,520	283,560	1,105,220	2,274,580	22,459,115
	外来	458,100	429,780	552,580	664,880	1,332,050	1,220,370	1,217,600	1,358,565	1,219,310	1,205,050	1,236,310	2,091,590	12,986,185
	合計	1,366,460	2,450,985	2,563,345	3,383,855	3,287,105	4,202,270	3,529,995	1,752,145	4,712,830	1,488,610	2,341,530	4,366,170	35,445,300
R03年度	入院	663,460	1,628,150	2,621,650	3,024,320	2,260,020	1,121,540	1,943,600	1,228,980	1,155,630	0	381,600	90,960	16,119,910
	外来	1,664,260	1,364,810	1,793,290	2,443,160	3,098,100	2,842,820	2,030,840	2,094,320	2,004,880	4,284,820	5,776,360	4,167,980	33,565,640
	合計	2,327,720	2,992,960	4,414,940	5,467,480	5,358,120	3,964,360	3,974,440	3,323,300	3,160,510	4,284,820	6,157,960	4,258,940	49,685,550
R04年度	入院	1,801,520	500,860	2,039,800	2,519,240	504,800	1,875,570	626,040	1,311,290	98,140	1,157,600	148,430	1,715,010	14,298,300
	外来	2,288,400	1,557,320	1,776,410	3,607,810	4,668,560	2,608,150	1,841,910	2,109,530	2,467,920	2,395,990	2,275,910	2,069,210	29,667,120
	合計	4,089,920	2,058,180	3,816,210	6,127,050	5,173,360	4,483,720	2,467,950	3,420,820	2,566,060	3,553,590	2,424,340	3,784,220	43,965,420
R05年度	入院	790,380	1,987,890	2,969,430	3,682,680	7,371,090	4,636,070	6,994,380	6,390,510	7,581,780	6,472,170	6,967,390	4,761,300	60,605,070
	外来	1,378,800	1,356,780	1,446,810	1,328,780	1,507,330	1,523,330	1,336,420	1,223,390	1,574,560	1,428,690	1,336,550	1,397,580	16,839,020
	合計	2,169,180	3,344,670	4,416,240	5,011,460	8,878,420	6,159,400	8,330,800	7,613,900	9,156,340	7,900,860	8,303,940	6,158,880	77,444,090
R06年度	入院	4,842,790	5,849,340	6,016,430	4,608,740	5,441,030	5,011,090	5,342,670	6,279,160	5,412,370	3,474,520	2,697,490	3,263,600	58,239,230
	外来	1,215,790	1,001,210	1,078,370	1,192,330	1,222,910	1,066,690	1,197,610	1,011,960	1,516,600	1,212,810	910,480	1,279,600	13,906,360
	合計	6,058,580	6,850,550	7,094,800	5,801,070	6,663,940	6,077,780	6,540,280	7,291,120	6,928,970	4,687,330	3,607,970	4,543,200	72,145,590



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	3.1	0.3	1.5	2.3	2.8	1.7	4.4	3.1	0.8	0.2	1.3	1.7	1.9
R03年度	1.2	1.3	2.7	2.4	3.2	2.4	3.5	3.6	2.2	2.1	1.9	2.5	2.4
R04年度	3.0	2.0	3.5	1.6	1.9	2.2	2.8	2.8	2.3	1.8	2.3	2.4	2.4
R05年度	1.2	2.5	2.1	2.3	2.0	2.2	2.4	2.4	1.6	1.4	2.4	1.6	2.0
R06年度	1.0	1.8	1.3	1.5	1.4	1.0	1.4	1.6	1.2	1.3	2.0	1.5	1.4

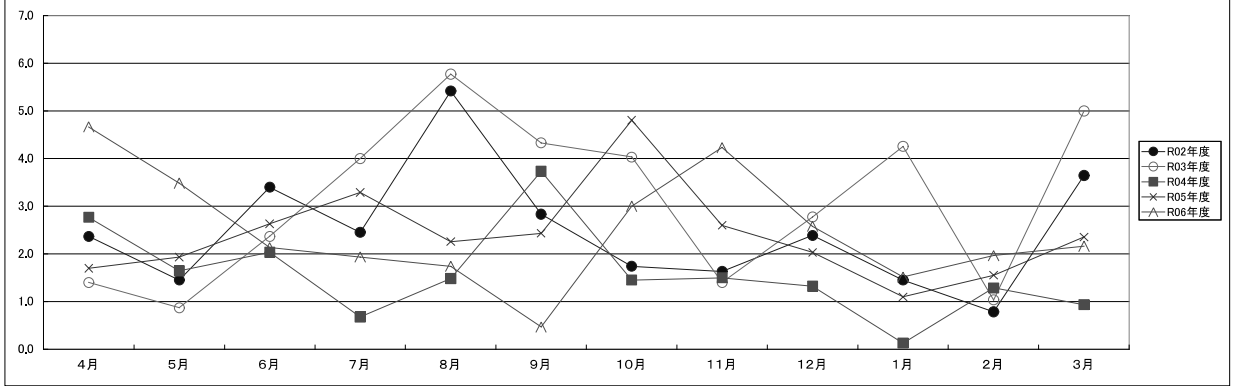


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	34.0	31.1	28.9	33.9	37.5	36.1	37.7	38.7	34.0	29.9	36.1	33.6	34.3
R03年度	31.1	31.4	28.6	33.7	31.0	32.9	31.5	34.5	33.2	33.7	32.9	31.9	32.1
R04年度	34.7	36.2	30.9	34.5	28.6	32.7	36.6	35.0	35.8	32.2	33.8	34.3	33.7
R05年度	32.6	33.1	32.4	34.1	32.5	35.4	31.1	34.3	32.0	32.2	30.7	31.3	32.6
R06年度	26.7	28.6	27.1	25.7	25.9	28.5	27.4	25.3	27.3	27.6	27.3	27.3	27.0



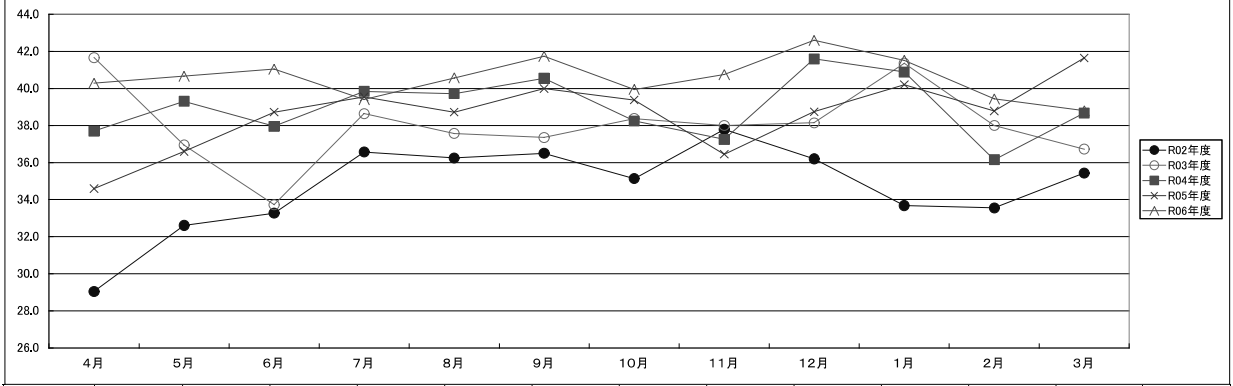
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	入院	10,295,754	960,982	5,153,462	8,825,022	11,460,986	6,807,652	14,953,700	10,708,358	2,296,526	1,267,676	5,376,106	6,497,448	84,603,672
	外来	10,442,560	9,929,090	7,855,930	8,867,190	8,381,580	8,125,511	7,776,890	7,030,490	8,196,665	6,420,881	6,825,360	9,436,930	99,289,077
	合計	20,738,314	10,890,072	13,009,392	17,692,212	19,842,566	14,933,163	22,730,590	17,738,848	10,493,191	7,688,557	12,201,466	15,934,378	183,892,749
R03年度	入院	4,905,112	5,453,080	8,940,254	10,139,374	13,511,880	11,223,666	11,201,970	14,453,844	9,162,034	9,284,672	8,229,322	10,929,990	117,435,198
	外来	7,232,440	7,155,470	7,203,907	8,700,720	6,243,740	7,290,881	7,490,876	6,843,250	8,622,930	7,529,811	6,096,910	6,302,776	86,713,711
	合計	12,137,552	12,608,550	16,144,161	18,840,094	19,755,620	18,514,547	18,692,846	21,297,094	17,784,964	16,814,483	14,326,232	17,232,766	204,148,909
R04年度	入院	10,710,422	8,333,096	12,315,854	6,456,866	7,887,210	8,877,332	12,005,102	10,674,270	10,242,780	7,147,780	7,881,150	9,831,700	112,363,562
	外来	5,725,490	8,246,901	6,319,697	6,649,570	5,541,410	7,106,440	6,535,250	6,455,540	7,187,361	5,865,970	6,333,573	7,068,850	79,036,052
	合計	16,435,912	16,579,997	18,635,551	13,106,436	13,428,620	15,983,772	18,540,352	17,129,810	17,430,141	13,013,750	14,214,723	16,900,550	191,399,614
R05年度	入院	4,610,814	9,383,804	8,650,946	8,962,032	7,318,210	8,300,936	8,886,722	10,091,862	7,158,202	6,248,274	12,497,010	6,569,128	98,677,940
	外来	7,970,580	6,231,840	9,869,110	7,456,235	9,006,580	8,666,364	8,260,379	8,132,140	7,021,201	6,327,520	8,108,960	7,735,719	94,786,628
	合計	12,581,394	15,615,644	18,520,056	16,418,267	16,324,790	16,967,300	17,147,101	18,224,002	14,179,403	12,575,794	20,605,970	14,304,847	193,464,568
R06年度	入院	3,488,916	7,645,094	5,050,800	5,715,362	6,895,490	4,361,330	6,679,200	5,835,028	5,455,682	5,707,070	7,899,354	6,932,234	71,665,560
	外来	6,515,180	7,252,433	7,056,587	7,938,400	7,795,420	7,607,320	8,891,047	6,362,550	7,721,890	7,492,940	7,402,340	6,313,120	88,349,227
	合計	10,004,096	14,897,527	12,107,387	13,653,762	14,690,910	11,968,650	15,570,247	12,197,578	13,177,572	13,200,010	15,301,694	13,245,354	160,014,787

皮膚科・1日平均入院患者数



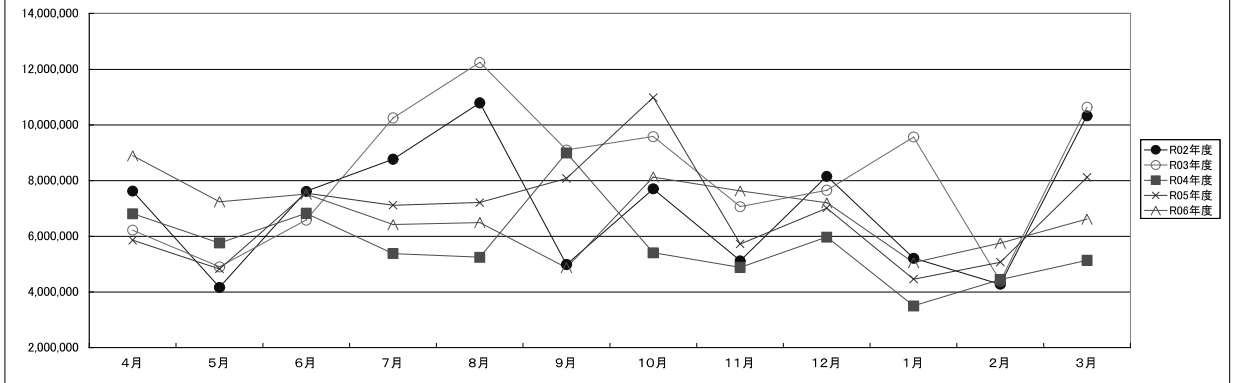
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	2.4	1.5	3.4	2.5	5.4	2.8	1.7	1.6	2.4	1.5	0.8	3.6	2.5
R03年度	1.4	0.9	2.4	4.0	5.8	4.3	4.0	1.4	2.8	4.3	1.0	5.0	3.1
R04年度	2.8	1.6	2.0	0.7	1.5	3.7	1.5	1.5	1.3	0.1	1.3	0.9	1.6
R05年度	1.7	1.9	2.6	3.3	2.3	2.4	4.8	2.6	2.0	1.1	1.6	2.4	2.4
R06年度	4.7	3.5	2.1	1.9	1.7	0.5	3.0	4.2	2.6	1.5	2.0	2.2	2.5

皮膚科・1日平均外来患者数

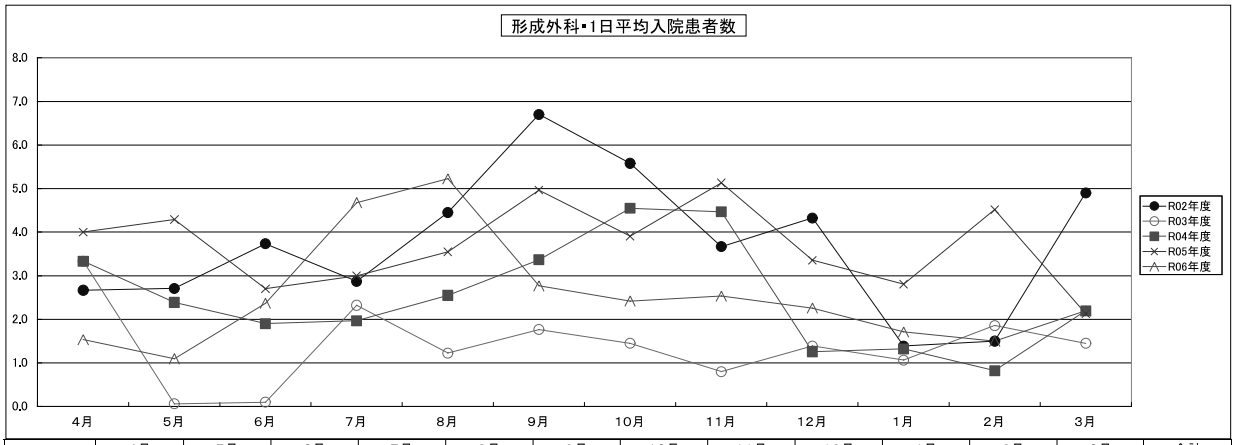


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	29.0	32.6	33.3	36.6	36.3	36.5	35.1	37.8	36.2	33.7	33.6	35.4	34.7
R03年度	41.7	36.9	33.7	38.7	37.6	37.4	38.4	38.0	38.2	41.4	38.0	36.7	38.0
R04年度	37.7	39.3	38.0	39.9	39.7	40.6	38.3	37.3	41.6	40.9	36.2	38.7	39.0
R05年度	34.6	36.6	38.7	39.6	38.7	40.0	39.4	36.5	38.8	40.2	38.8	41.7	38.6
R06年度	40.3	40.7	41.1	39.4	40.6	41.7	40.0	40.8	42.6	41.5	39.4	38.8	40.6

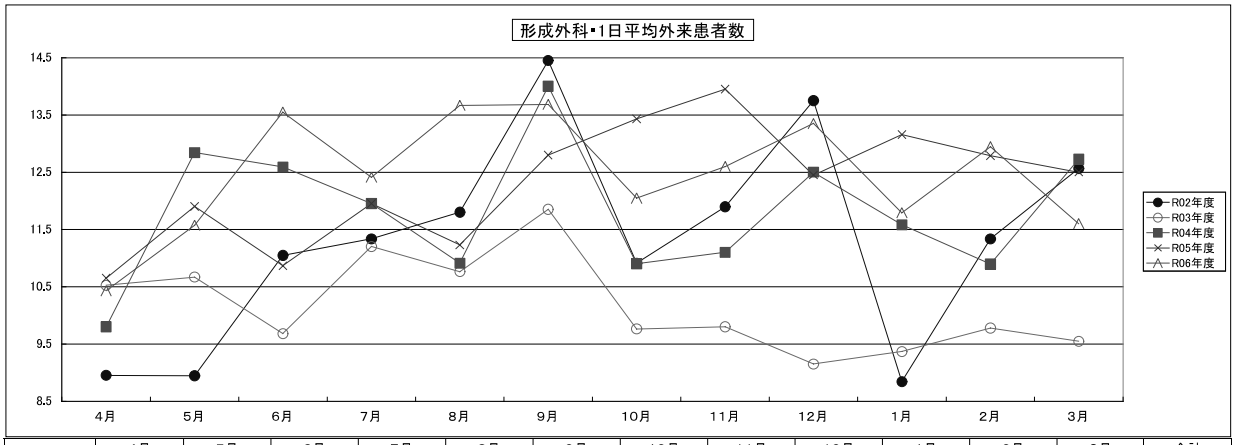
皮膚科・合計稼働額



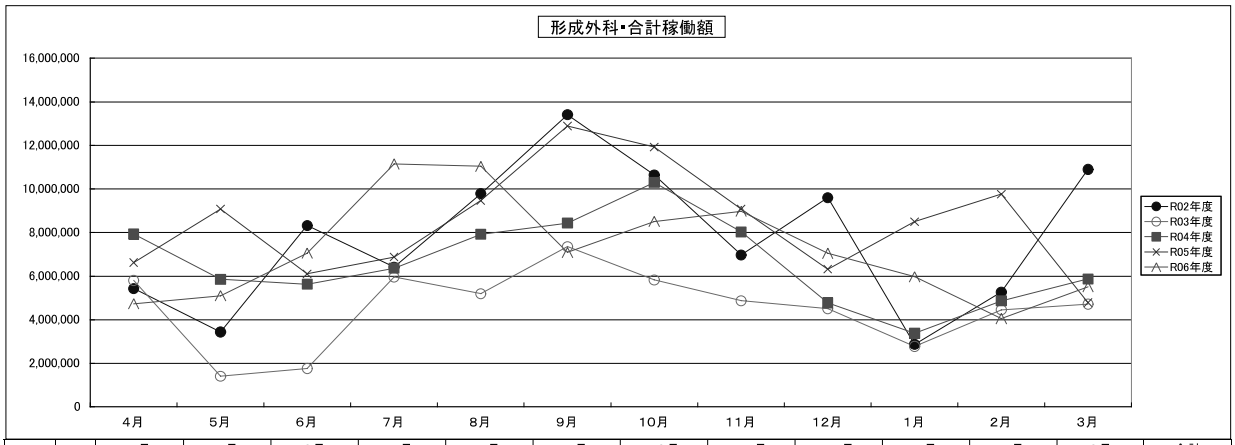
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	入院	2,861,220	1,830,250	4,307,532	3,186,408	6,873,427	2,722,193	1,819,550	2,325,360	4,049,370	1,578,094	972,900	5,499,008	38,025,312
	外来	4,761,804	2,335,758	3,305,778	5,581,259	3,913,078	2,266,097	5,884,119	2,794,600	4,106,880	3,637,351	3,306,486	4,826,898	46,720,108
	合計	7,623,024	4,166,008	7,613,310	8,767,667	10,786,505	4,988,290	7,703,669	5,119,960	8,156,250	5,215,445	4,279,386	10,325,906	84,745,420
R03年度	入院	1,763,580	1,332,270	3,248,258	5,790,966	7,739,780	5,138,720	5,217,796	1,940,610	4,321,356	4,801,504	1,334,088	6,259,284	48,888,212
	外来	4,453,788	3,569,322	3,335,789	4,458,291	4,502,210	3,956,668	4,360,090	5,121,492	3,332,490	4,758,970	3,050,660	4,372,020	49,271,790
	合計	6,217,368	4,901,592	6,584,047	10,249,257	12,241,990	9,095,388	9,577,886	7,062,102	7,653,846	9,560,474	4,384,748	10,631,304	98,160,002
R04年度	入院	3,370,044	2,131,890	2,490,962	1,407,918	1,311,550	4,935,076	2,029,872	2,157,926	1,763,122	229,884	1,581,402	1,206,752	24,616,398
	外来	3,439,330	3,630,740	4,332,880	3,974,190	3,934,020	4,057,145	3,377,370	2,723,903	4,206,751	3,270,850	2,868,810	3,929,040	43,745,029
	合計	6,809,374	5,762,630	6,823,842	5,382,108	5,245,570	8,992,221	5,407,242	4,881,829	5,969,873	3,500,734	4,450,212	5,135,792	68,361,427
R05年度	入院	2,115,484	2,560,640	3,228,800	3,904,357	3,773,982	3,730,968	6,807,978	2,822,574	2,665,040	1,256,440	2,129,030	3,204,402	38,199,695
	外来	3,745,000	2,270,150	4,326,730	3,211,448	3,435,476	4,347,176	4,170,724	2,903,180	4,347,900	3,207,071	2,943,230	4,913,270	43,821,355
	合計	5,860,484	4,830,790	7,555,530	7,115,805	7,209,458	8,078,144	10,978,702	5,725,754	7,012,940	4,463,511	5,072,260	8,117,672	82,021,050
R06年度	入院	5,043,750	3,924,434	3,589,720	2,954,942	2,432,893	659,550	4,290,560	4,402,736	3,354,590	2,607,000	2,157,584	2,726,280	38,144,039
	外来	3,845,260	3,313,140	3,926,994	3,464,080	4,062,525	4,214,797	3,838,509	3,224,859	3,845,447	2,446,230	3,599,240	3,887,450	43,668,531
	合計	8,889,010	7,237,574	7,516,714	6,419,022	6,495,418	4,874,347	8,129,069	7,627,595	7,200,037	5,053,230	5,756,824	6,613,730	81,812,570



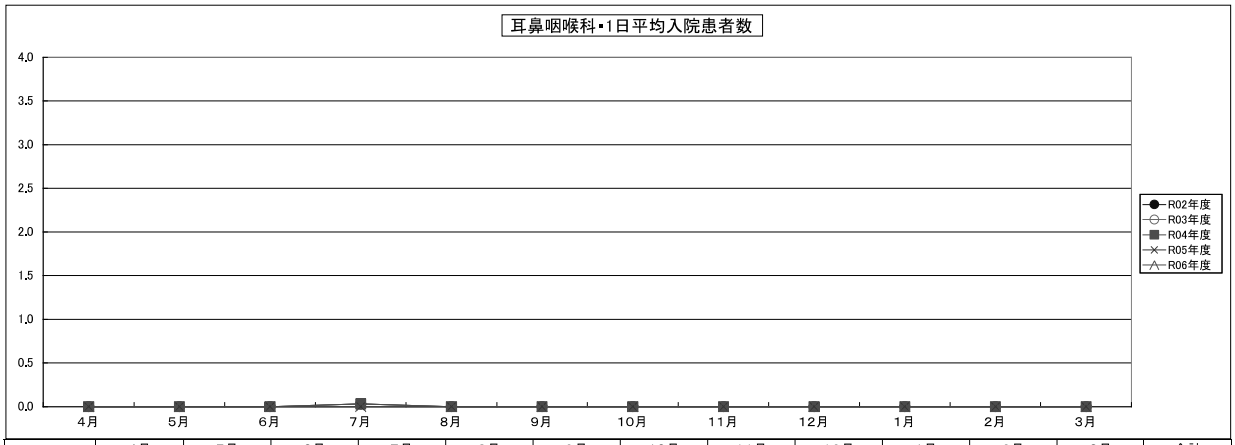
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	2.7	2.7	3.7	2.9	4.5	6.7	5.6	3.7	4.3	1.4	1.5	4.9	3.7
R03年度	3.3	0.1	0.1	2.3	1.2	1.8	1.5	0.8	1.4	1.1	1.9	1.5	1.4
R04年度	3.3	2.4	1.9	2.0	2.5	3.4	4.5	4.5	1.3	1.3	0.8	2.2	2.5
R05年度	4.0	4.3	2.7	3.0	3.5	5.0	3.9	5.1	3.4	2.8	4.5	2.1	3.7
R06年度	1.5	1.1	2.4	4.7	5.2	2.8	2.4	2.5	2.3	1.7	1.5	2.2	2.5



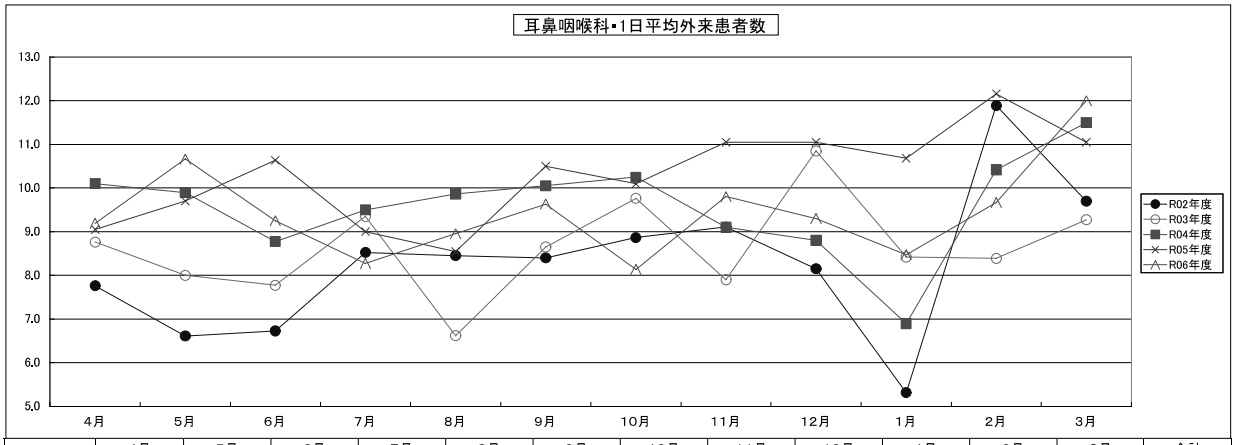
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	9.0	8.9	11.0	11.3	11.8	14.5	10.9	11.9	13.8	8.8	11.3	12.6	11.3
R03年度	10.5	10.7	9.7	11.2	10.8	11.9	9.8	9.8	9.2	9.4	9.8	9.5	10.2
R04年度	9.8	12.8	12.6	12.0	10.9	14.0	10.9	11.1	12.5	11.6	10.9	12.7	11.8
R05年度	10.7	11.9	10.9	12.0	11.2	12.8	13.4	14.0	12.5	13.2	12.8	12.5	12.3
R06年度	10.4	11.6	13.6	12.4	13.7	13.7	12.0	12.6	13.4	11.8	12.9	11.6	12.5



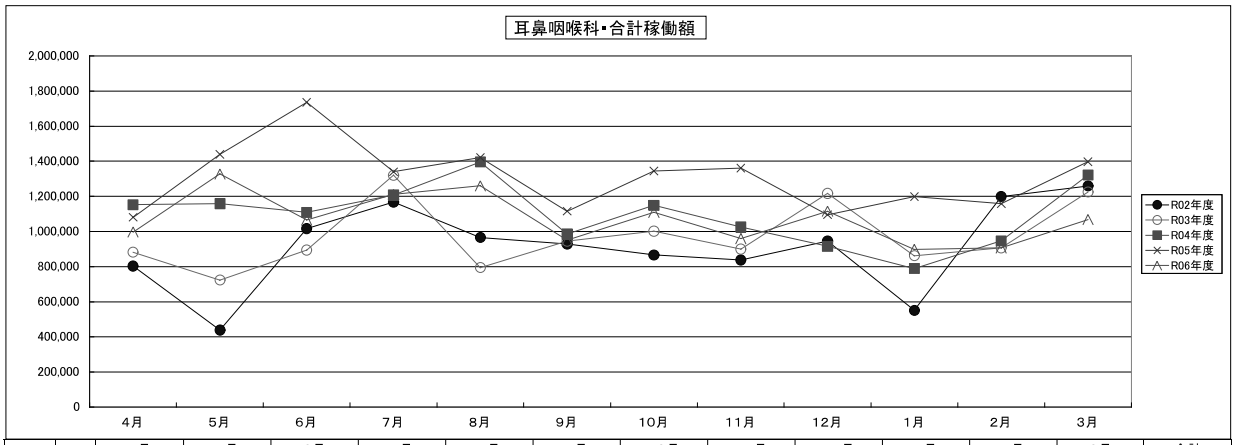
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	入院	4,298,271	2,662,870	6,548,939	4,371,976	7,659,734	10,626,057	8,981,640	5,489,783	7,350,180	1,650,210	3,487,526	8,850,328	71,977,514
	外来	1,135,364	778,327	1,771,846	2,041,379	2,129,371	2,788,197	1,661,431	1,482,486	2,250,559	1,225,578	1,783,871	2,047,830	21,096,239
	合計	5,433,635	3,441,197	8,320,785	6,413,355	9,789,105	13,414,254	10,643,071	6,972,269	9,600,739	2,875,788	5,271,397	10,898,158	93,073,753
R03年度	入院	4,321,476	32,240	271,930	3,980,852	2,896,018	5,023,445	3,488,819	2,750,560	3,309,650	1,721,992	2,781,014	3,251,860	33,829,856
	外来	1,483,681	1,378,046	1,494,558	1,982,007	2,300,839	2,328,684	2,342,131	2,122,791	1,204,388	1,054,244	1,675,498	1,464,869	20,831,736
	合計	5,805,157	1,410,286	1,766,488	5,962,859	5,196,857	7,352,129	5,830,950	4,873,351	4,514,038	2,776,236	4,456,512	4,716,729	54,661,592
R04年度	入院	5,824,687	4,066,208	3,081,284	4,674,852	5,584,750	5,434,078	8,816,962	6,035,190	2,572,538	2,100,226	2,937,538	3,786,964	54,915,277
	外来	2,108,982	1,793,412	2,551,280	1,692,291	2,337,061	2,999,262	1,481,794	1,992,813	2,204,263	1,279,958	1,931,390	2,081,604	24,454,110
	合計	7,933,669	5,859,620	5,632,564	6,367,143	7,921,811	8,433,340	10,298,756	8,028,003	4,776,801	3,380,184	4,868,928	5,868,568	79,369,387
R05年度	入院	5,209,598	7,636,346	4,173,883	5,436,210	6,855,452	10,784,442	9,854,224	7,047,834	4,878,280	6,888,964	7,848,728	2,548,468	79,162,429
	外来	1,415,182	1,448,098	1,930,874	1,445,658	2,610,947	2,111,294	2,065,856	2,035,133	1,444,320	1,609,331	1,911,683	2,240,719	22,269,095
	合計	6,624,780	9,084,444	6,104,757	6,881,868	9,466,399	12,895,736	11,920,080	9,082,967	6,322,600	8,498,295	9,760,411	4,789,187	101,431,524
R06年度	入院	2,774,384	3,038,754	4,590,464	8,933,371	8,626,308	4,888,687	5,862,862	6,731,497	4,790,078	4,278,390	2,310,140	3,903,146	60,728,081
	外来	1,961,292	2,066,575	2,465,769	2,214,241	2,413,536	2,201,860	2,647,194	2,244,677	2,261,113	1,695,396	1,747,120	1,614,461	25,533,234
	合計	4,735,676	5,105,329	7,056,233	11,147,612	11,039,844	7,090,547	8,510,056	8,976,174	7,051,191	5,973,786	4,057,260	5,517,607	86,261,315



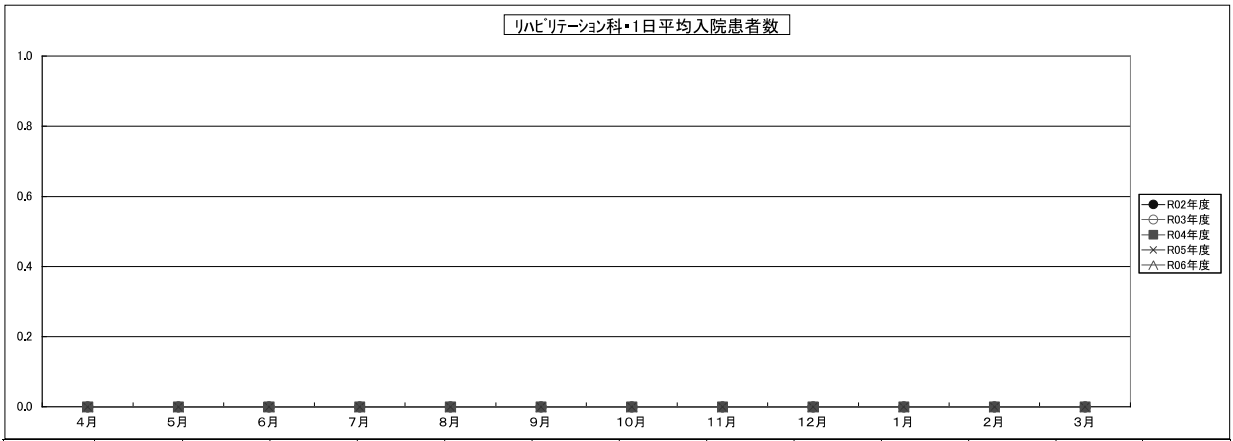
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
R03年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
R04年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
R05年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
R06年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0



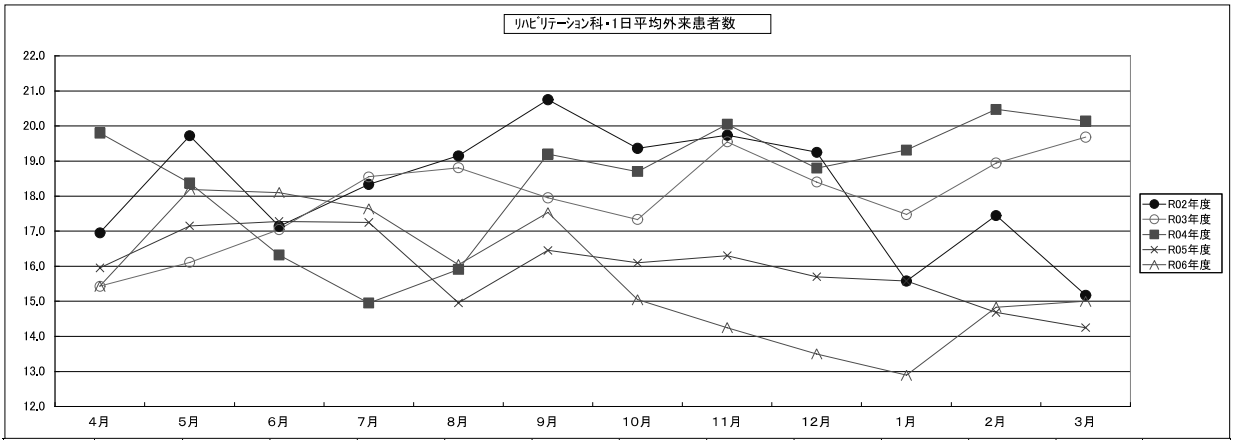
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	7.8	6.6	6.7	8.5	8.5	8.4	8.9	9.1	8.2	5.3	11.9	9.7	8.3
R03年度	8.8	8.0	7.8	9.4	6.6	8.7	9.8	7.9	10.9	8.4	8.4	9.3	8.6
R04年度	10.1	9.9	8.8	9.5	9.9	10.1	10.3	9.1	8.8	6.9	10.4	11.5	9.6
R05年度	9.1	9.7	10.6	9.0	8.5	10.5	10.1	11.1	11.1	10.7	12.2	11.1	10.3
R06年度	9.2	10.7	9.3	8.3	9.0	9.6	8.1	9.8	9.3	8.5	9.7	12.0	9.4



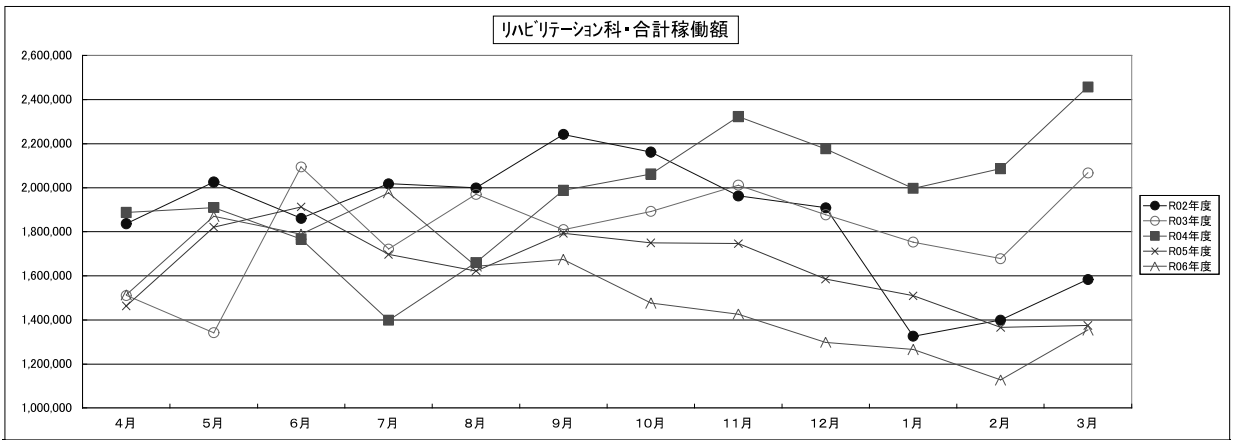
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外来	803,344	438,958	1,016,335	1,167,640	965,900	928,920	866,520	837,810	946,100	551,170	1,199,260	1,259,060	10,981,017
	合計	803,344	438,958	1,016,335	1,167,640	965,900	928,920	866,520	837,810	946,100	551,170	1,199,260	1,259,060	10,981,017
R03年度	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外来	881,730	723,940	893,890	1,320,170	794,800	945,000	1,001,760	900,000	1,217,110	862,340	907,090	1,224,320	11,672,150
	合計	881,730	723,940	893,890	1,320,170	794,800	945,000	1,001,760	900,000	1,217,110	862,340	907,090	1,224,320	11,672,150
R04年度	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外来	1,152,720	1,158,295	1,108,945	1,207,720	1,396,000	985,610	1,148,720	1,025,760	915,490	789,610	946,400	1,321,620	13,156,890
	合計	1,152,720	1,158,295	1,108,945	1,207,720	1,396,000	985,610	1,148,720	1,025,760	915,490	789,610	946,400	1,321,620	13,156,890
R05年度	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外来	1,081,130	1,439,110	1,736,090	1,340,250	1,421,930	1,115,150	1,344,140	1,360,800	1,095,700	1,198,860	1,158,240	1,397,180	15,688,580
	合計	1,081,130	1,439,110	1,736,090	1,340,250	1,421,930	1,115,150	1,344,140	1,360,800	1,095,700	1,198,860	1,158,240	1,397,180	15,688,580
R06年度	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外来	997,130	1,327,330	1,065,580	1,210,810	1,259,880	949,905	1,109,420	959,840	1,115,340	898,430	907,270	1,068,010	12,868,945
	合計	997,130	1,327,330	1,065,580	1,210,810	1,259,880	949,905	1,109,420	959,840	1,115,340	898,430	907,270	1,068,010	12,868,945



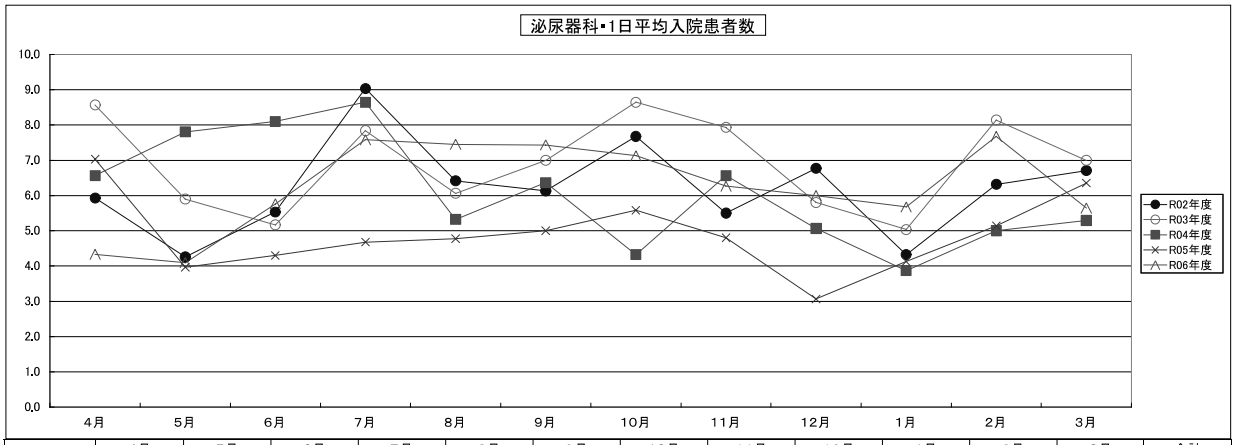
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
R03年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
R04年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
R05年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
R06年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0



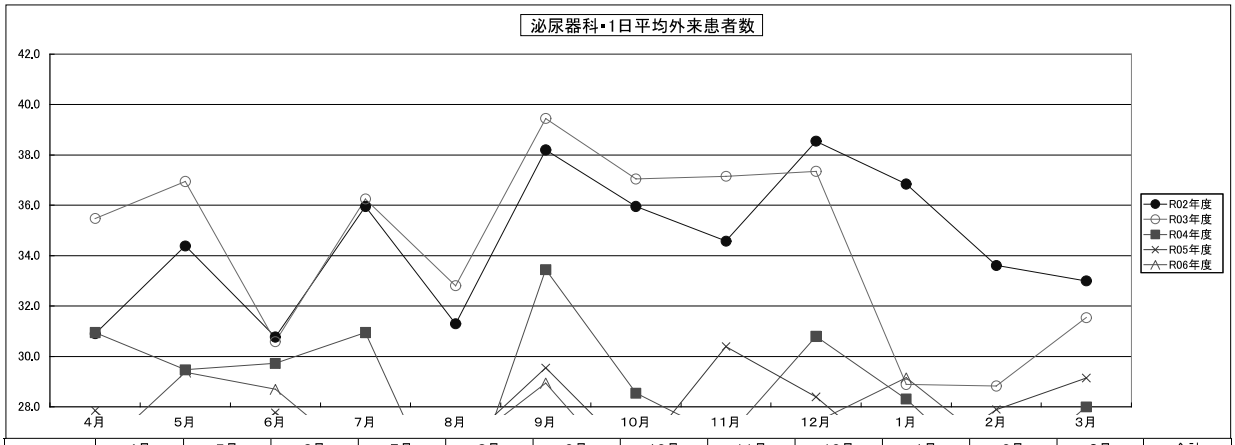
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	17.0	19.7	17.1	18.3	19.2	20.8	19.4	19.7	19.3	15.6	17.4	15.2	18.2
R03年度	15.4	16.1	17.0	18.6	18.8	18.0	17.3	19.6	18.4	17.5	18.9	19.7	17.9
R04年度	19.8	18.4	16.3	15.0	15.9	19.2	18.7	20.1	18.8	19.3	20.5	20.1	18.5
R05年度	16.0	17.2	17.3	17.3	15.0	16.5	16.1	16.3	15.7	15.6	14.7	14.3	16.0
R06年度	15.4	18.2	18.1	17.6	16.0	17.5	15.0	14.3	13.5	12.9	14.8	15.0	15.7



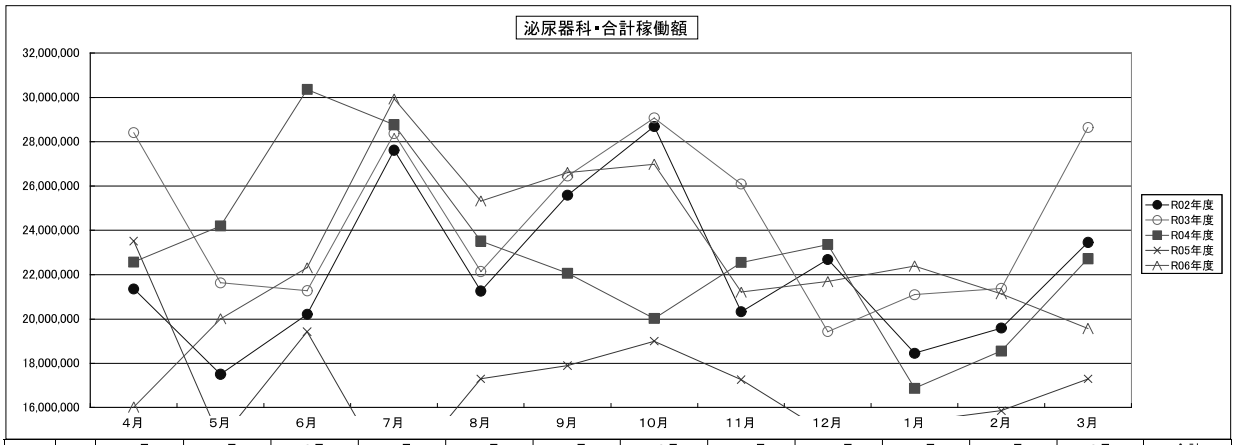
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	入院	0	79,523	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	79,523
R02年度	外来	1,836,777	1,945,921	1,861,012	2,017,647	1,998,997	2,242,693	2,161,811	1,962,636	1,908,739	1,326,239	1,399,251	1,583,648	22,245,371
	合計	1,836,777	2,025,444	1,861,012	2,017,647	1,998,997	2,242,693	2,161,811	1,962,636	1,908,739	1,326,239	1,399,251	1,583,648	22,324,894
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R03年度	外来	1,510,984	1,342,281	2,094,134	1,721,561	1,969,782	1,809,336	1,892,679	2,011,508	1,877,428	1,752,822	1,678,107	2,067,076	21,727,698
	合計	1,510,984	1,342,281	2,094,134	1,721,561	1,969,782	1,809,336	1,892,679	2,011,508	1,877,428	1,752,822	1,678,107	2,067,076	21,727,698
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R04年度	外来	1,887,831	1,909,962	1,767,049	1,398,836	1,660,425	1,987,821	2,061,710	2,322,980	2,176,927	1,997,192	2,086,448	2,457,624	23,714,805
	合計	1,887,831	1,909,962	1,767,049	1,398,836	1,660,425	1,987,821	2,061,710	2,322,980	2,176,927	1,997,192	2,086,448	2,457,624	23,714,805
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R05年度	外来	1,463,426	1,820,734	1,912,611	1,697,021	1,622,461	1,793,258	1,749,829	1,746,365	1,585,221	1,509,672	1,365,779	1,375,164	19,641,541
	合計	1,463,426	1,820,734	1,912,611	1,697,021	1,622,461	1,793,258	1,749,829	1,746,365	1,585,221	1,509,672	1,365,779	1,375,164	19,641,541
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R06年度	外来	1,513,760	1,869,586	1,788,801	1,976,725	1,644,223	1,674,183	1,476,518	1,426,125	1,298,663	1,266,071	1,127,605	1,354,369	18,416,629
	合計	1,513,760	1,869,586	1,788,801	1,976,725	1,644,223	1,674,183	1,476,518	1,426,125	1,298,663	1,266,071	1,127,605	1,354,369	18,416,629



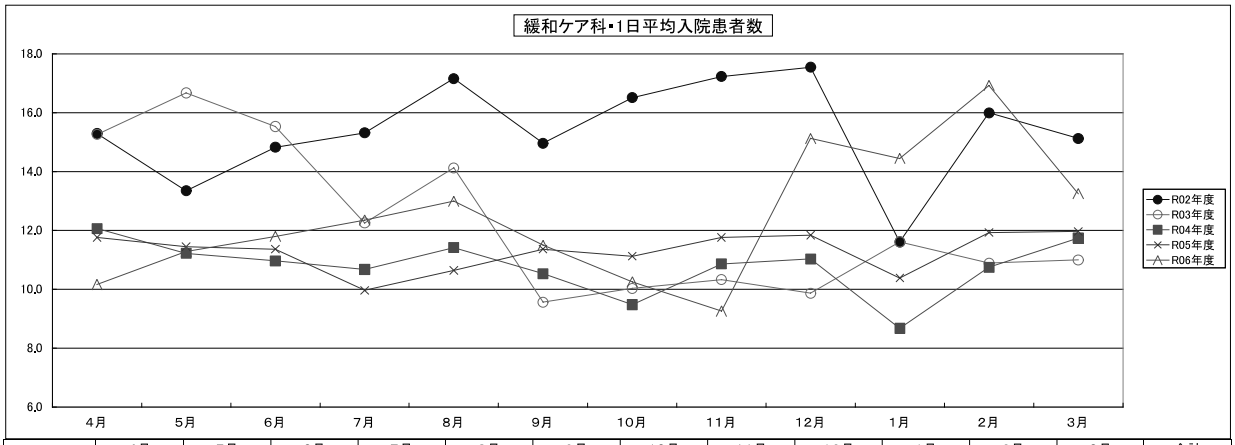
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	5.9	4.3	5.5	9.0	6.4	6.1	7.7	5.5	6.8	4.3	6.3	6.7	6.2
R03年度	8.6	5.9	5.2	7.8	6.1	7.0	8.6	7.9	5.8	5.0	8.1	7.0	6.9
R04年度	6.6	7.8	8.1	8.6	5.3	6.4	4.3	6.6	5.1	3.9	5.0	5.3	6.1
R05年度	7.0	4.0	4.3	4.7	4.8	5.0	5.6	4.8	3.1	4.1	5.1	6.4	4.9
R06年度	4.3	4.1	5.8	7.6	7.5	7.4	7.1	6.3	6.0	5.7	7.7	5.6	6.2



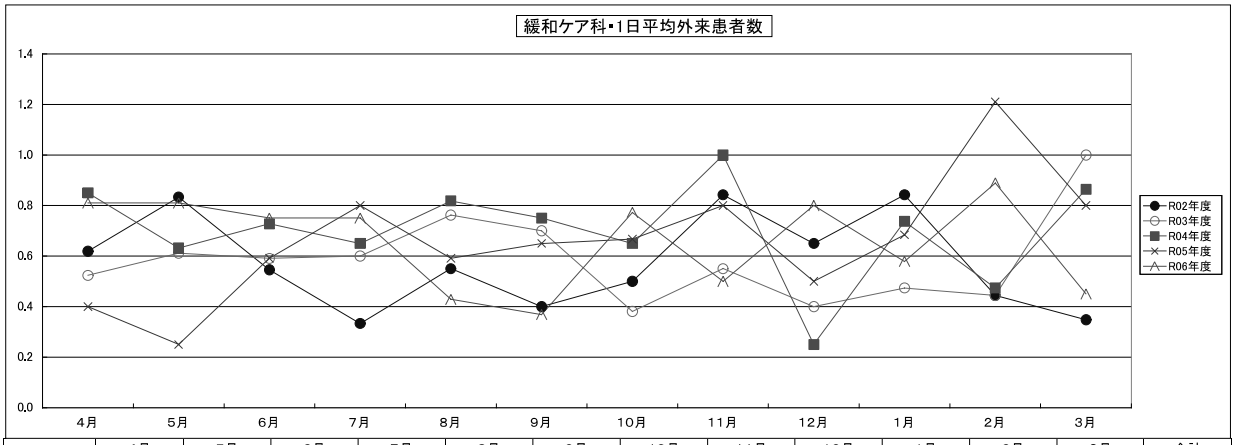
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	30.9	34.4	30.8	36.0	31.3	38.2	36.0	34.6	38.6	36.8	33.6	33.0	34.5
R03年度	35.5	36.9	30.6	36.3	32.8	39.5	37.0	37.2	37.4	28.9	28.8	31.5	34.4
R04年度	31.0	29.5	29.7	31.0	23.1	33.5	28.6	26.8	30.8	28.3	25.0	28.0	28.7
R05年度	27.9	24.9	27.8	24.8	26.2	29.6	26.0	30.4	28.4	25.4	27.9	29.2	27.3
R06年度	26.0	29.4	28.7	25.7	26.2	28.9	24.9	25.9	27.4	29.2	26.3	25.6	27.0



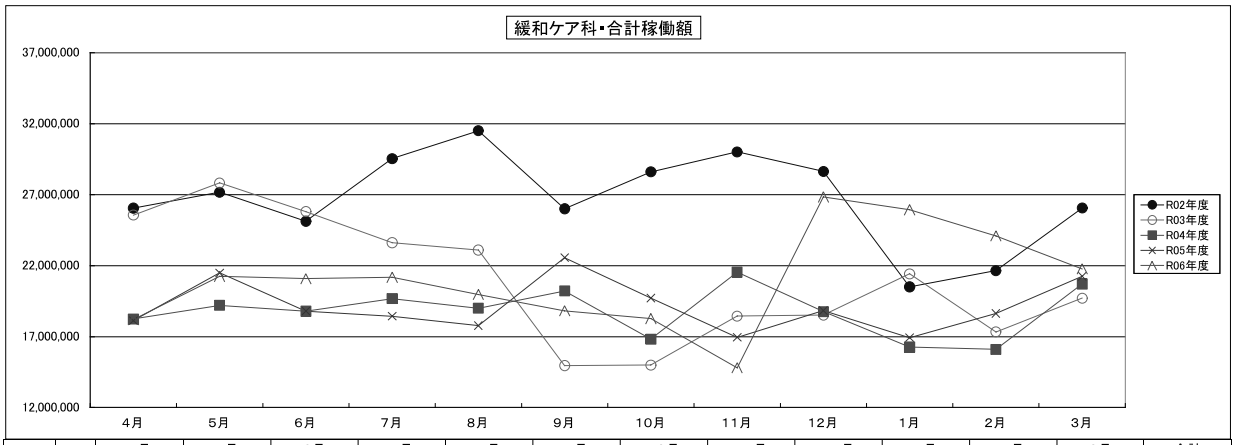
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	入院	9,942,410	7,030,136	8,799,840	14,967,194	9,751,830	12,935,018	16,141,566	9,944,470	11,100,870	8,140,494	11,225,108	13,519,736	133,498,672
	外来	11,417,610	10,476,040	11,412,490	12,650,480	11,509,870	12,648,140	12,554,420	10,385,670	11,585,600	10,316,520	8,366,970	9,940,890	133,264,700
	合計	21,360,020	17,506,176	20,212,330	27,617,674	21,261,700	25,583,158	28,695,986	20,330,140	22,686,470	18,457,014	19,592,078	23,460,626	266,763,372
R03年度	入院	17,075,756	11,401,180	12,074,462	16,359,166	12,325,588	14,707,648	18,359,270	14,572,512	8,452,396	11,895,028	12,955,592	15,404,056	165,582,654
	外来	11,338,880	10,233,170	9,206,180	12,015,900	9,818,490	11,742,820	10,722,760	11,518,570	10,980,270	9,203,320	8,423,310	13,241,180	128,444,850
	合計	28,414,636	21,634,350	21,280,642	28,375,066	22,144,078	26,450,468	29,082,030	26,091,082	19,432,666	21,098,348	21,378,902	28,645,236	294,027,504
R04年度	入院	13,147,952	15,626,268	19,676,403	18,655,560	14,374,580	10,624,348	11,507,554	15,203,754	11,344,993	6,963,722	10,233,406	11,659,428	159,017,968
	外来	9,423,250	8,573,010	10,687,960	10,117,190	9,141,170	11,440,150	8,516,610	7,350,950	12,015,470	9,906,530	8,324,600	11,061,690	116,558,580
	合計	22,571,202	24,199,278	30,364,363	28,772,750	23,515,750	22,064,498	20,024,164	22,554,704	23,360,463	16,870,252	18,558,006	22,721,118	275,576,548
R05年度	入院	15,338,032	7,655,094	8,976,866	5,946,302	8,708,098	10,073,268	11,425,590	8,680,496	7,075,214	8,056,208	8,502,702	9,158,419	109,596,289
	外来	8,180,690	6,891,320	10,452,650	6,626,025	8,593,980	7,824,250	7,578,630	8,583,880	7,750,360	7,304,750	7,353,670	8,140,230	95,280,435
	合計	23,518,722	14,546,414	19,429,516	12,572,327	17,302,078	17,897,518	19,004,220	17,264,376	14,825,574	15,360,958	15,856,372	17,298,649	204,876,724
R06年度	入院	7,349,404	10,344,682	12,764,160	18,827,350	15,329,658	16,436,626	16,199,250	11,741,240	12,583,006	13,070,212	12,223,042	11,202,636	158,071,266
	外来	8,669,950	9,668,750	9,550,270	11,112,540	9,996,740	10,172,440	10,783,960	9,472,610	9,110,730	9,318,630	8,914,070	8,372,480	115,143,170
	合計	16,019,354	20,013,432	22,314,430	29,939,890	25,326,398	26,609,066	26,983,210	21,213,850	21,693,736	22,388,842	21,137,112	19,575,116	273,214,436



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	15.3	13.4	14.8	15.3	17.2	15.0	16.5	17.2	17.5	11.6	16.0	15.1	15.4
R03年度	15.3	16.7	15.5	12.3	14.1	9.6	10.0	10.3	9.9	11.6	10.9	11.0	12.3
R04年度	12.1	11.2	11.0	10.7	11.4	10.5	9.5	10.9	11.0	8.7	10.8	11.7	10.8
R05年度	11.8	11.5	11.4	10.0	10.6	11.4	11.1	11.8	11.8	10.4	11.9	12.0	11.3
R06年度	10.2	11.3	11.8	12.4	13.0	11.5	10.3	9.3	15.1	14.5	16.9	13.3	12.4



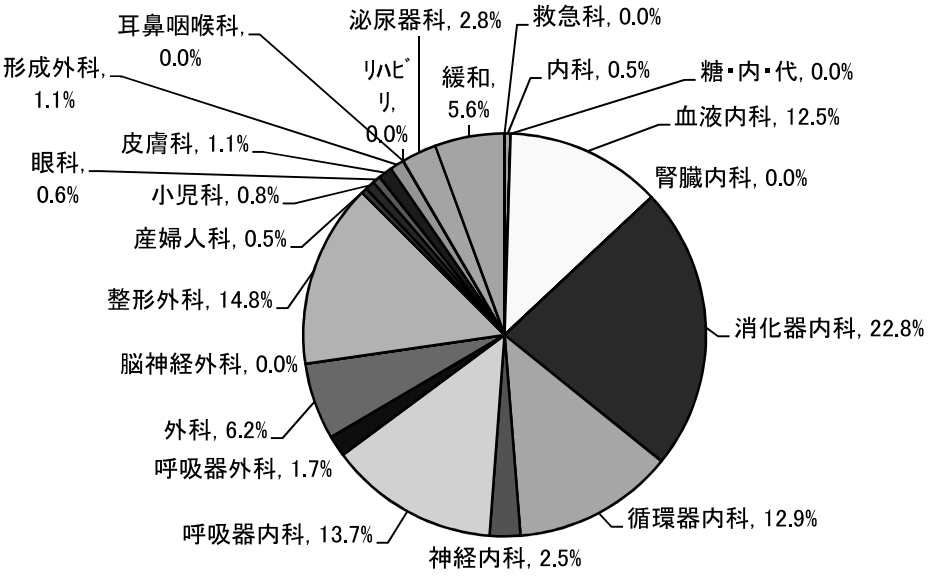
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	0.6	0.8	0.5	0.3	0.6	0.4	0.5	0.8	0.7	0.8	0.4	0.3	0.6
R03年度	0.5	0.6	0.6	0.6	0.8	0.7	0.4	0.6	0.4	0.5	0.4	1.0	0.6
R04年度	0.9	0.6	0.7	0.7	0.8	0.8	0.7	1.0	0.3	0.7	0.5	0.9	0.7
R05年度	0.4	0.3	0.6	0.8	0.6	0.7	0.7	0.8	0.5	0.7	1.2	0.8	0.7
R06年度	0.8	0.8	0.8	0.8	0.4	0.4	0.8	0.5	0.8	0.6	0.9	0.5	0.6



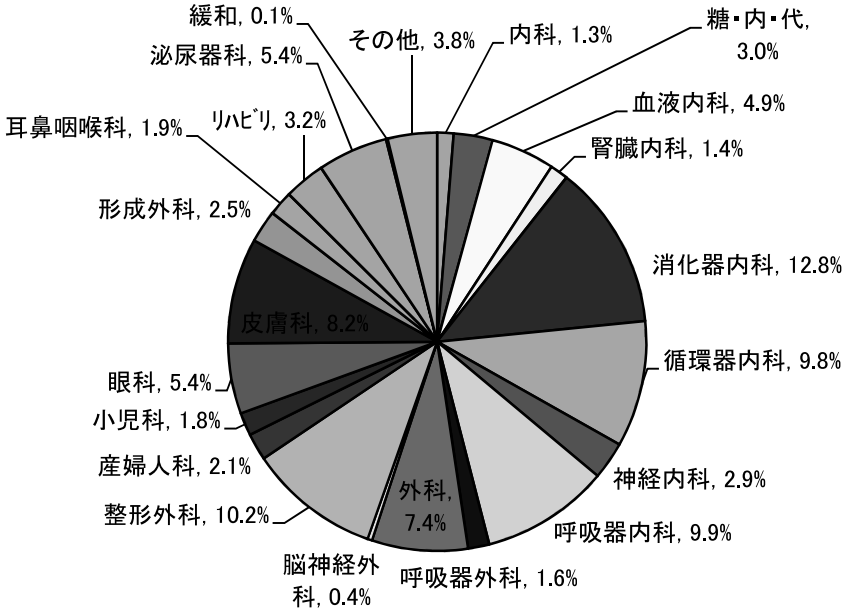
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R02年度	入院	26,001,635	27,126,090	25,076,612	29,492,209	31,460,794	25,968,694	28,596,406	29,923,909	28,601,172	20,426,604	21,643,570	26,016,718	320,334,413
	外来	43,900	34,580	47,310	38,900	45,830	30,010	1,718	75,640	29,510	74,940	2,880	37,850	463,068
	合計	26,045,535	27,160,670	25,123,922	29,531,109	31,506,624	25,998,704	28,598,124	29,999,549	28,630,682	20,501,544	21,646,450	26,054,568	320,797,481
R03年度	入院	25,506,436	27,796,730	25,777,986	23,548,972	23,035,129	14,903,015	14,984,380	18,408,932	18,461,019	21,401,668	17,299,700	19,623,824	250,747,791
	外来	49,150	16,650	28,170	61,020	54,010	62,760	14,760	37,530	61,300	17,640	32,260	82,760	518,010
	合計	25,555,586	27,813,380	25,806,156	23,609,992	23,089,139	14,965,775	14,999,140	18,446,462	18,522,319	21,419,308	17,331,960	19,706,584	251,265,801
R04年度	入院	18,206,560	19,179,798	18,726,890	19,649,070	18,928,273	20,154,841	16,753,875	21,437,558	18,701,475	16,060,260	16,056,830	20,623,175	224,478,605
	外来	37,390	22,230	62,950	28,100	71,460	65,680	68,220	102,930	58,980	204,900	46,520	81,110	850,470
	合計	18,243,950	19,202,028	18,789,840	19,677,170	18,999,733	20,220,521	16,822,095	21,540,488	18,760,455	16,265,160	16,103,350	20,704,285	225,329,075
R05年度	入院	18,087,185	21,447,831	18,752,880	18,362,748	17,739,485	22,484,597	19,659,879	16,874,655	18,805,335	16,898,288	18,551,144	21,231,514	228,895,541
	外来	42,770	37,710	49,240	79,680	39,310	78,200	52,850	78,780	32,700	30,520	85,470	15,840	623,070
	合計	18,129,955	21,485,541	18,802,120	18,442,428	17,778,795	22,562,797	19,712,729	16,953,435	18,838,035	16,928,808	18,636,614	21,247,354	229,518,611
R06年度	入院	18,142,902	21,164,008	21,043,469	21,158,106	19,929,830	18,814,700	18,227,550	14,746,999	26,790,773	25,879,700	24,045,282	21,707,995	251,651,314
	外来	62,670	81,071	35,870	22,740	39,640	7,580	43,420	66,737	40,147	54,400	45,497	64,740	564,512
	合計	18,205,572	21,245,079	21,079,339	21,180,846	19,969,470	18,822,280	18,270,970	14,813,736	26,830,920	25,934,100	24,090,779	21,772,735	252,215,826

8. 科別患者構成比

入院患者数



外来患者数



※その他は、放射線科と救急科とリウマチ・膠原病とドック・健診を足したものです。

9. 診療科年齢別構成表

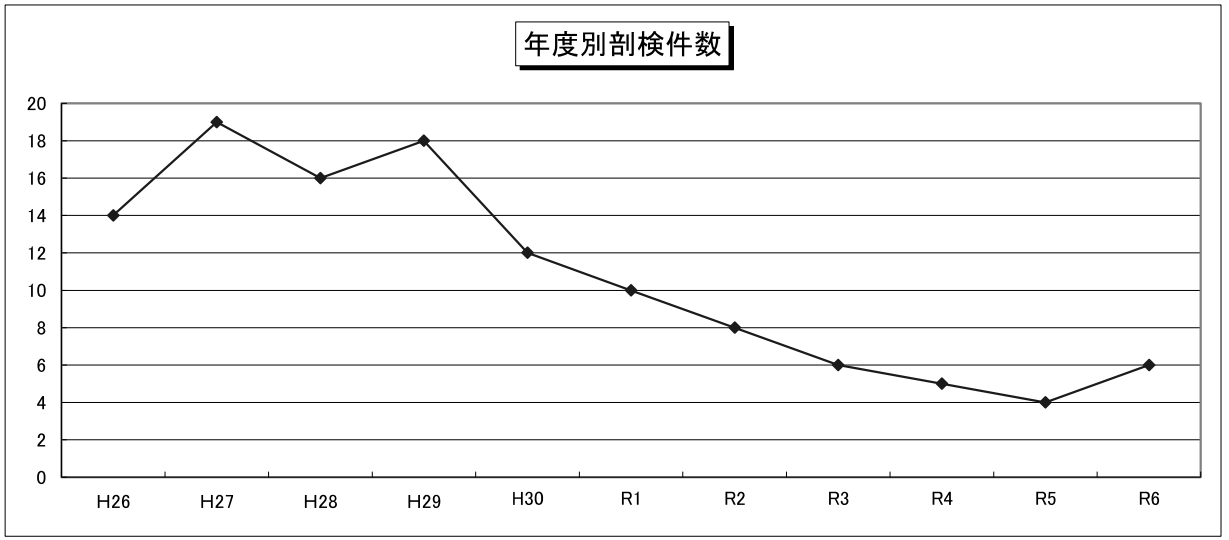
診療科	0 - 9	10 - 19	20 - 29	30 - 39	40 - 49	50 - 59	60 - 69	70 - 79	80 - 89	90 - 99	100 -	合 計
小　児　科	234	332	20	26	3	0	2	0	0	0	0	639
耳鼻咽喉科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼　　科	0	6	0	0	2	44	57	214	185	8	0	741
整形外科	6	178	112	101	452	569	1,180	3,021	5,086	1,252	9	11,517
外　　科	0	38	23	97	262	568	844	1,050	1,768	357	0	5,049
糖尿病・内分泌・代謝内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
血液内科	0	0	0	13	76	264	1,191	3,468	4,372	780	0	9,179
消化器内科	0	55	179	113	298	1,138	1,380	5,288	7,244	2,618	169	16,406
循環器内科	0	0	1	14	153	363	460	1,753	5,391	2,218	140	11,928
内　　科	0	3	10	10	10	14	33	83	155	69	7	466
呼吸器内科	0	24	55	188	255	557	1,563	3,448	4,282	695	13	15,358
呼吸器外科	0	6	43	14	11	63	295	552	363	30	0	1,401
泌尿器科	0	9	14	12	22	96	148	1,118	683	178	0	1,792
皮　膚　科	0	0	16	14	44	44	94	236	325	136	0	877
形成外科	3	17	94	3	81	142	101	210	180	94	0	1,349
産婦人科	0	0	0	28	17	40	47	87	153	0	10	177
緩和ケア科	0	0	0	0	209	212	717	1,299	1,590	511	0	4,133
救　急　科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合　　計	243	668	567	633	1,895	4,114	8,112	21,827	31,777	8,946	348	79,130
構　成　率	0.3%	0.8%	0.7%	0.8%	2.4%	5.2%	10.3%	27.6%	40.2%	11.3%	0.4%	100.0%

10. 令和６年度救急患者数

																								合計	交通事故	
																									救急車	その他
救急患者数	時間内	261	1	44	301	218	48	203	7	50	8	261	6	11	2	14	19	8	0	28	8	0	0	1,498	68	1
	時間外	856	2	32	463	154	24	264	12	174	8	397	9	42	7	87	54	16	0	92	2	0	1	2,696	54	9
	深夜	176	0	4	188	39	4	54	1	38	1	82	3	23	0	16	5	5	0	37	1	0	0	677	16	2
	合計	1,293	3	80	952	411	76	521	20	262	17	740	18	76	9	117	78	29	0	157	11	0	1	4,871	138	12
（再掲）救急患者数のうち入院患者数	時間内	81	0	37	221	151	28	151	7	26	0	135	3	5	0	4	1	0	0	12	8	0	0	870		
	時間外	179	0	21	267	93	12	155	9	56	0	142	5	3	0	13	2	0	0	20	1	0	0	978		
	深夜	44	0	4	122	24	2	38	1	17	0	39	2	2	0	3	0	0	0	9	1	0	0	308		
	合計	304	0	62	610	268	42	344	17	99	0	316	10	10	0	20	3	0	0	41	10	0	0	2,156		
	入院率	24%	0%	78%	64%	65%	55%	66%	85%	38%	0%	43%	56%	13%	0%	17%	4%	0%	0%	26%	91%	0%	0%	44%		
（再掲）救急患者数のうち救急車	時間内	176	0	26	225	138	35	133	4	27	6	237	4	7	0	9	12	7	0	20	8	0	0	1,074		
	時間外	268	0	7	183	81	15	107	7	46	4	210	4	4	0	16	10	4	0	25	1	0	1	993		
	深夜	110	0	3	120	30	3	37	1	20	0	62	1	2	0	4	0	3	0	19	1	0	0	416		
	合計	554	0	36	528	249	53	277	12	93	10	509	9	13	0	29	22	14	0	64	10	0	1	2,483		
（再掲②）救急車のうち入院患者	時間内	63	0	25	176	101	18	106	4	16	0	127	2	2	0	3	1	0	0	9	8	0	0	661		
	時間外	126	0	6	144	58	10	86	7	21	0	120	2	1	0	7	1	0	0	8	1	0	0	598		
	深夜	41	0	3	93	23	1	30	1	14	0	38	1	1	0	2	0	0	0	5	1	0	0	254		
	合計	230	0	34	413	182	29	222	12	51	0	285	5	4	0	12	2	0	0	22	10	0	0	1,513		
	入院率	42%	0%	94%	78%	73%	55%	80%	100%	55%	0%	56%	56%	31%	0%	41%	9%	0%	0%	34%	100%	0%	0%	61%		

		1系	2系	小児科	産婦人	緩和
救急患者数	時間内	1,076	397	11	6	8
	時間外	1,795	847	42	9	2
	深夜	465	185	23	3	1
	合計	3,336	1,429	76	18	11
（再掲）救急患者数のうち入院患者数	時間内	669	185	5	3	8
	時間外	727	242	3	5	1
	深夜	234	69	2	2	1
	合計	1,630	496	10	10	10
（再掲）救急患者数のうち救急車	時間内	4	2	0	1	1
	時間外	733	322	7	4	8
	深夜	661	322	4	4	1
	合計	303	109	2	1	1
（再掲②）救急車のうち入院患者	時間内	1,697	753	13	9	10
	時間外	489	160	2	2	8
	深夜	430	164	1	2	1
	合計	191	60	1	1	1

11. 剖検件数



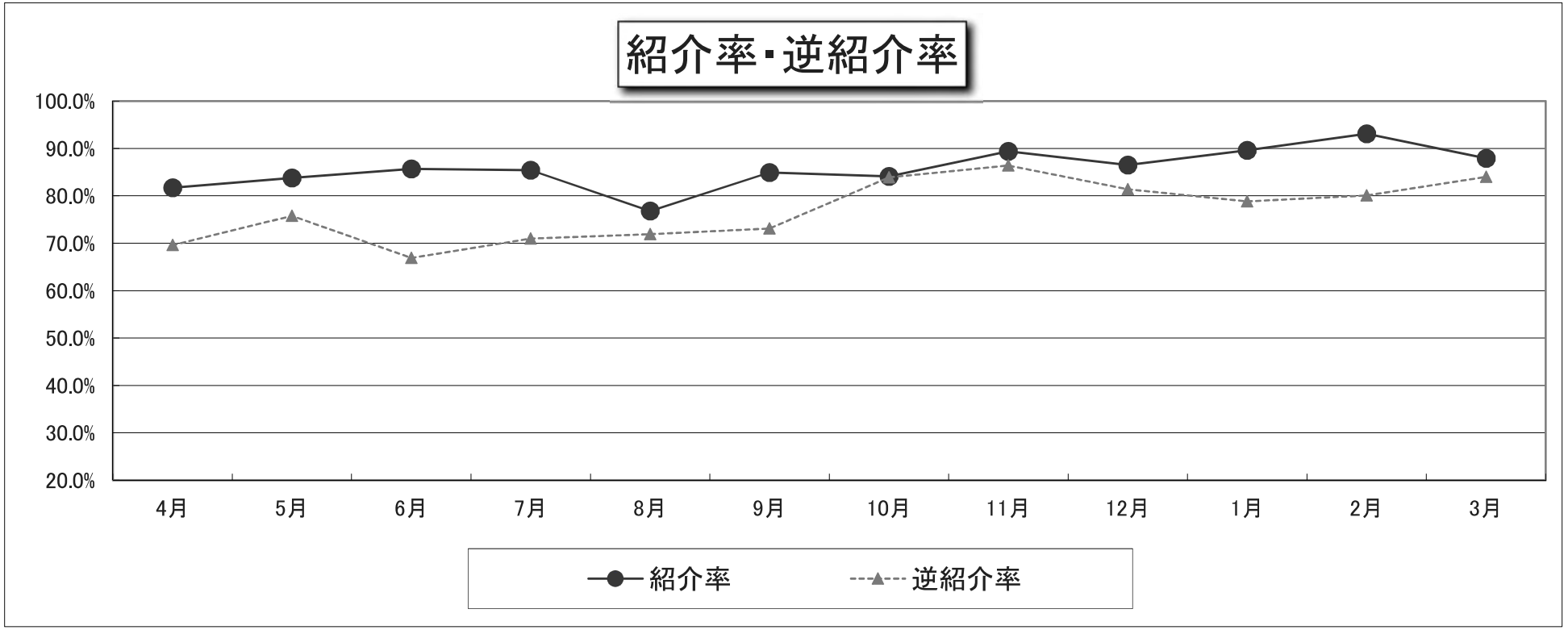
年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
件数	14	19	16	18	12	10	8	6	5	4	6

令和6年度科別剖検数

	内科	糖・内・代	血内	消化器	循環器	神経内	呼内	呼外	外科	脳神経	整形	産婦	小児	眼	皮膚	形成	耳鼻	リハビリテーション科	泌尿器	緩和	救急	合計
剖検数	0	0	3	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
死亡数	0	0	20	33	25	1	51	0	11	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	139	0	282
剖検率	0.0%	0.0%	15.0%	3.0%	4.0%	0.0%	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%

12. 紹介率・逆紹介率

令和6年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初診患者数	706	686	740	827	729	645	716	624	748	739	640	692	8,492
紹介患者数	430	423	461	481	407	410	456	428	443	414	421	451	5,225
逆紹介患者	366	383	360	400	381	353	455	414	417	364	362	431	4,686
紹介率	81.7%	83.8%	85.7%	85.4%	76.8%	84.9%	84.1%	89.4%	86.5%	89.6%	93.1%	87.9%	85.6%
逆紹介率	69.6%	75.8%	66.9%	71.0%	71.9%	73.1%	83.9%	86.4%	81.4%	78.8%	80.1%	84.0%	76.8%



13. 食事別給食数 （令和6年度）

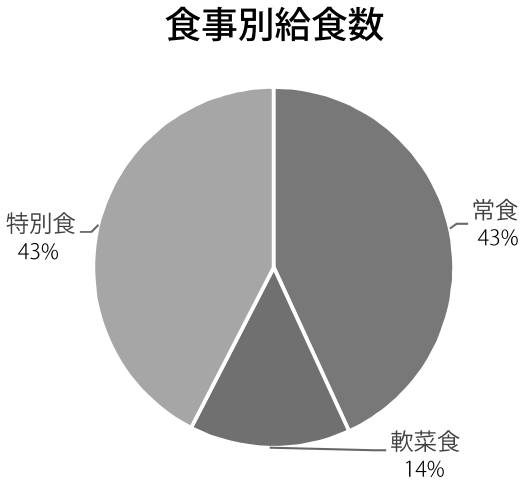
食事別給食数

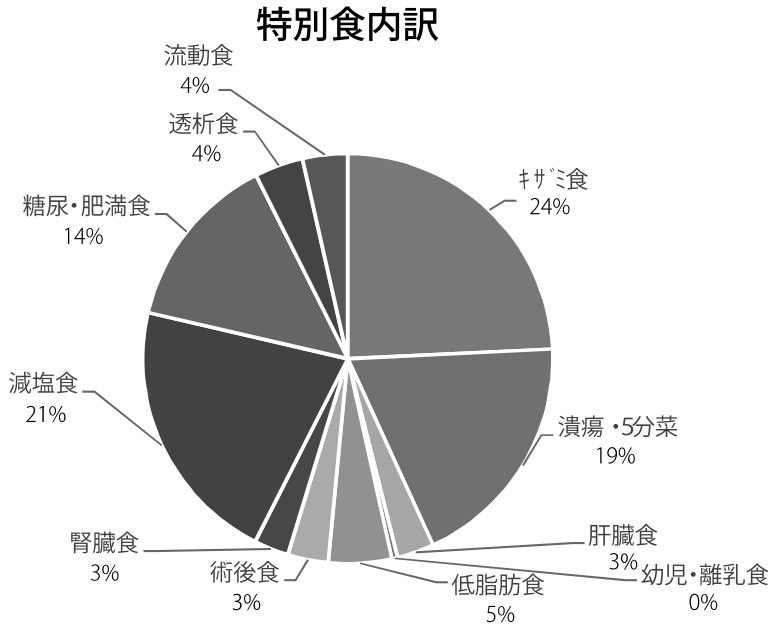
	常食	軟菜食	特別食	濃厚流動食	合計
延食数	70,802	23,700	69,674	6,495	170,671
一日平均	194	65	191	18	468

特別食内訳

	ｷｻﾞﾐ食	潰瘍・5分菜	肝臓食	幼児・離乳食	低脂肪食	術後食	腎臓食	減塩食	糖尿・肥満食	透析食	流動食
延食数	16,897	13,183	2,033	315	3,462	2,240	1,909	14,739	9,760	2,657	2,479
一日平均	46	36	6	1	9	6	5	40	27	7	7

	糖尿・肥満食	透析食	流動食	その他	合　計
延食数	9,621	2,342	2,468	0	69,209
一日平均	26	6	7	0	190



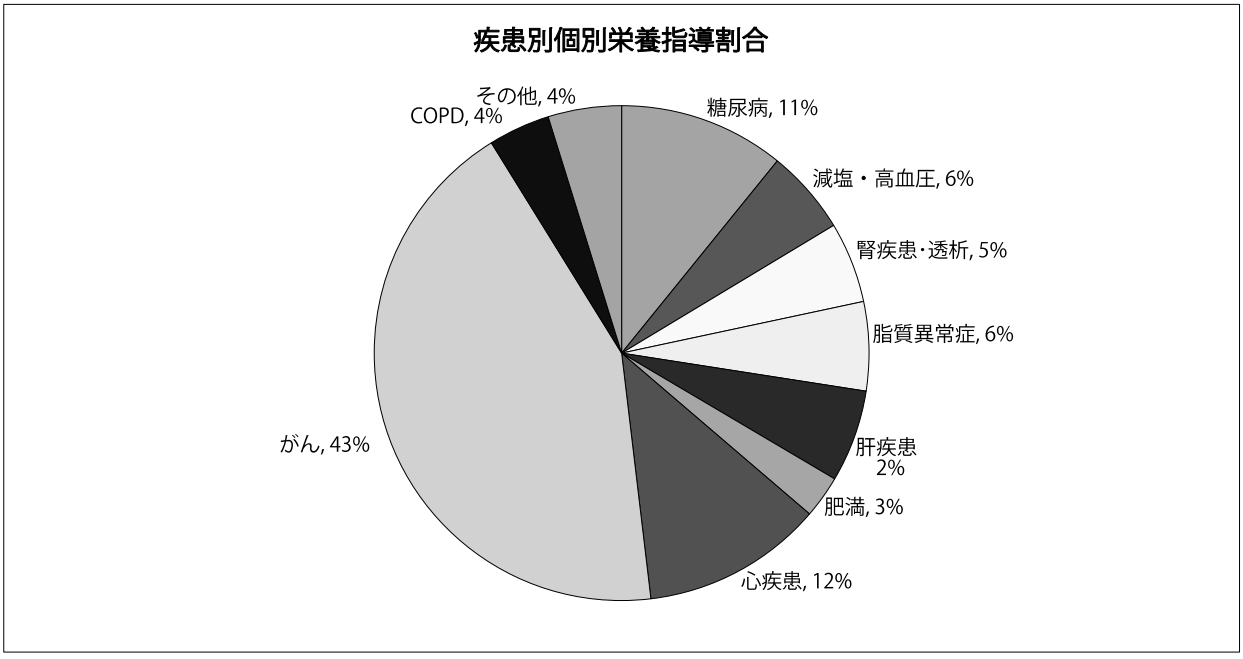


14. 栄養指導件数（令和6年度）

	入院		外来		合計	
指導月	算定	非算定	算定	非算定	算定計	非算定計
4月	23	3	10		33	3
5月	16	1	8	1	24	2
6月	12	2	14		26	2
7月	24	2	11	1	35	3
8月	17	1	10		27	1
9月	16		12	1	28	1
10月	16	1	16		32	1
11月	20	3	16		36	3
12月	17	2	19		36	2
1月	16		15	1	31	1
2月	2	1	9		30	1
3月	18	2	18	1	36	3
合計	216	18	158	5	374	23
月平均	18.0	1.8	13.2	1.0	31.2	1.9

疾患別個別栄養指導件数（複数の制限の指示は主指示事項をカウントする）

	糖尿病	減塩・高血圧	腎疾患・透析	脂質異常症	肝・胆・膵疾患	肥満	心疾患	がん	COPD	その他	合計
延数	43	22	21	23	24	11	47	171	16	19	397
月平均	4	2	2	2	2	1	4	14	1	2	33



15. 手術件数

	内科	糖・内・代	血液内科	腎臓内科	消化器内科	循環器内科	呼吸器内科	呼吸器外科	外科	脳神経外科	整形外科	産婦人科	小児科	眼科	皮膚科	形成外科	耳鼻咽喉科	泌尿器科	その他	合　計
令和2年度	3	0	10	15	946	212	5	81	457	1	550	36	1	673	25	484	16	252	21	3788
令和3年度	5	2	2	43	990	219	0	89	450	7	635	40	0	787	47	391	12	290	1	4010
令和4年度	2	2	4	61	1177	216	15	106	556	4	661	39	0	768	26	551	24	329	2	4543
令和5年度	1	0	4	75	1139	167	6	104	506	3	660	41	2	635	16	571	18	206	1	4155
令和6年度	1	0	1	131	1202	142	5	100	500	1	716	41	2	528	21	574	16	266	29	4276

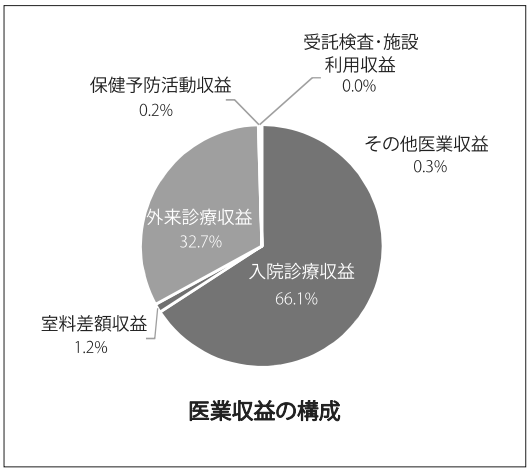
※その他は、リハビリテーション科と救急科を足したものです。

16. 医業収益・費用及び医業外収益・費用の構成について

（令和６年度医療施設特別会計決算額より）
医業収益の構成
損益計算書収益の部より、医業収益科目の構成比率

（単位：円）

項目	金額	構成比率
入院診療収益	5,483,016,479	66.1%
室料差額収益	98,019,500	1.2%
外来診療収益	2,709,178,764	32.7%
保健予防活動収益	15,285,329	0.2%
受託検査･施設利用収益	666,600	0.0%
その他の医業収益	22,692,047	0.3%
保険等査定減（※入院+外来診療収益比）	-35,717,485	(-0.3%)
合計	8,293,141,234	

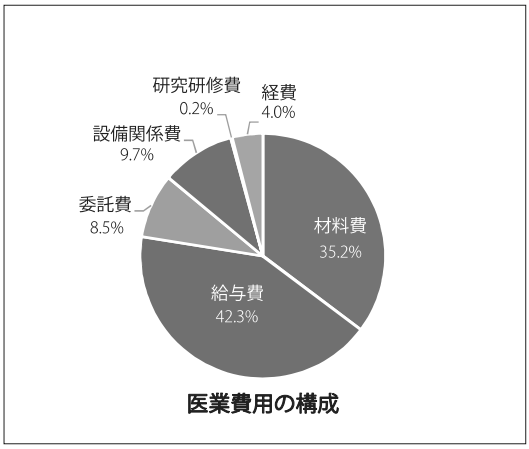


医業収益の構成

医業費用の構成
損益計算書費用の部より、医業費用科目の構成比率

（単位：円）

項目	金額	構成比率
材料費	2,943,491,943	35.2%
給与費	3,531,328,208	42.3%
委託費	710,873,597	8.5%
設備関係費	813,216,823	9.7%
研究研修費	17,723,640	0.2%
経費	334,889,669	4.0%
合計	8,351,523,880	

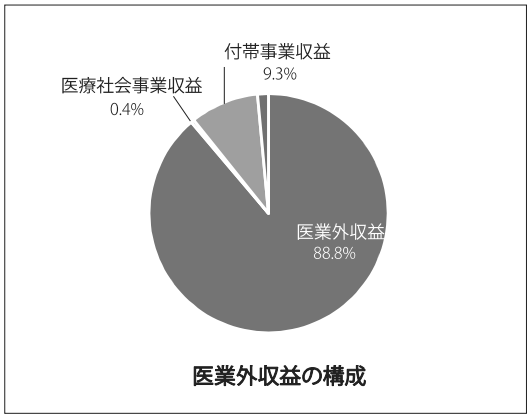


医業費用の構成

医業外収益の構成
損益計算書収益の部より、医業外収益科目の構成比率

（単位：円）

項目	金額	構成比率
医業外収益	427,880,911	88.8%
医療社会事業収益	1,992,867	0.4%
付帯事業収益	44,640,298	9.3%
特別利益	7,277,215	1.5%
合計	481,791,291	

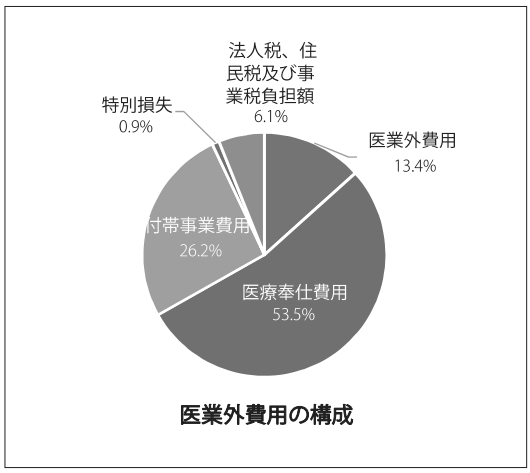


医業外収益の構成

医業外費用の構成
損益計算書費用の部より、医業外費用科目の構成比率

（単位：円）

項目	金額	構成比率
医業外費用	24,146,539	13.4%
医療奉仕費用	96,558,062	53.5%
付帯事業費用	47,293,185	26.2%
特別損失	1,672,887	0.9%
法人税、住民税及び事業税負担額	10,955,260	6.1%
合計	180,625,933	



医業外費用の構成

17. 病院利益（損失）

（単位：円）

総利益	8,774,932,525
総費用	8,532,149,813
病院利益（損失）	242,782,712

18. 令和6年度　年間購入雑誌一覧

洋　雑　誌	
(電子ジャーナル)	
1	Anesthesiology
2	Anesthesia and Analgesia
3	Annals of Surgery
4	Circulation
5	Diseases of the Colon and Rectum
6	European Respiratory Journal
7	Hypertension
8	Journal of the American College of Cardiology
9	The American Journal of Surgical Pathology
10	The Journal of Bone and Joint Surgery　(American Volume)
11	The Journal of Urology
12	The Lancet Respiratory Medicine
13	New England Journal of Medicine
14	Plastic and Reconstructive Surgery

和　雑　誌	
(冊子)	
1	JOURNAL OF CLINICAL REHABILITATION
2	LISA
3	胃と腸
4	Ｅｘｐｒｔ Ｎｕｒｓｅ
5	看護
6	看護展望
7	呼吸器ジャーナル
8	作業療法ジャーナル
9	消化器内視鏡
10	総合リハビリテーション
11	Nursing BUSINESS
12	みんなの呼吸器　Respica
13	理学療法ジャーナル
14	臨床消化器内科

文献検索・データベース

MEDLINE with Full Text (EBSCO)
CINAHL with Full Text(EBSCO)
The Cochrane Library
Ｄｙｎａ　Ｍｅｄ
医学中央雑誌Web版
メディカルオンライン

新着図書リスト

年月日	雑誌名	部署
2024.4.2	コロとカラのびょういんえほん採血ってなあに？	医療安全
2024.4.11	WHO Head and Neck Tumours,2Vols,5/e,2024	検査部　病理
2024.4.30	腫瘍病理鑑別アトラス前立腺癌第2版	検査部　病理
2024.8.15	WHO Haematolymphoid Tumours,2Vols,5/e,2024 PartA	検査部　病理
2024.12.4	食道癌診療ガイドライン2022年版	消化器科部
2024.12.4	今日の治療薬2025　解説と便覧	救急部
2025.1.15	肺癌取扱い規約第9版	検査部　病理
2025.2.6	病理と臨床　Vol.43　No.1　消化管Ⅰ-上部消化管-	検査部　病理
	病理と臨床　Vol.43　No.2　消化管Ⅱ-下部消化管-	
2025.3.18	薬疹情報第21版	皮膚科部
2025.4.4	中皮腫取扱い規約第2版	検査部　病理
2025.4.14	WHO Endocrine and Neuroendocrine Tumours,5/e,2025	検査部　病理
2025.4.28	今日の治療薬2025　解説と便覧	糖尿病・内分泌・生活習慣病科部
2025.5.20	骨関節	検査部　病理
2025.7.7	症例から学ぶ間質性肺炎の臨床・画像・病理	検査部　病理
2025.7.22	乳癌取扱い規約第19版	検査部　病理

新着図書リスト

年月日	雑誌名	部署
2024.4.2	コロとカラのびょういんえほん採血ってなあに？	医療安全
2024.4.11	WHO Head and Neck Tumours,2Vols,5/e,2024	検査部　病理
2024.4.30	腫瘍病理鑑別アトラス前立腺癌第2版	検査部　病理
2024.8.15	WHO Haematolymphoid Tumours,2Vols,5/e,2024 PartA	検査部　病理
2024.12.4	食道癌診療ガイドライン2022年版	消化器科部
2024.12.4	今日の治療薬2025　解説と便覧	救急部
2025.1.15	肺癌取扱い規約第9版	検査部　病理
2025.2.6	病理と臨床　Vol.43　No.1　消化管Ⅰ-上部消化管-	検査部　病理
	病理と臨床　Vol.43　No.2　消化管Ⅱ-下部消化管-	
2025.3.18	薬疹情報第21版	皮膚科部
2025.4.4	中皮腫取扱い規約第2版	検査部　病理
2025.4.14	WHO Endocrine and Neuroendocrine Tumours,5/e,2025	検査部　病理
2025.4.28	今日の治療薬2025　解説と便覧	糖尿病・内分泌・生活習慣病科部
2025.5.20	骨関節	検査部　病理
2025.7.7	症例から学ぶ間質性肺炎の臨床・画像・病理	検査部　病理
2025.7.22	乳癌取扱い規約第19版	検査部　病理

19. 医療社会事業相談内容（令和6年度）

区分			延件数
ア.取扱件数	年度実件数		1595
	継続実件数		71
	新規実件数	入院	1249
		外来	275
イ.年度延件数	年度延件数		6788
ウ.新規ケースの紹介経路	医師		446
	看護師		740
	リハビリ職		3
	その他院内職員		25
	本人		58
	家族・親戚縁者		107
	院外関係機関		120
	近隣者・知人		1
	医療チーム		20
	ソーシャルワーカー		3
エ.介入の時期	受診前		0
	外来		251
	入院前		8
	入院中		1246
	その他		19
オ.社会的背景	独居		210
	経済困窮		17
	家族疎遠・身寄りなし		15
	ハイリスク妊産婦		0
	精神疾患		35
	認知症		240
	家庭内暴力・虐待		0
	自殺企図		0
	無保険		2
	身元不明		1
	ホームレス		1
	外国人		1

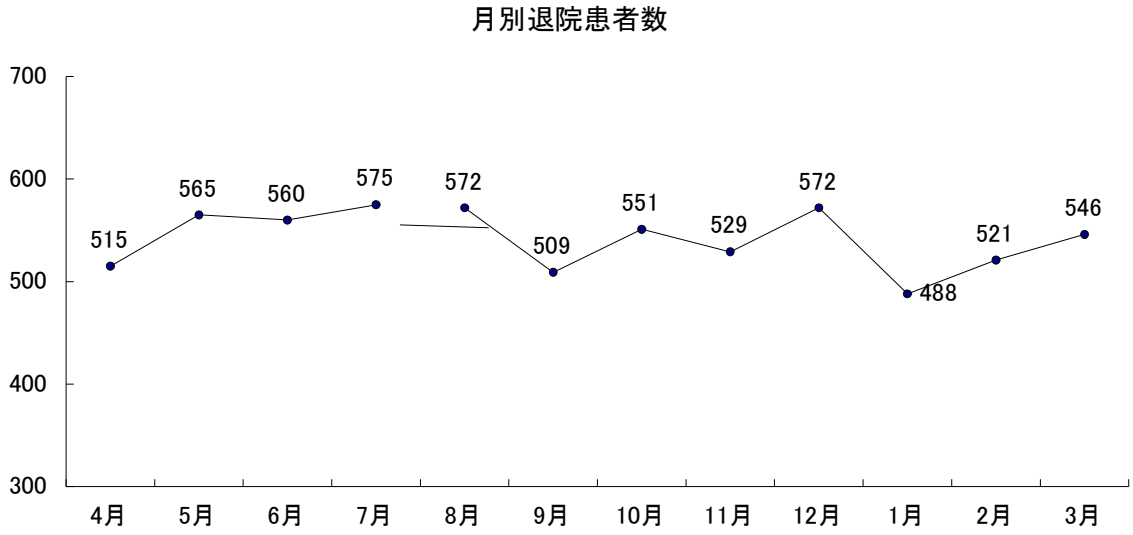
区分			延件数
キ.援助内容	受診・受療		149
	経済的問題		71
	制度活用		477
	入院療養生活		42
	退院支援		6041
	在宅療養・介護		198
	医療者との関係		4
	家族関係		13
	日常生活		15
	就労・就学		1
	身元保証・権利擁護		20
	死後対応		8
	その他		31
ク.援助方法	面談	本人	1663
		家族	1499
		知人・友人	14
	電話	本人	26
		家族	1914
		知人・友人	10
	訪問	家庭	1
		その他	12
	同行・同伴・代行		8
	連絡調整・院内		5211
	連絡調整・院外：面会		88
	連絡調整・院外：電話		5545
	連絡調整・院外：文書他　メール他		1963
	カンファレンス（院内職種のみ）		105
	カンファレンス（院外職種含む）		154
	合同カンファレンス（院内職種のみ）		72
	合同カンファレンス（院外職種含む）		97
ケ.チーム医療	退院支援チーム		5627
	認知症ケアチーム		1268
	患者サポートチーム		0
	リエゾンチーム		0
	緩和ケアチーム		0
	虐待対応チーム		0
	倫理コンサルテーションチーム		0
	その他		1472

Ⅴ　退院患者疾病統計

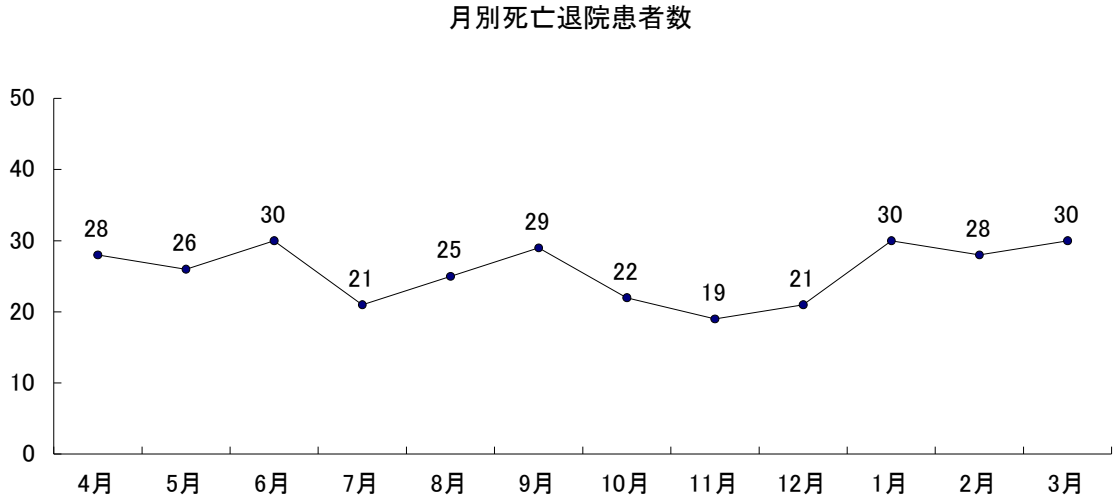
1. 月別退院患者数

性別＼月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男	282	296	322	326	313	268	324	284	329	278	294	303	3,619
女	233	269	238	249	259	241	227	245	243	210	227	243	2,884
合 計	515	565	560	575	572	509	551	529	572	488	521	546	6,503

（人）



（人）



2. 科別･月別退院患者数

診療科名＼月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
糖尿病・内分泌・生活習慣病科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
血液・腫瘍内科	35	37	28	37	37	31	36	40	40	36	25	30	412
緩　和　科	16	15	21	9	11	14	12	15	13	12	12	19	169
消 化 器 科	170	181	184	185	186	176	171	172	170	146	154	159	2,054
循 環 器 科	50	36	51	56	54	47	47	40	56	44	54	56	591
呼 吸 器 科	52	83	68	77	64	62	63	62	72	86	73	78	840
呼吸器外科	13	11	11	2	8	8	15	11	16	4	7	9	115
外　　科	41	41	43	31	38	39	44	36	45	36	47	41	482
整 形 外 科	59	61	50	72	56	50	59	49	68	53	70	67	714
産 婦 人 科	1	5	3	7	1	3	4	6	1	3	0	4	38
小　児　科	15	17	19	12	18	17	14	18	19	9	7	7	172
眼　　科	19	32	22	27	27	17	25	26	24	22	32	28	301
皮　膚　科	8	10	8	8	9	2	6	9	7	4	5	5	81
形 成 外 科	6	5	7	11	11	9	9	7	12	7	6	8	98
泌 尿 器 科	21	18	33	31	39	23	35	27	19	18	21	22	307
脳神経内科	9	13	12	10	13	11	11	11	10	8	8	13	129
合　　計	515	565	560	575	572	509	551	529	572	488	521	546	6,503

3. 科別・転帰別退院患者数

診療科名＼転帰	治癒	軽快	不変	悪化	死亡	検査	転医	その他	合 計
糖尿病・内分泌・生活習慣病科	0	0	0	0	0	0	0	0	0
血液・腫瘍内科	1	355	1	0	36	1	17	1	412
緩　和　科	0	26	0	0	142	0	1	0	169
消　化　器　科	676	1,179	0	0	47	78	74	0	2,054
循　環　器　科	2	477	0	0	22	24	66	0	591
呼　吸　器　科	16	570	0	0	42	165	46	1	840
呼吸器外科	0	105	0	0	4	1	5	0	115
外　科	0	456	3	0	11	0	12	0	482
整　形　外　科	0	507	0	0	3	1	202	1	714
産　婦　人　科	0	35	0	0	1	0	2	0	38
小　児　科	0	128	43	0	0	0	1	0	172
眼　科	0	300	0	0	0	1	0	0	301
皮　膚　科	1	71	0	0	0	2	7	0	81
形　成　外　科	0	97	1	0	0	0	0	0	98
泌　尿　器　科	1	229	0	0	0	76	1	0	307
脳神経内科	2	103	1	0	1	2	20	0	129
合　計	699	4,638	49	0	309	351	454	3	6,503

4. 疾病大分類別･性別退院患者数

疾病大分類	性別	患者数 男	患者数 女	患者数 合計	比率(%)	平均在院日数
Ⅰ	感染症および寄生虫症	91	143	234	3.6%	12.8
Ⅱ	新生物	1,413	841	2,254	34.7%	11.0
Ⅲ	血液および造血器並びに免疫障害	45	53	98	1.5%	17.5
Ⅳ	内分泌、栄養および代謝疾患	68	59	127	2.0%	9.0
Ⅴ	精神および行動の障害	1	2	3	0.0%	6.0
Ⅵ	神経系の疾患	79	57	136	2.1%	8.8
Ⅶ	眼および付属器の疾患	137	185	322	5.0%	1.8
Ⅷ	耳および乳様突起の疾患	18	34	52	0.8%	4.3
Ⅸ	循環器系の疾患	263	211	474	7.3%	17.1
Ⅹ	呼吸器系の疾患	469	310	779	12.0%	18.0
ⅩⅠ	消化器系の疾患	399	356	755	11.6%	10.1
ⅩⅡ	皮膚および皮下組織の疾患	29	31	60	0.9%	15.2
ⅩⅢ	筋骨格系および結合組織の疾患	106	109	215	3.3%	19.1
ⅩⅣ	尿路性器系の疾患	138	122	260	4.0%	11.4
ⅩⅤ	妊娠、分娩および産褥	0	0	0	0.0%	0.0
ⅩⅥ	周産期に発生した病態	0	0	0	0.0%	0.0
ⅩⅦ	先天奇形、変形および染色体異常	1	2	3	0.0%	4.0
ⅩⅧ	症状、徴候および異常所見	7	3	10	0.2%	3.6
ⅩⅨ	損傷および中毒	285	317	602	9.3%	14.4
ⅩⅩⅠ	保健サービス	0	0	0	0.0%	0.0
ⅩⅩⅡ	特殊目的用コード(原因不明の新たな疾患の暫定分類)	70	49	119	1.8%	13.8
合計		3,619	2,884	6,503	100.0%	12.4

5. 疾病大分類別・診療科別退院患者数

疾病大分類 ＼ 科名		糖内	血内	緩和	消化	循環	呼吸	呼・外	外科	整形	産婦	小児	眼科	皮膚	形成	泌尿	神内	合 計
Ⅰ	感染症および寄生虫症	0	11	2	113	12	31	1	8	1	0	17	0	33	0	2	3	234
Ⅱ	新生物	0	310	160	1,045	0	226	79	203	4	23	0	0	0	34	169	1	2,254
Ⅲ	血液および造血器並びに免疫障害	0	34	1	16	4	8	0	6	0	0	28	0	0	0	1	0	98
Ⅳ	内分泌、栄養および代謝疾患	0	2	0	55	10	9	0	5	0	0	40	0	0	0	0	6	127
Ⅴ	精神および行動の障害	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
Ⅵ	神経系の疾患	0	1	0	3	10	67	0	0	3	0	1	0	0	0	0	51	136
Ⅶ	眼および付属器の疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	296	0	26	0	0	322
Ⅷ	耳および乳様突起の疾患	0	3	0	15	2	1	0	0	0	0	2	0	0	1	0	28	52
Ⅸ	循環器系の疾患	0	0	2	17	417	7	0	1	3	0	4	0	2	0	0	21	474
Ⅹ	呼吸器系の疾患	0	28	2	146	55	425	29	3	8	0	73	0	1	0	0	9	779
ⅩⅠ	消化器系の疾患	0	2	2	499	7	1	0	238	2	0	1	0	0	1	1	1	755
ⅩⅡ	皮膚および皮下組織の疾患	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	3	0	36	18	1	0	60
ⅩⅢ	筋骨格系および結合組織の疾患	0	2	0	10	4	8	0	3	183	0	0	0	0	1	0	4	215
ⅩⅣ	尿路性器系の疾患	0	1	0	54	33	11	0	10	2	15	1	0	0	0	132	1	260
ⅩⅤ	妊娠、分娩および産褥	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ⅩⅥ	周産期に発生した病態	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ⅩⅦ	先天奇形、変形および染色体異常	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	3
ⅩⅧ	症状、徴候および異常所見	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
ⅩⅨ	損傷および中毒	0	5	0	27	12	7	5	5	508	0	2	4	9	15	0	3	602
ＸＸⅠ	保健サービス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ＸＸⅡ	特殊目的用コード（原因不明の新たな疾患の暫定分類）	0	13	0	53	23	28	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	119
合 計		0	412	169	2,054	591	840	115	482	714	38	172	301	81	98	307	129	6,503

6. 疾病大分類別・転帰別退院患者数

疾病大分類 ＼ 転帰		治癒		軽快		不変		悪化		死亡		検査		転医		その他		合計
		件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	
Ⅰ	感染症および寄生虫症	3	1.3%	189	80.8%	0	0.0%	0	0.0%	15	6.4%	12	5.1%	15	6.4%	0	0.0%	234
Ⅱ	新生物	640	28.4%	1,198	53.1%	4	0.2%	0	0.0%	185	8.2%	200	8.9%	27	1.2%	0	0.0%	2,254
Ⅲ	血液および造血器並びに免疫障害	0	0.0%	57	58.2%	22	22.4%	0	0.0%	11	11.2%	2	2.0%	6	6.1%	0	0.0%	98
Ⅳ	内分泌、栄養および代謝疾患	3	2.4%	94	74.0%	21	16.5%	0	0.0%	1	0.8%	0	0.0%	8	6.3%	0	0.0%	127
Ⅴ	精神および行動の障害	0	0.0%	2	66.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	3
Ⅵ	神経系の疾患	0	0.0%	67	49.3%	1	0.7%	0	0.0%	1	0.7%	58	42.6%	9	6.6%	0	0.0%	136
Ⅶ	眼および付属器の疾患	0	0.0%	321	99.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	322
Ⅷ	耳および乳様突起の疾患	3	5.8%	49	94.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	52
Ⅸ	循環器系の疾患	2	0.4%	369	77.8%	0	0.0%	0	0.0%	23	4.9%	25	5.3%	55	11.6%	0	0.0%	474
Ⅹ	呼吸器系の疾患	16	2.1%	607	77.9%	0	0.0%	0	0.0%	47	6.0%	18	2.3%	89	11.4%	2	0.3%	779
ⅩⅠ	消化器系の疾患	15	2.0%	676	89.5%	1	0.1%	0	0.0%	13	1.7%	25	3.3%	25	3.3%	0	0.0%	755
ⅩⅡ	皮膚および皮下組織の疾患	0	0.0%	56	93.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	6.7%	0	0.0%	60
ⅩⅢ	筋骨格系および結合組織の疾患	0	0.0%	179	83.3%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.9%	1	0.5%	33	15.3%	0	0.0%	215
ⅩⅣ	尿路性器系の疾患	4	1.5%	240	92.3%	0	0.0%	0	0.0%	4	1.5%	0	0.0%	12	4.6%	0	0.0%	260
ⅩⅤ	妊娠、分娩および産褥	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
ⅩⅥ	周産期に発生した病態	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
ⅩⅦ	先天奇形、変形および染色体異常	0	0.0%	3	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3
ⅩⅧ	症状、徴候および異常所見	0	0.0%	4	40.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	60.0%	0	0.0%	0	0.0%	10
ⅩⅨ	損傷および中毒	4	0.7%	422	70.1%	0	0.0%	0	0.0%	4	0.7%	2	0.3%	169	28.1%	1	0.2%	602
ⅩⅩⅠ	保健サービス	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
ⅩⅩⅡ	特殊目的用コード（原因不明の新たな疾患の暫定分類）	9	7.6%	105	88.2%	0	0.0%	0	0.0%	3	2.5%	0	0.0%	2	1.7%	0	0.0%	119
合計		699	10.7%	4,638	71.3%	49	0.8%	0	0.0%	309	4.8%	351	5.4%	454	7.0%	3	0.0%	6,503

997. 科別死亡数および剖検数

科名	死亡数（人）	剖検数（人）	剖検率（%）
糖尿病・内分泌・生活習慣病科	0	0	0.0%
血液・腫瘍内科	37	3	8.1%
緩和科	141	0	0.0%
消化器科	45	1	2.2%
循環器科	21	1	4.8%
呼吸器科	44	1	2.3%
呼吸器外科	4	0	0.0%
外科	12	0	0.0%
整形外科	3	0	0.0%
産婦人科	1	0	0.0%
小児科	0	0	0.0%
眼科	0	0	0.0%
皮膚科	0	0	0.0%
形成外科	0	0	0.0%
泌尿器科	0	0	0.0%
神経内科	1	0	0.0%
救急外来	1	0	0.0%
合計	310	6	1.9%

＊ 救急外来患者を含む為、退院患者死亡数（転帰）とは異なる

Ⅵ　診療科・部門別活動実績

総 合 診 療 科

＜スタッフ＞

大中玄彦（部長）：総合診療科

（認定内科医・指導医、循環器専門医、老年病専門医・指導医）

● 総合診療科の役割

この診療科の役割は紹介状を持たずに初めて当院を受診され、受診すべき診療科がわからない患者さんや、総合診療科あての紹介状をお持ちの患者さんを診療する外来です。診察の結果、専門診療科の受診が必要と判断されれば適切な診療科へご紹介いたします。紹介状を持参された患者さんの場合でも、受診科を特定できない場合には、当科を受診した上で受診科を決めさせていただいています。

● 総合診療科の特色

高槻赤十字病院には 20 を超える診療科があり、高度の専門知識、診療技術を備えた医師が多数在籍しております。当院の診療体制を十分に活用していただけますよう、それらの医師への橋渡しを行うための診療科とご理解ください。

なお、当科では診療科の性質上、原則として外来での継続診療や入院による診療は行っておりません。これらが必要な場合は、院内外の適切な診療科をご紹介いたします。

緩 和 ケ ア 科

＜スタッフ＞

橋本　典夫（緩和ケア科部長）

金村　誠哲（緩和ケア科副部長）

スタッフに関しては平成 30 年 9 月より 2 名体制となっている。

＜令和 6 年度活動実績＞

日本ホスピス緩和ケア協会による「ホスピス緩和ケア病棟における質向上の取り組み認証制度」に認定されており継続的に施設評価されている。また日本緩和医療学会の認定研修施設にも引き続き認定され研修教育活動も継続している。

看護スタッフ欠員のため令和 3 年 9 月より 20 床運用から 12 床運用に減少していたが令和 6 年 11 月から 20 床運用に戻った。20 床運用再開後は毎月の病床利用数は前年度を超えた状況となった。

当院緩和ケア病棟は独立型であり全室個室の特徴を生かし、時間や人数制限はあるが面会可能としており患者さんご家族さんのケア向上に役立った。

学会・研究会活動としては、大阪府指定がん診療連携拠点病院として緩和ケア研修会にファシリテーターとして市立ひらかた病院、星が丘医療センター、佐藤病院の緩和ケア研修会に参加した。

また大阪府指定がん診療連携拠点病院として三島医療圏における三島圏域がん研究会の幹事としての活動を行った。

＜令和７年度活動目標＞

できるだけ多くの患者に良質な緩和ケアを提供するため、以下の目標を掲げる。

1．緩和ケア病棟の病床稼働率を維持する

2．待機患者、待機日数を短縮する

3．地域の医師と連携を図り、バックアップの役割を担う

4．学会・研究活動の充実

5．緩和ケア研修会の開催

血 液・腫 瘍 内 科

＜スタッフ＞

前迫　善智（副部長）　：血液内科
岡田　睦実（副部長）　：血液内科
安齋　尚之（非常勤医師）：血液内科

＜令和６年活動実績＞

病床数	30 床
入院症例数	169 例（新患 80 例）
悪性リンパ腫	56 例（新患 18 例）
急性白血病	29 例（新患 14 例）
多発性骨髄腫	18 例（新患 10 例）
骨髄異形成症候群	13 例（新患　5 例）
再生不良性貧血	6 例（新患　5 例）
特発性血小板減少性紫斑病	14 例（新患　7 例）
その他	27 例（新患 21 例）
造血幹細胞移植件数	1 件
自家移植	1 件
同種移植	0 件（臍帯血 0 件、血縁 0 件）

当科では、白血病・リンパ腫・骨髄腫などの造血器腫瘍の他、貧血・血小板減少症などの診療を行っており、血液内科医に加え、がん化学療法認定看護師をはじめとした看護スタッフ、がん専門薬剤師、臨床工学技士、理学療法士、臨床心理士等がチームとなり安心して治療に専念できる環境を整えています。

造血器疾患の中には同種造血幹細胞移植以外に根治の方法が無い方も多く可能な範囲での移植治療を提供できるよう考慮しています。当院の特色として GVL 効果と生着面の安全性から主に臍帯血移植治療を施行しています。一般には移植不適応とされる 70 歳以上の高齢者の方にも全身状態が移植に耐えうると判断すれば移植治療を実施しています。高齢者の臍帯血移植に関しては全国的にも有数の症例数になります。他院で移植治療を断念された患者さんが紹介されるようにもなってきています(2024 年度は休止中です)。

難治性悪性リンパ腫への根治治療となりうる CAR-T 治療や二重特異性抗体治療の適応の判断と、CAR-T 実施施設への紹介(主に京大病院)症例も徐々に増加してきています。

また、積極的な治療の対象となりにくい患者さんには、個々の症例に基づいて、初期の段階から緩和的治療を含めてきめ細やかな対応を心掛けています。

循 環 器 科

＜スタッフ＞

木澤　　隼（部　長）：循環器内科（認定内科医、循環器専門医）
土居　裕幸（医　師）：循環器内科（認定内科医、循環器専門医）
平野　玄起（医　師）：循環器内科（認定内科医、循環器専門医）
森　　京子（医　師）：循環器内科（認定内科医、循環器専門医）
沼田ありさ（医　師）：循環器内科（認定内科医）

循環器疾患全体を扱い、高血圧、脂質代謝異常症などの生活習慣病から急性心筋梗塞、急性心不全、致死性不整脈疾患、心筋炎などの急性疾患まで幅広い疾患を診療し、一般的な生理検査機器や造影検査はもちろんのこと非侵襲的に冠動脈疾患や心筋疾患の評価が可能な RI 検査、80 列 CT 検査、MRI 検査機器を揃えている。さらに心筋梗塞や急性心不全などの緊急を要する患者の治療に対してはコメディカルスタッフの協力のもと 24 時間・365 日体制で診療にあたっている。また、当院は心臓リハビリテーション実施施設であり、年間 226 症例の心臓リハビリを介入し、病気の再憎悪で再入院の予防に努めている。外科領域においても大阪医科大学心臓血管外科との合同カンファレンスを行い重症患者の治療方針につき検討し、患者さんにとっての最適な治療を提供している。

＜令和６年度活動実績＞

外来患者延数　11,788 人　　入院患者延数　10,493 人

心臓カテーテル検査・処置総数	：	89 件
冠動脈インターベンション治療	：	95 件
ペースメーカー植込み術（交換含む）	：	29 件
末梢血管形成術（含む透析シャントＰＴＡ）	：	６件
ＩＡＢＰ施行件数	：	２件
ＰＣＰＳ	：	０件
心臓リハビリテーション	：	3,788 件

消化器科・消化器内視鏡センター

<部　　長>

神田 直樹（消化器内科部長・消化器内視鏡センター長）（副院長）

<スタッフ>

玉田　尚（院長）
吉岡　拓人（副部長）
松村　大志郎
中森　翔平
奥野　岳
矢倉　伊織
髙木　理沙
平井　美帆
山本　悠生
二野宮　功大

<異　　動>

令和 6 年 4 月　二野宮　功大（着任）
令和 6 年 4 月　山本　悠生（着任）
令和 6 年 3 月　森　英亜（退任）

<令和 6 年度活動実績>

当院消化器内科は、日本消化器病学会指導医 3 名・専門医 7 名、日本消化器内視鏡学会指導医 3 名、日本肝臓病学会専門医 5 名を含む医師 11 名で、救急含めほとんどの処置に対応できる体制となっています。

当科では ESD を数多く施行しており、施行数は令和 7 年 3 月までに胃・大腸・食道を合わせて 1663 例（胃 1012、大腸 512、食道 138、十二指腸 7）となっています。これは北摂屈指の施行数で、10cm を超える病変や、食道の全周性病変などの ESD も行っています。最新の内視鏡システム Olympus X1 を導入し、拡大内視鏡、NBI、TXI、超音波内視鏡などで的確な診断を行い、処置用にマルチベンドスコープや短湾曲細径大腸内視鏡 290TI なども有し、安全かつ迅速に ESD などが施行できる設備が整っています。

当科では大腸 ESD は特に得意としており、迅速に施行できる体制であるため、EMR で切除可能か迷う病変に対しては、ESD スタンバイで EMR を試みて、EMR が困難な場合には ESD に移行するなど、常に患者さんに最適な治療を施行することが可能となっています。

膵胆管の癌に対しては、内視鏡下の擦過細胞診やステント留置を積極的に行っており、EUS 下の穿刺

細胞診も可能です。また、EUS-FNA による膵炎後の仮性嚢胞のドレナージなど先端治療も行っています。肝臓がんの治療では、TACE(Transcatheter Arterial Chemo-Embolization=肝動脈化学塞栓術)、Beads TACE、 RFA(radiofrequency ablation=ラジオ波焼灼術)、免疫チェックポイント阻害薬を含む抗がん剤治療を症例に応じて適切に治療を行っています。また、人工胸水・腹水下 RFA を導入し、これまで RFA が困難であった横隔膜下直下や、腸管に接した肝臓がんに対しても RFA が可能になっており、令和 6 年は人工胸腹水 RFA を 8 例行っています。また、大腸癌肝転移症例や肝表の癌に対する腹腔鏡下 RFA なども行っています。

消化器癌の化学療法は、日進月歩で、様々な薬剤、レジメンが開発されており、切除不能消化器癌の平均生存期間も飛躍的に延長しています。 当科では、外来化学療法室と協力し、免疫チェックポイント阻害薬を含め消化器癌の化学療法を積極的かつ安全に施行しています。さらにがん遺伝子検査が必要な場合は、がんゲノム医療中核拠点病院とも連携しています。

また、近年増加している消化器疾患として炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎・クローン病）があり、生物学製剤の使用が急増するなど治療法が著しく発展している分野です。当科では、従来の 5-ASA、ステロイド、免疫調整薬に加えて、さまざまな生物学的製剤、顆粒球除去療法などの治療を、専門医が安全かつ効果的に行っています。

また、当院は教育基幹病院ですが、侵襲的処置には必ずその分野のスペシャリストが立ち会うことで医療の質を担保しています。

＜令和 6 年度患者数＞

新規入院患者数 2,063 人、入院患者延数 18,482 人、外来患者延数 15,429 人、

＜令和 6 年度検査・処置症例数＞

	令和 6 年度	開始からの累計
上部消化管内視鏡検査	3625	
下部消化管内視鏡検査	1529	
胃の内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)	59	1012
大腸の内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)	38	512
食道の内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)	15	138
大腸ポリープ切除(polypectomy/EMR)	584	
内視鏡的逆行性膵胆管造影(ERCP)/ 内視鏡的総胆管結石除去/内視鏡的胆管 ドレナージ・ステント留置	157	
超音波内視鏡	111	
内視鏡的止血術	77	
カプセル内視鏡	9	
ダブルバルーン内視鏡	16	

腹部超音波検査	2494	
腹部造影超音波検査	29	
肝動脈化学塞栓療法	24	
肝がんのラジオ波焼却療法	12	

<令和 7 年度活動目標>

新規入院患者数・検査・処置数・化学療法数の増加を図り、それぞれの領域について質の高い医療を目標とする。当院は ESD を積極的に行っており、特に実施施設基準の必要な大腸 ESD も施行可能基準を満たしており、ますます症例数の増加を図っていく。また、消化管では、最先端の Olympus Lucera Elite シリーズ内視鏡により、精緻な診断・治療を行い、胆道系処置についても、超音波内視鏡ガイド下穿刺細胞診(EUS-FNA)が施行可能となり、症例数の増加を図っていく。また、最新の経鼻内視鏡 290N により「楽にうけられる上部消化管内視鏡」をアピールし、胃がん検診の上部消化管内視鏡の症例数も増加させるよう努める。一方、カプセル内視鏡・バルーン小腸内視鏡の症例数も増やし、小腸病変の診療の充実も図っていく。さらに、近年ニーズが高く、下部消化管内視鏡検査のオープン検査を増やしていく予定である。

また、消化器癌の化学療法の分野でも、様々な薬剤、レジメンが開発されており、特に免疫チェックポイント阻害剤の適応が広がっており、免疫関連副作用の対応も多職種連携して施行していく。肝臓癌治療においては、肝機能に合わせて DEB/conventional TACE を使い分け、肝機能悪い症例に対する A ポート造設した上で効果が報告されている New FP 療法を導入していく。また肝硬変に伴う脾機能亢進、門脈圧亢進症、胃静脈瘤に対する IVR 治療として部分的脾塞栓や BRTO も導入していく。

神 経 内 科

＜スタッフ＞

中川　朋一（部長）

小松　研一（非常勤医師）

＜令和６年度活動実績＞

＜臨床＞

令和 6 年度の入院症例数は 128 例で、入院延べ患者数は 2045 日です。また外来延べ患者数は 3575 人です。

脳梗塞症例については、緊急の血栓溶解療法の適応でない症例について入院加療を行った。また地域連携パスの一環として、脳梗塞パスも行い地域医療にも携わり、貢献している。

その他、パーキンソン病の精査や薬剤調整入院、ギラン・バレー症候群、てんかんなどの緊急入院にも対応している。

＜研修＞

高齢化社会に向けて、近い将来脳梗塞は神経内科専門医のみならず内科系一般医も診療にあたる必要が出てくるため研修の一環として若手医師に担当としていただくシステムをとっている。

＜令和７年度活動目標＞

入院症例数のさらなる増加のため、外来や救急から積極的に入院を勧める方針です。パーキンソン病の持続皮下注療法も可能となっており、パーキンソン病診療の充実を図っていく予定です。

呼吸器外科（呼吸器センター）

＜スタッフ＞

進藤　友喜：緩和ケア講習会修了、Certificate of da Vinci System Training As a First Assistant、認定ICLSコース修了

＜特　　色＞

呼吸器センターとして呼吸器内科と協力しながら診断から治療までを包括的かつ迅速に行っています。手術症例ではクリニカルパスを導入し、医療安全の向上や業務の効率化を図っています。手術は肺癌症例を含め完全胸腔鏡下手術を基本としています。また手術時の縦隔鏡検査や胸腔洗浄細胞診により、正確な病期診断・適切な治療方針の決定に努めています。術前～術後にはリハビリ科に呼吸リハビリを行っていただき、呼吸機能の改善・術後合併症の予防に努めています。当院は呼吸器外科専門医制度の関連施設、大阪府癌拠点病院であり、肺癌の治療では手術はもとより術前導入化学放射線治療や術後補助化学療法、再発癌に対する集学的治療も積極的に行い、治療成績の向上に努めています。

＜令和６年度活動実績＞

令和 6 年度は COVID-19 の影響は少し落ち着いた印象で、院内全体で見ても活気が戻ってきました。手術は大阪医科薬科大学から応援に来ていただいており、全体の 90％以上を完全胸腔鏡下で行うことが出来ました。全手術件数は 98 件（前年度 99 件）、全麻が 98 件でした。手術の内訳は肺癌 51 件、縦隔腫瘍 8 件、気胸 8 件などでした。

＜令和７年度の目標＞

令和 7 年 7 月より新たに呼吸器外科医師がさらに一名赴任し二人体制となる予定です。つきましては、これまでよりも一層スピーディに、地域医療機関との連携を強化し呼吸器内科と協力しながら地域の呼吸器（特に肺癌）診療のニーズに応えていきたいと思います。手術は引き続き完全胸腔鏡下手術を積極的に行い、より低侵襲で安全な術式を追求します。新しいデバイスの導入や更なる術式の改良に取り組みたいと思います。呼吸器外科診療も急速に進歩していますので、EBM を基本としながらも最新の知見を速やかに導入し、患者さんに最適な医療を提供していきます。

呼吸器科（呼吸器センター）

＜スタッフ＞

北　英夫（呼吸器センター長）S62 卒

京都大学臨床教授。京都大学医学博士

日本内科学会認定内科専門医・指導医

日本呼吸器学会専門医・指導医

日本アレルギー学会専門医・指導医

日本喘息学会専門医

日本呼吸器内視鏡学会専門医・指導医

日本癌治療認定機構がん治療認定医・

日本呼吸ケアリハビリテーション学会評議員

日本結核病学会　代議員

深田寛子（副部長）

日本内科学会総合内科専門医・指導医　日本呼吸器学会専門医

日本癌治療認定機構がん治療認定医、ICD

野村奈都子（副部長）

日本内科学会認定内科専門医　呼吸器学会専門医、

三﨑裕美子（後期研修医）

日本内科学会専門医

中村保清（救急部長兼任）

日本内科学会認定内科専門医　日本呼吸器学会専門医

日本アレルギー学会専門医　日本呼吸器内視鏡学会指導医　ICD

＜非常勤医＞

山本　晴香（後期研修医）

日本内科学会専門医

＜令和６年活動実績＞

令和６年度はスタッフが２名減員となり、それぞれの負担増が問題となったが、その中でも気管支鏡検査のクライオバイオプシーを取り入れ、間質性肺炎の治療や

肺癌の診断に生かすべく根付かせることができた。ちなみに北摂地域では阪大病院と当院のみが実施可能な施設となっている。

外来は月曜から金曜までで、気管支鏡検査は火曜日、金曜日の午後２時から行っており、ＣＴガイド下生検も月曜日の午後３時から行っている。月に１回、火曜日に近隣の医師と合同で公開カンファレンスを実施している。

・呼吸器科における外来患者数(前年)

１日当たり平均　　49.2 人／日(52.0)　×外来診察日：週　５　日日間

・呼吸器科入院病床数・患者数・平均在院日数（前年）

呼吸器科入院病床数（定数）　38　　床

実際の入院患者数(平均)30.4 人／日（42.7）

平均在院日数　12.7 日(14.2)

新入院　782（957）

・気管支鏡検査数　　138　件（200）

令和６年度は当科はスタッフの異動があり、補充できなかったため、マンパワー不足となり、患者数も減少した。しかし、令和７年度は２人増員となり、この問題は解消されている。

肺癌診療については　、大阪府がん診療拠点病院として他科や他職種と連携しながら治療効果と生活の質（QOL）の両立にも取り組んでいる。近年、PD-1 阻害薬、各種分子標的薬などの次々と新規薬剤が上市され、この分野の進歩は著しい。これらの薬剤を確実に安全に使用するため、副作用マネージメントを含めた院内クリニカルパスや薬剤師外来など他職種や他科とも連携して副作用対策にあたっている。また、遺伝子パネル検査についても、京都大学の野溝助教（当院非常勤医）との連携によりよりスムーズにスピーディに対応可能となった。組織検体を用いての他、血液によるパネル検査が可能となっており precision medicine を実践している。その他、気道閉塞を生じた手術不能の肺がんや食道がんに対して金属ステントの留置により QOL の改善を図っている。また、高槻市の肺がん検診の読影会への参加や多施設共同臨床研究にも積極的に参加をしている。

肺がん治療において早期からの緩和ケアが必須のものとなっている。がん診療に携わる医師のため緩和ケアの教育プログラムは全国で実施され、当科スタッフも

全員修得済みである。診断時よりがん相談センター、院内緩和ケアチームと連携し、疼痛管理を中心とした支持療法のみならず、全人的苦痛に対応すべく取り組んでいる。また、患者さんのご希望に応じて、緩和ケア病棟の利用は言うまでもなく、社会ケースワーカーや退院調整看護師、地域医療連携室、訪問看護ステーション等と、地域の診療所と連携した在宅管理も行っており、終末期のへの体制も整備されてきている。

また、間質性肺炎については前述したクライオバイオプシーを R6 年 6 月から導入。20 例以上について安全に実施しえた。従来間質性肺炎については外科的肺生検が望ましいとされていたが、一部の施設のみで行われ、一般臨床では画像と採血のみで治療を判断されてきた。気管支鏡検査で施行できるクライオバイオプシーに登場により、より低侵襲で肺の病理組織を検討できることとなり、膠原病関連肺や過敏性肺臓炎など特発性とは治療方針が異なる疾患につき鑑別が可能となり、抗炎症治療や抗原回避、抗繊維化薬などの適応判断の助けとなっている。他院の肺病理医にも診断に参加していただいたり、また、病理組織を他院での検討会に持参してもらったり、より正確な診断に努めている。

その他の多彩な呼吸器内科疾患についても確立された Up to date な治療を心がけている。気管支喘息患者には吸入ステロイドを中心とした治療を行い、入院の必要な例にはクリニカルパスを用いた教育指導を行い、自己管理を目指している。外来では当院独自の外来喘息教育プログラムを作成し、看護師による　吸入指導とピークフローメータを用いた自己管理の指導を行い、更に吸入指導については近隣の薬局とも連携して行っている。また、早くからアレルギー性気道炎症の指標としての呼気ＮＯ測定を用いて症状だけに頼らず、客観的指標による喘息コントロール状態の評価に努めている。また、従来の吸入薬でコントロール不良の重症喘息にて対しては積極的に omalizumab や抗 IL5 抗体薬や抗 IL4/13 抗体薬、抗 TSLP 抗体などの分子標的薬を使用している。近年の治療目標とされる臨床的緩解はこれらバイオ製剤を用いる難治例に対して約 1/3 が達成している。

外来初診で多い遷延性咳そうには診断のアルゴリズムを作成し、咳喘息の他、逆流性食道炎、百日咳などの早期発見に留意している。また、先述したように咳嗽、呼吸困難、胸痛などを呈するコロナ罹患後症状についても各科の協力を得ながら、積極的に対応している。また、新規の鎮咳薬 P2X3 受容体拮抗薬の使用例も増えている。

COPD を中心とした、慢性呼吸器疾患には肺機能検査や CT による早期発見と禁煙外来との連携による、禁煙指導、気管支拡張薬を中心とした治療を行っている。

進展期にはリハビリテーション科、栄養科、薬剤部等とのチーム医療による、包括的リハビリテーションプログラム入院を行い、さらに、地域の診療所との連携による継続を図っている。慢性呼吸不全における在宅酸素療法は 80 例程度、在宅人工呼吸療法 26 例（NPPV を含む）、気管支喘息クリニカルパス入院例、慢性呼吸不全患者に対する包括的呼吸トレーニングプログラム入院等を行っている。R7 年度からは重症の肺気腫/COPD 症例にたいする新たな低侵襲治療として気管支鏡下で行う気管支バルブ治療を滋賀医科大学と連携にて導入を検討していく予定である。

また、当院では慢性疾患専門看護師による HOT 患者を中心とした看護外来、ほっとひといき外来を開始し、慢性呼吸器疾患患者に対する、より包括的できめ細かな対応を行っている。HOT 患者会である HOT いきいき教室はパンデミックにより中断しているが、今後再開を検討している。

また、ハイフローネーザルセラピー（HFNC）の慢性 II 型呼吸不全を呈する COPD に対する在宅長期使用の多施設共同 RCT（FLOCOP 試験）に当院も 2016 より参加し、この結果をもとに令和 4 年 4 月より在宅ハイフローセラピーが保険収載された。また、在宅ハイフローセラピーの使用症例も数例経験している。

睡眠時無呼吸症候群に対しては、個室使用による PSG 検査、簡易睡眠モニターを実施し CPAP 治療、大阪大学及び大阪医科薬科大学口腔外科と連携による口腔内装具による治療を行っている。また、循環器科と協力して心不全に伴う睡眠呼吸障害に対し、ASV(assisted-servo ventilation)による最新の呼吸管理を行っている。睡眠時無呼吸症候群の夜間睡眠ポリグラフ検査（PSG）　年間 80 例、鼻 CPAP 年間 20 例程度導入している。CPAP の管理においては遠隔モニタリング加算を積極的に算定しており、遠隔管理により２－３か月毎の受診と受診のない月には遠隔モニタリングにより使用状況をチェックし、アドヒランス悪化時には電話連絡にて指導を行っており、受診間隔を伸ばしながら良好なアドヒランスを維持するように努めている。また、登録医への逆紹介も積極的に行っている。

そのほか、あらゆる呼吸器感染症について対応している。肺結核についてはパンデミック中は受け入れていなかったが、５類移行にともないモデル病床(３床)による受け入れを再開している。　また、近年著増している非結核性抗酸菌症については従来の薬物治療のみならず、栄養や環境に留意した管理、適応のある症例については手術治療も併用している。また、ALIS（吸入アミカシンリポゾーム製剤）についてもトレーニングパスを作成し既に数例　使用している。

急性呼吸不全、急性肺障害、慢性呼吸不全の急性増悪等に対しては、HCU において集中的な呼吸管理を行っており、挿管人工呼吸管理においては肺保護を考慮した低換気量による人工呼吸管理やリクルートメント手技などを行っている。また、問題となっている VAP(人工呼吸関連肺炎)対策として NPPV（non-invasive positive pressure ventilation）による呼吸管理のみならず、陰圧式の人工呼吸器を用いての管理などを試みている。また、最新の酸素療法である Nasal High Flow therapy もいち早く導入し、QOL に留意した酸素化の改善が可能となった。また、敗血症などにともなう急性肺障害や肺線維症などの間質性肺炎の急性増悪にたいしては、従来の薬物治療のみならず、血液濾過によるエンドトキシン吸着療法(PMX-DHP)や ECMO を行い、救命率の向上を目指している。

市中肺炎、院内肺炎については診療ガイドラインを踏まえながらも地域の病院として個々の症例に応じた診療と当院での薬剤感受性を考慮した適切な抗菌剤の使用に努めている。

また、当科は京都大学の学生臨床実習の協力科であり、年間数名の学生実習とその他希望により他大学からの実習を数名受け入れている。

当科は研修医にとっては非常に実践的な環境であると考えられる。豊富な症例に対応していただき、基本的な診療技術と基本的治療を経験してもらい、多彩な呼吸器疾患に対応しなくてはならない呼吸器内科医として成長できる環境を提供できると考えている。また、日本呼吸器学会、日本アレルギー学会、日本内科学会、日本呼吸器内視鏡学会の認定施設として総会、地方会での症例報告、研究発表等を行っている。大阪府内、北摂地域を中心とした多くの研究会や講演会での世話人、座長、講演などを務めている。

＜令和７年度活動目標＞

今年度は 2 名のスタッフ増員となる予定であり、患者受け入れを増やしていきたい。 コロナ対応も引き続き行っていくが、同時にコロナ以前の感染症の再流行、慢性呼吸器疾患の増悪の再増加などの、後遺症を含めたコロナ関連への対応と、肺癌、喘息、非結核性抗酸菌症、間質性肺疾患、慢性呼吸不全など新たな診断治療に対してもしっかりと取り組んでいきたい。

小 児 科

＜スタッフ＞

河上千尋　　常勤・部長
江口英希　　常勤・副部長兼集中治療担当副部長
古川福実　　名誉院長・皮膚科
玉井　浩　　非常勤・神経
尾崎智康　　非常勤・循環器
中村道子　　非常勤・アレルギー

＜令和６年活動実績＞

こどもたちのからだとこころの健康を支援することをモットーに、北摂三島地域の基幹病院として小児科全般の診療に当たっています。三島地区小児救急医療機関として、救急車の受入れと二次救急待機（毎水曜日）を行っています。実績は下記の通りです。

① 一般外来：月～金曜日午前
② 専門外来：予約制。
乳幼児健診　月曜日午後
神経発達　　第 4 月曜日午後（玉井）
予防接種　　火曜日午後
アレルギー　水曜日午後（中村）
循環器　　第２・４水曜午後（尾崎）
アトピー　　第２・４金曜午後（古川・中村）

＜令和６年度実績＞

外来患者数：2280 人（1 日あたり平均 9.4 人）
入院患者数：172 人（紹介 41、救急 4、一般 86、予定 42）
平均在院日数：3.7 日

＜学会発表＞

1，河上千尋　　発熱外来のリフォーム例　近畿小児科学会
2，濱家千絵　河上千尋　　児童自立支援施設入所者への移行期医療　近畿小児科学会

3, 上原佑介　河上千尋　　腸骨筋出血をきたした血友病 A の 1 例　近畿小児科学会

4, 河上千尋　　発熱外来の設計とデザイン　日本小児科医会総会フォーラム

＜論　文＞

1, 河上千尋　松下めぐみ　小林稔弘　玉田尚
発熱外来のデザイン～中規模病院でのリフォーム例～
日本医師会雑誌　153：1225-9：2025

2, 河上千尋　新田雅彦　芦田明
ポストコロナの発熱外来～行動経済学的アプローチ～
インフェクション・コントロール　34：286-91：2025

3, 河上千尋　上原佑介　須永修平　竹谷英之　芦田明
定期補充療法中に腸骨筋出血をきたした血友病 A の 1 例
小児科　65：616-20：2025

4, 河上千尋　崎岡佳英　濱家千絵　鈴木富雄　芦田明
児童自立支援施設入所者への移行期医療の経験
小児科　65：521-5：2025

＜令和７年度活動目標＞

地域の中核病院として、
急性疾患：紹介と救急に応え入院患者数を増やす。
慢性疾患：全人医療の向上を目指して連携を図る。
移行支援：就学就業の支援や移行医療に取り組む。
診療研究：経験をまとめ有益な情報を発信する。
教育指導：学生・初期研修医等の教育指導を行う。

(河上千尋　記)

外科_消化器外科

<スタッフ>

平松昌子（医監）　大阪医科大学臨床教育教授・非常勤講師
日本外科学会理事・専門医・指導医
日本消化器外科学会専門医・指導医
日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
日本臨床外科学会幹事、評議員
日本消化器内視鏡学会専門医
日本食道学会　評議員・食道科認定医・食道外科専門医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医・暫定教育医
日本腹部救急医学会評議員・教育医・認定医
日本胸部外科学会専門医
ISDE(International Society of Diseases of Esophagus)member
OESO member
ICD 制度協議会 ICD(感染制御ドクター)他

小林稔弘 (副院長)　日本外科学会　専門医
日本乳癌学会乳腺専門医
日本臨床外科学会会員
日本消化器外科学会会員
日本癌治療学会会員
マンモグラフィ検診精度管理中央委員会
検診マンモグラフィ読影認定医

恒松一郎 (消化器外科部長)
日本外科学会専門医
日本消化器外科学会専門医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
日本外傷診療研究機構 JATEC 修了
ICD 制度協議会 ICD(感染制御ドクター)

河合俊哉 (医師)

深山華子 (医師)

生内寛人 (医師)

＜令和６年度活動実績＞

当院では、上部・下部消化管の悪性疾患に対して腹腔鏡下手術を主に行っています。良性疾患である胆石症、鼠径ヘルニア、虫垂炎などには単孔式腹腔鏡下手術を標準術式としています。

食道がん治療

食道外科専門医による腹臥位での完全胸腔鏡・腹腔鏡下食道切除再建術を実施しています。この手法は北摂地域では数少ない高度な技術です。食道胃接合部のがんに対しても低侵襲かつ根治性の高い手術が可能となっています。

胃がん治療

早期胃がんに対しては、幽門側胃切除・噴門側胃切除・胃全摘を問わず、切除・郭清から再建までを完全腹腔鏡下で行っています。高度進行胃がんには積極的な拡大手術や術前補助療法を併用し、根治性の向上を目指しています。

大腸がん治療

大腸がんの多くを腹腔鏡下手術で行うことで、入院期間の短縮を実現しています。ストマ外来では、専門医と皮膚・排泄ケア認定看護師が連携してケアを提供しています。

その他の治療

- 肝がんに対して積極的に肝切除を実施
- 膵がんに対しても難易度の高い膵頭十二指腸切除を実施
- 胆石症や鼠径ヘルニアでは単孔式腹腔鏡手術を採用し、ほとんど傷のない治療を提供

最新技術の導入

4K/3D/IR(赤外光)内視鏡などの最新技術を導入し、質の高い医療を提供しています。化学療法においても、最新のエビデンスに基づいた治療を外来化学療法室と連携して実施しています。

鼠径ヘルニア治療の特徴

当院では単孔式 TEP 法（腹膜前到達法）を採用し、腹壁への損傷を最小限に抑えています。5mm ビデオスコープによる腹腔内観察を行い、ヘルニアの分類、対側ヘルニアの有無、メッシュの展開状況を確認することで、再発防止に努めています。さらに、セルフグリップ機能を有するメッシュを導入し、術後の疼痛軽減も図っています。

がん診療への取り組み

当院は大阪府がん診療拠点病院として、ガイドラインに基づいた標準治療に加え、患者さま一人ひとりのニーズに応じたオーダーメイド治療を提供しています。外来化学療法室を完備し、専門看護師や薬剤師を配置することで、安全かつ適切に外来での化学療法を実施しています。さらに、かかりつけ医との連携のもと、検査・診断から

手術、化学療法、終末期医療に至るまで、多職種チームによる患者中心の治療を行っています。

（主な手術件数）

食道切除再建術 3 件	(うち鏡視下手術 3 件)
胃切除 9 件	(うち鏡視下手術 6 件)
胃全摘 6 件	(うち鏡視下手術 2 件)
結腸切除 30 件	(うち鏡視下手術 27 件)
直腸切除 13 件	(うち鏡視下手術 13 件)
肝切除 1 件	(うち鏡視下手術 0 件)
膵切除 4 件	(うち鏡視下手術 2 件)
胆のう摘出術 67 件	(うち鏡視下手術 65 件)
虫垂切除 25 件	(うち鏡視下手術 25 件)
鼠径ヘルニア 58 件	(うち鏡視下手術 40 件)

＜令和７年度活動目標＞

当院では、患者さま一人ひとりのニーズや病態を十分に理解したうえで、これまでに導入してきた新しい手技や最新の知見を活用し、質の高い外科治療を提供してまいります。院内では、定期的に多診療科による横断的なカンファレンスや多職種による勉強会を開催し、医療スタッフの専門性向上と病院全体の医療の質の向上に努めています。さらに、学会や研究会活動にも積極的に参加し、最新の医療情報を収集するとともに、当院からも新たな知見や治療法を発信してまいります。

外科_乳腺外科

＜スタッフ＞

小林　稔弘（部長）：乳腺外科
太田　紅仁香　　：乳腺外科

＜令和６年度活動実績＞

乳房に関する良性（腫瘤、乳腺炎、女性化乳房症）から悪性（癌、肉腫）の疾患に対して診断、治療を行っている。

前年度に引き続き太田紅仁香医師との 2 名体制で診療を行ってきた。例年通り新規乳腺手術件数をこなすとともに転移再発患者の治療も積極的に行った。

乳腺検査手段として MMG、US、CT、MRI などの画像診断装置も最新型を完備している。特に MMG は検診で問題になる高濃度乳腺にも有効なトモシンセシス付きの最新鋭の機材の運用も手馴れてきたことにより、デジタル断層像を加えての診断が可能であり、不明瞭な病変の発見はもちろん、過剰な追加検査を減らし、患者負担を軽減することにも役立っている。令和 6 年からは保険点数も付加されることになり一層の活用を試みている。

乳腺手術は 50 例を行い、乳癌症例の 6 割に温存手術を選択し、乳房切除術を選択する場合も形成外科と乳房再建術を行っている。良性疾患は観察可能な症例に無用な手術は行わないようにする一方、血性乳汁分泌に対する乳管腺葉区域切除の様な特殊手術も手掛けている。

薬物治療は進歩が著しいが、化学療法、ホルモン療法、分子標的療法、免疫チェックポイント阻害剤、遺伝子療法などの本邦で適応のある薬剤は全て導入している。さらに遺伝子医療の進歩も取り入れ、再発乳癌の治療選択にとどまらず、家族性乳癌卵巣癌（HBOC）の被疑例にも保険診療が認められるようになったため、積極的に遺伝子検査を行っている。

外来化学療法室の化学療法専門看護師、専門薬剤師とのチームで安全な治療が遂行されるようにしている。乳腺外科は当院での新しい試みのモデルケースになることが多く、薬剤師外来を活用して点滴治療のみならず、内服抗がん剤における指導、チェックなどの業務の手順を標準化することにより、そこから拡大して他科診療への導入にも寄与している。

残念ながら放射線治療を整理したため、多少の不便は生じたが、彩都友紘会病院放射線治療科との連携を構築し、術後照射や転移に対する治療的照射なども従前

に劣ることなく、シームレスに行えている。特に脳転移はむしろ定位照射を積極的に行っていただけるようになり治療上の利便性は向上している。

病理医の協力で、術中迅速病理検査でリンパ節転移の有無、断端診断を素早く行える体制を整えている。手術標本の検鏡も病理医のレクチャーを得て行い、自らの学習、臨床へのフィードバックを心がけている。希少例の発見もあり、治療に役立てるとともに、学会発表、論文作成など自らの学習および外部発信にも努めている。

緩和サポートチームの医師、看護師、臨床心理士との連携により、いつでも、がん相談、心理的サポートが受けられる体制も数年来の活動によりスムーズに運用出来ていると思われる。

また大病院では取りこぼされがちな進行再発乳癌で厳しい状況であるとともに社会的にもサポート体制の乏しい方や近隣に精神科病院が多いこともあり、精神疾患を合併している方の受け入れも行い、地域医療の中で、取りこぼされる人が出ないように努力している。

地域との連携も初診を受け入れるとともに、術後フォローも補助療法、観察を登録医に逆紹介で、お願いして取り組んでいる。

＜令和７年度活動目標＞

地域がん拠点病院にふさわしい診断、治療体制を維持する。太田紅仁香医師は、6 年度末をもって異動となる予定だが、後任も決まっており、さらに総合力を上げていきたいと思っている。

がん医療の進歩は目覚ましく、ゲノム関連の進歩は実地医療の現場に活用されつつある。当科も遺伝子、免疫関連に対応できる体制を整えることに加え、高次医療機関との連携拡充も図っていく。

最新医療を積極的に導入しつつ、赤十字精神に基づく誰もが取りこぼされない医療を提供することにより、登録医先生方に安心して紹介をいただき、患者さんに喜ばれ安心してもらえる診療科として地域における信頼を得られる事を目標とする。

脳 神 経 外 科

＜スタッフ＞

小林　稔弘（副院長　兼　脳神経外科部長）
福尾　祐介（非常勤医師：4 月）
辻　優一郎（非常勤医師：4 月～）

＜令和 6 年度活動実績＞

脳外科は現在、常勤医師不在のため、非常勤医師による週 1 回（月曜日）の診療を行っている。週 1 回ではあるが、年間 432 件の外来診察に加えて入院病床での診察を行った。

一般診療に加え、救急外来患者、入院中患者のコンサルテーションを積極的に受け入れて、総合病院として求められる診療体制の維持に寄与している。

＜令和 6 年度活動目標＞

非常勤体制ではあるが、当院の脳神経領域を支える診療体制を継続していく。

整 形 外 科

＜スタッフ＞　＊：日本専門医機構認定整形外科専門医、

＋：日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医

＃：日本リウマチ学会専門医

徳山　文人 ＊＋（部長）：脊椎外科、外傷および整形外科一般

日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医

伊丹　康夫＊　（副部長）：肩・肘関節外科、外傷および整形外科一般

田中　敬　　（医　師）：整形外科一般

松下　拓歩　　（医　師）：整形外科一般

岸本　郁男＊＃（非常勤医師）：大阪医科大学非常勤講師、股・膝関節外科、関節リウマチ

市場　厚志＊　(非常勤医師)

吉村　柚木子＊ (非常勤医師)

安達　史哉＊　(非常勤医師)

＜異　　動＞

安達　史哉　　令和５年４月着任、令和６年３月退任

山本　茉奈　　令和５年４月着任、令和６年３月退任

＜専門外来＞

脊椎外来、 肩・肘関節外来、 股・膝関節外来、 リウマチ外来、 エコー外来、

＜令和６年度活動実績＞

入院患者延べ数　 11,966 人（1 日平均 32.8 人）

外来患者延べ数　 12,274 人（1 日平均 50.5 人）

手術件数　計 716 件

当科は三島地区の地域基幹病院としての役割の一翼を担っており、救急外傷などに対する急性期治療、つまりは骨折を中心とする外傷疾患や一般整形外科疾患を多く扱っており、救急搬送要請には 24 時間対応している。スタッフは各症例に応じて高いレベルで非常にきめ細やかな診療を行っている。

Subspecialty としては当科数十年の歴史と伝統を持つ股・膝関節疾患に対する治療を継続しており、また脊椎脊髄病疾患、肩・肘関節を中心とする上肢の変性疾患やスポーツ外傷に対する治療など、専門性に富んだ医療を幅広い領域で行っている。各分野において経験豊富なエキスパートが揃っており、地域基幹病院として開業医の先生方からも多くのご紹介をいただいている。

脊椎脊髄病疾患に対しては、頸・胸・腰椎の各疾患による主に神経圧迫病変による疼痛や運動機能障害などを改善させる治療を行っており良好な成績をあげている。腰椎椎間板ヘルニアに対しては小侵襲手術である内視鏡下椎間板ヘルニア摘出術（MED）を行っており、2cm 弱の小切開で数日～ 1 週間程度の短期間での退院を可能にしており、腰部脊柱管狭窄症に対しても同様に内視鏡下椎弓切除術（MEL）を行っている。脊柱変形や不安定性の強い脊椎変性疾患に対する脊椎固定術も安定した成績を出している。近年増加傾向にある骨粗鬆性椎体圧迫骨折後偽関節症例に対しても、人工骨による椎体形成を加えた脊椎固定術を行い、下肢麻痺により起立歩行が不可能となっていた患者が再び歩行可能となるなど良好な治療成績を得ている。しかしながら当科ではこれらの疾患に対しては保存治療を第一としており、MRI や造影検査、動態撮影などの検査にて評価を行い、その結果や症状により、また患者のニーズに応じて各種薬物治療、硬膜外ブロック、神経根ブロックなどを行っている。前述の様々な手術療法はこれらの治療が奏功しない場合に行うものであり、患者立脚型の治療を行うということで高い満足度を得ている。

肩関節、肘関節を中心とする上肢疾患については、アメリカ留学での研究で上肢の解剖やバイオメカニクスを熟知した伊丹副部長が担当をしている。こちらも投薬やブロック療法、リハビリ治療などでの保存治療を第一としているが、それらが奏功しない場合には、腱板断裂に対しては関節鏡視下腱板修復術を行い、断裂のシビアな症例に対しては筋膜移植による関節鏡視下上方関節包再建術やリバース型人工関節置換術も行っている。スポーツ外傷などによる反復性肩関節脱臼に対しては関節鏡視下関節唇修復術を行い、肩関節拘縮に対しては関節鏡視下関節受動術を行っている。さらに肘関節疾患に対しても上腕骨外上顆炎に対する関節鏡視下滑膜切除術を、肘関節拘縮に対して関節鏡視下関節受動術も行っている。いずれも小侵襲手術による高度な技術により良好な手術治療成績を収めている。

人工関節外科の手術において膝ではより高い QOL をめざした人工関節の導入、股関節では低侵襲人工股関節置換術（MIS-THA）を適応症例に施行し、筋肉や腱の切離が少ないこと、あるいは全く行わないことで患者の術後の疼痛コントロールや運動回復が早くなり、また術後リハビリ期間の短縮により早期の社会復帰や退院を可能にしている。

膝靭帯、半月板損傷などのスポーツ整形外科治療では、靭帯の解剖学的再建を行い、トップアスリートの膝損傷のスポーツ復帰を可能にしている。

三島地区は超高齢者の人口比率が高いという背景があり、救急患者の多くを占める大腿骨近位部骨折の患者に対しては他科との密な院内連携を図り、術後はチーム医療によりクリニカルパスの導入を行っている。

骨粗鬆症に対しては骨塩定量や採血検査を行い、その結果により各種薬物療法を行い骨折が生じないための予防治療を積極的に行っている。また度重なる脊椎圧迫骨折などをはじめとする重症骨粗鬆症に対しては強力な薬物治療であるロモソズマブや PTH 製剤、デノスマブの投与を行うなど、骨粗鬆症治療にも重点を置いている。

当科は急性期病院として新患患者や救急患者、開業医の先生方からの紹介患者を積極的に受け入れている。諸先生方のご協力のもと地域連携を強化して手術対象になる患者紹介を増やし、また先生方への逆紹介にも力を注いでおり、地域に密着し、より地域の役に立つ病院であるための努力を行っている。

形 成 外 科

＜スタッフ・専門分野＞

櫛田　哲史　（副部長）：日本形成外科学会領域指導医、日本形成外科学会専門医、臨床研修指導医、日本形成外科学会小児形成外科分野指導医、レーザー分野指導医

尾崎　里沙　（常勤医師）：日本形成外科学会専門医

國枝　桜子　（非常勤）：日本形成外科学会専門医

田辺　敦子　（非常勤）：日本形成外科学会領域指導医、日本形成外科学会専門医、臨床研修指導医、日本形成外科学会皮膚腫瘍外科分野指導医、日本形成外科学会小児形成外科分野指導医、日本美容外科専門医、日本抗加齢医学会専門医、日本認定産業医

＜令和６年度活動実績＞

令和６年度　形成外科新患数：395 名

令和６年度　手術件数：574 件　（手術室使用件数：389 件）

＜令和７年度活動目標＞

当院形成外科は、日本形成外科学会認定施設であり、近隣施設から多数の患者様のご紹介を頂いています。

手術治療としては皮膚・皮下腫瘍摘出術、悪性腫瘍の切除とその後の再建をはじめとして、眼瞼下垂症、顔面外傷・顔面骨骨折、傷跡の修正等を中心に多く行っていますが、シミのレーザー治療などの自費診療も行っています。今年度も地域医療に重点を置いた質の高い形成外科診療を行うよう努めます。

皮 膚 科・美 容 皮 膚 科

＜スタッフ＞

皮膚科・美容皮膚科部長：玉田　尚　（院長兼務）
皮膚・形成外科センター長：古川福実（現名誉院長・顧問・マスター）
皮膚科副部長：島本純子（大阪医科薬科大学皮膚科より）
皮膚科医師：西田美央　（大阪医科薬科大学皮膚科より）　～2024 年 12 月
皮膚科医師：水野嵩彬　（大阪医科薬科大学皮膚科より）　2025 年 1 月～
皮膚科アドバイザー：山本有紀　(和歌山県立医科大病院教授)
皮膚科アドバイザー：立花隆夫　(星ヶ丘医療センター皮膚科部長)

＜2024 年度（令和６年度）活動実績＞

2024 年度入院患者延べ数：　909人
2024 年度外来患者延べ数：　9,854人

・2024 年度の当院皮膚科は、皮膚・形成外科センター長 古川福実名誉院長、皮膚科副部長 島本純子、同医師 西田美央（2025 年 1 月～水野嵩彬）の 3 人体制で外来診療、入院治療を行いました。
・美容皮膚科のアドバイザーとして山本有紀先生、アレルギー診療のアドバイザーとして立花隆夫先生に協力をいただいております。
・月曜日から金曜日はそれぞれ 2 診体制で外来診察を行っており、1 日あたり平均 40～50 人程度の外来患者を診察しております。一般外来では近隣の医院からのご紹介も多く、皮膚生検やアレルギー検査も適宜行っております。水曜日には古川福実センター長による外来を行っており、一般外来で難渋している症例や難治な症例の相談や、県外を含めた他院での難渋している症例のご紹介も数多くあり、様々な症例を学ぶ機会が整っています。
・古川福実センター長は偶数週の午後に小児科外来でアトピー性皮膚炎外来を小児科医師と合同で行っております。
・形成外科との連携も密にとっており、切除が必要な腫瘍性病変や、皮膚科では難しい外科的処置などは形成外科への紹介を行っています。また形成外科に通院中の患者の皮膚症状や外用治療について相談いただくこともあり、両科の得意分野を治療に生かすように連携しています。2021 年から皮膚・形成外科センターを設立いたしました。
・近隣の基幹施設である大阪医科薬科大学皮膚科とも連携しており、化学療法が必要な皮膚腫瘍や光線過敏症（疑い含め）等の紹介を行っています。
・京都大学や近畿大学皮膚科との連携も行っております。
・褥瘡回診・褥瘡外来を毎週月曜日に行っており、入院中の褥瘡患者の回診、外来通院中の褥瘡患者の処置を、皮膚科医、形成外科医、緩和ケア医、皮膚・排泄ケア認定看護師、栄養士で行い、症例それぞれに合った治療、予防、ケアができるように努めています。
・フットケア外来との連携も密にとっており、皮膚科外来通院中でフットケアが必要と考えられる患者の紹介を行っています。また、フットケア外来通院中の患者で投薬治療が必要となった場合は皮膚科へ紹介をいただいたりしております。

・乾癬に対して、外用剤での治療、オテズラ内服や紫外線（エキシマ）治療に加え、生物学的製剤治療の認証施設となっています。乾癬性関節炎、膿疱性乾癬、難治の尋常性乾癬の症例に対して適切な抗体製剤を使用しています。また乾癬性関節炎についてはリウマチ膠原病内科とも連携して診察しています。
・アトピー性皮膚炎に対しては、基本的な外用治療で難治な症例には生物学的製剤や JAK 阻害薬などの導入を積極的に行っています。また毎週金曜日には小児科で小児アトピー性皮膚炎外来を共観で行っております。
・日本アレルギー学会の専門医教育研修施設の認定施設です。
・大阪府アレルギー疾患医療連携協力病院の指定を受けています。呼吸器内科、小児科など関連した診療科とも連携し、診察・治療を行います。
・自費治療も行っており、美容診察として老人性色素斑や雀卵斑などに対する IPL 治療、老人性色素斑や後天性真皮メラノサイトーシスに対する Q スイッチレーザー治療（現在は形成外科で施行）・脱毛などを、肌画像カウンセリングシステム「re-Beau2」も使用し、治療前後の経過を比較しながら診察・治療しております。また男性型脱毛に対する内服治療（フェナステリド、デュタステリド）、巻き爪に対するワイヤー矯正治療（マチワイヤー、巻き爪マイスター）、帯状疱疹ワクチンの接種なども随時行っています。
・2022 年 4 月から皮膚科・形成外科で生検や切除をした病理組織について、両科合同で病理組織カンファレンスを行っております。毎週火曜日夕方に、古川名誉院長と病理部医師の指導のもと、病理組織の診断や、今後の治療方針について積極的に討論しています。
・皮膚ループスを対象とした臨床治験を、2023 年の秋より開始しております。
・2025 年 1 月より西田美央医師から水野嵩彬医師に交代となり、新メンバー体制となりました。



皮膚科・美容皮膚科スタッフ
（左より　島本、古川、西田）



病理カンファレンス風景

泌 尿 器 科

＜スタッフ＞

部長　六車　光英

医師　中尾　一慶　（令和６年４月１日～令和７年３月31日）

＜異　動＞

令和５年４月１日から勤務していた天野賢士医師が令和６年３月31日で退職し、令和６年４月１日から中尾一慶医師が着任した。

＜令和６年度活動実績＞

令和６年度の外来患者数は延患者数6555人、１日平均患者数27.0人と前年度に比べ減少傾向であったが、入院患者数は延患者数2280人、新入院患者数297人と前年度に比べ増加傾向であった。平均在院日数は6.5日で前年度に比べ延長傾向であった。

令和６年度の手術件数は189件で前年度に比べ増加していた。令和６年度の主な手術件数は下記の通りであった。令和６年度は泌尿器科において５年以上の経験を有する常勤医が２名となったため令和４年度以降中止していた腹腔鏡下前立腺全摘除術を再開した。また令和６年度は経尿道的前立腺核出術（TUEB）が前年度に比べ大幅に増加しており、中尾医師が新たに難治性過活動膀胱患者に対するボツリヌス毒素膀胱壁内注入術を開始した。前年度22件に減少していた経尿道的腎尿管砕石術（TUL）も38件に増加したが、令和４年度の54件にはおよばなかった。

腎・尿管	腹腔鏡下腎摘除術	4
	腹腔鏡下腎尿管全摘除術	4
	腹腔鏡下腎盂形成術	1
	経皮的腎砕石術（PNL）	1
	経尿道的腎尿管砕石術（TUL）	38
	経皮的腎瘻造設術	7
	尿管鏡	7
	経尿道的尿管拡張術	2
膀胱	膀胱全摘除術・回腸導管造設術	3
	膀胱部分切除術	1
	経尿道的膀胱腫瘍切除術（TURBT）	43
	経尿道的膀胱砕石術	7

	ボツリヌス毒素膀胱壁内注入術	7
尿道・陰茎	尿道狭窄内視鏡手術	3
	包皮環状切除術	1
前立腺	腹腔鏡下前立腺全摘除術	6
	経尿道的前立腺切除術（TURP）	2
	経尿道的前立腺核出術（TUEB）	22
	前立腺生検	86
陰嚢	陰嚢水腫根治術	3
	高位精巣摘除術	1
	去勢術	1
腎不全	内シャント造設術	11

＜令和７年度活動目標＞

令和 7 年度は再び泌尿器科において 5 年以上の経験を有する常勤医が 1 名となるため腹腔鏡下前立腺全摘除術は出来なくなるが、出来るだけ入院患者数および手術件数を減らさない様にして手術支援ロボット導入につなげたい。

産 婦 人 科

＜スタッフ＞

中村　路彦（部長）
藤原　聡枝（非常勤）
寺田　信一（非常勤）

＜特　色＞

婦人科全般にわたり診療を行っている
外来では通常の診察に加え、拡大鏡検査、日帰りでの子宮鏡検査を行っている
良性疾患に対して入院治療を行っており付属器疾患については腹腔鏡下手術、子宮疾患については症例により腹腔鏡下手術、開腹手術を検討し行っている
悪性疾患については当院で精査を行った後大学病院に依頼を行っている
また 1 泊入院で子宮頚部円錐切除術を行っている

眼　　科

＜スタッフ＞

小林　稔弘（副院長　兼　眼科部長）
植木　麻理（非常勤医師）
藤田　恭史（非常勤医師）
柊山　友里恵（非常勤医師）
武市　有希也（非常勤医師）
河本　早紀（非常勤医師）
児玉　昴己（非常勤医師）

＜令和６年度活動実績＞

眼科疾患全般に対応しており、白内障、緑内障、網膜硝子体疾患、眼形成、涙道疾患に対する手術治療を積極的に行っている。

6年度の診療実績は外来6,569件、入院301件、手術355件を行った。

白内障手術は日帰りから入院まで患者様の希望に応じて対応している。また乱視矯正眼内レンズや多焦点眼内レンズを用いた手術も行っている。

緑内障、硝子体についても専門医が最新の手術器械を用いて行っている。

＜令和７年度活動目標＞

病診連携を重視し、地域の診療所さまからの紹介を切れ目なく頂き、期待に違わぬ水準の治療を遂行することを目標とする。そして患者様が安心して、当院での加療を受けられる体制を維持する。

放 射 線 科 部　及び　核 医 学 科 部

＜スタッフ＞

◆医師

後藤 公男（部長）　：　画像診断
山室 正樹（部長）　：　核医学診断　+　画像診断
的場 直樹（副部長）　：　画像診断
今井 雅夫（非常勤）　：　画像診断
坂中 克行（非常勤）　：　放射線治療
宇藤 恵　（非常勤）　：　放射線治療

◆診療放射線技師

松原 健夫（課長）
大嶋 浩嗣（MRI 係長）
中村 義隆（放射線係長）
関本 淑徳（CT 係長）
涌田 哲成（放射線治療係長）
西村 大樹（核医学係長）
林 恵理子・松山 佳央・渡邊 良彦・石嵜 伸也・松下 あゆみ
柳田 泰祐・原 祥太郎・木戸口 尭史・村上 慎哉・中村 仁美

◆事務員

植松 恵美子

＜施設認定、資格＞

◆マンモグラフィ検診施設画像認定

◆検診マンモグラフィ撮影技術認定

林 恵理子 ・ 松下 あゆみ ・ 中村 仁美

◆第 1 種放射線取扱主任者

西村 大樹

◆肺がん CT 検診認定技師

関本 淑徳

◆X 線 CT 認定技師

関本 淑徳 ・ 松山 佳央 ・ 原 祥太郎 ・ 木戸口 尭史

◆放射線治療専門放射線技師

涌田 哲成 ・ 渡邊 良彦 ・ 石嵜 伸也 ・ 木戸口 尭史

◆放射線治療品質管理士

涌田 哲成 ・ 渡邊 良彦 ・ 石嵜 伸也

◆救急撮影認定技師

松山 佳央 ・ 原 祥太郎

◆放射線管理士

松原 健夫 ・ 西村 大樹 ・ 渡邊 良彦

◆医療画像情報精度管理士

松原 健夫 ・ 西村 大樹 ・ 渡邊 良彦 ・ 原 祥太郎

◆臨床実習指導教員

西村 大樹 ・ 渡邊 良彦

◆放射線機器管理士、

渡邊 良彦

＜令和６年度活動実績＞

◆研究発表、研修会開催実績

【院内】

※医療安全研修

（被ばくの最適化・正当性・MRI の安全管理・報告書管理）

後藤 公男 ・ 松原 健夫 ・ 松山 佳央 ・ 木戸口 尭史

※タスクシフト・シェア （穿刺）看護部合同勉強会

※RI 検査勉強会（循環器領域・DPC 算定について）

【課内】

※RI 検査勉強会（脳血流領域）

※胸骨圧迫 除細動器勉強会

※最新 CT 心臓処理勉強会

※最新 CT 装置機能編勉強会

※医療画像表示ディスプレイ勉強会

◆院外研修会・講習会・学会等への参加

※69 名／58 会 Web 開催及び対面開催（診療放射線技師のみ）

◆その他活動

※地域連携推進活動（周辺医療施設訪問）

※タスクシェア推進(MRI 穿刺業務開始)

※学生実習生の受け入れ

◆機器整備更新

※血管造影装置（アンギオ装置）・動画サーバー・CD パブリッシャー 更新

◆機器廃棄

※放射線治療装置廃棄　・　CT64 列廃棄

◆放射線科部+核医学科部　検査件数

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
一般撮影	29002	28,940	28,775
ポータブル	8,212	8,541	8,077
造影検査	912	870	880
マンモ	1,023	1,090	994
CT	10,461	11,002	10,937
MRI	3548	4,408	4,321
RI	731	646	727
血管造影	335	335	259
放射線治療	99	113	137
骨密度	533	495	598

◆放射線科部+核医学科部　紹介検査件数

	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度
CT	353	401	415	539	557
MRI	833	877	760	920	898
RI	219	123	184	120	149

＜令和７年度活動目標、計画＞

◆放射線科部＋核医学科部

※MRI 安全管理講習開催

※医療被ばく正当性、最適化講習開催

※報告書管理体制強化及び研修会開催

※各モダリティのスペシャリスト育成

（MRI・RI・アンギオ担当者増員）

※課内で専門部門チーム結成　各部門で管理体制強化

（機器管理・スキル管理・被ばく管理・医療安全管理・災害救護）

リハビリテーション科

＜スタッフ＞

医　　師：大中　玄彦　部長
　　馬止　裕　常勤
　　服部　智　非常勤
理学療法士：野村　省二（リハビリテーション課長）　2024/6/30 退職
　　新地　史章（第一理学療法係長、課長補佐）
　　倉繁　浩一（第二理学療法係長、課長補佐）
　　不破　賢太郎（主任）
　　岸田　尚子、濱田　敦、菊池　直人、須々木　梓、下野　広大
　　井上　環
　　吉田　綾梨　育児時短 2024/4/6～2025/4/5
　　菊池優理子　育児時短 2024/4/26～2025/4/25
作業療法士：山﨑　孝子、石塚　威、大下　綾華
言語聴覚士：椎葉　佳子、大路　かほる

＜特　色＞

当科は、1993 年 9 月にリハビリテーション（以後リハと略す）総合承認施設（理学療法Ⅰ・作業療法Ⅰ）を、2002 年 8 月に言語聴覚療法Ⅱの認可を受け、包括的なリハ活動を展開してきた。2016 年 4 月の診療報酬改定に対応して、全ての施設基準（運動器Ⅰ・脳血管疾患等Ⅰ・廃用症候群Ⅰ・呼吸器Ⅰ・心大血管疾患Ⅰ・がんのリハ）の認可を受けた。急性期病院としてのリハ機能を遂行するために、リハ対象疾患患者に対して早期に介入し、早期退院を図っている。さらに終末期における緩和ケア病棟で緩和医療にも力を注いでいる。

理学療法部門において、運動器リハでは人工関節置換術・脊椎外科・肩関節外科、大腿骨近位部骨折（地域連携パス、骨折リエゾンサービス導入）等の整形外科疾患、脳血管疾患等リハの件数は少ないが脳血管疾患・パーキンソン病等の中枢神経系疾患、廃用症候群では外科術後の方や多種多様な廃用、入院関連機能障害の方を対象に早期の日常生活動作の自立と QOL の向上を目指したアプローチを進めている。

呼吸器リハでは、1972 年に着手した呼吸理学療法を発展させ、今日では呼吸器外科

は勿論、一般外科患者に対し HCU から理学療法を行っている。慢性呼吸不全患者に対しても、包括的呼吸リハプログラムを組み患者の早期社会復帰への働きかけを行っている。

2014 年 7 月に施設基準を取得した心大血管疾患リハでは、心不全・狭心症・心筋梗塞等の入院患者を中心に多職種による包括的アプローチを実施している。R5 年、4 月より外来心臓リハビリテーション（集団療法）を開始し、心臓疾患のパンデミックに備える。

がんのリハビリについては、施設基準取得以前からリハ介入しており、がんの診療資格を所有しているスタッフが緩和ケアまで一貫した多職種での取り組みを図っている。

作業療法部門では、理学療法部門と同様に多様な患者様を対象に、入院中より家庭復帰、職場復帰を想定したアプローチを行っている。手の外科手術後のハンドセラピーには積極的に取組んでおり、装具も開発している。

言語聴覚療法部門では、NST 専門療法士として NST 委員会メンバーに加わり摂食嚥下障害（栄養障害含む）の治療やケアに効果を上げている。がん患者においても 2017 年 1 月より算定資格を得て緩和まで介入している。それ以外に失語症・構音障害・言語発達遅延へのアプローチも実施可能である。

また、2017 年 11 月より認知症ケア専門士として認知症ケアサポートチームの活動に加わっている。

＜診療実績：令和６年（2024 年）＞

理学療法件数：38,237 件（前年 37,840：比＋397）

	外　来	入　院
運動器	2,784（2,732）	6,683（6,573）
脳血管疾患	0（0）	521（690）
廃用症候群	0（0）	5,977（6,087）
呼吸器	0（1）	5,619（6,313）
心大血管	11（299）	3,559（3,733）
が　ん		4,336（3,917）
その他	65（191）	8,376（7,604）
小　計	3,166（3,223）	35,071（34,617）

（前年）

作業療法件数：9,143 件（前年 9,871：比－728）

	外　来	入　院
運動器	833（846）	777（537）
脳血管疾患	4（0）	351（419）
廃用症候群	0（0）	1,060（1,250）
呼吸器	0（0）	2,237（3,120）
心大血管	0（0）	2（60）
が　ん		905（799）
その他	66（42）	2,908（2,798）
小　計	903（888）	8,240（8,983）

（前年）

言語聴覚療法件数：5,621 人（前年 5,889：比-268）

	外　来	入　院
脳血管疾患	0（0）	200（236）
廃用症候群	0（0）	763（987）
呼吸器	0（0）	1,547（1,916）
が　ん		469（279）
集団ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ療法	0（0）	0（0）
その他	0（0）	2,642（2,471）
小　計	0（0）	5,621（5,889）

（前年）

＜令和６年度の活動実績・成果＞

５月の病院機能評価受審に際し、部署内及び部署外の業務体制の見直しと関連マニュアルの改訂を実施した。今後の課題としては、実施計画におけるリスク管理の記載と説明、休日のリハビリ実施があげられている。外来心臓リハビリテーションの強化を図り、地域支援病院の柱の一つとして事業を展開。６月に心臓リハビリテーションの専従者が退職したため、新たに専従者を選出し継続している。患者数が減少傾向にあり、対象患者の選定が今後の課題となっている。

大阪部支部からの繰入金による設備投資がなされ主に老朽化した理学療法機器の更新と心臓リハビリテーションの管理システムが配備された。

全対象者数は前年と比較して理学療法、言語聴覚療法は大きくかわらず。作業療法は若干減少。

I. リハビリ対象患者数の確保：①病棟カンファレンス・回診での DPC を考慮した退院支援・HCU 離床リハ対象患者の週末での選出強化②リハ実施率（病棟別・診療科別）の検討及びイントラを利用した対象患者の医師への周知と選出③院内広報：広報誌やホームページのリニューアル④クリニカルパスへのリハ介入による患者数確保。

II. リハビリ専門職 1 人あたりの算定件数増加：①業務効率の向上（担当患者数の均一化）②連休時対応の対象患者数確保③リハ専門職休暇時における代行患者数及び単位数確保④退院時リハビリテーション指導料の算定漏れ抑制（指導冊子とシステムでのチェック体制強化）

III. 材料費の最大限の削減：繰入金により老朽化した医療消耗器具備品費などはほぼ充足した。また外来心臓リハビリテーション（集団療法）に必要な関連機器を全てそろえることができた。その他の医療関連機器の購入は節約（老朽した物から購入リストにならって順次購入）。作業療法の ADL の備品は財務課と交渉の上購入となる。

IV. 教育研修及び医療の質向上：①専門職の資格獲得援助 (学術大会・研修会・心臓リハビリテーション指導士認定・摂食嚥下リハビリテーション認定士認定）②卒前教育の臨床実習施設として 2 校からの臨床実習生(PT 各 1 名)を受け入れた。また、理学療法士の生涯学習（卒後教育）として高槻市理学療法士会の新人教育部に PT1 名が部員として参加。高槻市理学療法士協会からの呼吸勉強会は開催中止中であるが今後再開の方向。③R プラン（勤務評定）からの自己研鑽励行。

V. その他：①救護員の育成及び救護活動の参加推進②繰入金により、理学療法室の医療設備機器更新と心臓リハビリテーションの管理システムが配備された。

＜令和 7 年度の活動目標＞

令和 6 年 5 月 21・22 日に実施された病院機能評価受審の準備を通して、当課の業務上の問題点を抽出して適切なリハビリテーションをしていくための組織づくりを他職種と共同して実現することが、地域支援病院（急性期リハ）としての役割を果たすと考える。

- 心臓リハビリテーションの外来業務拡大
- 新入職員の育成
- 嚥下障害患者数が激増しており言語聴覚士 2 名で賄うことは難しくなっており、通常の病院の対応として多職種で嚥下チームを立ち上げて摂食機能療法の施設基準取得を実現するように申請していく。
- 救護員の育成及び救護活動の参加推進・BLS の勉強会推進

麻 酔 科

＜スタッフ＞

常勤：澤井俊幸（麻酔科・手術部長）

日下仁美

＜令和６年度活動実績＞

全身麻酔症例件数は1,041件。安全で質の高い麻酔管理に加え、緊急手術にも迅速に対応できる体制（24時間体制）を整備。

また術後疼痛管理チーム（医師・薬剤師・看護師）による、手術後の疼痛管理を行っている。

＜令和６年(1月1日～12月31日)＞

【合計】

手術件数	1,041（うち手術室内 1,041・手術室外 0）

【性別】

男性	女性	合計
557	484	1,041

旧分類【麻酔法】

A.全身麻酔(吸入)	869
B.全身麻酔(TIVA)	2
C.全身麻酔(吸入)+硬・脊、伝麻	170
D.全身麻酔(TIVA)+硬・脊、伝麻	0
E.脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔(CSEA)	0
F.硬膜外麻酔	0
G.脊髄くも膜下麻酔	0
H.伝達麻酔	0
X.その他	0
合計	1,041

【麻酔法】

	a:全身麻酔(吸入)	b:全身麻酔(TIVA)	c:鎮静	z:なし
1硬膜外麻酔	2	0	0	0
1硬膜外麻酔＋2脊髄くも膜下麻酔	0	0	0	0
1硬膜外麻酔＋2脊髄くも膜下麻酔＋3伝達麻酔	0	0	0	0
1硬膜外麻酔＋2脊髄くも膜下麻酔＋3伝達麻酔＋4その他局麻	0	0	0	0
1硬膜外麻酔＋2脊髄くも膜下麻酔＋4その他局麻	0	0	0	0
1硬膜外麻酔＋3伝達麻酔	0	0	0	0
1硬膜外麻酔＋3伝達麻酔＋4その他局麻	0	0	0	0
1硬膜外麻酔＋4その他局麻	0	0	0	0
2脊髄くも膜下麻酔	0	0	0	0
2脊髄くも膜下麻酔＋3伝達麻酔	0	0	0	0
2脊髄くも膜下麻酔＋3伝達麻酔＋4その他局麻	0	0	0	0
2脊髄くも膜下麻酔＋4その他局麻	0	0	0	0
3伝達麻酔	168	0	0	0
3伝達麻酔＋4その他局麻	0	0	0	0
4その他局麻	1	0	0	0
5局麻なし	868	2	0	0
合計	1,039	2	0	0

【ASA PS】

予定1	70	緊急1E	25
2	723	2E	106
3	78	3E	39
4	0	4E	0
5	0	5E	0
6 (臓器摘出を受ける脳死患者が対象)	0	6E (臓器摘出を受ける脳死患者が対象)	0
小計	871	小計	170
合計		1,041	

【手術部位】

a. 脳神経・脳血管	0
b. 胸腔・縦隔	96
c. 心臓・血管	0
d. 胸腔＋腹部	5
e. 上腹部内蔵	92
f. 下腹部内蔵	241
g. 分娩	0
h. 頭頸部・咽喉部	19
k. 胸壁・腹壁・会陰	99
m.脊椎	64
n. 股関節・四肢(含:末梢神経)	406
p. 検査	2
q. MAC	0
r. ECT	0
x. その他	17
合計	1,041

【体位】

1.仰臥位	460
2.腹臥位	95
3.側臥位	230
4.切石位	255
5.坐位	0
6.その他	1
合計	1,041

【偶発症例】

A.危機的偶発症	1
B.神経系偶発症(脳・脊髄)	0
C.その他の神経系偶発症	0
D.その他	0
合計	1

旧分類【年齢構成】

	男性	女性	合計
A.～1ヶ月	0	0	0
B.～12ヶ月	0	0	0
C.～5歳	1	0	1
D.～18歳	21	3	24
E.～65歳	208	145	353
F.～85歳	278	265	543
G.86歳～	49	71	120
合計	557	484	1,041

【年齢構成】

	男性	女性	合計
AA.～4週未満	0	0	0
AB.～1歳未満	0	0	0
AC.～6歳未満	1	0	1
AD.～10歳未満	2	0	2
AE.～15歳未満	11	2	13
AF.～20歳未満	10	3	13
AG.～30歳未満	20	7	27
AH.～40歳未満	15	13	28
AI.～50歳未満	50	25	75
AJ.～60歳未満	77	60	137
AK.～65歳未満	40	31	71
AL.～70歳未満	34	36	70
AM.～80歳未満	164	144	308
AN.～85歳未満	76	85	161
AO.～90歳未満	44	46	90
AP.～100歳未満	13	31	44
AQ.100歳以上～	0	1	1
合計	557	484	1,041

救 急 部

＜令和６年度活動実績＞

救急部は兼任常勤医 1 人、非常勤医 2 人で診療を行い、他の診療科の協力のもとに救急患者を積極的に受け入れました。COVID-19 患者の減少にともない、救急患者数は減少しましたが、断らない医療を掲げて治療しております。当院に常勤医がいない脳神経外科などの患者も初期対応を当院で行い、専門的な治療が必要と判断した場合は、関連病院に転送するなどの対応をしており、地域連携をスムーズに行い、対応しています。

救急隊との勉強会や懇親会を行い、地域医療の発展のために努力しております。今後も断らない医療を実践し、地域医療に貢献したいと考えます。

医療技術部_栄養課

＜スタッフ＞

◆管理栄養士：桑田　由起江（栄養課長・NST 専門療法士・病態栄養専門管理栄養士・がん病態栄養専門管理栄養士）
藤本　智子（栄養係長　糖尿病療養指導士）
西岡　美穂（糖尿病療養指導士・NST 専門療法士）
◆調理師　　：藤原　崇義（調理第一係長）、堀　隆二、小川　辰夫、櫻井　葉子、下田　剛史、野方　晴美
◆主事　　：五百井　栄実

＜令和６年　活動実績＞

給食管理においては、食品価格が高騰し、米の値段が高騰・不足している中で複数の業者からの納品を行うなど、安定して給食を提供できる体制を整えました。栄養管理面では、入院時に栄養スクリーニングーアセスメントを行う体制を整え、個別の栄養管理体制の整備を行いました。また退院カンファレンスにも参加し退院後も見越した入院時からの栄養管理を行う体制を整えました。

＜統　計＞

栄養指導件数　算定 397 件／年　給食数　170671 食／年
NST 加算件数　757 件／年
心臓リハビリテーションカンファレンス参加件数　769 件／年

＜令和７年度活動目標＞

食材の高騰がさらに続く中、患者さまにおいしく食べていただける給食運営を行う為、献立の見直しや作業の標準化を更に進める。安心して給食を摂取していただけるよう環境の整備を行う。患者に必要なタイミングで栄養指導が実施できるようにする。また食欲不振や低栄養患者に対して速やかに栄養介入を行える体制を整備する。

医療技術部_臨床工学技術課

＜スタッフ＞

医　師

小林　稔弘（医療技術部長）

臨床工学技士

竹下　勇一（臨床工学技術課長）
澤井　綾太（臨床工学技術課主任）
福谷　伶芳
森地　裕子
杉本　健太
土井　日来

主　事

兼田　泰子

臨床工学技術課は血液浄化装置、人工呼吸器、人工心肺装置などの『生命維持管理装置』を医師の指示のもとに操作し治療のサポートをするほか、院内にある医療機器が安全に正しく使用できるように保守点検を行うなどの業務を担っています。医学的知識はもちろん、医療技術の進歩に伴い、高度化する様々な医療機器の知識・技能を持ち、スムーズな治療や検査が行えるように対応しています。

＜令和６年度活動実績＞

1. 血液浄化療法領域
   - 血液透析…45 症例、1381 回
   - 持続緩徐式血液透析濾過…9 症例、35 回
   - 血漿交換療法…2 症例、9 回
   - エンドトキシン吸着療法…1 症例、2 回
   - 吸着式潰瘍治療法…2 症例、86 回
   - GCAP、LCAP…0 回
   - 腹水濾過濃縮再静注法…13 症例、34 回

2. 血液疾患領域
   - 末梢血幹細胞採取…1 症例、1 回
   - 白血球除去療法…0 回
   - 顆粒球/リンパ球採取…0 回
   - 骨髄濃縮…0 回

3. 循環器領域
   - CAG…75 件
   - PCI…95 件
   - IVUS…91 件
   - FFR…7 件
   - シャント PTA…13 件
   - 下肢 PTA…4 件
   - IVC フィルター…0 件
   - IABP…3 件
   - PCPS…1 件
   - ペースメーカー新規植え込み…23 件
   - ペースメーカー交換…8 件
   - 体外式ペースメーカー…4 件
   - Pacemaker 外来(月 2 回)…延べ 113 回
   - 遠隔モニタリング登録患者数…156 名

4. 腎生検施術補助
   - 0 件

5. 医療機器管理領域
   - 人工呼吸器、輸液・シリンジポンプ、AED、ポータブルエコー、フットポンプなどの医療機器管理台数…1,616 台
   - 医療機器修理業務　院内・院外修理…371 件
   - 医療機器、消耗品に関しての研修会の開催…23 件
   - 新規納品機器に関する研修会…7 件

6. 手術室業務
   - 麻酔器の使用前点検

- 医療機器などのトラブル対応
- 除細動器・無影灯点検

7. 内視鏡関連業務
   - カプセル内視鏡（小腸）…7 件
   - カプセル内視鏡（大腸）…2 件

8. その他
   - RFA…10 件

＜令和 7 年度活動目標＞

各々が領域にかかわらず、医療機器管理や生命維持管理装置技術を習得し、患者の状態に合った治療が行えるよう努める。

医療安全への意識を強く持ち、安全・安心・安楽な治療が行えるよう努める。

薬 剤 部

＜スタッフ＞（役職・担当・資格は令和 7 年 3 月 31 日現在）

小島 一晃（薬剤部長）：麻薬管理者・治験薬管理者・医療安全推進室員・医薬品安全管理責任者・薬事委員会副委員長・治験審査委員会副委員長・化学療法委員会副委員長・大阪府病院薬剤師会理事・大阪府病院薬剤師会会員委員長・豊能三島地区薬薬連携協議会副代表・日赤薬剤師会ブロック代表理事

- 日本医療薬学会 医療薬学指導薬剤師
- 日本医療薬学会 医療薬学専門薬剤師
- 日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
- 日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師
- 日本医療薬学会 がん指導薬剤師

美和　孝之（薬剤副部長／医薬品情報係長）：放射性医薬品管理者・医薬品情報業務責任者・ 薬事委員会事務局（幹事）
大阪府病院薬剤師会代議員

- 日本医療薬学会 医療薬学専門薬剤師
- 日本病院薬剤師会 日病薬病院薬学認定薬剤師
- 日本栄養治療学会 NST 専門療法士

仲　忠士　（臨床業務課長）：病棟薬剤業務責任者（9 病棟専従）・外来化学療法業務責任者

- 大阪府病院薬剤師会財務委員
- 日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師
- 日本栄養治療学会 NST 専門療法士
- 日本医療情報学会 医療情報技師

松本　弘誠（調剤業務課長）：調剤業務責任者・実務実習指導責任者・新人教育責任者・感染管理室員・ICT/AST 業務・AST 委員会副委員長

- 日本病院薬剤師会 日病薬病院薬学認定薬剤師
- 日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
- 日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師
- 日本病院薬剤師会 感染制御認定薬剤師
- 日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師

中西　輝　（調剤係長／製剤･薬品管理係長）：実務実習指導担当・手術室業務責任者・ICT/AST 業務・NST 業務・病棟薬剤業務・調剤業務・薬事委員会事務局

- 日本病院薬剤師会 日病薬病院薬学認定薬剤師

・日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師
・日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師
・日本栄養治療学会 NST 専門療法士

濵武　清範（化学療法係長）：調剤業務・化学療法業務・レジメン管理担当・薬事委員会事務局・大阪府病院薬剤師会公衆衛生委員
・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
・日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師

岩井真里絵（病棟薬剤業務係長）：病棟薬剤業務（5 病棟専従）・緩和サポートチーム業務・薬事委員会事務局
大阪府病院薬剤師会薬事制度委員
・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
・日本緩和医療薬学会　緩和薬物療法認定薬剤師

奥村　優介（病棟薬剤業務係主任）：病棟薬剤業務・ICT/AST 業務・治験審査委員事務局（幹事）・日本化学療法学会　抗菌化学療法認定薬剤師　【4/1 昇任】

山村裕佳子（薬剤師）：投薬調剤業務専任

安達　美里（薬剤師）：注射調剤業務専任　【時短勤務】
・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

森川　智子（薬剤師）：病棟薬剤業務（緩和ケア病棟・HCU 専任）・調剤業務
・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
・日本糖尿病療養指導士認定機構 日本糖尿病療養指導士

奥村　有香（薬剤師）：外来化学療法業務・調剤業務　【時短勤務】
・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
・日本循環器学会 心不全療養指導士

松田ちひろ（薬剤師）：【育休中】
・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
・日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師

福井　美礼（薬剤師）：病棟薬剤業務（8 病棟専従）・緩和サポートチーム業務
・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
・日本緩和医療薬学会　緩和薬物療法認定薬剤師

橋本　仁美（薬剤師）：【育休中】
・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
・日本糖尿病療養指導士認定機構 日本糖尿病療養指導

土野間敏也（薬剤師）：外来化学療法業務・調剤業務
・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
・日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師

兼行　佑奈（薬剤師）：病棟薬剤業務（7 病棟専従）
・日本病院薬剤師会 日病薬病院薬学認定薬剤師
・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
・日本栄養治療学会 NST 専門療法士
田中　慎子（薬剤師）：病棟薬剤業務（6 病棟専従）
・日本病院薬剤師会 日病薬病院薬学認定薬剤師
・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
丸尾　慶宣（薬剤師）：調剤業務　【11/1 入職】
前　恵子　（薬剤師）：外来化学療法業務・調剤業務　【11/25 入職】
・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
・日本薬剤師会 JPALS 認定薬剤師（クリニカルラダーレベル 5）
宮西　將之（薬剤師）：【3/31 退職】
徳田　悦美（主事）：治験管理業務・調剤支援業務・治験審査委員会事務局
松本　明子（主事）：治験管理業務・調剤支援業務・治験審査委員会事務局
山地　祥恵（業務員）：調剤補助業務・発注業務
竹内　邦子（業務員）：調剤補助業務・発注業務
中元真紀子（業務員）：調剤補助業務

＜薬剤関連施設認定＞

日本医療薬学会 医療薬学専門薬剤師研修施設
日本医療薬学会 がん専門薬剤師研修施設
日本医療薬学会 薬物療法専門薬剤師研修施設
薬学教育協議会 実習生実務実習受入施設

＜令和６年度活動実績＞

【調剤室】

ダウンサイジングによる人員減少に対応するため、調剤室人員配置・業務内容の細部見直しを昨年度から引き続き実施した。

調剤室業務の非薬剤師へのタスクシフトを進めることで、病棟・外来の薬剤師配置数を極力減らさずに指導件数が維持できる体制を構築した。

【病　棟】

薬剤管理指導料の算定において患者指導率が全国日赤病院で 1 位となり、薬剤師による患者指導・処方提案・薬剤管理をより充実させることができた。加えて、薬剤管理サマリーを

経由した調剤薬局等の後方施設との連携を強化し、退院時薬剤情報連携加算の算定を継続中である。

【外　来】

外来化学療法の連携充実加算算定は患者指導率がほぼ 100％を達成し、治療計画書の共有をベースに調剤薬局との連携を継続中。新設のがん薬物療法体制充実加算（診察前の薬剤師外来）についても、泌尿器科で先行して試行を開始した。

人員減少が進む中、各診療科からリクエストが強まりつつある内服抗癌剤の患者指導をどのように展開してゆくかを、今後の課題として捉えている。

【医薬品情報】

昨年度に引き続き、医薬品の供給不安定に東奔西走した 1 年間であった。治療への影響を最小限に抑えるべく医薬品確保に尽力した。薬剤部内勉強会・症例検討会などの集合研修を再開した。

【治験管理】

糖尿病･内分泌･代謝内科の治験が順次終了し、治験事務担当者の調剤室業務の充実など、業務内容に大きな動きがあった 1 年間であった。経営的観点から、治験事務局業務の外部委託の検討も進めた。

引き続き最先端医療を担う部門として、新規治験をコンスタントに受託できる体制を作りたい。

【学生実習】

人員減少に伴い、受け入れ人数を 1 期（3 ヶ月）2 名×3 期で年間 6 名に縮小しながら、部員総動員で指導に当たった。可能な限り体験型実習が実践できるよう努めた。

その他、学校等の外部からの体験プログラムも少しずつ再開されつつあり、引き続き病院薬剤師業務の魅力を学生らに啓蒙してゆきたい。

【統　計】令和 6 年度実績／()は令和 5 年度実績

1．処方箋

＜入院処方箋枚数＞

入院投薬　：通常処方　　29140 枚（30743 枚）
　　退院処方　　4984 枚　（5165 枚）
　　異常時処方　19051 枚（18370 枚）

入院注射　：通常処方　　68836 枚（72922 枚）
　　化学療法　　2181 枚　（2165 枚）
　　ＴＰＮ処方　12356 枚（12549 枚）
　　異常時処方　57747 枚（57911 枚）

＜外来処方箋枚数＞
外来投薬　：院内処方　　4441 枚　（5079 枚）
　　院外処方　　61514 枚（67057 枚）
　　院外発行率　93.3%　（92.4%）
　　一般名処方　46543 枚（48201 枚）
外来注射　：通常処方　　10674 枚（10106 枚）
　　化学療法　　3767 枚　（3923 枚）

２．注射薬無菌調製
抗癌剤　　：6161 本（6442 本）
TPN･移植･その他　　：2528 本（3370 本）

３．入院患者指導（薬剤管理指導料）
訪問件数　　：16512 件・1376.0 件/月（15892 件・1324.3 件/月）
本体請求件数　　：11864 件・ 988.7 件/月（11150 件・ 929.2 件/月）
退院指導請求件数　　： 3491 件・ 290.9 件/月 （3343 件・ 278.6 件/月）
退院連携加算請求件数：1084 件・ 90.3 件/月 （1123 件・ 93.6 件/月）
患者指導率　　： 98.4%（97.2%）
病棟薬剤業務（HCU）： 1422 件（1543 件）

４．外来患者指導（がん患者指導管理料・連携充実加算）
訪問件数　　：2347 件（2293 件）
がん患者指導管理料　　：　88 件　（71 件）
連携充実加算　　：1336 件（1317 件）

５．持参薬鑑別
鑑別登録件数　　：6425 件（6126 件）

６．疑義照会・プレアボイド報告
院外処方疑義照会　　：2105 件・簡素化プロトコル 1186 件

（2196 件・簡素化プロトコル 1086 件）
院内処方疑義照会　：412 件・簡素化プロトコル　98 件
（497 件・簡素化プロトコル 178 件）
化学療法疑義照会　：335 件・変更率 63.5％・簡素化プロトコル 251 件
（337 件・変更率 72.9％・簡素化プロトコル 231 件）
プレアボイド報告　：調剤担当者　8 件（29 件）
病棟担当者 69 件（47 件）

7．インシデント報告
ポジティブレポート　：レベル 0　20 件（28 件）
レベル 1　24 件（24 件）
レベル 2 以上　9 件　（8 件）
その他　4 件　（9 件）

8．治験業務
＜新規受託件数＞
治　験　：0 件（2 件）
製造販売後調査　：4 件（8 件）
副作用報告　：2 件（2 件）
＜収益＞
治　験　：33,202,274 円（46,638,615 円）
製造販売後調査　：1,072,500 円　（1,372,800 円）
副作用報告　：57,200 円　（57,200 円）

9．薬品管理
＜採用薬品数＞
投薬・その他　：607 品目・後発 36.1％　（608 品目・後発 36.2％）
注射薬　：484 品目・後発 29.7％　（483 品目・後発 29.8％）
合　計　：1091 品目・後発 33.1％（1091 品目・後発 33.4％）

１０．薬剤関連 DPC 係数
病棟薬剤業務　：0.0076　（0.0076）
後発医薬品使用体制　：0.0026※（0.0026）　※最高値（90％以上）

１１．薬学生実務実習

実務実習（11 週間）　　：5 名　（7 名）
外部体験学習・実習　　：12 名（1 名）

＜令和 7 年度の主な活動目標＞

・チーム医療の一員として良質で安全な薬物治療を提供する。
・急性期医療に必要な医薬品に関する知識を身に付ける。
・医薬品の安全管理・安定供給に努める。
・情報提供・研修会を通して調剤薬局・地域医療機関との連携を深める。
・診療報酬との関連を意識しながら業務を進める。

検 査 部

＜スタッフ＞

医　師

玉田 尚　（院長兼検査部長）

山中 雄介（検査副部長）

臨床検査技師

荒木 孝一郎（技師長兼生理機能検査課長）

吉田 桂（臨床検査課長）

大西 美穂子（臨床検査課　血液一般検査係長）

佐藤 裕司（臨床検査課　輸血管理係長）

扇田 裕允（臨床検査課　微生物検査係長）

中村 直実（生理機能検査課　生理機能検査係長）

坂口 絵美（生理機能検査課　超音波検査係長）

池本 淳子（生理機能検査課　主任）

村上 浩子　　奥洞 智太　　亀山 雅貴　　古川 理奈　　町田 統麻

三野 葵衣　　平岩 理雅　　石谷 育代

視能訓練士

岡田 悠（主任）　　玉木 真世　　高橋 絵里子　　川茂 陽子

検査部付看護師

宮地 真奈美　　赤石 美智子　　猪谷 もと子

仙頭 美恵子　　浅田 綾

検査アシスタント

田辺 智美　　富木 貴子

＜異動、昇任＞

坂口 絵美　　令和６年４月１日　生理機能検査課　超音波検査係長に就任

池本 淳子　　令和７年１月１日　生理機能検査課　主任に就任

岡田 悠　　令和７年１月１日　検査部　主任に就任

＜認定資格＞

認定超音波検査士：吉田 桂　佐藤 裕司　坂口 絵美　池本 淳子　村上 浩子
亀山 雅貴　古川 理奈　荒木 孝一郎

認定血液検査技師：大西 美穂子

認定骨髄検査技師：大西 美穂子

認定輸血検査技師：中村 直実

認定臨床微生物検査技師：扇田 裕允　奥洞 智太

感染制御認定臨床微生物検査技師（ICMT）：扇田 裕允　奥洞 智太

医用質量分析認定士：扇田 裕允

認定救急検査技師：奥洞 智太　佐藤 裕司

緊急臨床検査士：奥洞 智太　町田 統麻

＜令和６年度活動実績＞

令和6年4月～令和7年3月	件数
生化学・免疫検査	70,126
末梢血算定	61,742
末梢血液像　目視	18,939
骨髄検査	218
尿一般	20,502
血液型	2,082
交差試験	1,819
不規則抗体	1,897
間接クームス	25
直接クームス	30
一般細菌検査	8,862
抗酸菌検査	1,982
心電図	7,104
心臓超音波	2,725
腹部、血管、表在超音波	4,583

・令和６年度　日臨技臨床検査精度管理調査

A+B 評価 281 個 99.7%　C 評価 0 個 0%　D 評価 1 個 0.3%

・令和６年度　日本医師会　臨床検査精度管理調査

評価 99.2　A 評価 119 個　B 評価 5 個　C 評価 0 個　D 評価 0 個

＜学会発表,講演＞

中村 直実　　第 36 回 日本赤十字社臨床検査技師会 近畿ブロック研修会 令和 6 年 10 月 6 日
「交差適合試験不適合を呈した免疫グロブリン大量療法後の症例」

町田 統麻　　第 36 回 日本赤十字社臨床検査技師会 近畿ブロック研修会 令和 6 年 10 月 6 日
「輸血機能評価認定（I&A）取得までの当院の取り組み」

大西 美穂子　第 24 回　日赤検査学術大会　令和 6 年 9 月 7 日
「亜鉛補充に伴う銅欠乏により汎血球減少を呈した一例」

＜令和 7 年度活動目標＞

- 検査前プロセスを含めた適切な検体検査の実施
- タスクシフトによる医師負担軽減
- 検査精度の向上、検査報告時間の短縮
- 包括された入院検査の削減　検査査定率の削減　試薬、消耗品の削減
- 採血検査に限らず超音波検査、細菌検査に関してもコスト請求できない検査の削減
- 検査人員の適正配置
- 感染管理、医療安全、災害対策を積極的に参加
- 検査機器更新に伴うホームページ検査部欄の更新
- 救急検査の迅速な結果報告、救急室での超音波検査の促進
- 各部署マニュアル、標準作業書の更新、整備
- 臨床検査技師新人教育マニュアルの更新、整備
- ポジティブレポート提出率の向上
- 業務終了時間の個人差を解消し、時間外業務を削減する
- 部内ローテーションを行い、各自が検査できる範囲を拡大、部署間のサポート体制を強化
- 各種、認定資格を各自の目標通りに取得
- 勉強会や学会、セミナーへの積極的参加
- 日臨技、日本医師会の外部サーベイ参加　サーベイは目標オール A 評価
- 学会発表　目標として検査・病理診断部で年 5 回以上
- 検査部内勉強会開催　目標として年 5 回以上
- 年最低 10 日以上の年次有給休暇取得

病 理 診 断 科 部

＜スタッフ＞

医　師

玉田　尚　：院長兼病理診断部長

渡邉　千尋：病理専門医、細胞診専門医

山田　義博〔非常勤〕　白瀬　智之〔非常勤〕　奥野　知子〔非常勤〕

千葉　渉〔非常勤〕

臨床検査技師

荒木　孝一郎〔技師長 病理検査課長〕細胞検査士、国際細胞検査士、化学物質管理者

廣田　智美〔病理検査係長〕：細胞検査士

後呂　純平：細胞検査士

山本　翔：細胞検査士

山田　桂実：細胞検査士、認定病理検査技師、有機溶剤作業主任者
特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者、化学物質管理者

＜令和６年度年度活動実績＞

・統計：組織診件数 3826 件　　細胞診件数 2217 件　　剖検件数 6 件

・症例検討会（CPC）

① 直腸癌術後 3 年目の腸閉塞：令和 6 年 7 月 24 日

② 肺癌化学　療法、放射線療法後、拡張型心筋症：令和 7 年 2 月 19 日

・学会発表

山田 桂実

第 63 回日本臨床細胞学会秋季大会：令和 6 年 11 月 16 日

「肺転移をきたした乳腺腺様嚢胞癌の一例」

廣田 智美

第 60 回日本赤十字社医学会総会：令和 6 年 10 月 18 日

「左腋窩に発生した副乳癌の一例」

・日本臨床衛生検査技師会コントロールサーベイ：正解率 100％

・日本臨床細胞学会施設認定制度コントロールサーベイ：正解率 85％

＜令和７年度活動目標＞

・学会発表、研修会への参加

・ホルマリン、キシレン等の有機溶剤、劇物の管理

・検査部業務のサポート（聴力検査、検体検査、生理検査、細菌検査）

・病理診断部内カンファレンスを定期開催し、細胞診断の精度を向上させる

看 護 部

＜スタッフ＞

看護部長　：岸　恵美（認定看護管理者）
看護副部長：西　ひろみ・高橋　晶子
看護師長　：有持　由江（5 病棟）・依藤　里香（6 病棟）・南波　広美（7 病棟）
髙田　佳織（8 病棟）・川崎　知子（9 病棟）
秋山　由依（緩和ｹｱ病棟）・門脇　寛子（手術室/中央材料室）
原田　香織（外来）・石黒　早苗（外来）・鹿野　留美（HCU）
西浦　美香（看護部/患者支援ｾﾝﾀｰ・病床管理室）

看護係長　：里村　裕史（HCU 集中ケア認定看護師）辻　佳恵子（HCU）・寺田　祐子（5 病棟）
小笠原　舞（6 病棟　認知症看護認定看護師　特定行為研修終了）・森下　かおり
（6 病棟）・仲　砂千代（7 病棟）・亀岡　さつき（8 病棟）　吉田　一真（8 病棟）・
武内　綾香（9 病棟）　永田　奈月（9 病棟）・
田中　智美（緩和ｹｱ）・前田　敦子（HCU）　福場　久美子（外来）・
山内　洋平（OP 室）・奥田　唱子（看護部）
看護部職員：松下　めぐみ（感染室/感染管理認定看護師）
佐賀　昭子（感染室/感染管理認定看護師）
今戸　美奈子（看護部/慢性疾患看護専門看護師）
西川　亜紀子（看護部/がん看護専門看護師）
藤原　和子　（看護部/緩和ｹｱ認定看護師/緩和ｹｱｻﾎﾟｰﾄﾁｰﾑ専従）
北田　千世　（看護部/皮膚・排泄ｹｱ認定看護師/褥瘡管理者）
工藤　ゆかり（看護部　看護係長/退院調整看護師）
矢野原　綾香（看護部/退院調整看護師）
北村　弥生　（看護部/入退院支援看護師）
中川　真奈美（看護部/入退院支援看護師）
三明　蒼　（看護部/主事）

＜令和 6 年度看護部活動実績＞

1．学会参加

1)日本看護系学会等参加人数：36 名
2)大阪府看護協会研修参加人数：30 名

2．大阪府看護協会長期研修

1)ファーストレベル修了者：田村　華奈　関岡　薫
2)サードレベル修了者：髙田　佳織

3. 看護学生臨地実習受け入れ

1)大学

❑梅花女子大学看護保健学部看護学科　　❑大阪医科大学看護学部看護学科

❑藍野大学

2)専門学校

❑学校法人日本教育財団　大阪医専

4．講師派遣

・今戸美奈子　大阪府立大学大学院　看護学研究科　臨床准教授

福井大学　非常勤講師

大阪医科薬科大学大学院　看護学研究科　非常勤講師

令和６年度（2024 年度）看護部・各看護単位の活動

看護部総括　　岸　恵美

令和 6 年度は病棟改修を行いながらのベッドコントロールを継続。一時的な病床減少については各部署の管理者の協力とミーティングを有効活用した。上半期は患者の獲得に苦慮することがあったが年末からの感染症の拡大を機に患者数増加に耐えられるベッドコントロールを維持することができた。看護師確保について応援看護師の採用が常時７～９名いる中で７：1 や月平均夜勤時間 72 時間以内を確保することができた。退職率は昨年度より上昇（14％）した。退職理由については例年同様の傾向。人員不足による多忙感の負のサイクルに陥っている。このサイクルを断つために看護師の確保が最優先課題である。

令和 6 年度より看護師の職場環境に関するアンケートに心理的安全性を追加。アンケートの回答率が部署により差があるものの全体でも 78.4％（昨年 81.7％）と減少しておりアンケート結果だけではない看護職員全体の意欲の低下もしくは疲弊も懸念される。PX 調査では看護師の対応について若干の上昇を見せている事や患者・家族からの良いメッセージを返すことなど「忙しいけどやりがいがある」を目指していく。休みの取り方にしても平等、公平、権利という言葉の意味を深く考えて管理していく事が求められている。

感染症の院内発生は今年度も発生。手指消毒については非アルコール製剤を導入した。年末年始には看護部発信で発熱外来を設置して対応した。医療安全については病床ミーティングを利用しタイムリーにインシデントの共有。医療機器のインシデントについては ME の協力を仰ぐなどした。

教育についてはリフレクション研修を核に置いた。時間内研修として３回/年実施。師長係長についても管理リフレクションを開催した。他人から承認されることによって新たな気づきがあったという評価の一方、リフレクティブに関われたのかという不安も残った。新人看護師研修においてはローテーション研修の方法を変更。自らがどこに行って何を学びたいかを主体的に取り組めるようにした。３日間の研修を 1 日次年度に持ち越させ自分の良い時期に活用することとした。また ACP も WG を立ち上げ取り組んだ。今年度看護職員へのアンケートや４回のニュースレターを発行。意思決定支援の指針作成し拡大委員会（臨床倫理委員会、認知症ケア委員会、医療安全委員会）で承認された。

【令和 6 年度実績】

赤十字キャリア会蓮ラダー取得者	118 名
認定看護管理者研修	ファーストレベル２名　サードレベル１名
学会参加者	
大阪府看護協会　研修参加者	
院内看護研究発表	
日本赤十字社　医学会総会　発表	２題

HCU：鹿野　瑠美

令和５年度は、「急性期医療を提供し、患者の生命維持・安定を図る」を目標に取り組んだ。

財務の視点では、HCU の平均稼働率は 60％台にとどまり、空床の有効活用と救急車受け入れ台数減少への対応が課題となった。アンギオ件数は装置入れ替え工事の影響で減少したが、アンギオスタッフの人材育成は着実に進んでいる。

顧客の視点では、救急外来から HCU 入室時に退院を見据えた情報収集を行い、退院支援カンファレンスが円滑に進行できるよう事前記録と確認を徹底し、医師や MSW との連携で早期退院支援につなげた。重症患者の IC にはスタッフまたは管理者が必ず同席し、情報を共有することで家族看護や継続支援に努めることができた。スタッフの思いを傾聴するよう心がけ、なんでも相談し合えるチーム作りを行い心理的安全性の確保に努めた。

業務プロセスの視点では、COVID 疑似症やインフルエンザ、MDRP 患者の入室があったが、感染対策を徹底し院内感染ゼロを維持した。重大インシデントも発生せず、安全管理は継続できている。褥瘡では MDRPU が一件発生し、予防対策の徹底が課題となった。

昨年度から継続している QC 活動においては救急・アンギオ・HCU の各部門で多職種を巻き込んでの業務改善に取り組み QC を完成することができた。

学習と成長の視点では、毎朝のカンファレンスでアセスメントの言語化を行い、スタッフ間での共有を強化した。院内外の学会・研修にも多数参加し、勤務調整により学習の機会を確保することができた。急変時の振り返りやリフレクションを行い、臨床倫理カンファレンスやコンサルテーションも実施することができ４分割法に基づく検討を通じて、多角的に倫理的課題を捉えられるようになり、スタッフの成長につながった。今後の課題としては、３部門並行して進める教育体制の見直しと教育内容の標準化が挙げられる。加えて日々の実践場面においてリフレクションを取り入れ、自己の学びを深めるとともに他者の考えを共有することで、HCU 全体の実践力向上へとつなげていきたい。

5 病棟：有持　由江

■財務の視点

令和６年度 10 月～3 月に病棟改修の為、５病棟から９病棟へ移動した。病床稼働率 78％、緊急入院は 46.4％であり、主科をはじめ他科の患者も受け入れを積極的に行った。朝礼で緊急入院受け入れをスムーズに行う為に緊急入院対応看護師を決めて対応した。DPCⅡ期以内退院患者率は 69.8％だった。DPCⅢ期に入った患者リストをチームリーダーや退院調整係に共有し、退院促進を主治医と病状や治療の共有をスタッフ中心に行い退院促進に努めた。外来心臓リハビリテーションが２年目となり、心臓リハ看護師の育成に努め、心臓リハ係でリハビリ PT と話し合い、外来と病棟の連携マニュアル作成、情報共有シートを改訂していくことができた。今後は病棟看護師全員が心臓リハビリテーションを実施が課題である。

■顧客（患者）の視点

退院調整において退院促進カンファレンスをもとに、病棟スタッフのデイリーダーと共有し、主治医へのアプローチ、病状説明時にケースワーカーに参加を依頼し退院促進をはかった。意思決定支援においては医療者間カンファレンスを開催し、多職種の意見交換を行った。リハビリに関しては PT、OT に進捗を確認し、自宅での生活が可能か情報収集し、医師と共有し家族への働きかけを行うことができた。退院調整の経験が少ない２年目、４年目看護師も退院調整カンファレンスに参加し先輩看護師の助言のもと、病棟看護師としての役割を学び、退院調整の経験を積むことができた。

■業務プロセスの視点

インシデント　レベル３b２件、レベルⅤ1 件発生に至った。レベルⅤ事例に関しては医療安全管理者と共に病棟で PM-SHELL 分析を行い、危機管理の重要性や環境整備の重要性を共有した。看護師不足に伴い、看護補助者（看護助手、クラーク）と協働に努め、看護助手の保清やおむつ交換の介入、搬送の移譲、病棟クラークの看護師関連の事務処理を徹底的に実施した。また褥瘡において発生率が上昇した時は病床稼働率上昇と共に上昇傾向が分かり、ADL 低い患者の褥瘡リスクを予見できる知識や経験、症例から学び危険予知する力を今後も継続して養って行きたい。

■学習と成長の視点

ラダー取得状況は実践者ラダーレベルⅠ1 名、レベルⅡ1 名、ラダーⅢ1 名が取得した。認定看護師学校の受験 1 名、受験希望 1 名に至りキャリア支援に繋がった。また心臓リハビリテーション看護師 2 名、心不全療養士 1 名合格し、循環器の専門的知識の向上に繋がった。大阪府看護協会研修（APC 支援 1 名、慢性心不全看護２名）参加、ELNEC3 名参加し、意思決定支援や循環器病棟の知識を得て看護実践に活かすことができた。看護教育研修「リフレクション研修」（WEB 研修）17 名が参加し、そこから看護の振り返りの重要性を認識し、スタッフ自らカンファレンス実施していった。急変対応に関しては令和５年度から取り組み、ICLS 受講者５名、ICLS インストラクター 1 名が急変時のリーダー役割を担える看護師育成・強化を目標に、循環器医師の協力を得て病棟で挿管介助や急変シミュレーションを計５回実施した。心電図読み方の講義を循環器内科部長より実施、看護師間で急変症例を病棟共有も継続し、知識と実践をつなげる働きかけを継続した。今後も継続し、どんなスタッフでも急変対応が柔軟に行えるようにしていきたい。

6 病棟：依藤　里香

財務の視点では、病棟改修による引っ越しの影響もあり稼働率が低下する月もあったため、稼働率は 82.3％と前年度と比較すると低下し、目標の 93％に届かなかった。DPC Ⅱ期以内の退院は 67.7％だった。入院初期より退院調整を開始しているが入院前から 自宅での療養が困難になっている患者が多く、施設や療養型病院への転院を待つことに なり DPCⅡ期を超える退院を減少させることは難しい状況ではあるが、患者、家族の意 思決定を支援し、少しでも早期に次の療養の場へ移行できるよう支援していく。

顧客の視点では、退院調整部門と連携し入院初期から介入を行い患者・家族の希望に沿った療養の場所に移行できるよう支援している。また、治療の方向が変更するタイミングでの IC には必ず同席し、がん看護専門看護師や認定看護師と情報共有を行い、患者がより良い療養の場を選定できるよう支援している。他には、入退院が多い部署であるため煩雑な業務になる傾向ではあるが、忙しい中でも「患者に寄り添う」ことを目標にしている。そのため、看護を語る機会を意図的に作り統一した継続看護を行えるよう活発にカンファレンスを実施している。

業務の視点では、転倒によるインシデントレベル 3b 事例が０件だった。認知症患者 やせん妄患者が多い中、認知症看護認定看護師が在籍していることもあり、日々アドバイスをもらいながら転倒予防が行えていることが要因である。今後も個別性をもった転 倒予防を行っていきたい。他には、褥瘡発生が続いたことから褥瘡発生ゼロを目標に、 皮膚排泄ケア認定看護師からスタッフ全員にポジショニングや皮膚のケアについて 個々に直接レクチャーを受けた。この結果、知識・技術の向上を図り新たな知識の習得 や間違った知識の修復ができたため、次年度は、褥瘡発生減少に期待したい。

学習と成長の視点では、スタッフ全員が 1 年に 1 回以上、院内または院外研修に参 加しスキルアップに努めることができた。また、キャリア開発ラダーは、管理者ラダー Ⅰが 1 名、ラダーⅢが 2 名取得した。評価会を行うことでリフレクションの機会とな り看護実践力向上に繋がっている。今後も看護実践力向上に向けキャリア開発ラダーの 推進を行っていきたい。

7 病棟：南波　広美

血液内科、眼科、脳神経内科混合病棟 49 床（クリーンルーム 12 床含む）を有している。財務の視点では、造血幹細胞移植が提供できない環境にあったため、医師と都度相談しながら、患者の安全を担保しつつ柔軟に総室無菌治療室利用の運用を行ってきたが無菌治療室稼働率が前年度より 7.2％減少となった。11 月には看護師による移植後外来が終了した。

顧客の視点では、看護の根拠に触れながら実践することを目標に活動した。指標を褥瘡発生で評価すると褥瘡発生率が 0.6％あり発生部位は NIPPV 装着による MDRPU、仙骨、踵となっている。好発部位の褥瘡発生であり意識して予防対策できていたのか実践を振り返り、より看護実践を深めていきたい。

高齢化により退院後、患者を支える家族もそれぞれ身体的問題を抱えている現状があり社会的介入の必要性などを、退院調整看護師・MSW に IC 同席してもらい、多職種で患者とその家族を支える環境が提供できるよう調整できた。

業務プロセスの視点では、業務依頼し安心して休憩ができる看護体制を確立したことで、業務調整ができる環境が提供できたが、看護度の高い患者が増えており超過勤務時間は前年度に比べ増えた。

学習と成長の視点では、血液内科に必要な基礎知識として血液データーの見方、抗生剤、自家移植の勉強会が朝礼後に行われ、昨年度の日中開催よりも参加者が増えた。レブラミド研修は、レブラミドを扱っている病院施設必須の研修になっているが８割程度の参加となっており毒薬をより多く扱う部署の看護師としての意識を高める必要があり、引き続き看護師同士が刺激し合い成長できる環境を考えていきたい。

８病棟：髙田　佳織

病床稼働率は 82.7％で昨年度（82.4％）より微増した。平均在院日数は 10.6 日で昨年度（11.3 日）より、わずかに短縮した。DPC Ⅱ期内退院率は、67.7％（昨年度 67.3％）で 70％を超える月があり、適時退院調整に取り組むことができた。ＭＳＷへの早期介入依頼や早期サマリー着手をしながら、多職種とゴールの早期共有をしていき、適時退院調整を引き続き実践すること、退院支援の進捗を細やかに把握するシステム作りをしていく必要がある。多職種での退院前カンファレンスの実施率は 0.6％であり、DiNCL（大阪府看護協会労働と看護の質データベース）の中央値 1.6％より低値であったが、退院促進カンファレンスの実施率は 100％であった。退院前カンファレンスは患者・家族が望む療養を地域につなぐためにも重要であり、患者の担当ケアマネージャーと相談し、積極的に実施していく必要がある。退院促進カンファレンスの内容は、可能な限り記録し、退院調整促進につながった。院内に FLS（二次性骨折予防）運用チームが発足し、大腿骨近位部骨折の骨接合術、人工骨頭挿入術 2 例の新規パスを作成し 11 月より運営を開始した。二次性骨折予防継続管理加算は計 17 例算定できた。

患者満足度の総合的 PX スコアでは、患者への看護師の説明が十分ではなかったという少数意見があった。手術が多い部署であり患者パスなどを活用し、一日のスケジュールを説明するなど患者の立場に立って十分な説明に取り組んでいく。

10 月に各病室の洗面台改修工事や女子トイレの身障者用トイレの設置、ナースコール工事、SPD 物品整備を実施し療養環境改善につながった。

医療安全・感染管理の強化では、褥瘡発生率は 0.5％で昨年度より減少した。ギプス固定している患者や臥床患者の整形患者に発生することが多く、引き続き定期的な観察とポジショニング・除圧を徹底していく。インフルエンザ、コロナの病棟内発生が各 1 名あった。同室患者の感染拡大はなかったが、手指消毒の使用量として 1 患者 20 回/日の目標が達成できなかった。リンク NS が積極的にスタッフに声かけをしていたが、使用量に個人差があり次年度は個別指導も徹底していく。

キャリア開発ラダーはレベルⅠ：1 名、レベルⅢ：1 名、取得した。約半数の看護職員がラダーを取得していないので、次年度もラダー申請を目標管理に挙げるなど、申請を推進していく必要がある。赤十字活動では、近畿ブロック合同災害救護訓練、災害救護基礎研修に各 1 名参加した。看護師長が能登半島地震によるこころのケア要員として派遣された。また、各看護係長が赤十字幼児安全法講師の取得、国際人道法研修を受講した。看護主任は、健康生活支援講習に指導者として 4 回参加し、積極的に赤十字活動に参加できた。

9 病棟：川﨑　知子

＜財務の視点＞

2 月に 3 病棟へ移動し、年度末まで 3 病棟での実践が延長された中、個室数(圧縮配管数)減少、手前の総室配置が全くない中で IP 増悪による呼吸器管理や寝たきり誤嚥性肺炎、せん妄や徘徊患者対応を行った。早期の退院調整や看護サマリーの早期着手も年間平均病床稼働率 91.2%、年間平均在院日数 10.2 日と功を奏している。DPC 入院期間Ⅰ Ⅱにおいてはパス適応が少なく IP 増悪など長期化傾向にある疾患も多い中、平均 68.1%を維持できた。また認定 Ns・リンク Ns の活用で褥瘡や認知症ケア加算の算定が増えた。褥瘡の新規発生はほぼなく、せん妄対応も早期から行えた。応援の夜勤専従者は効果的に継続して就業し業務サポートに繋がっている。

＜顧客の視点＞

看護サマリーの早期着手・医師への働きかけができるよう、入院時から退院調整の視点を持ち MSW に働きかけたことが調整促進につながった。退院調整進捗表は効果があった。表の更新対応は係や管理者が主で、プライマリーの関与が薄いことは課題。サマリー改訂(様式 50)によりプライマリー以外でも時間をかけずにサマリー作成できることが早期着手につながっている。リーダーをサポートする係長とのコミュニケーションがスタッフにも良い影響(承認など)を与え、ピアサポートや他者からの承認値が向上した。

＜業務の視点＞

高齢・認知症、転倒歴のある患者が多く、転倒の予測と転倒しても大怪我に至らない環境整備をカンファレンスで検討出来た。認知症 RN にも積極的に情報共有と助言を得て実践に活かせた。患者誤認の内服インシデントは PMSEHLL を通して振り返りを行った。病棟係とリンク Ns が協力して活動することで手指消毒量の増加に繋がっているが個人差も大きく課題。時間外労働時間は、入院患者の層(せん妄などで目が離せない)や人工呼吸器管理の人数で容易に変動する。HOT 導入パスや喘息パスなど指導があるものは、パスにより記録内容の簡素化・定型化が得られている。業務調整は調整困難なことも多いが、時短・パート勤務者に負担がかからない工夫は必要。病棟改装期間中 3F の期間が予定より延長した中で補助者の思い、HCU との共存に関することなど、個性を活かしながらインシデントに巻き込まれないよう安全確認や感染対策を行った。補助者からの提案を改善実施に繋げた。

＜学習の視点＞

キャリア開発ラダー認定はラダーⅠ-2 名、ラダーⅡ-3 名。ICLS に 2 名参加、救急法受講もあり救護員登録は 2 名であった。こころのケア指導者 1 名育成や大規模防災訓練・高槻ハーフマラソン救護などに参加できた。院内研修も WEB 開催にて視聴参加の機会が増加し研修参加回数は昨年比倍増した。倫理カンファレンスは、医師や認定 Ns など多職種が参加し医師の思いも伺える機会となった。

緩和ケア病棟；秋山　由衣

財務の視点では、今年度、緩和ケア病棟の病床数が看護師人員配置増加に伴い 20 床となった。結果、看護師の年休取得率は昨年度よりも増加し取得することが出来た。入院患者数も昨年度より増加し、緩和ケア病棟緊急入院初期加算も 19 件（4 月～1 月まで）取得し、登録医からの直接入院患者受け入れも積極的に地域と連携を図り受け入れを実施した。月間平均在院日数には、月毎にばらつきあり、多職種カンファレンスにより療養先の検討は次年度の課題として残る。

顧客の視点では、安全に関しては、必須の研修は 100％の受講を達成した。看護師の職務満足度調査の満足度が昨年度より増加した。この要因は、夜勤人員が増加したことによる心理的安全性が高まったものと考える。PCU に関連する委員会活動の推進と、認定活動の導入により、働くモチベーションも高まったものと思われる。患者さんがご逝去された後も、ご挨拶に来院されるご遺族は多くおり、そのことも看護師の喜びややりがいに繋がっているものと思われる。

業務プロセスの視点では、病床増床に伴い、看護ケアや業務内容の見直しを係長中心にスタッフで話し合い、検討を重ね、業務改善を行ったが、時間外労働時間は、昨年度と大きく変化はなかった。記録時間の短縮は緩和ケア病棟における大きな課題の一つであり、次年度の課題として残る。

学習と成長の視点では、がん関連に関する研修受講や学会への参加は、スタッフの 50％は受講出来ていた。リフレクションやロールプレイ、デスカンファレンスを通して、他者の看護実践を知る機会となり、今後の実践に取り入れたいといったスタッフの意見も聞かれ、看護を言語化する訓練の場となった。認定看護師が参加し、看護実践の根拠を言語化しスタッフに伝えることにより、根拠に基づいた実践に繋がっていることを再認識できた場となり、次年度も同様の学習スタイルを継続して実践していきたい。ELNEC-J 研修の未受講者と赤十字研修の受講も次年度すすめていきたい。

手術室中央材料室：門脇　寛子

財務の視点は、機能評価受審し、手術室 A ランク中央材料室 A ランクの評価となった。術後疼痛管理加算 1028 件、昨年度（1052 件）に比べると低い。2 月から世界レベルでのフェンタニルの出荷が半分となり、年単位で正常化に戻る状況である。麻酔科医との薬剤の調整が必要となり、術後疼痛を緩和できるように支援していく。

顧客の視点は、全身麻酔の方(割合 53.5%)を対象に術前訪問の実施率は 41.5%、術後訪問の実施率は 22.3%であった。昨年度に比べ増えている。術前訪問では患者の不安を把握し、術前の情報をチームに伝え協力してもらい、術中の看護につなげている。また術後訪問をすることで、術前・中の気になったこと確認するために直接患者の状態を観察し、患者に気持ちを聞く機会を得ることで手術室看護師は術中看護について術後に振り返りをすることができ、今後の方向性を明確にしている。「周術期看護」事例で看護を語っている。事例をまとめることで言語化できており、看護師のやりがいにもつながっており、承認の場になった。事例を通して業務改善にもつながった。

業務プロセスの視点は、MDRPU5 件発生している。内 2 件は 4 点支持器に関連した褥瘡である。WOC と褥瘡発生時連携をとり、被覆材や手術時間 6 時間以上のリスクなど要因分析を行った。手術体位の業務手順を作成した。8 月から日本看護協会の手術室の DiNQL に参加している。同規模病院は 1 件しかないが、手術看護に対する客観的評価が数値でわかるようになった。体温管理に関してはまだ業務手順がないため、有効な保温に関して勉強会を行った。来年度は業務手順を作成して看護の質の向上に努めたいと思う。

学習と成長の視点は、院内看護研究に取り組み、「脊椎腹臥位手術におけるスキントラブルに関する文献レビュー」について 1 名が発表をした。キャリア開発ラダー看護実践レベルⅢ1 名取得した。日本手術看護学会 5 名（WEB 研修）参加した。周術期管理チーム認定 1 名取得。赤十字関連では救急法指導員が 2 名おり、毎年赤十字看護師養成に携わっている。災害支援ナース 1 名取得した。第 2 種滅菌技師資格を看護師 3 名取得し 4 名となった。滅菌の質向上のために、委託業者と共に来年度は業務の見直しを予定している。

来年度は手術看護認定看護師研修に 1 名決まっている。来年も周術期看護の質の向上に努めていきたい。

外来：原田　香織　　石黒　早苗

外来では、慢性疾患看護専門看護師、がん化学療法看護認定看護師、皮膚・排泄ケア認定看護師、また、禁煙認定指導者が勤務し、それぞれに専門性を発揮し活動している。また、外来看護師も専門看護師や認定看護師と協働し、患者の疾患や生活の状況にあわせて、患者の自己管理能力の向上や、家族を含めた患者のQOLの支援に努めている。

外来での療養指導料の算定など、病院経営に貢献している。

外来における診療報酬算定件数（令和６年度）

・禁煙外来：初回15件　2-4回36件　５回目9件
・在宅自己腹膜灌流指導管理：10件
・在宅療養指導：680件
・在宅自己注射指導管理（複雑な場合）：1件
・在宅自己注射指導管理（月27回以下）：866件
・在宅自己注射指導管理　(月28以上)：1196件
・がん患者指導管理イ：118件
・がん患者指導管理ロ：296件

看護記録・監査委員会：川﨑　知子

委員会ビジョンに「患者のための看護記録」「看護記録の標準化と簡素化」の実現を掲げ、BSC のもと実施した。

看護サマリー(様式 50)は定着し、記入例の共有による工夫や活用を進めている。退院調整によるサマリー件数は増えているが作成時間の短縮につなげられている。退院時記録もテンプレートの活用で入力の簡便と記載漏れなく実施できており、継続が必要な外来で記録の確認が行えている。今年度は機能評価に向けて、「身体抑制開始・解除」パターンの作成、「生活のしやすさ」問診表の作成があり、記載手順や監査表項目が増えたことによる手順の改訂を行った。２年ごとの略語集改訂も行った。記録時間短縮に向けて経過表の活用に着目し、セット引用として観察項目の新設依頼を 7 月から依頼しているが完了しておらず、セット化を活用した記録の簡素化は果たせていない。検温表プルダウン入力の改善は一部実行され入力しやすさにつながっている。検温表やセット引用などの改訂(SE 依頼分)がタイムリーに実施出来ることを期待する。看護過程監査や看護計画評価修正は毎月の定点監査を継続し、委員の働きかけもあり高実施率を維持しているが、委員の働きかけは必要であり引き続きの活動を要する。

看護教育委員会：依藤　里香

今年度の研修企画は、集合研修は、実技やグループワークなど集合研修でしかできない研修に絞り、勤務時間に関係なく参加したい人が参加できる研修を開催することを目標に WEB 研修を増やした。結果、研修参加者は 2～4 倍に増加した。次年度も学びたい人が学べる環境を作っていきたい。また、今年度の新企画として、自身の看護をリフレクションすることや他者にリフレクティブに関わることを学ぶことで看護の質向上に繋げられると考えリフレクション研修を導入した。自部署でリフレクションを推進することを期待し各部署より 1 名ずつ参加した。次年度も引き続きリフレクション研修を継続し看護の質向上に繋げたい。他には、看護教育委員のスキルアップについても、全員が教育に関する研修や学会に参加できたため今後の教育に活かしていきたい。キャリア開発ラダーの推進に教育委員としても取り組みたかったが、教育委員がラダーを取得できていないこともあり、まずは教育委員がラダーの取得を目指す必要がある。次年度は、教育委員会内でのラダー取得推進を行う。

新人看護師教育は 5 名の入職があった。新人研修は例年通り実施し、体調不良などで欠席が見られたが 3 月の研修修了に至った。4 月の研修期間が 2 週間以上あり、研修による疲労も認め、5 月の研修はない状況であった。次年度は研修期間を短くし、5 月へ研修開催を検討することとなった。

今年度はローテーション研修内容を変更した。例年自部署以外の部署（手術室や HCU、緩和ケア病棟）で実施していたが、今年度は主体性を促す為、新人看護師自ら行きたい部署を自分自身で選択し、事前学習も主体的に行えるよう働きかけた。自身の学びたい部署で、自らの質問することなど、主体性を働きかけるように促し、学びのあるローテーション研修となった。

看護研究委員会：秋山　由衣

今年度は、看護研究委員自身の研究への関心を高めるために、委員自身にも研究の芽となる題材を検討し委員会の場で共有を行った。

看護研究学会にも参加し、委員のメンバーの中に臨床看護研究 1 受講者が 1 名、Ⅱ受講者が 3 名おり、研究に関わっている。しかしながら、自部署の研究に取り組むスタッフの進捗状況の共有や、CNS と進捗状況を共有していくことが出来ておらず、研修についていけていない参加者もいたことが分かった。この課題は次年度検討が必要である。 今年度の看護研究学会には委員より 2 名参加し伝達講習を行った。研修発表演題は今 年度 5 演題発表をすることが出来た。

臨地実習指導委員会：武内　綾香

学生から実習場所がよかったと感じることができるよう、学生の気持ちを理解し尊重した関わりを持つこと、看護モデルとなることを目標に挙げ、各部署の実施指導者に発信した。学生からは実施指導者のような看護師になりたい、やさしく指導してもらえたという意見があった。次年度も学生から高評価や貴重な実習ができたといえる臨地実習の環境を作っていきたい。また、学生指導が円滑にできるよう、昨年度から引き続いて実習支援シートとの活用促進おこなった。実習支援シートは、委員が使用方法を直接実施指導者に説明することで、次の実施指導者に引き継ぐなど積極的に活用できた。実習支援シートの内容や学生の関りについては、委員会で共有、検討し活発な意見交換ができた。次年度も引き続き、学生の関わりについて活発な意見交換ができるようにしていく。

指導者の臨地実習に関する知識、指導力の向上のため、大阪府看護協会の臨地実習指導研修（短期）を受講した委員より、研修内容の共有をおこなった。Z 世代の関りや基礎教育の中でも地域看護に関する授業が増えているなどを共有した。また、看護学生の支援において成人学習について理解する必要があり、ナーシングスキルの動画を視聴し所感や学びを共有した。

看護業務改善委員会：南波　広美

看護業務手順と検査手順の改訂に取り組み、現状と手順に違いがないように、また、ナーシングスキルや学会・院内委員会など看護師の安全のため現状に則したものであるのか検討しながら行い、整えることができた。院内電子カルテ内で閲覧できるよう環境を整えることもできた。院内電子カルテがない環境でも確認できるようファイル化し、各部署に設置している。前年度から取り組んでいた OP チェックリスト、チューブ・ドレーン類固定方法の標準化を完成することができた。各部署、診療科以外の入院も増え OP 出棟後転棟する傾向にあるため、非常に有効・効率的な標準化が行えると評価できる。チューブ類固定方法は、部署関係なく患者に安全な医療を提供するためのひとつの材料になる標準化であると評価できる。後半は、膀胱留置カテーテルの固定に関し当院での手順を考え作成し各部署への周知活動を行うことができた。次年度は、看護記録の時間短縮に向け院内委員会と協働して活動したい。

医 療 社 会 事 業 部

社 会 課

「わたしたちは、苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守ります」という日本赤十字社の Mission statement のもと日々業務をおこなっており、赤十字運動の担い手として、人道の実現のために利己心と闘い、無関心に陥ることなく、人の痛みや苦しみに目を向け、常に想像力をもって行動しています。

＜令和６年度スタッフ＞

渡部　悟　　（社会課長兼地域医療連携課長）
綱嶋　準　　（社会係長）

■令和６年度実績　（令和７年３月 31 日現在）

令和６年度日本赤十字社大阪府支部救護員（救護班要員）

救護班要員 40 名　医師５名、看護師長５名、看護師 10 名、こころのケア５名、薬剤師５名、主事 10 名

	第１班	第２班	第３班	第４班	第５班
医　師	平野玄起	中森翔平	伊丹康夫	松村大志郎	園村純
看護師長	辻佳恵子	亀岡さつき	武内綾香	吉田一真	小笠原舞
看 護 師	福場久美子	友安直美	関岡薫	山内洋平	田中智美
	奥村晃代	西田昇太	三浦友奨	武井亜希子	女鹿田由美子
主　事	友田響	松山佳央	篠田隆史	中村義隆	迫田博史
	町田統麻	中尾功一	杉本健太	宮﨑順平	石塚威
薬 剤 師	濵武清範	宮西將之	松本弘誠	奥村優介	松田ちひろ
こころのケア要員	髙田佳織・川﨑知子・門脇寛子・井上尚代・永田奈月				

◆ 日赤災害医療コーディネーター
小林稔弘、平野玄起、中森翔平

日赤災害医療コーディネートスタッフ
辻佳恵子、綱嶋　準

◆ 国際活動　国際救援・開発協力要員の登録状況
原田香織

◆ こころのケア指導者
髙田佳織、川﨑知子、門脇寛子、井上尚代、永田奈月

◆ 赤十字救急法指導員
髙田　佳織、石黒　早苗、田渕　美世、仲　砂千代、前田　敦子、山﨑　孝子、南波　広美、清田　絢子、村上　美穂子、松岡　郷子、濵田　健司、亀岡　さつき、友安　直美、有持　由江、町田　統麻、武井　亜希子

◆ 健康生活支援講習指導者（年報には載せない）
仲　砂千代

◆ 健康生活支援講習指導員（年報には載せない）
仲　砂千代、工藤　ゆかり、濱田　恵、末廣　悦子

◆ 幼児安全法講習指導者（年報には載せない）
亀岡　さつき

◆ 幼児安全法指導員（年報には載せない）
亀岡　さつき、濵田　健司

◆ 第２級陸上特殊無線技師
迫田　博史、篠田　隆史、佐橋　克哉、阪本　達矢、西村　大樹、山﨑　孝子、吉田　桂、河野　博文、濵田　健司、綱嶋　準、中尾　功一

◆　災害救護用トラック運転手（年報にはのせない）

藪　敏雄、篠田　隆史、山﨑　雅樹、中村　義隆、山﨑　孝子、吉田　桂、萩原　大介、迫田　博史、河野　博文、佐橋　克哉、松山　佳央、綱嶋　準、松宮　源朗、岩見　知樹、友田　響、宮﨑 順平

●令和６年度災害等救護員派遣

月　日	災害名/派遣場所	派遣者	人数
4 月 2 日～ 4 月 7 日	令和６年能登半島地震/石川県珠洲市	【こころのケア班】大阪府支部第２班 指導者　　髙田　佳織 要員　　永田　奈月	2

●令和６年度災害対策訓練研修会等

【救護員研修会】

月　日	研修会名	参加者	人数
4 月 9 日～ 5 月 31 日	令和６年度　日本赤十字社大阪府支部救護員登録研修会（オンデマンド配信）	医長　松村　大志郎 看護師　武井　亜希子 奥村　晃代 西田　昇太 三浦　友奨 薬剤師　岩井　真里絵 作業療法士　石塚　威 臨床工学技士　澤井　綾太 主事　宮﨑　順平	9
6 月 8 日	令和６年度　日本赤十字社大阪府支部救護班要員研修Ⅰ（旧基礎研修）	医長　松村　大志郎 看護師　武井　亜希子 奥村　晃代 西田　昇太 三浦　友奨 薬剤師　岩井　真里絵 作業療法士　石塚　威 臨床工学技士　澤井　綾太 主事　宮﨑　順平 スタッフ　中村　義隆 綱嶋　準	8
7 月 5 日～	令和６年度第１回日赤災害医療	医師　中森　翔平	1

7月6日	コーディネート研修会		
7月21日	令和6年度都道府県災害医療コーディネーター研修	副院長　小林　稔弘	1
8月17日～ 8月18日	令和6年度全国赤十字救護班研修会	医長　平野　玄起 看護副部長　髙橋　晶子 放射線係長　中村　義隆 指導スタッフ 副院長　小林　稔弘 社会係長　綱嶋　準 事務局スタッフ 診療支援係長　福﨑　美恵子	6
9月18日	令和6年度　第1回日本赤十字社大阪府支部こころのケア研修会	看護師　西田　昇太 武井　亜希子 主事　宮﨑　順平 講師　川﨑　知子	4
10月9日～ 10月10日	令和6年度こころのケア指導者養成研修会	看護係長　永田　奈月	1
10月19日	令和6年度　日本赤十字社大阪府支部救護班要員研修Ⅰ（旧ステップアップ・dERU研修）	看護師　武井　亜希子 奥村　晃代 西田　昇太 三浦　友奨 薬剤師　岩井　真里絵 主事　宮﨑　順平 スタッフ　中村　義隆 綱嶋　準	8
11月23日～ 11月24日	令和6年度第2回日赤災害医療コーディネート研修会	看護係長　辻　佳恵子	1
11月27日	令和6年度　第2回日本赤十字社大阪府支部こころのケア研修会	看護師　三浦　友奨 薬剤師　岩井　真里絵 作業療法士　石塚　威 臨床心理士　岡村　宏美 講師　門脇　寛子	5
3月15日	令和6年度大阪府災害医療コーディネーター研修	日赤災害医療CoT Co　平野　玄起 Coスタッフ　辻　佳恵子	2

【災害救護訓練】

月　日	訓練名	派遣先	参加者	人数
6月15日	第28回日本赤十字社第4ブロック合同災害救護訓練	和歌山県消防学校	救護班 医師　奥野　岳 看護師長　辻　佳恵子 看護師　福場 久美子 奥村　晃代	12

			薬剤師　奥村　優介 主事　友田　響 宮﨑　順平 日赤災害医療 CoT Co　小林　稔弘 Co スタッフ　髙橋　晶子 中村　義隆 綱嶋　準 こころのケア訓練スタッフ 指導者　髙田　佳織	
9 月 14 日	高槻市医師会災害医療救護訓練	高槻市保健センター/高槻赤十字病院	副院長　小林　稔弘 社会係長　綱嶋　準	2
10 月 10 日	2024 年度大阪国際空港航空機事故対策部分訓練	大阪国際空港 空港消防署	医師　小林　稔弘 看護師長　小笠原　舞 看護師　友安　直美 主事　原　祥太郎 岩見　知樹 スタッフ　綱嶋　準	6
11 月 4 日	大規模津波防災総合訓練		医師　小林　稔弘 (研修医)　大西　美帆 看護師長　武内　綾香 看護師　関岡　薫 西田　昇太 主事　中村　仁美 岩見　知樹 スタッフ　綱嶋　準	8

各種赤十字指導員（職員）研修会（大阪府支部にて開催）

4 月 12 日～ 13 日	令和 5 年度赤十字健康生活支援講習講師養成講習会　新任指導員研修会	看護主任　関岡　薫 講師 看護係長　仲　砂千代	2
5 月 24 日 5 月 31 日	赤十字救急法指導員研修	看護師長　髙田　佳織 南波　広美 有持　由江 看護係長　仲　砂千代 亀岡　さつき 看護師　友安　直美 村上　美穂子 清田　絢子 田渕　美世 検査技師　町田　統麻 作業療法士　山﨑　孝子	9

		事務員　　濵田　健司	
11 月 13 日～15 日	幼児安全法講師養成講習（本社）	看護係長　　亀岡　さつき	1
3 月 8 日	赤十字救急法指導員研修	看護師長　　石黒　早苗 看護係長　　前田　敦子 作業療法士　山﨑　孝子	3

●令和 6 年度赤十字救急法基礎・養成講習会+指導員研修(高槻赤十字病院開催)

月　日	受講生	人数
令和 6 年 9月 28 日 10 月 5 日 10 月 6 日	【受講者】中村仁美、佐伯明日美、武内綾香、高一生、橘瑞季、原千穂、梅田かおる、女鹿田由美子、桝井克子、近藤美弥子、斎藤紘代、、石橋美幸、玉﨑嘉美、坂本愛美、北村めぐみ、中道仁、土井まさみ 【指導員】 （基礎）石黒早苗、濵田健司、武井亜希子、田渕美世 （養成 1）南波広美、有持由江、村上美穂子、友安直美 （養成 2）有持由江、石黒早苗、村上美穂子、山﨑孝子	17

赤十字救急法救急員指導員派遣（支部にて開催）※養成 1→養成 1 日目、養成 2→養成 2 日目

月日	参加者
8 月 20 日（基礎）	山﨑　孝子、濵田　健司
8 月 21 日（養成 1）	髙田　佳織
8 月 22 日（養成 2）	有持　由江
9 月 21 日（基礎）	仲　砂千代、石黒　早苗
10 月 13 日（養成 1）	仲　砂千代
10 月 14 日（養成 2）	仲　砂千代
12 月 21 日（養成 1）	南波　広美
1 月 11 日（基礎）	石黒　早苗
1 月 12 日（養成 1）	清田　絢子、友安　直美、村上　美穂子
2 月 26 日（基礎）	山﨑　孝子、友安　直美、濵田　健司

2 月 27 日（養成 1）	亀岡　さつき
2 月 28 日（養成 2）	亀岡　さつき、南波　広美

幼児安全法講習指導員派遣（支部にて開催）

月日	参加者
8 月 27 日（1 日目）	亀岡　さつき、濵田　健司
10 月 20 日（2 日目）	亀岡　さつき
3 月 15 日（短期）	濵田　健司

健康生活支援講習　講師派遣

高槻市西阿武野コミュニティーセンター

6 月 6 日	仲　砂千代、関岡　薫
6 月 12 日	末廣　悦子
6 月 20 日	工藤　ゆかり、末廣　悦子

高槻市桃園コミュニティーセンター

10 月 29 日	工藤　ゆかり、末廣　悦子
10 月 30 日	仲　砂千代、関岡　薫
10 月 31 日	工藤　ゆかり、末廣　悦子

北清水公民館

1 月 22 日	工藤　ゆかり、関岡　薫
1 月 29 日	仲　砂千代、関岡　薫

令和６年度ボランティア等受入れ・参加

月　　日	項　目	人数
令和６年度	緩和ケアボランティア	－
令和６年度	高槻日赤技能奉仕団	－
4 月 6 日	新採用職員研修災害救護倉庫見学	12
5 月 20 日	ANA グループ客室乗務員による「すずらんのお見舞い」(病院機能評価受審のためすずらんのみ受領)	
7 月 2 日	薬剤師実習生研修災害救護倉庫見学	2
7 月 5 日	移動採血車来院	10
7 月 19 日	新規採用職員フォローアップ研修	11
10 月 1 日	薬剤師実習生研修災害救護倉庫見学	2
11 月 17 日	秋季「高槻市環境美化推進デー」清掃ボランティア活動参加	2
12 月 23 日	ピアノ演奏会	30
1 月 7 日	薬剤師実習生研修災害救護倉庫見学	1
3 月 3 日	ボランティア交流会	24

中学生実習職業体験受入

月　　日	項目	人数
	本年度実施せず	

その他（　）内前年度

令和６年度　赤十字社員増強運動実績　321人　202,200 円（313人　199,200円）

令和６年度　ＮＨＫ海外たすけあい義援金実績　　14,002 円（9,627 円）

活動義援金　　149,805 円 (202,000 円)

患者支援センター

大中　玄彦　　（総合診療科部長兼患者支援センター長）
中村　保清　　（救急部長兼患者支援副センター長）
西浦　美香　　（看護部付看護師長）
工藤　ゆかり　（看護部付看護師　退院支援担当）
矢野原　綾香　（看護部付看護師　退院支援担当）

地域医療連携課

渡部　悟　　（地域医療連携課長）
迫田　博史　（地域医療連携課長補佐兼地域医療推進係長）
遠藤　美智子　（地域医療連携係長）
大迫　明子　　（主事）
新行　彩加　　（主事）
岩見　知樹　　（主事）
宮前　弥生　　（嘱託主事）
（入退院支援看護師）
酒井　美幸看護師
山本　裕恵看護師
澄川　幸恵看護師
中井　和子看護師（看護部付）
中川　真奈未看護師（看護部付）
福谷　裕美看護師（看護部付）

＜令和６年度活動実績＞

・地域医療連携課で取り扱った電話依頼件数は 7,589 件で、前年度 7,378 件に比し 211 件増加した。
・新規の紹介患者数は 5,225 件で、前年度 5,071 件に比し 154 件増加、逆紹介は 4,686 件で前年度 4,721 件に比し、35 件減少した。
・近隣病院・登録医への訪問は 967 件で、前年度 729 件に比し 238 件増加した。なお、医療職同行訪問は 35 件で、前年度 42 件に比し 7 件減少した。
・新規開業・継承等される施設への登録医訪問を行った。
・登録医向け Web 講演会を開催した。

開催日	座長／演者	演題	人数
4 月 24 日	今岡　靖浩 （今岡内科クリニック） ／大中　玄彦	将来を見据えた生活習慣病 の管理	27 名
7 月 17 日	西川　深雪 （にしかわ皮フ科クリニック） ／島本　純子	夏に多い皮膚疾患	40 名
12 月 25 日	山本　純 （じゅん茨木皮フ科・形成外科） ／櫛田　哲史	形成外科でできること ～皮膚の良悪性腫瘍と 眼瞼下垂を中心に～	33 名

令和 6 年度研修会等開催実績

・公開消化器カンファレンス　　10 回

（4/10、5/8、6/12、7/10、9/11、10/9、11/13、12/11、2/12、3/12）

・公開呼吸器カンファレンス　　9 回

（4/18、5/16、6/20、7/18、9/19、10/17、12/19、1/16、2/20）

◆共同診療　11 回

（4 月 1 回、7 月 2 回、9 月 3 回、11 月 1 回、12 月 2 回、1 月 1 回、3 月 1 回）

＜令和 6 年度活動目標＞

Ⅰ　地域の人々に安全・安心な医療の提供のために継続的に地域医療・院内の連携に努める

財務に関する事項	地域医療支援病院の継続	①紹介率 65%以上･逆紹介率 40%以上 ②地域医療支援病院に関する研修の実施
	登録医訪問の強化	①紹介患者の増加 ②当院の担当医師と共に訪問活動を強化
	がん診療拠点病院の獲得	①承認事項の実施 ②がん患者・家族に沿って支援強化
	紹介率のアップ	①未登録医への訪問 ②近隣病院・登録医への年 2 回定期訪問
	がん連携パスの増加	①大阪府がん診療連携パスの推進 ②がん疼痛緩和ケア地域連携パス運用

		に関する支援強化
顧客に関する事項	紹介患者の受入手段の追加	①病院予約システムの導入
	登録医の期待に応える	①返書率 100% ②逆紹介の推進
内部プロセスに関する事項	登録医からの紹介の断診 0%	①当日緊急依頼の即応需化 ②オープン検査結果等の返書率 100% ③紹介状況の把握を行う（月次報告）
	地域医療連携業務の強化	①開放病床利用率の増加

Ⅱ　個々の専門性を活かした質の高い情報の提供と自己研鑽を行う

戦略に関する事項	個々の専門性を発揮し医療連携、患者支援の質の向上を図る	①院内院外への研修に積極的参加 ②患者支援サービスについて内容検討 ③課内の情報共有強化の実施

Ⅲ　令和 6 年度の紹介率と逆紹介率

紹介率　　85.6%　（令和 5 年度 81.3%）

逆紹介率　76.8%　（令和 5 年度 75.7%）

紹介患者数（初診）5,225 人（令和 5 年度 5,071 人）

逆紹介患者数　　4,686 人（令和 5 年度 4,721 人）

※令和 5 年度に対して、紹介患者数は 154 人増加、逆紹介患者数は 35 人減少した。

医療社会事業部 地域医療連携課 医療福祉相談係

地域医療連携課　医療福祉相談係

＜スタッフ＞

志水　陽子（医療福祉相談係長・社会福祉士）
信本　　愛（医療社会事業司・社会福祉士）
大島由起子（医療社会事業司・社会福祉士）
中野　慶子（医療社会事業司・社会福祉士）
清水　敬之（医療社会事業司・社会福祉士　2024.9～）

＜特　色＞

厚生労働省の業務指針に基づき、

① 療養中の心理的・社会的問題の解決・調整援助
② 退院援助
③ 社会復帰援助
④ 受診・受療援助
⑤ 経済的問題の解決・調整援助
⑥ 地域活動

を行っている。

具体的に MSW が行っている業務を以下に示す。

＊ 患者・家族と面接しアセスメント、ニーズの把握
＊ 転院・入所先の担当窓口と連絡・調整
＊ 在宅支援関係職種や行政と連絡・調整
＊ 多職種カンファレンスの開催調整・参加
＊ 社会資源の紹介、情報提供
＊ 社会資源活用にあたって、担当窓口と連絡・調整。またそれにともなう必要な文書の作成依頼や処理、管理など
＊ 院内各職種と連携（各種カンファレンスへの参加、患者・家族の通訳的役割や院内外関係者との仲介など
＊ がん相談支援センターでの相談員としての業務を兼務
＊ 職能団体や地域の協議会への参加

＜令和６年度の活動実績＞

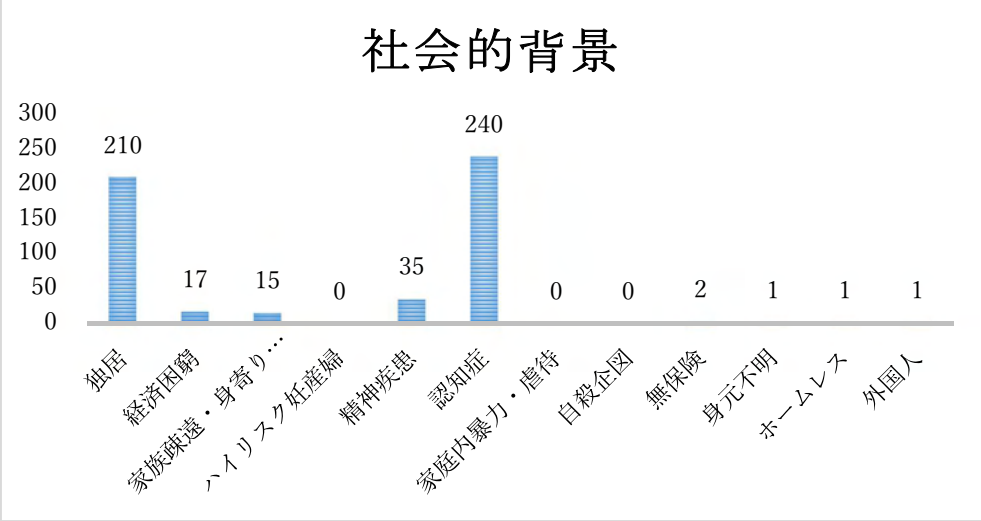
令和６年度医療ソーシャルワーカーは令和６年９月より１人増員となり、５名配置となる。原則病棟ごとにケースを担当。入退院支援看護師や退院調整看護師とともに担当病棟の退院支援計画カンファレンスに参加、入退院支援加算 1 を算定。その他、外来ケースにも対応している。

活動実績の集計については「全国赤十字医療ソーシャルワーカー協議会」の日報・月報様式を使用。

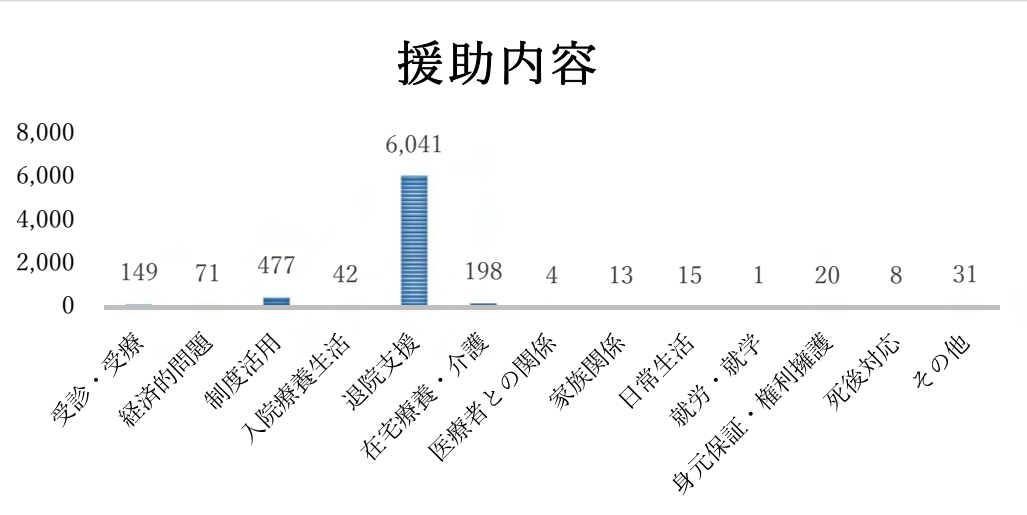
◇年度実人数・・・計 1,595 名

◇対応した問題件数（延べ相談件数となる）・・・計 6,788 件

◇社会的背景（対象のみ計上　単位：件　n＝522 件）



◇援助内容（複数カウント　単位：件　n＝7,070 件）



介入ケースの社会的要因のうち、独居と認知症が各々全体の 40％以上を占めている。数値には表れていないが、独居かつ認知症、家族疎遠・身寄りなし、あるいは老々介護、認認介護など困難ケースと考えられる要因が重なるなど、社会的背景は単一ではなく複数要因があり、複雑なケースも多い。

援助内容では、退院支援が全体の 85％を占め、昨年度より 1 割、一昨年度より 2 割増加している。このことは、医療ソーシャルワーカーの業務のうち退院支援にかかる業務の特徴や必然性を示している。一方、身元保証・権利擁護が 20 件、死後対応が 8 件あり、件数としては、昨年度より多少減少しているとはいえ、身寄りなしや疎遠となっている患者への対応が増えていることを示している。後見人や行政との連携も医療ソーシャルワーカーが担っており、今後、社会的背景と連動してこれらの件数は増えていくと思われる。こうしたいわゆる困難ケースが今後も増えていくことは予想され、退院支援や死後対応など、さらなる地域との連携や医療ソーシャルワーカーのスキルアップが課題となっている。

退院調整には院内外の関係者によるチームでのかかわりが不可欠であり、当院の中でも定着してきている。医療ソーシャルワーカーは地域連携の窓口という役割も果たしており、患者・家族と社会資源だけでなく、院内外の関係職種の連携そのものを橋渡ししているといえる。シームレスな入退院となるよう、今後も積極的な各関係機関との連携を心掛けたい。

また、当院は平成 29 年度より認知症ケア加算 1 の施設基準を取得しており、医療ソーシャルワーカーも 2 名、専任として認知症ケアサポートチームに所属し、週 1 回のカンファレンスに参加した。その他、心臓リハビリテーションカンファレンスや外科カンファレンス、適正な退院促進カンファレンスにもチームの一員として参加した。上記以外にがん相談支援センターの相談業務も兼務で行っているが、それについては「がん相談支援センター」の項目で活動報告を行う。

＜加算関係＞

当院は令和元年 11 月より、入退院支援加算 1 を適用しており、病棟の看護師・退院調整看護師・入退院支援看護師・医療ソーシャルワーカーが協働して週 2 回ずつ各担当病棟にて退院調整計画カンファレンスを行い、退院支援計画書を作成した。算定要件を見直したことにより、昨年度より大幅に件数が増加している。介護支援等連携指導と退院時共同指導料 1 に関しては、昨年度と同等程度の算定となっている。

なお、入退院支援加算 1 の施設基準として、当院が連携医療機関または介護サービス事業所等の職員と退院支援、地域連携職員が、25 か所以上の医療機関・介護事業

所と年３回以上の頻度で面会し、転院・退院体制について情報の共有等を行う必要がある。

こちらは、令和６年４月～令和７年３月においては 38 か所の連携機関と面会にて転院・退院体制について情報の共有を行った。

◇加算算定件数（令和５年度・令和６年度の比較　単位：件）

指導料　　＼　　年度	令和５年度	令和６年度
入退院支援加算１	1588	2323
退院時共同指導料１	90	89
介護支援等連携指導加算	104	102

＜令和７年度の活動目標＞

１．　退院支援、地域連携の強化

① 適正な退院支援のため、院内外連携の強化と後方受け入れ先の確保に努める。後方受け入れ先の機能や種類について、院内職員や患者・家族への可視化を行う。

② ケアブックをおおいに活用し、退院支援の効率化・可視化をはかる

③ 近隣の関係施設や医療機関への訪問を随時行い、訪問が困難な場合は、オンラインでの連携も推進していく。

④ 地域関係機関の活動や会議に出席し、情報収集に努める。

２．　業務量の適正化

院内他部門との連携をよりいっそうはかり、役割分担を明確にしていく。

３．　後進の育成

将来的には同時に複数の定年退職者が出る予定のため、現時点から医療ソーシャルワーカーの雇用・増員について引き続き上層部と相談していく。

また育成 マニュアル作成を検討する。

医療社会事業部　訪問看護ステーション

＜スタッフ＞

看護師：村上智香（管理者)、木村淳子、鈴木恵子、栗林愛美、廣瀬友紀、
森　彩子、北田佑美、廣岡愛
理学療法士：行本鉄平
事　務：小石原好江

異動　転入　令和６年３月　小石原好江、４月　木村淳子、 ５月　廣岡愛
転出　令和６年４月　鈴木恵子（手術室）５月　豊田典子（外来）

退職　令和６年３月　事務 本間幸美

＜特　色＞

「大阪府がん診療拠点病院」「地域医療支援病院」である高槻赤十字病院の強いバックアップのもと、緩和ケア病棟や緩和サポートチーム等と連携し、エンド・オブ・ライフ・ケアに取り組んでいる。専門看護師、認定看護師や多職種等と連携・協働しながら在宅療養支援に取り組んでいる。

医療保険・介護保険双方に対応可能。

各種指定：[医療保険]　24 時間対応体制加算、特別管理加算、ターミナルケア加算
専門管理加算

[介護保険]　緊急時訪問看護加算、特別管理加算、ターミナルケア加算
サービス提供体制加算、看護体制強化加算Ⅱ

公費負担制度：原爆医療、労災（H7 年９月～　）
生活保護医療(R2 年４月～R8 年３月)
難病指定医療（H27 年１月～R8 年 12 月）
指定小児慢性特定疾病医療（H27 年１月～R8 年 12 月）
指定自立支援医療（H27 年８月～R9 年７月　）

２．24 時間体制利用

・オンコール体制を整える。
・オンコール時の電話対応・訪問対応の教育と患者（利用者）の容態と起こりうる現象についてのディスカッションを行い、受持ちスタッフ含めて相談体制を整える

３．地域との連携

（１）連携している医師の所属先

・地域の開業医　64　施設　・他病院　39　施設　・当院医師　49（？　）名

（２）連携している居宅介護支援事業所

・39 事業所

４.事業計画

令和６年度　事業計画

訪問看護ステーションの運営の安定化と利用者数の回復を目指す。新体制の中、病院併設の利点を活かした体制づくり、病院内関係職種との連携強化、地域関係職種との顔の見える関係づくりの基、地域に開かれた訪問看護ステーションを目指す。

（１）安定した使用者数の確保と増加に向けた体制を整備する

訪問目標件数　　450 件/月以上　　4～5 件/日

新規利用者目標値　平均　4 人/月

ステーションの運営体制の整備として以下の取り組みを引き続き行う。

① Google カレンダーを活用したスケジュール作成と調整

② チーム体制を強化し受持ちの負担軽減、情報共有、問題解決の促進

③ 必要な研修を行う

・ハラスメント防止

・自然災害発生時の業務継続計画（BCP）年２回

・感染症の予防及びまん延防止のための研修全員参加　併設病院内の感染対策委員会の研修に参加

・高齢者虐待防止のための研修　年２回

・医療安全の研修への全員参加　併設病院内の感染対策委員会の研修に参加

（２）病院関係職種との連携強化

病院内関係職種との連携を促進するために以下の取り組みを行った。

① 引き続き外来所属看護師の立場を活かし、外来診療との連携が円滑に進める。また、外来との連携の仕組みや方法をスタッフが学び実践できるようになることで連携強化を図る

② 退院支援看護師、MSW とタイムリーに情報共有すること

③ 各種専門・認定看護師へ相談機会を増やし、スタッフのアセスメントや技術指導の向上につなげる。

④ 訪問看護ステーション運営委員会を定期的に開催する（年６回)。院内各関係職種が構成員と

なり当ステーションの健全な運営を推進することと病院との連携を円滑に行うことを目的としている。

３．地域との連携強化

去年度は頻回の管理者の交代があり、地域と連携や関係性が薄くなっていたが、令和６年度は、在宅ケア認定看護師が管理者となり、地域との関係性を強固にし、地域の開業医や居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、訪問ヘルパー事業所等在宅に関係する各部門の方々との信頼性の回復及び関係性への再構築を行う。

以下の取り組みを行う。

① 地域圏域会議（阿武野包括・郡家包括）各２回　出席

② 開業医の指示に迅速に応える。報告・連絡・相談を密にとる。

４．看護・理学療法の質の向上　アセスメント力の向上

去年度は頻回の管理者の交代があり、そのため活動の士気が下がったが、、令和６年度は、在宅ケア認定看護師が管理者となり、スタッフへの訪問看護の知識向上を毎朝のミーティング内でのカンファレンスやメンバー間で問題解決に向けたディスカッションがこれまで以上にできるよう意識して行っていく。また、スタッフの訪問看護に対してのコスト意識を高めていくことで、業績向上につなげる。また、外部やバッググランドの病院の研修に参加してもらえるように意識づけをしていき各自の学習意欲につなげる。

5.後進の育成、訪問看護普及のための実習生等の受け入れ

・大阪医科薬科大学看護学部　在宅看護実習　２週間　３クール　６名

・藍野大学　看護学部　看護学科　在宅看護実習　２週間　２クール　４名

以上

がん相談支援センター

＜構成員＞

北　英夫（室長、呼吸器科部長）
金村　誠哲（副室長、緩和ケア科副部長）
上成　弥生（診療支援課長）～令和６年７月
西川　亜紀子（がん看護専門看護師）（※）
志水　陽子（医療ソーシャルワーカー　社会福祉士）（※）

＜スタッフ＞

藤原　和子（緩和ケア認定看護師）（※）
信本　　愛 (医療ソーシャルワーカー　社会福祉士)（※）
大島由起子（医療ソーシャルワーカー　社会福祉士）（※）
中野　慶子（医療ソーシャルワーカー　社会福祉士）
清水　敬之（医療ソーシャルワーカー　社会福祉士）令和６年９月～
小島　一晃（薬剤部長　日本医療薬学会がん指導薬剤師）
宮﨑　順平（診療支援課　主事）
（※）はがん相談支援センター相談員基礎研修（1）～（3）修了者

＜特　　色＞

当院は大阪府指定のがん診療拠点病院に指定されており、がん相談支援センターは、組織上、院長直属の部署として位置づけられている。がん相談支援センターの業務として、がんに関する一般的な情報提供、がん患者の療養上の相談、患者サロンの定期開催等の患者活動に対する支援などがある。当院では、がん相談の対象を院内外のがん患者・家族とし、いつでも気軽に相談できるように面談は予約なしで受けられる体制を整えている。相談内容に応じて、がん看護専門看護師・緩和ケア認定看護師および医療ソーシャルワーカーがそれぞれ兼務で対応し、必要時には院内外の職種とも連携している。当院は緩和ケア病棟を有するため、緩和ケアおよび緩和ケア病棟に関する相談も多く、緩和ケア病棟入院相談（緩和ケア病棟担当医が行う外来の予約を含む）については医療ソーシャルワーカーが担当している。また、がん患者サロンについては、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため休止やオンラインで行っていたが、令和５年度から対面でのサロンを再開し、令和６年度も引き続き対面にて実施した。三島医療圏のがん拠点病院合同事業にも参加した。

＜令和６年度の活動実績＞

1．相談支援について

1）がん相談支援センターでは、ホームページ等で以下のように案内し、相談支援を行った。

・対象

がん患者・家族（他院通院中の方も可、匿名可）

・相談にかかる費用

無料　セカンドオピニオンについては有料

・受付日時

毎週　月曜日～金曜日　9時～16時

※予約不要であるが予め電話等で予約していただければ確実に対応できるとご案内している。

・相談員

がん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師・医療ソーシャルワーカー。うち5名はがん相談支援センター相談員基礎研修（1）～（3）を修了している。

2）相談実績について

①相談総件数（令和6年4月～令和7年3月）：計1,296件（月平均108件）

平成30年1月より厚生労働省科学研究「がん対策における進捗管理指標の策定と計測システムの確立に関する研究班」が作成した相談記入シートに合わせて相談内容や対応内容の入力項目を追加している。

令和6年度月別件相談数

年月	令和6年									令和7年			計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
相談件数	114	129	118	159	124	126	109	104	97	74	68	74	1,296

②相談内容

相談内容で最も比重の大きいものは上位から順に「不安・精神的苦痛」が340件（26.29％）、続いて「介護・看護・養育」が323件（24・98％）で「受診方法・入院」が161件（12.45％）であった。複数カウントでもこの3項目が上位に入っているが、「ホスピス・緩和ケア」「転院」「がん治療」「在宅医療」なども多数あり、1回の相談につき複数の問題が存在し、それに対応していることがわかる。昨年度に比べると、「不安・精神的苦痛」は122件増え、「介護・看護・養育」は133件の増加であった。

令和６年度　相談内容（n＝1,293 件）

相談内容	最も比重の大きいもの	参考）複数件数
がんの治療	72	415
がんの検査	0	7
症状・副作用・後遺症	41	142
セカンドオピニオン（一般）	0	9
セカンドオピニオン（受入）	0	0
セカンドオピニオン（他へ紹介）	1	4
治療実績	0	0
臨床試験・先進医療	0	2
受診方法・入院	161	175
転院	85	94
医療機関の紹介	5	34
がん予防・検診	0	0
在宅医療	55	104
ホスピス・緩和ケア	102	225
食事・服薬・入浴・運動・外出など	13	58
介護・看護・養育	323	485
社会生活（就労・仕事・就学・学業）	3	15
医療費・生活費・社会保障制度	34	68
補完代替療法	0	0
生きがい・価値観	0	26
不安・精神的苦痛	340	472
告知	9	99
医療者との関係・コミュニケーション	5	7
患者－家族間の関係・コミュニケーション	1	32
友人・知人・職場の人間関係・コミュニケーション	0	2
患者会・家族会（ピア情報）	1	1
グリーフケア	0	0
不明	1	1
その他	41	50

③対応内容

対応内容で最も比重の大きいものは上位から順に「傾聴・語りの促進・支援的な対応」が 453

件（35.55％）、「情報提供」が 301 件（23.62％）、「自施設受診の説明」が 191 件（14.99％）であった。自施設受診の説明は、当院緩和ケア病棟への入院相談がほとんどである。しかし、自施設受診の説明と同時に傾聴や助言、情報提供なども行っている。複数カウントでは、情報提供の件数が一番多い。

令和 6 年度　対応内容（n＝1,274 件）

対応内容	最も比重の高いもの	参考）複数件数
傾聴・語りの促進・支援的な対応	**453**	556
助言・提案	**154**	631
情報提供	**301**	730
自施設受診の説明	**191**	211
他施設受診の説明	**26**	38
自施設他部門への連携	**27**	141
他施設への連携	**88**	133
ピアサポート機能の紹介	**1**	1
苦情・要望への対応	**0**	0
判断不明	**0**	0
その他	**33**	33

④相談対象者のがんの部位

相談対象者のがんの部位は、転移等を除いた主のもので、肺が 270 名（20.89％）で最も多く、以下、血液・リンパが 207 名（16.02％）、乳房 181 名(14.0％)、大腸 134 名（10.37％）、胃 107 名（8.28％）であった。原発部位から肺や肝・胆、リンパや骨に転移しているケースも多い。令和 5 年度も肺が一番多かったが、令和 6 年度の大きな特徴としては血液・リンパが前年度の 3 倍近い件数となっている（前年度は 80 名　7.5％）。

令和 6 年度　相談者のがんの部位（n＝1,292）

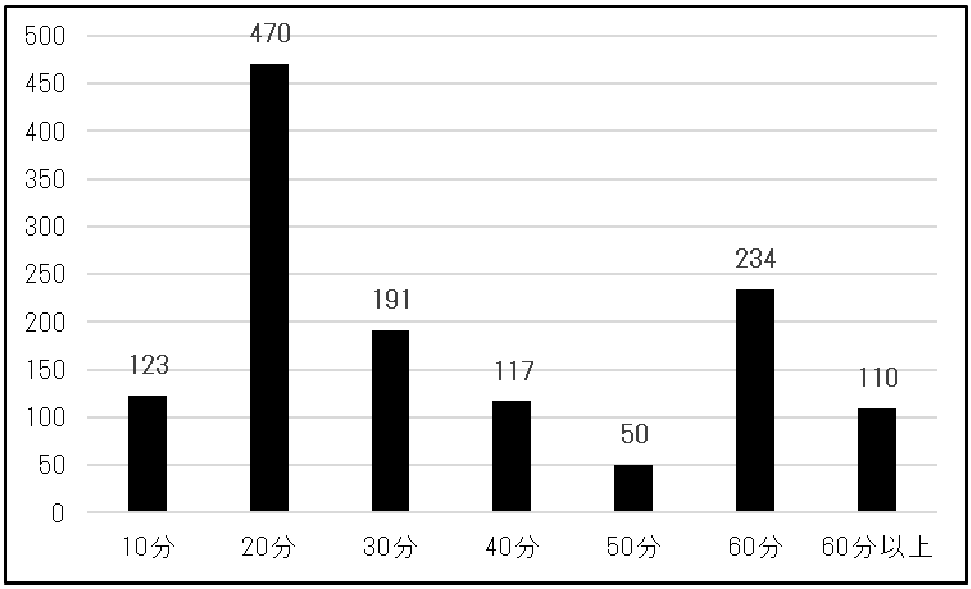
がんの部位	主なもの一つ	参考）複数件数
肺	**270**	372
血液・リンパ	**207**	261
乳房	**181**	187
大腸	**134**	176
胃	**107**	114
膵	**98**	115

肝・胆	**69**	232
眼・脳・神経	**34**	94
腎・尿管・膀胱	**34**	54
食道	**31**	38
骨・軟部組織	**19**	131
耳鼻咽喉・口腔	**17**	19
卵巣・膣・外陰部	**16**	19
前立腺	**15**	22
中皮腫	**13**	13
その他	**13**	16
希少がん	**9**	9
原発不明	**6**	6
子宮	**5**	10
後腹膜・腹膜	**5**	33
小腸・肛門	**4**	6
皮膚	**3**	7
縦隔・心臓	**1**	4
不明	**1**	1
精巣	**0**	0
甲状腺	**0**	1
副腎	**0**	4
診断なし	**0**	1

⑤相談対応時間

相談にかかった時間は 20 分が一番多く（470 件　36. 2%）、次いで 60 分（234 件　18%）、30 分（191 件　14．7%）であった。平均時間は 34.9 分である。

令和 6 年度相談対応時間（n＝1,295 件）



⑥相談者の受診状況

相談者の受診状況は、自施設入院中が 611 名（47.1％）、自施設通院中が 440 名（33.9％）、他施設入院中が 147 名（11.3％）、他施設通院中が 90 名（6.9％）であった。（母数：1,296 件　不明が 8 件）当院は緩和ケア病棟があり、そちらへの入院相談や緩和ケアそのものの相談を受ける機会も多く、他施設のがん患者や家族の相談に対応する割合が２割近くあるということは特徴の一つである。

⑦がん患者指導管理料イ・ロの算定件数

令和 6 年度のがん患者指導管理料イ・ロの算定件数は、以下のとおりである。

※がん患者指導管理料イ（500 点）

医師が看護師と共同して診療方針等について話し合い、その内容を文書等により提供する。

令和 6 年度は件であった。

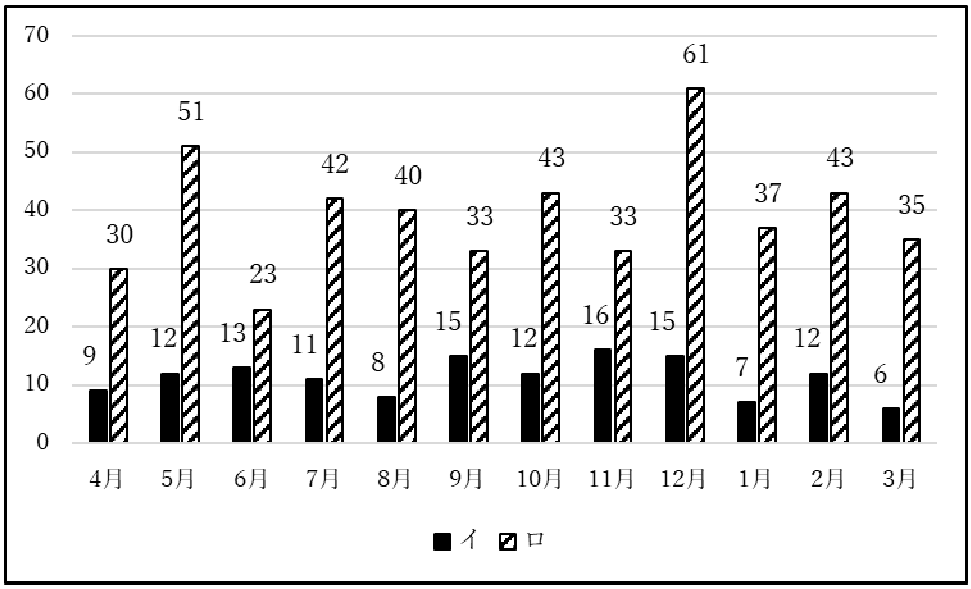
※がん患者指導管理料ロ（200 点）

医師、看護師または公認心理士が心理的不安を軽減するための面接を行う。

令和 6 年度は件であった。

令和 6 年度がん患者指導管理料イ・ロ月別算定実績

がん患者指導管理料総件数　イ：136 件　ロ：471 件



2．がん患者サロン

令和２年度以降、コロナ禍にて対面でのがん患者サロンが実施できていなかったが、令和５年度に引き続き、三密を避け、マスク着用、手指消毒を行う等感染対策を行った上で、集合形式で実施した。院内外のがん患者およびその家族を対象とし、会場はやすらぎホールを使用した。ポスター、チラシ、ホームページで周知したが、参加人数は伸び悩んだ。感染対策の一環として入院患者の参加を制限したことも一因であるが、サロンの構成や周知の方法など、次年度への課題の一つとなった。また、８月度は台風接近にて急遽中止とした。

令和６年度がん患者サロン（開催時間はいずれも 13：30～15：00）

開催日	テーマ	参加人数
令和６年５月 29 日（水）	がん患者・家族同士の情報交換、意見交換など	５名
８月 28 日（水）	台風接近にて中止	
11 月 27 日（水）	がん患者・家族同士の情報交換、意見交換など	１名
令和７年３月 26 日（水）	がん患者・家族同士の情報交換、意見交換など	４名

3．三島医療圏がん拠点病院合同事業への参加

三島医療圏には国拠点の大阪医科薬科大学病院、府拠点の当院、北摂総合病院、高槻病院、第一東和会病院の５病院ががん拠点病院に指定されており、共催という形で以下の事業に参画した。

①三島医療圏　合同がん患者サロン

日時：令和７年１月 18 日（土）10：00～12：00　集合形式にて開催

会場：大阪医科薬科大学病院構内　歴史資料館　３階

対象：５病院にかかっているがん患者・家族

講師：日本キャンサーケアヨガ協会代表　ココハナヨガ主宰 多田羅理恵氏
内容：椅子を用いたヨガの体験、患者・家族同士の交流会

②三島医療圏　合同がん患者サロン患者の自殺予防対策講演会
日時：令和 7 年 1 月 24 日（金）17：30～18：30
開催方法：ハイブリッド（大阪医科薬科大学病院セミナー室＋Zoom）
対象：全国の医療従事者
講師：埼玉医科大学医学部　石田真弓教授（精神腫瘍科　臨床心理士・公認心理士）
テーマ：がん患者の自殺予防 - 取り組みとしてできること -

③三島医療圏　合同がん治療と仕事の両立支援講演会（医療従事者向）
日時：令和 7 年 1 月 31 日（金）18：00～19：00
開催方法：ハイブリッド（大阪医科薬科大学病院セミナー室＋Zoom）
対象：全国の医療従事者
講師：森本産業医事務所　代表　森本英樹氏
テーマ：医療従事者が知っておくべきがん患者の職場復帰サポート術

4．患者図書コーナー

平成 22 年 9 月より 1 階フロアに開設している。開館時間は 9 時～15 時であり、管理は診療支援課が行っている。令和 2 年度から新型コロナウイルス感染症感染予防対策のため閉鎖していたが、令和 5 年度より再開した。がん相談支援センターからは、がんに関する研修会のチラシや患者会発行の機関誌が提供された際に図書コーナー外側に配架し周知した。

5．広報活動

① がん相談支援センターのリーフレットを関連部署に配架した。
② 厚生労働省からの周知協力依頼に基づき、「がん検診月間」である 10 月に、がん検診受診率 50％達成にむけてのポスターを作成し、院内に掲示した。

6．大阪府がん診療連携協議会相談支援センター部会、三島医療圏がん診療ネットワーク協議会がん相談支援部会に参加した。

①大阪府がん診療連携協議会相談支援センター部会
第 1 回：令和 6 年 7 月 8 日（月）16：30～18：30　於：大阪国際がんセンター1 階大講堂
第 2 回：令和 7 年 2 月 26 日（水）15：30～17：30　於：大阪国際がんセンター1 階大講堂
②三島医療圏がん診療ネットワーク協議会がん相談支援部会

第 1 回：令和 6 年 5 月 23 日（木）13：00～13：45（オンライン）
第 2 回：令和 7 年 1 月 23 日（木）13：00～13：45（オンライン）

7．がん教育に係る外部講師派遣事業

大阪府では、平成 23 年に施行された大阪府がん対策推進条例に基づき、小学校、中学校、高等学校において、がんの予防につながる学習活動（がん教育）を実施しており、当院も市町村教育委員会からの要請に応じて講師の派遣を行った。令和 6 年度は以下 3 校に講師を派遣した。

①阿武山学園（大阪市立弘済小中学校分校）
令和 6 年 10 月 21 日（月）13：40～14：40
対象：中学 1 年生・2 年生
講師：西川亜紀子 CNS

②阿武野中学校
令和 6 年 11 月 13 日（水）13：45～14：35
対象：中学 2 年生
講師：西川亜紀子 CNS・宮﨑順平主事

③平田中学校
令和 7 年 1 月 20 日（月）14：40～15：30
対象：中学 2 年生
講師：西川亜紀子 CNS・宮﨑順平主事

＜令和 7 年度の活動目標＞

1. がん患者サロンの対面開催を継続し、発展させる。ピアサポーター制度の活用も検討していく。
2. 相談対応の質の担保
   ①がん相談支援センター相談員基礎研修（1）～（3）未修了者の受講を推奨していく。
   ②大阪府がん診療連携協議会緩和ケア部会・相談支援センター部会、三島医療圏がん診療ネットワーク協議会相談支援センター部会その他関連団体が主催する研修を受講する。

3．がん教育に係る外部講師派遣事業への講師派遣事業への協力を行っていく。講師担当者の幅を拡げることを検討していく。

4．がん拠点病院における相談支援センターの設置要件等に注視し、必要要件を整備していく。

医療安全推進室

＜スタッフ＞

小林　稔弘　　(副院長兼医療安全推進室長)
後藤　公男　　(放射線科部長兼医療安全推進副室長)
松村　大志郎　(消化器科医師)
中田　祐二　　(医療安全管理者)
西　　ひろみ　(看護副部長)
小島　一晃　　(薬剤部長兼医薬品安全管理責任者)
竹下　勇一　　(臨床工学技術課長兼医療機器安全管理責任者)
萩原　大介　　(総務管理課長)
山崎　雅樹　　(事務部付 医療安全係長)

＜2024 年度活動実績＞

活動目標】

① 患者確認行動のさらなる徹底。患者誤認件数 “0(ゼロ)”を目標とする。
→結果：患者誤認事例は増加した。

② 医師のインシデント・アクシデント報告数を看護師の報告件数の 8%以上（約 90 件程度以上）に増加させる。
→結果：看護師の 5.2%であった。しかし着実に増加していた。

③ Lv0 および 1 の報告を増加させる。
→結果：Lv0 および 1 の増加は達成できなかった。しかし他方でオカレンスをインシデントアクシデント報告してもらえた。

④ 転倒転落防止対策では、危険予測を行い被害の大きくならない予防対策を実施し現状を維持する。またスリッパの使用禁止と靴の履き方を再度周知していく。
→結果：入院患者で見ると、転倒転落リスクの高い患者の割合は多く転倒件数の増加が予想されたが、対策を行ったため、過去 2 年間で転倒発生数（件）および転倒率（‰）が減少した。
また、踵のない靴を履いていた事を要因とした転倒 3b 事例は発生していなかった。

【結果　2024 年度インシデントアクシデント報告】

➢　インシデントアクシデント報告件数について

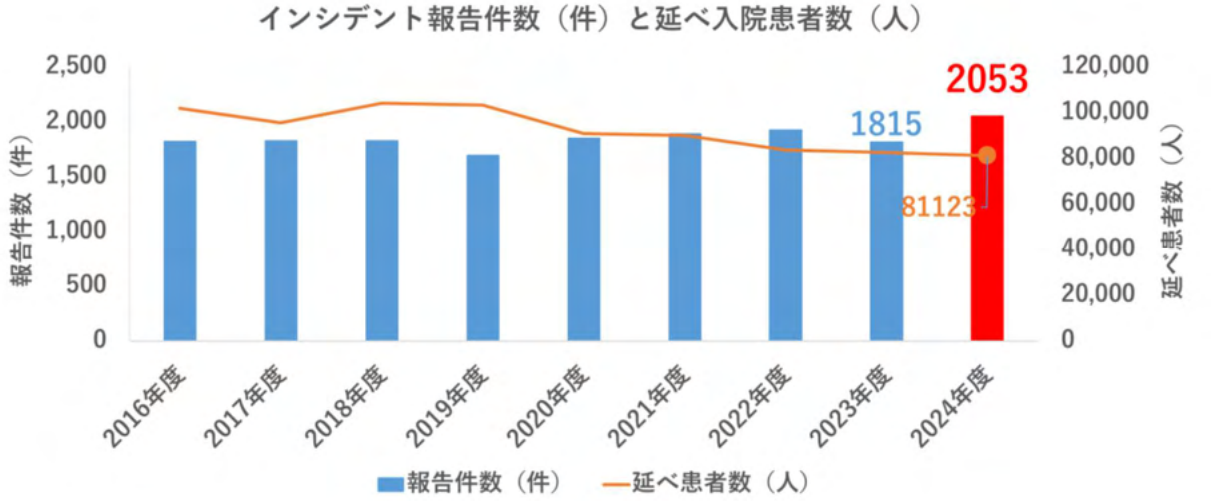


図 1. 2016 年度からのインシデント・アクシデント報告件数と延患者数の推移

年々増加し、2024 年度は過去最高値となった。

表 2. 職種別別報告件数の構成比

職種	2016年度	2017年度	2018年度	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
看護師	1625	1653	1637	1499	1607	1583	1609	1432	1578
医師	26	22	28	13	24	15	45	56	82
薬剤師	78	65	77	74	56	86	62	65	51
検査技師	26	23	43	27	56	135	143	70	52
放射線技師	11	15	14	17	15	12	5	17	27
OT・PT・ST	12	7	5	18	5	5	4	8	19
栄養士	25	25	16	14	19	10	14	24	30
臨床工学技士	7	4	8	2	10	15	11	6	14
事務　他	21	18	25	30	56	32	35	137	200
合　計	1831	1832	1825	1694	1848	1893	1928	1815	2053

2024 年度も医師の報告件数増加に努めた。研修医からの報告が多く、研修医以外の医師からはオカレンス報告が良く報告された。他方、事務の報告件数は 2023 年度から劇的に増加しており、外来での書類混入の報告事例が多く 130 件以上に上るが、それ以外でも 70 件程度事務から報告されていた。

➢　インシデントアクシデント報告のレベル分類について

表 2. レベル別報告件数

基準	レベル　分類	件数（件）	構成比（%）
実施前に発見。実施された場合に被害が予測される	レベル 0	176	8.6
実施後に発見。患者への影響なし	レベル 1	849	41
実施後に発見。患者に影響あり(検査、観察等が必要)	レベル 2	590	28
実施後に発見。簡単な処置や治療を要した	レベル 3a	155	7.6
実施後に発見。濃厚な治療を要した、入院日数が延長した	レベル 3b	13	0.63
実施後に発見。障害が残ったが、機能障害は伴わない	レベル 4a	0	0.0
実施後に発見。傷害が残ったが、機能障害を伴う	レベル 4b	0	0.0
死亡	レベル 5	3	0.15
レベル判定できない	その他	267	13.0
	合計	2053	100

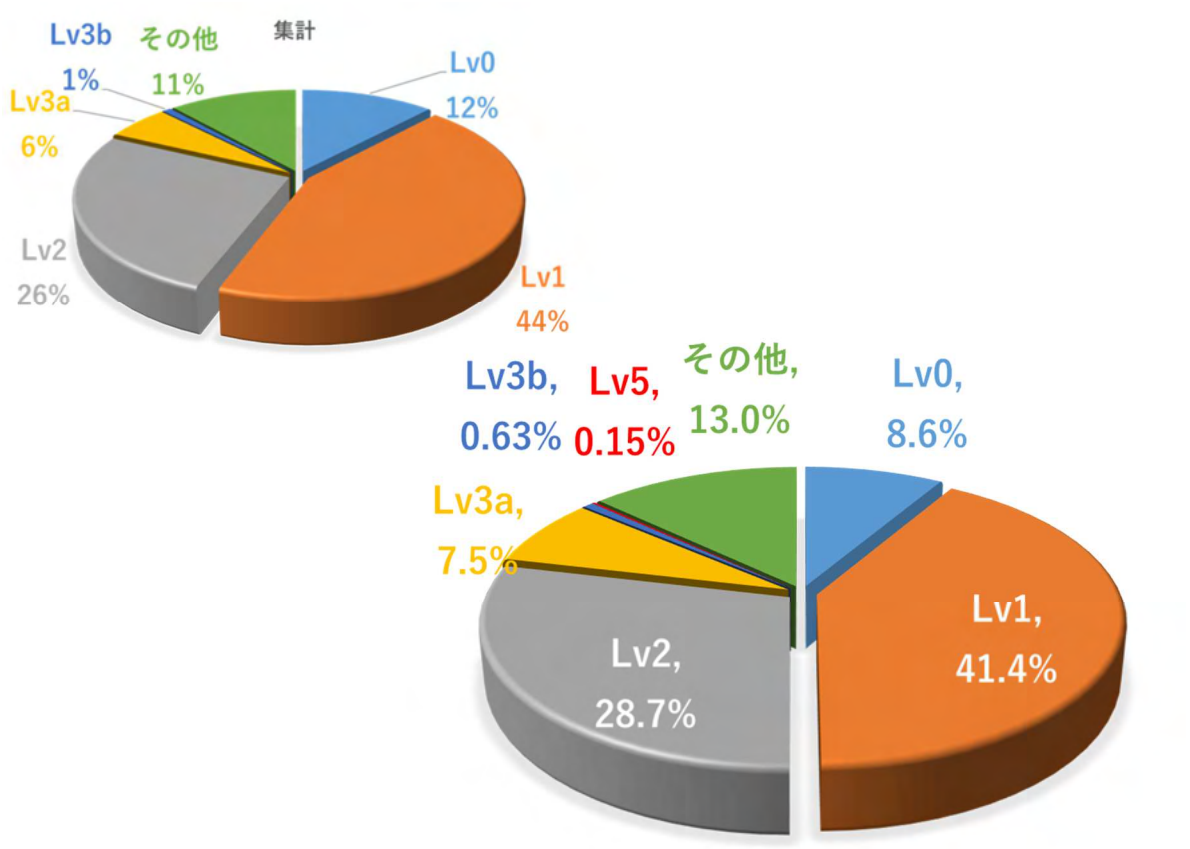


図 2. 2023 年度（左上）と 2024 年度（左下）の報告のレベル別構成比（%）

2023 年度と比較して、2024 年度は Lv0,1 の報告が減少し、Lv2,3a の報告が増加したが、Lv3b が減少した。またオカレンスを含む Lv3b および Lv5 が目を引いた。

➢　転倒転落について

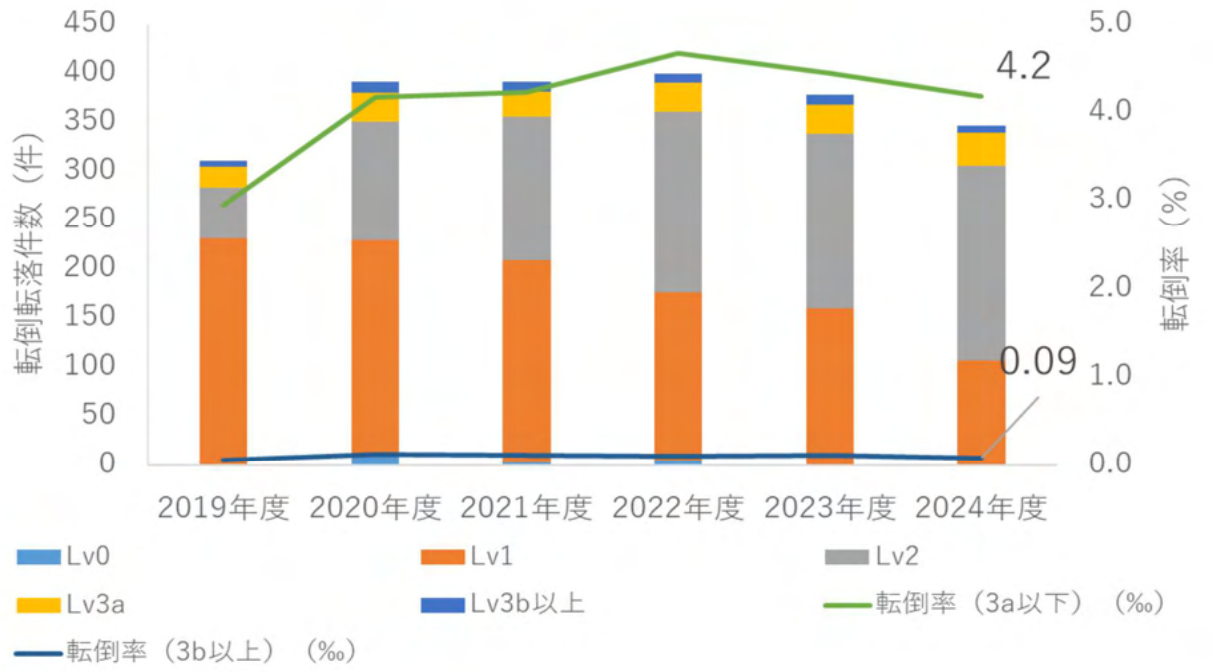


図 3. 過去 6 年間の各影響レベル別の転倒・転落件数（件）と転倒率（‰）
2021－2022 年度と 2023－2024 年度を比較した結果、転倒率（‰）有意差はなかった（転倒率 p = 0.862, 有害事象発生率 p = 0.941; EZR: Mann-Whitney U）。

表 3. 転倒転落場所

転倒・転落の発生場所	件数（件）
病　　室	293
トイレ・浴室	15
その他（病棟内）	28
その他（病棟外）	11
合　　計	347

表 4. 転倒転落のレベル別報告件数

転倒・転落の外傷レベル	件数（件）
レベル 0（外傷なし又は軽微）	1
レベル 1（軽度な処置実施）	159
レベル 2（処置、検査実施）	199
レベル 3a（簡単な治療実施）	34
レベル 3b（濃厚な治療実施）	6
その他	1
合　　計	347

転倒転落件数の総計では過去 5 年間で最大値となった 2022 年度より転倒率(‰)、有害事象発生率(‰)で低下傾向が見られた（図 3）が、2021－2022 年度と 2023－2024 年度を比較した結果、有意差はなかった（転倒率 p = 0.862, 有害事象発生率 p = 0.941; EZR: Mann-Whitney U）。しかしながら、2024 年度にもキャンペーンを行った結果、2023 年度引き続き 2024 年度に踵の無い靴（スリッパなど）を要因の一つとした 3b 事例は発生していなかったことは評価できると

考えられた。また 4 年間の転倒率転倒率（‰）、有害事象発生率（‰）では、入院中の患者の転倒転落アセスメントシート、危険度Ⅲの比率（図 4）は有意を持って上昇しているにもかかわらず（危険度Ⅰ: p ＜ 0.001, 危険度Ⅱ: p ＜ 0.001, 危険度Ⅲ: p ＜ 0.001, EZR: Kruskal-Wallis 検定, Steel-Dwass）転倒率転倒率（‰）、有害事象発生率（‰）は上昇せず、むしろ低下しているところは現場スタッフの不断の努力の結果と言えた。

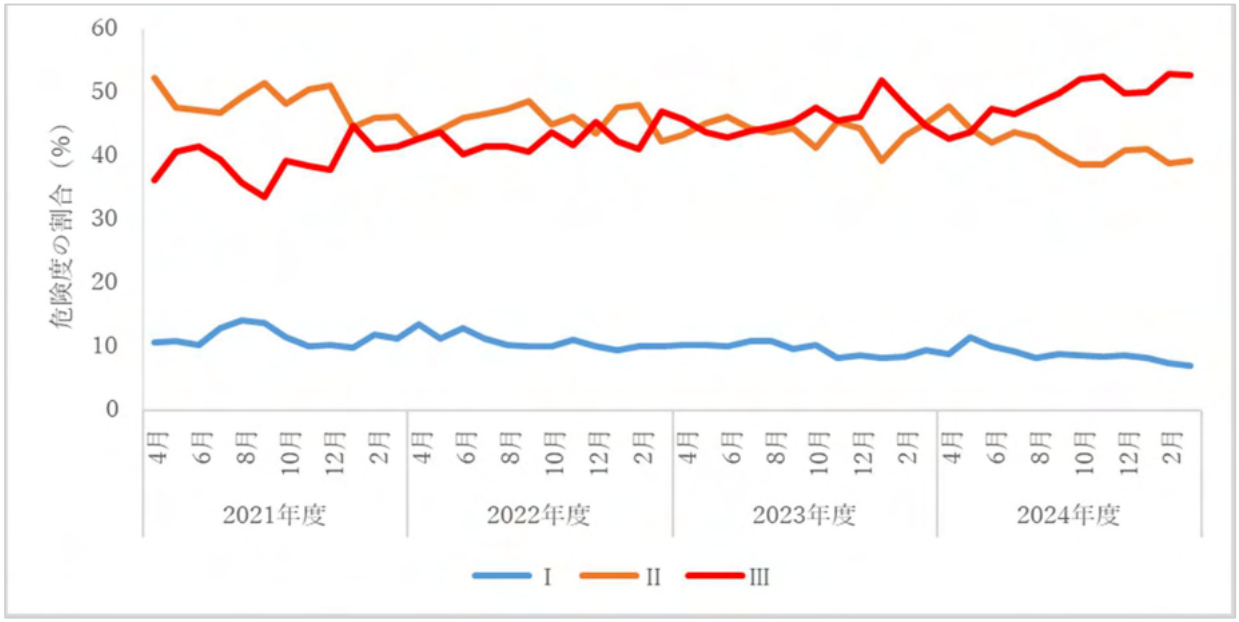


図 4. 過去 4 年間の全入院患者の転倒・転落リスク別割合（%）

入院中の患者の転倒転落アセスメントシート、危険度Ⅲの割合（赤色）は有意を持って上昇し、危険度Ⅰおよびは Ⅱ 有意をもって低下していた。（危険度Ⅰ: p ＜ 0.001, 危険度Ⅱ: p ＜ 0.001, 危険度Ⅲ: p ＜ 0.001, EZR: Kruskal-Wallis 検定, Steel-Dwass）ここから入院している患者の転倒リスクは年々上昇していることが証明された。

➢ アクシデント事例について

表 5. 2024 年度重要案件 16 事例の内容

アクシデント		
保存的治療を要した案件	Lv3b	・・・転倒（3 件）(保存、固定)、手術の延期（1 件）
侵襲的治療を要した案件	Lv3b	・・・転倒 （3 件）(手術)、再手術（1 件)、外来での誤処方（1 件）
合計	9	件

オカレンス		
侵襲的治療を要した案件	Lv3b	・・・ERCP 中の穿孔（1 件)、遅延穿孔（2 件)、気胸（1 件）
	Lv5	・・・ERCP7 日目の出血（1 件)、肺塞栓（1 件）
合計	6	件

その他		
侵襲的治療を要した案件	Lv3b	・・・排泄中後方に倒れ頭部外傷（1 件）
合計	1	件

2024 年度の 3b 事例以上のものをまとめた（上: アクシデント, 中: オカレンス, 下: その他)。2024 年度からオカレンスもインシデントアクシデント報告してもらっているため、必然的にアクシデントレベルの上昇と件数は増大した。しかし、オカレンス事例を除いた 3b 事例に限ると 2023 年度の 14 件より減少していた。

2024 年度からオカレンスをインシデントアクシデントに報告してもらっているため、アクシデントの影響度のレベルは上がっていた。

アクシデント事例では、転倒では 6 件であり、2023 年度（14 件発生）と比較すると低下が見られた。スリッパ率も低下していて、家族を含めた患者への説明・注意喚起および環境整備がより一層できたのではないかと考察された。

その他、ポータブルトイレで排泄中、後方に倒れ頭部外傷を起こした事例では、目撃者がおらずその後の検証でも原疾患の進行による可能性も排除できなかった。いずれにしても医療安全管理委員会、リスクマネジメント部会等、病院全体で周知を行い現在も対策を実施している。

➢ 患者誤認件数について

表 6. 患者誤認の場面

主な内容	件数（件）
処方・調剤・与薬	11
検査・治療・処置	19
文　書　管　理	10
配　　膳	5
案内・移送	1
合　　計	46

表 7. 患者誤認のレベル別分類

レベル	件数（件）
レベル 0	11
レベル 1	19
レベル 2	10
レベル 3a	0
その他	6
合　計	46

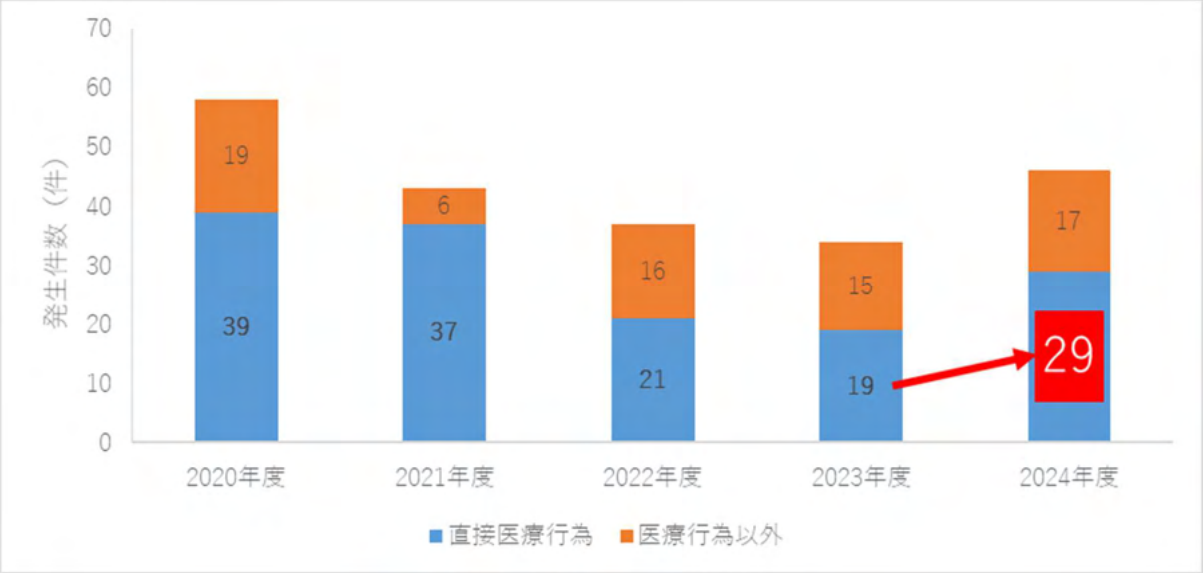


図 5. 過去 5 年間の患者誤認件数（件）

2023 年度まで低下していた患者誤認事例が、2024 年度には上昇した。特に直接医療行為の場面で上昇していた。

✓ 別患者にオーダーした。 ✓ 別患者に採血を行った。 ✓ 別患者を診察した。 ✓ 別患者に配薬した。 患者の名前と処方箋を照合していない。 ✓ 別患者のカートにセットした。 ✓ 別患者に配膳した。患者確認を怠った。 ✓ 別患者のレントゲン撮影を行った。 患者確認を怠った。 ✓ 別患者に CT を撮影した。患者確認を怠った。	✓ 別患者を検査に連れて行った。 ✓ 別患者の家族に問診を行った。 ✓ 別患者で預かり金を入力した。 ✓ 別患者をレントゲンに案内した。 ✓ 別患者の書類を渡した。 ✓ 別患者の領収書と明細を渡した。 ✓ 別患者の検査結果をスキャナー保存した。 ✓ 別患者のカルテを空け電話した。

【活動内容】

・医療安全研修会 11 項目開催（各研修会対面および e-ラーニング配信）
・リスクマネジメント部会 8 回開催
・ANZEN ニュース毎月 発行
・安全メール配信　44 回
・マンガで医療安全 発行　12 件
・ANZEN ちゅ～ぶ 作成　1 件
・安全ラウンド　全 39 か所実施
・毎月時計、PHS、医療機器などの時刻合わせ活動
・CVC 報告制度および研修、運用継続
・転倒防止対策継続実施「踵のある靴をキチンと履こうキャンペーン」実施
・医療安全地域連携　Ⅰ-Ⅰ連携　済生会茨木病院
　Ⅰ-Ⅰ連携　愛仁会リハビリテーション病院
　Ⅰ-Ⅱ連携　水無瀬病院
　相互に訪問し評価を行った。
・三島医療圏医療安全ネットワーク会議への参加
・「踵のある靴をキチンと履こうキャンペーン」実施
・「看護師年度途中入職者への輸液・シリンジポンプ研修と操作エラー防止の取り組み」実施
・「採血タイミングの指示する共通コメントの作成の取り組み」の実施
・厚生労働省「2024 年度 医療安全推進週間」への参加について
・M&M カンファレンス 2 件

【院内研修会】

表 10. 全体の 2 回参加率

	2024 年度	2023 年度	2022 年度	2021 年度	2020 年度
2 回以上参加率（%）	100.0	99.8	97	95	92.1
3 回以上参加率（%）	78.9	70.4	62	72	82.8
4 回以上参加率（%）	60.3	46.5	36	52	65.0

表 8. 開催内容と各研修会の参加人数

実施日	研修会名	対象	参加人数
年度中	安全な CV 挿入に係る取り決め（オンデマンド）	医師	157 名（内医師 25 名）
2023 年 4 月	チームステップス	新職員	10 名
7 月	安全な医療ガスの取扱いを知ろう	全職員	398 名
8 月	2023 年度インシデントアクシデント報告とボトムアップな医療安全	全職員	379 名
8 月	CVC ハンズオン研修会	医師、研修医	14 名
9 月	認知症の理解と BPSD への対応 研修会	全職種	187 名
9 月	麻薬の取扱 2024～事故対応は大丈夫？～	医療職	253 名
11 月	安全な輸血製剤の取扱について	全職員	286 名
11 月	放射線科部門医療安全研修会	医療職	409 名
12 月	チームワークを高める「心理的安全性」	全職員	153 名
2025 年 2 月	患者安全のための診断改善～正確な診断を追求し安全を確保しましょう～	全職員	51 名

医療安全研修会 2 回以上参加率は、年々上昇し 2024 年度は回参加率は前年度 100.0%となった（退職者、長期休暇者含まず）。2024 年度からエルゼビア e-ラーニングシステム SaftyPlus が導入された年であった。これまでも自作ではあるオンデマンド方式で配信しており、視聴者から様々な意見はあったが、結果的には視聴しやすさはあったようで、3 回目以上、4 回以上の参加者の上昇が見られた。

【患者相談・意見への対応】

1. 相談対応(医療メディエーション)

・患者側からの相談 11 件　　・医療者側からの相談 7 件

2. 意見・苦情の総数件

接遇、職員の対応(説明不足、態度が悪い、不信間等)	17 件
施設、設備（病室、トイレ、備品、駐車場等）	10 件
環境（清掃、空調、臭気、騒音等）	3 件
診療体制（予約方法、待ち時間、逆紹介等）	7 件
受付体制(受付処理、会計処理、案内等)	2 件
その他(売店、循環バス等)	10 件
感謝、激励	3 件

【保安、その他】 &

1. 暴力行為 5 件 （昨年度 8 件） 警察への通報 1 件（昨年度 0 件）
   発生場所：病棟 3 件、外来 2 件
2. 盗難被害 0 件(昨年度 0 件） 警察への通報 0 件（昨年度 0 件）
   発生場所：病棟 0 件
3. 紛失・破損被害、その他 報告件数 0 件（前年度 3 件） 警察届出事案 0 件（前年度 0 件）
   発生場所：病棟 0 件
4. 迷惑行為等 報告件数 0 件（前年度 1 件） 警察届出事案 0 件（前年度 0 件）
   発生場所：病棟 0 件、外来 0 件
5. 虐待案件 0 件
   発生場所：外来 0 件

＜2024 年度活動目標＞

2024 年度は、目標をクリアできたものもあれば、できなかったものもあった。
目標をクリアできたものに関しては、今後目標としては掲げないが、今後観察していくこととした。
一方、目標クリアできなかったことに覚しは、再度目標設定を見直し、実施していくこととした。
また 2025 年度は新たな取り組みおよび目標としてセントラルモニタのアラーム管理を掲げている。
2026 年度にその結果について、さまざまな部署からのさまざまな視点でも報告が上がってくることを期待したい。

【2025 年度目標】

1. 医師の報告件数を増加させる。2024 年度 82 件→2025 年度 100 件（6.7%）以上を目指して。
   （ア）医師に関与する事例に関して報告を働きかける。
   （イ）オカレンス事例（CV 挿入時、内視鏡時の合併症、再手術など）や診察時等に受けた患者・家族からの暴力、暴言に関して報告数を増やしてもらうよう働きかける。

2. 患者誤認撲滅を目指しながら、患者、家族、医療スタッフ全員で、”患者誤認を止める”意識と体制作りを目指す。（発生時の影響度を Lv0 にする）。

3. 「モニターアラーム管理への取り組み」実施。

以上

教 育 研 修 推 進 室

＜スタッフ＞

室長	神田　直樹	（副院長）
副室長	大中　玄彦	（総合診療科部長）
構成員	北　英夫	（呼吸器科部長）
	恒松　一郎	（消化器外科部長）
	小島　一晃	（薬剤部長）
	荒木　孝一郎	（検査部技師長）
	高橋　晶子	（看護副部長）
	萩原　大介	（事務副部長兼総務管理課長）
	佐橋　克哉	（人事課長兼研修係長）
	西森　あゆみ	（人事課人事係長）

＜活動実績＞

・令和６年度　第１回　教育・研修推進委員会

日時：令和６年６月３日（月）16：30～

議題：1. E ラーニングツールの使用について

2. BLS の年間計画について

＜活動内容＞

・ ICT 活用（e ラーニング／オンライン研修）

オンライン研修の導入により医療安全・感染対策の必須研修は受講率目標を達成。

・新人研修や本社主催の階層別研修などの開催

新人研修を通じて、安心して現場に適応し、医療人としての基盤を築く

階層別研修で管理職のマネジメント力向上

・BLS 研修の企画・運営

救命技術の習得と迅速な対応力の強化

事 務 部

＜スタッフ＞ 令和６年４月１日付

事務部長　玉田尚（兼）

事務副部長　萩原大介（兼）

課長職8名

総務管理課長	萩原　大介（兼）
人事課長	佐橋　克哉
財務課長	眞清水　裕子
経営企画課長	仁志出　裕介
医事入院業務課	大川　健
医事外来業務課	浦手　悟
診療支援課長	上成　弥生
病床管理担当課長	日高　利明

係長職　12名

＜組織編成＞

医事課を医事外来業務課と医事入院業務課に分課

医療安全係を総務管理課から医事外来業務課へ移管

診療情報係を経営企画課から診療支援課へ移管

人事課研修・厚生係を研修係へ統合

＜令和６年度活動状況＞

今後、医療を取り巻く環境は一層厳しさを増すことが予想されますが、当院では地域のニーズを的確に把握しながら、さらなる経営改善の推進と、経営課題への迅速 な対応を通じて、黒字体質の定着を目指した。

令和 6 年 5 月には、日本医療機能評価機構による病院機能評価（一般病院 2 3rdG:Ver.3.0）の審査を受審し、同年 12 月に認定を取得しました。これを契機に、急 性期医療を担う地域の中核病院として、職員一丸となって人道・博愛の赤十字精神に 基づき、良質かつ安全な医療の提供に努めました。

1．経営健全化に向けた取り組み

1）令和 5 年 9 月の本部管理病院指定解除以降も当院では継続して経営戦略会議を毎月開催し財務状況、人事採用・高額医療機器等購入についての検討、ガントチ ャート進捗管理など経営戦略について検討を重ねた。

２）診療科との院長ヒアリングを実施し、各診療科の課題等について協議を行った。（5 月～7 月、の 1 回実施）

３）令和５年７月から患者獲得プロジェクトを立ち上げ令和６年度も継続して患者獲得推進に努めた。

４）予算作成にあたり前年度同様、各所属長に支出抑制の意識づけを行い、人件費・委託費の適正化、厳格な予算執行管理費用の予算内執行に努めた。また、医業費用及び経費削減を目的として、費用削減プロジェクトの活動を継続的に実施し、経営効率の向上に取り組んだ。

２．事務部の取り組み

１）組織編成を行い人材の適正配置、生産性の向上を図った。

２）令和６年８月にＬＩＮＥ公式アカウントを開設し、医療情報の発信を開始し、地域の皆さまに向けて診療案内や健康情報、各種お知らせなどをタイムリーに発信することができた。

３）令和７年３月に病棟リニューアル工事（床材・壁紙の更新・トイレ改修・照明 LED 化）が完了し、患者さんの療養環境の快適性と安全性の向上を図るとともに省エネルギー化にも寄与できた。

＜令和７年度　重点課題＞

１．病院収支黒字化の継続

１）新規患者の獲得

２）地域医療連携の推進

３）救急応需体制の強化

４）広報活動の強化（病院ホームページの充実・広報誌の定期発行・公式 LINE、YouTube を活用した情報配信）

５）新規施設基準の取得

６）予算に基づいた支出管理の徹底、無駄な支出(投資)の抑制および費用削減、価格高騰への対応の推進

Ⅶ　委員会活動

院内感染防止対策委員会

目　的

院内感染の防止対策及び予防活動に関する事案を審議する。実働部隊としての ICT・AST から各サーベイランスの報告を受け、院内感染防止対策の監視と啓発活動を行う。

委員会開催

定例会議　　毎月第 4 木曜日 16 時 30 分～

議題　　MRSA 検出状況、耐性菌出現状況、抗菌薬使用状況について報告と審議

開催日	議　題
令和 6 年 4 月 25 日	① 新型コロナウイルス感染症対策について ② 院内感染対策に関する基本指針の改訂について ③ 結核発生時の接触者調査について
5 月 23 日	① 今年度北摂四医師会感染対策ネットワークについて ② インフルエンザ患者急変対応時の予防投与について
6 月 27 日	① 院内研修会 e-ラーニング導入について ② 新型コロナウイルス感染症職員発生時の報告について ③ 結核接触者健診の結果と報告について
7 月 18 日	① 新型コロナウイルス感染症患者の透析室利用について ② 麻しん疑い患者の対応について ③ 血液培養ボトル出荷調整に関する院内対応について
8 月 22 日	① 新型コロナウイルス抗原定量検査の取り扱いについて ② N95 マスクの出荷制限に伴う適正使用について
9 月 26 日	① CRE の発生と AST 介入困難事例について ② 血液浄化療法室感染対策マニュアルの改訂について ③ 梅毒感染症発生届遅延の再発防止について
10 月 24 日	① CRE の発生と抗菌薬のローテーションについて ② 第 1 回 院内感染対策研修会受講状況について ③ ノンアルコール手指消毒剤の導入について
11 月 28 日	① 医療監視の結果について ② 年末年始の新型コロナウイルス感染症治療薬在庫量について
12 月 28 日	① 新型コロナウイルス感染症、インフルエンザの病床管理について ② 新型インフルエンザ等感染症発生時における BCP について ③ 災害時における感染対策マニュアルについて ④ 入職時のウイルス性疾患抗体価把握、抗体価カードについて ⑤ 医療措置協定書の実施状況について

令和 6 年	① 年末年始の感染症発生状況と発熱外来対応状況について
1 月 23	② インフルエンザ定量/定性検査と患者配置について
2 月 20	① カルバペネマーゼ産生菌電子カルテへの表記について
	② J-SIPHE 還元データについて
	③ 第 2 回 院内感染対策研修会受講状況について
3 月 27	① MRSA の POT 法実施について
	② 栄養課職員のノロウイルス検査の実施について
	③ J-SIPHE 赤十字近畿ブロックグループ作成、参加について
	④ 麻しん発生時の診療場所について

ＩＣＴ委員会

目　的

院内分離菌の把握、抗菌薬適正使用状況の把握など院内感染防止対策の啓蒙活動。
毎週木曜日　約 60 分間の ICT ラウンド（環境）を実施。
今年度目標　①WHO 手指衛生のガイドライン 5 つのタイミングが周知・遵守できる
②個人防護具が正しく着脱できる
③経路別予防策が遵守できる

委員会開催

定例会議　毎月第木曜日 16 時 30 分～（AST 委員会と合同開催）
議題　MRSA 検出状況、薬剤耐性菌分離状況、抗菌薬使用状況（AUD)、感染対策に関する備品などについて

開催日	議　題
令和 6 年 4 月 4 日	① ICT ラウンド年間計画と担当について ② 職員の健康管理について
5 月 2 日	① ICT ラウンドのチェック項目について ② 院内感染対策に関する基本指針改訂について ③ 手指消毒剤使用量サーベイランスについて
6 月 6 日	① 手指消毒剤使用量サーベイランス入力シートと目標値について ② 廃棄物の分別について
7 月 4 日	① ICT ラウンドの評価と対応について ② 第 1 回 院内感染対策研修会開催について ③ 北摂四医師会感染対策ネットワーク連携について
8 月 1 日	① CRE 発生と行政検査提出について ② 血液内科における抗菌薬適正使用の介入について ③ 新型コロナウイルス感染症患者のコホート管理について
9 月 5 日	① 大阪府主催結核研修会について ② 新型コロナウイルス感染症患者の透析室利用時の対策について
10 月 3 日	① 高度薬剤耐性菌の検出と対策について ② 血液培養ボトル出荷制限解除について ③ 血液浄化療法室マニュアル改訂について
11 月 8 日	① ICT ラウンドの運営について ② 廃棄物の分別について ③ N95 マスク入荷制限に伴う適正使用について ④ ノンアルコール手指消毒剤導入について

12 月 5 日	① 血液内科への抗菌薬適正使用介入について ② 医療監視について ③ 麻しん発生状況について
令和 7 年 1 月 9 日	① MRSA 院内感染を疑う指標について ② 新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ発生状況について ③ 第 2 回 院内感染対策研修会開催について ④ 北摂四医師会感染対策ネットワーク合同訓練について
2 月 6 日	① PPE ホルダーについて ② 吐物処理セット作成と手順の啓発について ③ 手指消毒剤使用量サーベイランスと各部門の取り組みについて
3 月 6 日	① カルバペネマーゼ産生菌電子カルテの表記について ② J-SIPHE 感染防止対策向上加算 1 施設との比較データについて ③ ICT ラウンドチェック項目の見直しについて ④ 研修医の手指衛生遵守率上昇に向けた取り組みについて

ＡＳＴ委員会

目　的

院内分離菌の把握、抗菌薬使用状況の把握など抗菌薬適正使用の推進。

毎週水曜日　約 30 分間の抗菌薬ラウンド、血液培養陽性ラウンドを実施。

今年度目標　抗菌薬使用状況の把握、主治医へのフィードバック、適正使用のための啓発。

委員会開催

定例会議　　毎月第木曜日 16 時 30 分～（ICT 委員会と合同開催）

議題　　MRSA 検出状況、薬剤耐性菌分離状況、抗菌薬使用状況（AUD)、感染対策に関する備品などについて

開催日	議　題
令和６年 ４月４日	① ICT ラウンド年間計画と担当について ② 職員の健康管理について
５月２日	① ICT ラウンドのチェック項目について ② 院内感染対策に関する基本指針改訂について ③ 手指消毒剤使用量サーベイランスについて
６月６日	① 手指消毒剤使用量サーベイランス入力シートと目標値について ② 廃棄物の分別について
７月４日	① ICT ラウンドの評価と対応について ② 第 1 回 院内感染対策研修会開催について ③ 北摂四医師会感染対策ネットワーク連携について
８月１日	① CRE 発生と行政検査提出について ② 血液内科における抗菌薬適正使用の介入について ③ 新型コロナウイルス感染症患者のコホート管理について
９月５日	① 大阪府主催結核研修会について ② 新型コロナウイルス感染症患者の透析室利用時の対策について
10 月３日	① 高度薬剤耐性菌の検出について ② 血液培養ボトル出荷制限解除について ③ 血液浄化療法室マニュアル改訂について
11 月８日	① ICT ラウンドの運営について ② 廃棄物の分別について ③ N95 マスク入荷制限に伴う適正使用について ④ ノンアルコール手指消毒剤導入について

12 月 5 日	① 血液内科への抗菌薬適正使用介入について ② 医療監視について ③ 麻しん発生状況について
令和 7 年 1 月 9 日	① MRSA 院内感染を疑う指標について ② 新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ発生状況について ③ 第 2 回 院内感染対策研修会開催について ④ 北摂四医師会感染対策ネットワーク合同訓練について
2 月 6 日	① PPE ホルダーについて ② 吐物処理セット作成と手順の啓発について ③ 手指消毒剤使用量サーベイランスと各部門の取り組みについて
3 月 6 日	① カルバペネマーゼ産生菌電子カルテの表記について ② J-SIPHE 感染防止対策向上加算 1 施設との比較データについて ③ ICT ラウンドチェック項目の見直しについて ④ 研修医の手指衛生遵守率上昇に向けた取り組みについて

医療安全管理委員会

目　的

安全かつ適切な医療ができる体制を確立すること。

委員会開催

第１回：令和６年４月19日（金）

議　題：1.報告事項

①インシデントレポート（3月）

②トピックス事例

2.検討事項

（1）2023年度医療安全研修会報告と2024年度の予定（暫定版）

（2）2023年度インシデントアクシデント集計報告（暫定版）

（3）マニュアル改訂について

（4）説明・同意文書改訂について

（5）CVC追加更新認定

（6）2024年度リスクマネージャーについて（案）

（7）報告管理体制加算にかかる報告について

第２回：令和６年５月17日（金）

議　題：1.報告事項

①インシデントレポート（4月）

②トピックス事例

2.検討事項

（1）2024年度医療安全研修会　対象者基準の設定

（2）2023年度インシデントアクシデント集計　報告書での報告（案内）

（3）マニュアル改訂について

（4）説明・同意文書改訂について

（5）リスクマネジメント部会　2023年度の活動報告と2024年度活動目標

（6）医療安全ラウンドについて（案）

（7）報告管理体制加算にかかる報告について

第３回：令和６年６月21日（金）

議　題：1.報告事項

①インシデントレポート（5月）

②トピックス事例

2. 検討事項

（1）入院診療計画書の「医師確認欄」の追加について

（2）輸液ポンプ・シリンジポンプで輸液管理が必要な薬剤（案）について

（3）Ⅶ-1．患者誤認防止対策（改定案）について

（4）Ⅳ．医療事故・紛争対応（事故発生時の連絡体制のマイナー改訂）について

（5）同意説明文書、消化器科「腹部血管造影検査・バルーン閉塞下逆行性経静脈塞栓

術（BRTO）の説明書および同意書」の承認
（6）報告管理体制加算にかかる報告
（7）MRI 対応ペースメーカーの当院での取り扱いについて

第 4 回：令和 6 年 7 月 19 日（金）
議　題：1.報告事項
①インシデントレポート（6 月）
②トピックス事例
2.検討事項
（1）「踵のある靴をキチンと履こうキャンペーン Ver.2.0」開催について
（2）「CVC／PICC ハンズオン研修会」について
（3）未読レポートについて

第 5 回：令和 6 年 8 月 16 日（金）
議　題：1.報告事項
①インシデントレポート（7 月）
②トピックス事例
2.検討事項
（1）禁忌薬情報をスルーされ退院処方に禁忌薬を処方した事例について
（2）CVC・PICC 挿入にかかる認定について
（3）報告管理体制加算にかかる報告について

第 6 回：令和 6 年 9 月 20 日（金）
議　題：1.報告事項
①インシデントレポート（8 月）
②トピックス事例
2.未読レポートについて

第 7 回：令和 6 年 10 月 31 日（木）
議　題：1.報告事項
①インシデントレポート（9 月）
②トピックス事例
2.検討事項
（1）医療安全管理マニュアル「Ⅻ-2．輸血拒否患者への対応に関する基本方針」改定案について
（2）報告管理体制加算にかかる報告について

第 8 回：令和 6 年 11 月 15 日（金）
議　題：1.報告事項
①インシデントレポート（10 月）
②トピックス事例
2.検討事項
（1）2024/8/16 医療安全管理委員会で報告を行った「処方エラーにより内服できず容

体変化を来した可能性のある外来患者について」の日本赤十字社医療事故検討部会からの検討結果報告と今後の予定
（2）報告管理体制加算にかかる報告について

第9回：令和6年12月20日（金）
議　題：1.報告事項
①インシデントレポート（11月）
②トピックス事例
2.検討事項
（1）報告管理体制加算にかかる報告について

第10回：令和7年1月17日（金）
議　題：1.報告事項
①インシデントレポート（12月）
②トピックス事例
2.検討事項
（1）「Ⅷ. 説明と同意に関する指針」の改定
（2）CVC留置・入れ替え報告書から見る当院の合併症について
（3）報告管理体制加算にかかる報告について

第11回：令和7年2月21日（金）
議　題：1.報告事項
①インシデントレポート（1月）
②トピックス事例
2.検討事項
（1）医療安全管理マニュアル「Ⅱ. 組織的な取り組み」の改定について
（2）採血タイミングの共通コメント作成と運用について
（3）手入力（テキスト入力）で入力された禁忌薬について～その後の定期報告～
（4）報告管理体制加算にかかる報告について

第12回：令和7年3月21日（金）
議　題：1.報告事項
①インシデントレポート（2月）
②トピックス事例
2.検討事項
（1）医師のためのルールブックについて
（2）「処方エラーにより定期内服できず容体変化を来した可能性がある外来患者について」の本社への業務改善計画書について
（3）報告管理体制加算にかかる報告について

医療事故院内検証委員会

目　的

原因究明の必要があると認めた医療事故について調査を行うため、医療事故発生時対応指針にし、原因調査と究明に関する事項、その他医療事故発生の改善・指導に関することを協議し、医安全管理の推進を図る。

委員会開催

活動実績に関しては、機密事項に属するため公表できない。

医事紛争処理委員会

目　的

医事紛争または医事紛争が発生する可能性を認知した場合の対策について審議する。

委員会開催

活動実績に関しては、機密事項に属するため公表できない。

医療ガス安全管理委員会

目　的

高槻赤十字病院において使用する医療ガス（診察の用に供する酸素、各種麻酔ガス、吸引、医療用圧縮空気、窒素ガス等をいう。）設備の安全を図り、患者の安全を目的とする。

委員会開催

第１回

開催日：令和７年３月 14 日（金）

議　題：１．令和６年度　医療ガス保守点検実績について

２．耳鼻咽喉科処置ユニットの切離しについて

３．その他（酸素供給業者の変更について）

放射線安全委員会

目　的

放射線障害の発生を防止し、あわせて公共の安全を確保する目的として、当委員会で放射線被ばく等に関する必要な事項を企画、審議する。

委員会開催

開催日：令和６年８月７日

議　題：

①放射線治療における放射線業務従事者の教育訓練について

②漏洩線量測定の報告

③第１種放射線取扱主任者の講習について

④その他

医療放射線管理委員会

目　的

医療法施行規則　第一条の十一に則り、放射線に関わる検査の適切な運営を推進する

委員会開催

開催日：令和 6 年 11 月 13 日（水）16：00

場　所：内視鏡カンファレンス室

1. 医療放射線管理委員会振り返り
2. 線量管理部会、MRI 安全管理部会からの報告
3. 本年度研修会の実施について

研修会

開催日： オンデマンド配信

令和 6 年 11 月 21 日～配信予定

医療安全研修枠での開催

正当性：後藤公男　約 7 分

最適化：松山佳央　約 11 分

MRI 安全管理：木戸口尭史　約 13 分

（松原健夫　約 10 分）

※医師・看護師　全員対象

化学療法委員会

目　的

安全で効果的ながん化学療法を行うことを目的として、外来のがん化学療法にかんする審議・検討を行う。

委員会開催

第 1 回

開催日：令和 6 年 9 月 12 日

議　題：

①外来化学療法室利用状況・上半期インシデントの報告

②仮登録されたレジメンの報告と承認

③新規や変更レジメンの報告と承認

④過敏症・血管外漏出時のマニュアル修正の承認

⑤その他

第 2 回

開催日：令和 7 年 3 月 13 日

議　題：

①外来化学療法室利用状況・上半期インシデントの報告

②仮登録されたレジメンの報告と承認

③新規や変更レジメンの報告と承認

④その他

キャンサーボード委員会

目　的

大阪府指定がん診療拠点病院として、患者に適切ながん診療を提供するためにキャンサーボードの体制を整備することを目的とする

委員会開催

委員会：必要に応じて開催する

血液浄化療法委員会

目　的

血液浄化療法室および病棟等で行われる血液浄化療法の運営と管理に必要な事項を審議する。

委員会開催

第1回

開催日：令和7年3月27日（木）

議　題

報告事項

「血液浄化療法における収益について」

審議事項

「血液浄化療法室の今後の運用について」

・透析日について

・新型コロナウイルスに感染した維持透析患者の受け入れについて

褥瘡委員会

目　的

高槻赤十字病院において褥瘡対策を円滑に推進するため、院内褥瘡対策について討議検討し、その効果的な推進を図ることを目的とする。

委員会開催

第１回：令和６年 12 月 16 日（月）

議　題：①褥瘡件数と褥瘡発生率について
②褥瘡ハイリスクケア加算の算定状況について
③ココロールミルの使用の検討について
④その他

第２回：令和７年３月 17 日（月）

議　題：①ココロールミルの採用について
②病棟でのクッション配置について
③エアーマットの機種変更について
④その他

ＮＳＴ委員会

目　的

医療の質と向上のために、全ての治療の基盤である栄養管理を促進する。

委員会の開催

開催なし。

勉強会開催

開催なし。

給食委員会

目　的

患者の栄養管理ならびに給食サービスの円滑な運営とその向上を図る。

委員会開催

開催なし。

認知症ケアサポート委員会

目　的

認知症ケアサポートチームは、病棟における認知症患者へのケアの実施状況を把握するとともに、専門スタッフが病棟職員、家族・家族等に助言等を行い、拘束患者の早期離脱をすすめ、認知症患者への理解を深めながら療養環境の改善を目的とします。

委員会開催

2 回／年開催（必要時に開催）

第 1 回：令和 6 年 6 月 25 日（火）

議　題：認知症・せん妄加算報告、令和 6 年度認知症研修について

活動実績

・毎週火曜日にミーティング及び、各病棟のラウンドを行い状況の確認・対応方法の検討と対策を行った。
・認知症患者の人数を把握し、各病棟の状況等の把握し、拘束患者の介入を行い拘束からの解放を行っている。
・ミーティングなど認知症・せん妄の状況を把握し判定を行い、対応方法など検討を行った。
・院内研修会：令和 6 年 11 月 27（水）17：30～18：30

題　　名：「認知症の理解と BPSD への対応」

講　　師：新阿武山病院　副診療部長　森本　一成　先生

＜参加人数：61 名＞

※認知症ケア加算：9400 件（令和 5 年度）

9812 件（令和 6 年度）

輸血療法委員会

目　的

輸血療法の適応、血液製剤の選択、輸血用血液の検査項目・検査術式の選択と精度管理、輸血実施時の手続き、血液の使用状況調査、症例検討を含む適正使用推進の方法、輸血療法に伴う事故・副作用・合併症の把握方法と対策、輸血関連情報の伝達方法、院内採血の基準や自己血輸血の実施方法についての検討するとともに、改善状況について定期的に検証する。

委員会開催

第１回
開催日：令和６年４月３日（水）
議　題：①血液製剤の使用状況報告（3 月分）
②輸血副作用報告（3 月分）
③手術室の保冷庫の運用について
④I&A 再視察について
⑤院内マニュアル改訂について
⑥院内ラウンドについて
⑦委員会メンバー変更について

第２回
開催日：令和６年５月８日（水）
議　題：①血液製剤の使用状況報告（4 月分）
②輸血副作用報告（4 月分）
③インシデント事例報告
④I&A 再視察について
⑤院内マニュアル改訂について
⑥前日入庫・当日判断の製剤の取扱いについて

第３回
開催日：令和６年６月５日（水）
議　題：①血液製剤の使用状況報告（5 月分）
②輸血副作用報告（5 月分）
③I&A 再視察報告

第 4 回
開催日：令和 6 年 7 月 3 日（水）
議　題：①血液製剤の使用状況報告（6 月分）
②輸血副作用報告（6 月分）
③輸血機能評価認定制度(I&A)受審結果報告

第 5 回
開催日：令和 6 年 8 月 7 日（水）
議　題：①血液製剤の使用状況報告（7 月分）
②輸血副作用報告（7 月分）
③輸血関連検査の査定状況報告
④輸血副作用の詳細調査依頼中症例につて
⑤インシデント事例報告（2 症例）

第 6 回
開催日：令和 6 年 9 月 4 日（水）
議　題：①血液製剤の使用状況報告（8 月分）
②輸血副作用報告（8 月分）
③輸血副作用詳細調査報告基準ついて
④輸血の実施手順についてのマニュアル変更

第 7 回
開催日：令和 6 年 10 月 2 日（水）
議　題：①血液製剤の使用状況報告（9 月分）
②輸血副作用報告（9 月分）

第 8 回
開催日：令和 6 年 11 月 6 日（水）
議　題：①血液製剤の使用状況報告（10 月分）
②輸血副作用報告（10 月分）
③輸血副作用詳細調査報告結果について
④輸血療法委員会メンバー変更について

第 9 回
開催日：令和 6 年 12 月 4 日（水）
議　題：①血液製剤の使用状況報告（11 月分）
②輸血副作用報告（11 月分）
③血液製剤廃棄事例報告
④次回の輸血療法委員会開催日について

第 10 回
開催日：令和 7 年 1 月 15 日（水）
議　題：①血液製剤の使用状況報告（12 月分）
　　②輸血副作用報告（12 月分）
　　③血液製剤廃棄事例報告

第 11 回
開催日：令和 7 年 2 月 5 日（水）
議　題：①血液製剤の使用状況報告（1 月分）
　　②輸血副作用報告（1 月分）
　　③血液製剤廃棄事例報告

第 12 回
開催日：令和 7 年 3 月 5 日（水）
議　題：①血液製剤の使用状況報告（2 月分）
　　②輸血副作用報告（2 月分）
　　③不適切製剤納入事例報告
　　④インシデント事例報告

■令和 6 年　医療安全研修会
開催日：2024 年 10 月 29 日(水)　17：30～18：30
テーマ：安全な輸血の取扱いについて
講演者：大阪府赤十字血液センター　石田　拓巳　先生

救急委員会

目　的

救急搬送増加と、円滑な受入体制の強化、断診の防止対策の為検討・討議を行う。

委員会開催

開催日

令和６年４月 15 日：①３月度の救急件数報告、②３月度の断診状況について

令和６年５月 20 日：①４月度の救急件数報告、②４月度の断診状況について
③令和５年度高槻・茨木消防救急搬送件数

令和６年６月 17 日：①５月度の救急件数報告、②５月度の断診状況について

令和６年７月８日：①６月度の救急件数報告、②６月度の断診状況について
③日当直の１系引き継ぎについて

令和６年８月 19 日：①７月度の救急件数報告、②７月度の断診状況について
③茨木・高槻消防懇親会のご報告

令和６年９月９日：①８月度の救急件数報告、②８月度の断診状況について

令和６年 10 月 21 日：①９月度の救急件数報告、②９月度の断診状況について

令和６年 11 月 18 日：①10 月度の救急件数報告、②10 月度の断診状況について

令和６年 12 月 16 日：①11 月度の救急件数報告、②11 月度の断診状況について
③三島医療圏の状況について、④その他・年末年始のCOVID19
に関する治療薬の薬剤部の在庫について

令和７年２月 17 日：①１月度の救急件数報告、②１月度の断診状況について
③救急外来薬品定数変更

令和７年３月 17 日：①２月度の救急件数報告、②２月度の断診状況について

以上

ＨＣＵ運営委員会

目　的

HCU 運営に関する諸問題の協議・調整を行い、HCU の効率的な運営に関し審議する。

委員会開催

開催実績なし。

手術室運営委員会

目　的

高槻赤十字病院における手術室運営に関する諸問題の協議・調整を行い、安全かつ適切な手術が行える体制を確立する。

4 月 26 日（金）	1．統計報告 令和 6 年 3 月手術件数 2．ストライカー契約 3．手術室での血液製剤管理、製剤運搬について 4．並列麻酔について 5．手術体位の除圧マットの使用について 6．手術室の清掃　ビケンから高浄へ変更 7．機能評価受審　5 月 22 日中央材料室・手術室訪問
5 月 24 日（金）	1．統計報告 令和 6 年 4 月手術件数 2．オリンパス VPP 契約 3．オリンパス録画機について　デモ予定 6 月 4 日～
6 月 28 日（金）	1．統計報告 令和 6 年 5 月手術件数 2．麻酔依頼の取り決めについて　＊並列麻酔にならないように 3．自家麻酔の範疇について 4．節電のお知らせ（更衣室や使用しない手術部屋の消灯）
7 月 26 日（金）	1．統計報告 令和 6 年 6 月手術件数 2．麻酔科の取り決め　泌尿器科（状況により金曜日）追加 3．１・２・4 室の空調故障状況について 4．９月 VPP 導入について（8 月下旬納期） 5．NHA 共同購入品について　４０％目指す
8 月 23 日（金）	休会 1．統計報告　令和 6 年 7 月手術件数　メールで報告
9 月 27 日（金）	1．統計報告 令和 6 年 8 月手術件数 2．空調システムの修理予定について（1・2・4 室） 漏電アラームについて（5 室）

	3．輸血拒否の方の対応
10 月 25 日（金）	1．統計報告 令和 6 年 9 月手術件数 2．手術室における NHA 共同購入品（手術室）の現状 3．１１月手術室（1・2・4 室と中央材料室）の空調工事について 4．手術前の休止薬について
11 月 22 日（金）	1．統計報告 令和 6 年 10 月手術件数 2．空調工事について 3．手術室で使用する新規購入物品（20 万以下）について 4．12 月の手術室運営委員会は 12 月 20 日（予定 12 月 27 日）変更
12 月 20 日（金）	1．統計報告 令和 6 年 11 月手術件数 2．手術分野における NHA の推進について 3．手術室での褥瘡について（褥瘡対策委員会） 4．弾機針の欠損について報告
1 月 24 日（金）	1．統計報告 令和 6 年 12 月手術件数 2．手術分野における NHA の進捗状況について 3．スピード滅菌機廃止について 4．J バック 150ml 一次欠品のお知らせ
2 月 28 日（金）	1．統計報告 令和 7 年 1 月手術件数 2．物品購入（形成外科） 3．手術予約 4．フェンタニルの情報共有
3 月 28 日（金）	1．統計報告 令和 7 年 2 月手術件数 2．来年度　各科手術予定枠（整形外科） 3．手術室入室申請について 4．4 月無影灯デモ予定のお知らせ

令和 7 年 3 月作成

薬事委員会

目　的

医薬品や検査試薬等の採用や削除について、医師の依頼に基づいて適正に審議することが目的。不良在庫の見直しによる採用薬品数の削減も、薬剤部の提案により本委員会で検討される。

後発品への切り替えは、DPC 導入もあり病院経営の観点からも重要である。後発品の品質・供給体制等を考慮し薬剤部より提案のうえ本委員会にて審議している。

委員会開催

第 1 回

開催日　令和 6 年 4 月 5 日(金)

議　題　1. 仮採用依頼品目の審議
2. 院外採用依頼品目の審議
3. 採用中止候補品目の審議
4. 仮採用品目の本採用審議
5. 特定患者用薬品の使用状況報告
6. その他の承認依頼事項
7. 6 ヶ月院内に処方がない品目の採用中止報告
8. 5 ヶ月院内に処方がない品目の報告

第 2 回

開催日　令和 6 年 5 月 10 日(金)

議　題　1. 仮採用依頼品目の審議
2. 院外採用依頼品目の審議
3. 採用中止候補品目の審議
4. 仮採用品目の本採用審議
5. 特定患者用薬品の使用状況報告
6. その他の承認依頼事項
7. 6 ヶ月院内に処方がない品目の採用中止報告
8. 5 ヶ月院内に処方がない品目の報告
9. 国内承認薬の適応外使用についての審議［薬剤部］

第 3 回

開催日　令和 6 年 7 月 5 日(金)

議　題　1. 仮採用依頼品目の審議
2. 院外採用依頼品目の審議

3. 採用中止候補品目の審議
4. 仮採用品目の本採用審議
5. 特定患者用薬品の使用状況報告
6. 6ヶ月院内に処方がない品目の採用中止報告
7. 5ヶ月院内に処方がない品目の報告

第4回
開催日　令和6年9月6日(金)
議　題　1. 仮採用依頼品目の審議
2. 院外採用依頼品目の審議
3. 採用中止候補品目の審議
4. 仮採用品目の本採用審議
5. 特定患者用薬品の使用状況報告
6. その他の承認依頼事項
7. 6ヶ月院内に処方がない品目の採用中止報告
8. 5ヶ月院内に処方がない品目の報告
9. 国内承認薬の適応外使用についての審議［循環器内科］

第5回
開催日　令和6年10月4日(金)
議　題　1.－7.　第3回と同様

第6回
開催日　令和6年12月6日(金)
議　題　1. 仮採用依頼品目の審議
2. 院外採用依頼品目の審議
3. 採用中止候補品目の審議
4. 仮採用品目の本採用審議
5. 特定患者用薬品の使用状況報告
6. 6ヶ月院内に処方がない品目の採用中止報告
7. 5ヶ月院内に処方がない品目の報告
8. 後発品への切り替え案［薬剤部］

第7回
開催日　令和7年1月10日(金)
議　題　1.－8.　第6回と同様

第８回
開催日　令和７年２月７日(金)
議　題　1. 仮採用依頼品目の審議
2. 院外採用依頼品目の審議
3. 採用中止候補品目の審議
4. 仮採用品目の本採用審議
5. 特定患者用薬品の使用状況報告
6. ６ヶ月院内に処方がない品目の採用中止報告
7. ５ヶ月院内に処方がない品目の報告

第９回
開催日　令和７年３月７日(金)
議　題　1.－8.　第１回と同様

令和６年度の振り返り

令和６年度は、令和５年度に引き続き、製薬会社の出荷制限・停止等に対する対応が中心であった。各診療科に供給状況を伝え、協力を得ながら、通常診療への影響は最小限に留めることができた。

院内採用されている内服薬の後発品への切り替えは、医薬品供給等の問題で、切り替えが難しい状況で薬剤部からの提案は少なかったが、抗癌剤については、適応症等で問題がない医薬品は、ほぼ後発品に切り替えており、病院経営に貢献できたと考えている。

以　上

幹事　美和　孝之

保険委員会

目　的

診療報酬請求の査定状況報告、返戻状況・再審査請求状況の報告、医師への情報提供、医事課勉強会の報告等を行い、正確な診療報酬請求に繋げる。

委員会開催

開催日　令和６年９月 12 日

議　題　①審査機関による審査結果集計（査定率：0.33％）

②診療科別等査定内訳入外別（5 月診療分）

③その他

開催日　令和６年 12 月 12 日

議　題　①審査機関による審査結果集計（査定率：0.55％）

②診療科別等査定内訳入外別（8 月診療分）

③その他

ＳＰＤ･診療材料購入審査委員会

目　的

新規診療材料の採用の可否・ＳＰＤ活動（不動在庫削減・診療材料の購入コスト低減・業務の効率化）の推進による病院経営の合理化を目的とする。

委員会開催

第１回
開催日：令和６年４月２日（火）16時30分～17時15分
議　題：①新規材料について
　　②サンプル品使用について

第２回
開催日：令和６年５月７日（火）16時30分～17時00分
議　題：①新規材料について
　　②サンプル品使用について
　　③三笑堂から（不動在庫等の報告）

第３回
開催日：令和６年６月４日（火）16時30分～17時00分
議　題：①新規材料について
　　②サンプル品使用について
　　③三笑堂から（不動在庫等の報告）

第４回
開催日：令和６年７月３日（火）16時30分～17時00分
議　題：①新規材料について
　　②サンプル品使用について
　　③三笑堂から（不動在庫等の報告）

第５回
開催日：令和６年８月６日（火）16時30分～17時00分
議　題：①新規材料について
　　②サンプル品使用について

第６回
開催日：令和６年９月３日（火）16時30分～16時17分
議　題：①新規材料について

②サンプル品使用について
③三笑堂から（不動在庫等の報告）

第 7 回
開催日：令和 6 年 10 月 1 日（火）16 時 30 分～17 時 00 分
議　題：①新規材料について
②サンプル品使用について
③三笑堂から（不動在庫等の報告）

第 8 回
開催日：令和 6 年 11 月 5 日（火）16 時 30 分～17 時 00 分
議　題：①新規材料について
②サンプル品使用について
③三笑堂から（不動在庫等の報告）

第 9 回
開催日：令和 7 年 12 月 3 日（火）16 時 30 分～17 時 00 分
議　題：①新規材料について
②サンプル品使用について
③三笑堂から（不動在庫等の報告）

第 10 回
開催日：令和 7 年 1 月 7 日（火）16 時 30 分～17 時 00 分
議　題：①新規材料について
②サンプル使用について
③三笑堂から（不動在庫等の報告）

第 11 回
開催日：令和 7 年 2 月 4 日（火）　16 時 30 分～17 時 00 分
議　題：①新規材料について
②サンプル品使用について
③三笑堂から（不動在庫等の報告）

第 12 回
開催日：令和 7 年 3 月 4 日（火）　16 時 30 分～17 時 00 分
議　題：①新規材料について
②サンプル品使用について
③三笑堂から（不動在庫等の報告）

購買委員会

目　的

各部署から提出された医療用機械備品・その他器械備品等（原則、購入予定価格が 20 万円以上の物品）の整備依頼調書に基づき、各部署のヒアリングを行い、購入の是非を検討する。

委員会開催

第 1 回

開催日：日　時　　令和 6 年 10 月 8 日(火)15：00～17：00

議　題：令和 7 年度購入備品の検討

連番	議題内容	申請部署	本委員会での結果
1.	内視鏡スコープ　EI-580BT	消化器内科	保留
2.	内視鏡挿入形状観測装置　UPD-3 受信アンテナ　MAJ-1868	消化器内科	保留
3.	Humeca コードレスデルマトーム D42	形成外科	承認
4.	CO2 レーザー　LASERY　15Zu	形成外科	保留
5.	整形外科内視鏡術用機器一式 再リースの買取	整形外科	承認
6.	フレックスアームプラスロング クイックグリップホルダ 10mm	呼吸器外科	承認
7.	ストレッチャー	看護部	承認
8.	2 クランクギャッジベッド （小児用ベッド）	看護部	保留
9.	試薬冷蔵庫	検査部	取り下げ
10.	血液ガス分析装置ラピッドピント 500e	検査部	取り下げ
11.	マイナンバーカードリーダー 増設（3 台）	外来医事業務課	承認（DX 補助金）

12.	調剤室業務用エアコン整備 （二式）	薬剤部	承認
13.	高精細モニタ （5 台）	放射線課	4 台のみ承認
14.	電子スパイロメータ DISCOM-21FXⅢ HI-801	検査部	非承認
15.	病理検査室　安全キャビネット	検査部	承認
16.	プッシュプル化学物質換気装置	検査部	取り下げ
17.	分離式電動手術台　　MOT-8300	手術室	故障時更新
18.	ジェットオーブン一式（更新）	栄養課	承認（機種は検討）
19.	送信機　ZS-630P 6 台	臨床工学技術課	4 台のみ承認
20.	個人用透析装置　DBB-200Si	臨床工学技術課	承認
21.	人工呼吸器　EvitaV600	臨床工学技術課	補助金等があった場合整備
22.	ベッドサイドモニタ　PVM-4763	臨床工学技術課	承認
23.	心電計　ECG-2450	臨床工学技術課	承認（配置変更を再考）
24.	電気メステスタ	臨床工学技術課	承認
25.	ヘモクロンシグニチャーエリート	臨床工学技術課	承認
26.	電気メス VIO3	臨床工学技術課	保留
27.	個人用 RO 装置	臨床工学技術課	故障時更新
28.	ME 機器チェッカー	臨床工学技術課	承認
29.	酸素流量計チェッカー	臨床工学技術課	承認
30.	SonoSite EdgeⅡ	臨床工学技術課	保留

31.	小型シリンジポンプ 6 台	臨床工学技術課	3 台のみ承認
32.	エネルギーチェッカー	臨床工学技術課	承認
33.	広報誌デザイン・動画制作 PC	経営企画課	承認
施設関係			
1.	LED 照明更新工事	総務管理課	承認（病建）
2.	手術室系統空調設備更新工事（3 系統）	総務管理課	承認（病建）
3.	パッケージエアコン更新工事（①リハビリ　②看護師更衣室　③電気室）	総務管理課	承認（病建）
4.	高圧ケーブル更新工事（①緩和ケア送り、②別館電気室送り 2 系統）	総務管理課	承認（病建）
5.	救急車（一式）	総務管理課	補助金が通った場合承認

≪臨時開催≫

手術室 VPP 契約の更新

開催日：日　時　令和 6 年 6 月 19 日(水)16：00～16：50

議　題：令和 5 年 11 月契約終了に伴う VPP 契約の更新

連番	議題内容	申請部署	本委員会での結果
1	手術室 VPP 契約の更新	手術部	承認

開催日：日　時　　令和６年８月 26 日(月)15：00～16：00

議　題：故障に伴う各種備品の更新審議

連番	議題内容	申請部署	本委員会での結果
1	メディカルディスクシステム２台	放射線科	１台承認
2	セントラルモニタ　12 人用	臨床工学技術課	承認
3	SonoSite　EdgeⅡ	臨床工学技術課	保留

開催日：日　時　　令和６年 10 月 25 日(金)14：00～17：00

議　題：令和７年度～11 年度中長期整備計画（5 ヶ年計画）の審議承認

令和７年度

連番	議題内容	申請部署	本委員会での結果
1.	業務支援モバイル GX handy	薬剤部	８年度に移行
2.	ベッドサイドモニタ（OPE 室）CSM-1702・BSM-1763	臨床工学技術課	承認
3.	ベッドサイドモニタ（HCU）　CSM-1702・BSM-1763	臨床工学技術課	非承認
4.	無影灯	手術室	年度を分けて段階的に整備で承認（令和７年度３台・８年度３台・９年度１台）
5.	電子カルテサーバー一式	経営企画課	承認
6.	インターネット側ネットワーク機器リプレース	経営企画課	承認
7.	内視鏡支援ｼｽﾃﾑ（現行機は Solemio　QUEV）	内視鏡室	承認
8.	診断書作成システム	診療支援課	令和９年度に移行

令和８年度

連番	議題内容	申請部署	本委員会での結果
1.	″眼科部門システム （現在はＮＡＶＩＳシステム）″	眼科	承認（常勤医が来てから機種は検討）
2.	調剤業務支援システム一式 YUNICOM-GX	薬剤部	承認
3.	泌尿器科　Ｘ線ＴＶ装置	放射線科	承認
4.	麻酔器　Atlan	臨床工学技術課	承認（ｸﾞﾚｰﾄﾞを落とすことも検討）
5.	生理機能検査ｼｽﾃﾑ PrimeVitaPlus ｿﾌﾄｳｪｱ類	検査部	承認（他メーカーも検討）
6.	電子カルテ NW 無線 LAN 認証サーバー	経営企画課	承認
7.	電子カルテ NW 無線 LAN コントローラー・電子カルテ NW 無線 LAN アクセスポイント	経営企画課	承認
8.	電子カルテ NW コアスイッチ	経営企画課	承認
9.	移動型 X 線撮影装置(緩和ケア)	放射線科	非承認

令和９年度

連番	議題内容	申請部署	本委員会での結果
1.	6 室 TV 装置	放射線課	承認
2.	一般撮影装置（5 室）	放射線課	承認（どちらかをＲ１０年に）
3.	一般撮影装置（2 室）	放射線課	承認（どちらかをＲ１０年に）
4.	移動型 X 線撮影装置（OP 室）	放射線課	承認（放射線科内で調整）
5.	電子カルテ NW フロアスイッチ	経営企画課	承認

6.	配膳車デリカート（更新）	栄養課	承認（９年以降の３年間で6台・6台・5台に分割して整備）
7.	高圧蒸気滅菌装置	手術室	承認
8.	ウオッシャーデイスインフェクターダブル　2015年	手術室	承認

令和10年度

連番	議題内容	申請部署	本委員会での結果
1.	3室TV装置	放射線課	承認
2.	一般撮影装置立位装置（1室）	放射線課	承認（9年であげてる２室か５室もこの年に）
3.	汎用超音波装置 Epiq 7G	検査部	承認
4.	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ支援ｼｽﾃﾑ	リハビリテーション科	承認
5.	麻酔器　Atlan	臨床工学技術課	承認（ｸﾞﾚｰﾄﾞを落とすことも検討）

令和11年度

連番	議題内容	申請部署	本委員会での結果
1.	注射薬自動払出装置	薬剤部	承認
2.	RI装置（本体及び周辺モニタ）	放射線課	承認
3.	乳房撮影装置	放射線課	承認
4.	心臓超音波装置 E95	検査部	承認

開催日：日　時　　令和 6 年 12 月 19 日(木)16：00～17：00

議　題：故障に伴う各種備品の更新審議

連番	議題内容	申請部署	本委員会での結果
1	血液ガス分析装置　ラピッドポイント 500e	検査部	承認
2	オンライン資格確認用ネットワーク構築（専用端末、ルータ等器具含めた設置・接続）	訪問看護ステーション	承認

ＤＰＣ・診療記録管理委員会

目　的

標準的な診断及び治療方法に基づいた適切なコーディング（適切な診断を含めた診断群分類の決定をいう。）を行う体制を確保すること、及び、診療情報及び診療記録に関する事項を検討・討議する。

委員会開催

第１回：令和６年４月25日（木）

議　題：①診療記録の記載に関する指針の改訂について
②第２回診療記録の監査の結果について
③略語集の作成について
④診療情報の提供に関する指針について
⑤退院サマリの記載について
⑥DPC コーディングについて
⑦その他

第２回：令和６年９月９日（月）

議　題：①退院サマリの記載について
②DPC コーディングについて
③その他

第３回：令和６年11月27日（水）

議　題：①DPC コーディングについて
②厚生局の指導における指摘の考え方について
③診療記録の監査の実施について
④その他

第４回：令和７年２月28日（金）

議　題：①DPC コーディングについて
②診療記録の監査の結果について
③委員会規程の改定について
④その他

クリニカルパス委員会

目　的

クリニカルパスを活用し、医療の質の向上、患者満足度の向上、EBM に基づいた標準的医療の実施、資源の効果的使用を実現することを目的として、クリニカルパス委員会を設置する。

委員会開催

第１回：令和６年５月 14 日（火）

議　題：①診療報酬改定に伴うパスの見直しについて
②パスの新規申請方法の改定について
③患者用パスについて
④パスの点滴流量の入力について
⑤令和６年度のバリアンス分析について
⑥パス適用率について
⑦その他

治験審査委員会

目　的

新規治験の実施および進行中の治験の継続について、科学面・安全面・倫理面から適正に審議することが目的。

ＧＣＰ（医薬品の臨床試験の実施に関する省令）に準拠した委員会であり、構成人員・審議書類・記録方法等が詳細に規定されている。

併せて、ＧＰＳＰ（医薬品の製造販売後の調査および試験の実施の基準に関する省令）に準拠した製造販売後調査・副作用報告に関する審議・報告等も必要に応じ実施している。

委員会開催

第１回
開催日：令和６年４月１９日（現地開催）
議　題：１．迅速審査・報告
　　２．委員会審議（治験の継続を審議）
　　３．安全性情報（治験の継続を審議）

第２回
開催日：令和６年５月１７日（現地開催）
議　題：第１回と同様

第３回
開催日：令和６年６月２１日（現地開催）
議　題：第１回と同様

第４回
開催日：令和６年７月１９日（現地開催）
議　題：第１回と同様

第５回
開催日：令和６年８月１６日（現地開催）
議　題：１．迅速審査・報告
　　２．委員会審議（治験の継続を審議）
　　３．安全性情報（治験の継続を審議）
　　４．製造販売後調査の実施の可否を審議

第６回
開催日：令和６年９月２０日　（現地開催）
議　題：第１回と同様

第７回
開催日：令和６年１０月１８日　（現地開催）
議　題：第５回と同様

第８回
開催日：令和６年１１月１５日　（現地開催）
議　題：第５回と同様

第９回
開催日：令和６年１２月２０日　（現地開催）
議　題：１．委員会審議（治験の継続を審議）
　　２．安全性情報（治験の継続を審議）

第１０回
開催日：令和７年１月１７日　（現地開催）
議　題：第５回と同様

第１１回
開催日：令和７年２月２１日　（ハイブリッド開催）
議　題：第１回と同様

第１２回
開催日：令和７年３月２１日　（現地開催）
議　題：１．迅速審査・報告
　　２．委員会審議（治験の継続を審議）
　　３．安全性情報（治験の継続を審議）
　　４．その他（製造販売後調査・副作用報告 実施状況についての報告）

治験・製造販売後調査等の終了報告

【治験】

LY3209590(BDCU)第Ⅲ相試験　糖尿病・内分泌・代謝内科
LY3209590(BDCY)第Ⅲ相試験　糖尿病・内分泌・代謝内科
EX9924-4473 第Ⅲ相試験　糖尿病・内分泌・代謝内科
BAY94-8862(20103) 第Ⅲ相試験　循環器内科

【製造販売後調査】

セムブリックス錠　　血液内科
マブキャンパス点滴静注 30 ㎎　　血液内科
ビラフトビカプセル/メクトビ錠　　消化器内科
ベスポンサ点滴静注用 1 ㎎　　血液内科
ロミプレート皮下注 250μg 調製用　　血液内科
デファイテリオ静注 200 ㎎　　血液内科
トラクリア錠 62.5 ㎎　　糖尿病・内分泌・代謝内科
イストダックス点滴静注用 10 ㎎　　血液内科
ローブレナ錠 25 ㎎、ローブレナ錠 100 ㎎　　呼吸器内科
ジェセリ錠 40 ㎎　　消化器内科

令和 6 年度の振り返り

コロナ禍が終わり、滞りなく委員会を運営し、大過なく治験を進めることができたと考える。令和 7 年度には、治験事務局の外部委託が行われるため、委員会運営に支障のないよう推し進めていきたい。糖尿病内科の治験が終了し治験数が減少しているが、これを機に新規治験の受託を増やしていきたい。また、事務局移行後も引き続き被験者が安全に治験に参加できるよう適切な審議を継続していきたい。

以　上

幹事　奥村　優介

臨床検査適正化委員会

目　的

臨床検査の適性なる運営を推進すること

委員会開催

第 264 回

開催日 2024 年 4 月 9 日火曜日 16 時 30 分から 16 時 45 分

1. 3 月分院内測定項目実績件数
2. 外注検査について
3. 心筋マーカーのパニック値設定について
4. 病院機能評価について
5. 試薬費と棚卸し報告
6. 委員会メンバー変更について

第 265 回

開催日 2023 年 5 月 4 日 16 時 30 分から 17 時 45 分

4 月分院内測定項目実績件数

1. 外注検査について　ﾌﾟﾛｽﾃｰﾄﾍﾙｽｲﾝﾃﾞｯｸｽ PHI 採用
   肝線維化マーカーｵｰﾄﾀｸｼﾝ ATX 採用

第 266 回

開催日 2024 年 6 月 11 日 16 時 30 分から 17 時 45 分

1. 2024 年 2 月分検査査定項目
2. 外注検査について　CLD18 ﾀﾝﾊﾟｸ、肺癌ｺﾝﾊﾟｸﾄﾊﾟﾈﾙ(7 遺伝子)
3. 病院機能評価指摘事項(パニック値報告態勢)

第 267 回

開催日 2024 年 7 月日 16 時 30 分から 16 時 45 分

1. 2024 年 3 月分検査査定項目
2. 外注項目について　サイトメガロウィルス PP65(C10,C11)中止
   サイトメガロウィルス PP65(C7HRT)に変更
3. 日赤検査業務研修会パニック値運用に関する報告

第 268 回

開催日 2024 年 8 月 13 日 16 時 30 分から 16 時 50 分

1. 2024 年 4 月検査査定項目
2. 緊急異常値報告について

第 269、270 回

開催日 2024 年 11 月 13 日 16 時 30 分から 16 時 55 分

1. 緊急異常値報告
2. 2024 年 6，7 月検査査定項目について
3. 外注検査変更点について
4. 2024 年日臭議精度管理調査結果

第 271 回

開催日 2024 年 12 月 10 日 16 時 30 分から 16 時 50 分

1. 2024 年 11 月緊急異常値報告数
2. 2024 年 8 月検査査定項目について
3. 外注項目について
4. 年末年始検査体制について

第 272 回

開催日 2025 年 1 月 14 日 16 時 30 分から 17 時

1. 2024 年 12 月緊急異常値報告
2. 2024 年 9 月検査査定項目について
3. 緊急異常値報告について(日本医療安全調査機構の提言)
4. 検査試薬費用について
5. 梅毒試薬(RPR)について

第 273 回

開催日 2025 年 2 月 12 日 16 時 30 分から 17 時

1. 2024 年 1 月緊急異常値報告数
2. 2024 年 10 月検査査定項目について
3. 亜鉛院内化検討トロポニン T 試薬変更、感染症試薬変更について
4. 新規外注項目申請(HTLV-1/ATL HAS-Flow 解析)

第 274 回

開催日 2025 年 3 月 12 日 16 時 30 分から 16 時 45 分

1. 2024 年 11 月検査査定項目について
2. 令和 6 年日本医師会精度管理調査結果
3. 外注項目について

   CMV 核酸定量　点数 450 点
4. RPR 試薬変更について

   現在使用している和光 RPR はﾌﾟﾛｿﾞｰﾝｴﾗｰが出ないため高値を陰性と判断してしまう

   極東 RPR はﾌﾟﾛｿﾞｰﾝｴﾗｰがでて希釈することで値を出すことができる

地域医療支援病院運営委員会

目　的

委員会は、地域における医療の確保・向上のために必要な支援に係る業務に関し、当該業務が適切に行われるために必要な事項を審議することを目的とする。

委員会開催

第１回　令和６年６月 12 日　　集合形式
第２回　令和６年９月 18 日　　Web 形式
第３回　令和６年 11 月 20 日　　Web 形式
第４回　令和７年２月 19 日　　Web 形式

【内容】

紹介患者実績、紹介率・逆紹介率、救急搬入件数、セミナーなど、地域医療支援病院承認要件の報告。その後、当院の現状・活動について、今後当院との連携強化に向けて各委員（院外委員）と意見交換を実施。

患者支援センター運営委員会

目　的

本院を利用する患者が円滑に診療を受けられるように支援するとともに、地域包括ケアシステム推進に向け病院と地域を繋ぐ役割を果たすため設置された「患者支援センター」の運営に関する問題点や課題を改善するとともに、より一層の地域との機能連携を推進することを目的とする。

委員会開催

第１回　令和６年４月24日
第２回　令和６年７月24日
第３回　令和６年９月25日
第４回　令和６年11月27日
第５回　令和７年１月22日
第６回　令和７年２月26日

【内容】

月ごとの紹介率・逆紹介率、紹介不応需状況、営業活動、患者支援センターに関する患者相談ミーティングでの報告事項。高槻赤十字病院地域連携の会開催について　など。

がん診療関連機能充実委員会

目　的

「がん診療拠点病院の整備に関する指針」に則して、当院におけるがん診療関連機能の充実を図ることについて討議する

活動実績

令和６年度は計９回開催した。委員会開催日と議題は以下のとおりである。

第１回
開催日：令和６年４月 23 日（火）
議　題：１．各部会の担当について
　　２．がん教育について
　　３．今後の予定
　　４．その他
　　①緩和サポートチーム規程について
　　②緩和ケアマニュアルについて
　　③がん看護リンクナース会について
　　④がん登録実務者について

第２回
開催日：令和６年５月 28 日（火）
議　題：１．各部会の報告
　　２．三島医療圏がん拠点病院合同市民公開セミナーについて
　　３．がん教育について
　　４．今後の予定
　　５．その他
　　①大阪府がん診療連携協議会各部会について
　　②高槻市　がん患者のためのアピアランス助成事業について

第３回
開催日：令和６年６月 25 日（火）
議　題：１．各部会の報告
　　２．三島医療圏がん拠点病院合同市民公開セミナーについ
　　３．がん教育について
　　４．今後の予定
　　５．その他

第４回
開催日：令和６年８月 27 日（火）
議　題：１．各部会の報告
　　２．三島医療圏がん拠点病院合同市民公開セミナーについて
　　３．がん教育について
　　４．今後の予定
　　５．その他
　　①第一藤和会病院への拠点病院訪問について
　　②がん患者サロンについて
　　③三島圏域がん研究会について

第５回
開催日：令和６年９月 24 日（火）
議　題：１．各部会の報告
　　２．三島医療圏がん拠点病院合同市民公開セミナーについて
　　３．がん教育について
　　４．今後の予定
　　５．その他
　　①がん検診強化月間に関するポスターについて
　　②現況報告について

第６回
開催日：令和６年 10 月 29 日（火）
議　題：１．各部会の報告
　　２．三島医療圏がん拠点病院合同市民公開セミナーについて
　　３．がん教育について
　　４．今後の予定
　　５．その他
　　①現況報告について

第７回
開催日：令和６年 11 月 26 日（火）
議　題：１．現況報告について
　　２．三島医療圏がん拠点病院合同市民公開セミナーについて
　　３．がん教育について
　　４．今後の予定
　　５．その他

第８回

開催日：令和７年１月 28 日（火）

議　題：１．各部会の報告

２．がん教育について

３．今後の予定

４．その他

第９回

開催日：令和７年２月 25 日（火）

議　題：１．各部会の報告

２．委員会規程について

３．各部会の担当者について

４．今後の予定

５．その他

①「がん患者に対する適切な意思決定の指針」について

研修運営委員会

委員会開催

日　時：令和 6 年 4 月 10 日

議　題：1. 新研修医の紹介

2. 研修進捗状況

3. 一般外来の研修について

4. その他

・臨床研修医のための臨床研修 Web セミナー

・研修医パンフレットの制作

・ICLS コース開催について

・学生対象の合同就職説明会

日　時：令和 6 年 5 月 8 日

議　題：1. 研修進捗状況

2. 経験症例登録状況

3. 臨床研修費等補助金

4. その他

・次年度の研修医の募集定員について

・4/29（月）マイナビレジデントフェスティバルについて

日　時：令和 6 年 6 月 12 日

議　題：1. 研修進捗状況

2. 経験症例登録状況

3. 採用試験（令和 7 年度 4 月研修開始）について

4. その他

・外部委員の委嘱（研修管理委員会に入っていない先生にお願いする必要がある）

・評価方法の見直し

・広域連携型プログラムの設置（令和 8 年度臨床研修開始）

・プログラム責任者からの面談報告（対象者：1 年目研修医）

日　時：令和 6 年 7 月 10 日

議　題：1. 研修進捗状況

2. 採用試験応募状況について

3. その他

・研修医の当直について

・インシデントレポートの提出について
・１年目の自由選択について

日　時：令和６年８月 14 日
議　題：1．研修進捗状況
2．採用試験応募状況について
3．その他
・JCEP 更新書面調査　（すべての認定病院が２年ごとに実施する調査）
・研修管理委員会（書面）の開催について
・CVC/PICC ハンズオンセミナー研修

日　時：令和６年９月 11 日
議　題：1．研修進捗状況
2．採用試験応募状況について（初期研修医選考委員評定会の実施）
3．その他
・インシデントレポートの提出について
・退院サマリーの承認について
・研修の手引きの進捗確認について
・基本的臨床能力評価試験（General Medicine In-Training Examination：GM-ITE®□）

日　時：令和６年 10 月９日
議　題：1．研修進捗状況
2．2024 年度　医師臨床研修マッチング　中間公表
3．その他
・医師臨床研修における広域連携型プログラム
・インフルエンザワクチン接種について（対象：患者）
・研修医の宿日直回数について
・JCEP 更新書面調査　（すべての認定病院が２年ごとに実施する調査）

日　時：令和６年 11 月 13 日
議　題：1．研修進捗状況
2．令和７年度研修開始の研修医におけるマッチング結果について
3．その他
・インシデントレポートの提出について
・研修医の宿日直回数について
・JCEP 更新書面調査のアンケート協力について

・研修管理委員会の実施

日　時：令和 6 年 12 月 11 日
議　題：1. インシデントレポートの提出表彰式
2. 研修進捗状況
3. 広域型連携プログラムについて
4. その他
・臨床研修指導医の取得
・JCEP 更新書面調査 （すべての認定病院が 2 年ごとに実施する調査）
・宿日直の件

日　時：令和 7 年 1 月 8 日
議　題：1. 研修進捗状況
2. 基本的臨床能力評価試験（General Medicine In-Training Examination：GM-ITE®□）
3. JCEP 更新書面調査 （すべての認定病院が 2 年ごとに実施する調査）
4. その他
・「医師臨床研修指導ガイドライン」の一部改正について
・インシデントレポートの提出について

日　時：令和 7 年 2 月 12 日
議　題：1. 研修進捗状況
2. 令和 7 年度開始の研修医ローテーションについて
3. 臨床研修医の募集定員に係る大阪府ベース値について(令和 8 年度研修開始分)
4. その他
・インシデントレポートの提出について
・研修管理委員会
・研修医修了式

日　時：令和 7 年 3 月 12 日
議　題：1. 研修進捗状況
2. 令和 7 年度開始の研修医ローテーションについて
3. 令和 7 年度レジデント勉強会＆ミニレクチャー（ML）について
4. その他
・4/13（月）マイナビレジデントフェスティバル

研修管理委員会

書面会議

令和６年度　第１回研修管理委員会

１．研修医の研修進捗状況について（報告）

２．令和６年臨床研修プログラム（案）について

３．令和５年度臨床研修費等補助金（医師）交付決定額（報告）

４．令和７年度研修開始　募集定員及び研修医採用について（報告）

５．臨床研修の理念・基本方針の見直しについて

書面会議

令和６年度　第２回研修管理委員会

１．研修医の研修進捗状況について（報告）

２．令和７年度研修開始　研修医採用試験結果について（報告）

３．JCEP 更新書面調査　（すべての認定病院が２年ごとに実施する調査）（報告）

４．広域型連携プログラムについて（審議事項）

５．その他　今後の臨床研修協力施設についてのお願い（報告）

委員会開催（ハイブリッド）

令和６年度　第３回研修管理委員会

開催日：令和７年３月７日

１．研修管理委員長挨拶

２．令和７年４月採用予定研修医の紹介

３．次年度の研修について

４．１年目　研修状況報告

５．２年目　修了判定

６．その他

個人情報保護委員会

目　的

病院における個人情報保護の利用目的、運営及び管理に関すること、固有個人情報の開示等の決定判断に関すること、その他病院における個人情報保護に関することを審議する。

委員会開催

第 1 回

開催日：令和 6 年 6 月 27 日

議題：1. 個人情報の漏えいについて

①VPP 契約における症例報告を電子メールで送信する際に個人情報を削除せずに送信していた件

2. その他（個人情報保護にかかる研修会の開催について）

第 2 回

開催日：令和 6 年 12 月 25 日

議題：1. 個人情報の漏えいについて

①VPP 契約における症例報告を電子メールで送信する際に個人情報を削除せずに送信していた件

②当院の保育業務委託業者がサイバー攻撃を受けた件

2. 個人情報の取り扱いにかかる不備について

①眼科手術時に手術予定表をスマホで撮影していた件

②装具会社が電子カルテを閲覧していた件

3. その他（個人情報保護にかかる研修会の開催について）

研修会開催

第 1 回

開催日：令和 6 年 4 月 1 日

医療機関における個人情報の保護について

講師：総務管理課長　萩原大介

第 2 回

開催日：令和 7 年 1 月 14 日～2 月 28 日

個人情報の適正な取り扱いにかかる研修（WEB 研修）

広報委員会

目　的

病院の広報に関することを検討する。

主に院内広報誌、院外広報誌、Web サイトの掲載内容について検討する。

委員会開催

第 1 回

開催日：令和 6 年 7 月 4 日

議　題：①院外広報誌の掲載記事について（令和 6 年 8 月発行予定分）

②病院パンフレット（病院のご案内）改訂について

③LINE 公式アカウントの開設について

④地域医療連携だよりの発行について

第 2 回

開催日：令和 6 年 11 月 15 日

議　題：①院外広報誌について（令和 7 年 1 月発行予定分）

②院内広報誌について（令和 7 年 3 月発行予定分）

③病院パンフレットについて

④LINE 公式アカウントの報告

⑤地域医療連携だよりの発行について

活動実績

・日赤の森（院外広報誌）117 号、118 号発行

・地域医療連携だより（院外広報誌）99 号、100 号、101 号発行

・にっせきたかつき（院内広報誌） 265 号発行

・LINE 投稿　月 2 回（1 日・15 日）

・クローズアップ NOW　健康医療先進都市たかつき（ケーブル TV・高槻保健所）

・本日はダイアンなり（TV・ABC 朝日放送）

図書委員会

目　的

図書室の運用及びそれに関する事項について審議する。

委員会開催

第 1 回

開催日　令和 6 年 11 月 18 日（月）

議　題

①令和 7 年度予算案について

医の倫理委員会

目　的

当院で行われるヒトを対象とした医学の研究及び臨床応用についての「医の倫理」に関する事項をヘルシンキ宣言（2013 年 WMA フォルタレザ総会修正）の趣旨に添い審議することを目的とする。

書類審議

第 1 回

開催日：令和 6 年 5 月 1 日

議　題：70 歳以上の高齢びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫患者を対象とした高齢者機能評価の意義を明らかにするための多施設前方視的観察研究
（血液腫瘍内科）

第 2 回

開催日：令和 6 年 6 月 3 日

議　題：①全周性食道 ESD（Endoscopic Submucosal Dissection）の治療成績と狭窄発生率・拡張回数・拡張術からの離脱率の検討　（消化器内科）
②当院における胆道癌に対するゲムシタビン・シスプラチン・デュルバルマブ（GCD）療法の治療成績と免疫介在有害事象についての検討（消化器内科）

第 3 回

開催日：令和 6 年 8 月 1 日

議　題：①びまん性肺疾患の疫学およびバイオマーカーに関する研究（呼吸器内科）
②血液内科入院患者における複数回転倒事例の実態　（看護部）

第 4 回

開催日：令和 6 年 8 月 9 日

議　題：乳児期における母子の口腔内細菌叢と小児アレルギー研究　（顧問）

第 5 回

開催日：令和 6 年 10 月 1 日

議　題：①Pembrolizumab 療法と皮膚障害の関係性について　（薬剤部）
②高用量オピオイドからメサドンへの切り替えが奏功した一症例（薬剤部）

第 6 回

開催日：令和 6 年 10 月 15 日

議　題：気管支拡張症患者に対する在宅ハイフローセラピーの有効性と安全性に関する多施設ランダム化比較試験　（呼吸器内科）

第 7 回

開催日：令和 7 年 2 月 1 日

議　題：Atezolizumab 療法と皮膚障害の関係性について　（薬剤部）

臨床倫理委員会

目　的

臨床における倫理的な判断が困難な症例に関すること、臨床的課題に対し、病院としての見解が必要と判断されること、その他、臨床における倫理的判断が困難な事例に関することを審議する。

委員会開催

開催なし。

業務改善委員会

目　的

医療従事者の負担の軽減及び処遇の改善に取り組み、計画及び評価することを目的とする。

活動実績

令和６年度は１回開催した。委員会開催日と議題は以下のとおりである。

第１回

開催日：令和７年３月６日（木）

議　題：１．委員会規程について

２．医師労働時間短縮計画について

３．医師事務作業補助体制加算について

４．医療従事者にかかる負担軽減の取り組み計画及び経年評価について

５．今後の予定

ハラスメント防止委員会

委員会開催

第1回：令和7年1月17日（金）

議　題：1. パワーハラスメント事案について

2. その他

第2回：令和7年3月27日（木）

議　題：1. パワーハラスメント事案について

2. その他

労働安全衛生委員会

委員会開催

日　時　令和６年４月16日(火)
議　案　１．時間外勤務45時間超　職種別人数報告
　　２．メンタルヘルス病欠者について
　　３．ストレスチェックについて
　　４．その他

日　時　令和６年５月28日(火)
議　案　１．時間外勤務45時間超　職種別人数報告
　　２．メンタルヘルス病欠者について
　　３．ストレスチェックについて
　　４．職員定期健康診断について
　　５．その他

日　時　令和６年６月18日(火)
議　案　１．時間外勤務45時間超　職種別人数報告
　　２．メンタルヘルス病欠者について
　　３．職員定期健康診断について
　　４．その他
日　時　令和６年７月16日(火)
議　案　１．時間外勤務45時間超　職種別人数報告
　　２．メンタルヘルス病欠者について
　　３．職員定期健康診断について
　　４．ストレスチェックについて
　　５．その他
日　時　令和６年８月27日(火)
議　案　１．時間外勤務45時間超　職種別人数報告
　　２．メンタルヘルス病欠者について
　　３．作業環境測定の結果について
　　４．ストレスチェックについて
　　５．その他

日　時　令和６年９月17日(火)

議　案　１．時間外勤務45時間超　職種別人数報告
　　２．メンタルヘルス病欠者について
　　３．勤務評定制度にかかる作業環境測定結果報告について
　　４．その他

日　時　令和６年10月15日(火)

議　案　１．時間外勤務45時間超　職種別人数報告
　　２．メンタルヘルス病欠者について
　　３．インフルエンザワクチンについて
　　４．メンタルヘルス研修について
　　５．その他

日　時　令和６年11月19日(火)

議　案　１．時間外勤務45時間超　職種別人数報告
　　２．メンタルヘルス病欠者について
　　３．インフルエンザワクチンについて
　　４．その他

日　時　令和６年12月17日(火)

議　案　１．時間外勤務45時間超　職種別人数報告
　　２．メンタルヘルス病欠者について
　　３．インフルエンザワクチンについて
　　４．その他

日　時　令和７年１月22日(水)

議　案　１．時間外勤務45時間超　職種別人数報告
　　２．メンタルヘルス病欠者について
　　３．冬の健康診断について
　　４．職員の抗体価について
　　５．その他

日　時　令和 7 年 2 月 18 日(火)

議　案　1．時間外勤務 45 時間超　職種別人数報告
2．メンタルヘルス病欠者について
3．冬の健康診断について
4．職員の抗体価について
5．茨木労働基準監督署による立入調査について
6．その他

日　時　令和 7 年 3 月 12 日(水)

議　案　1．時間外勤務 45 時間超　職種別人数報告
2．メンタルヘルス病欠者について
3．2024 年度ストレスチェック結果のうち職員全体結果について
4．その他

防火防災･災害対策委員会

目　的

当院における防火防災の徹底を図り、火災その他の災害による人的・物的被害を軽減すること、及び日本赤十字社災害救護体制要綱、日本赤十字社大阪府支部災害救護体制要綱、高槻赤十字病院ＢＣＰ災害対策ガイドライン及び高槻赤十字病院災害救護要綱の定めるところに基づき、災害時における災害救護体制に関する事項を審議することを目的とする。

委員会開催

第１回

開催日：令和６年８月１日（木）

議　題：①令和６年度　災害訓練について

②令和６年度　消防訓練について　～夜間における当直体制下の訓練～

③その他

第２回

開催日：令和６年８月27日（火）

議　題：①台風10号接近に伴う病院機能維持について

◆飛来物対策について

◆公共交通機関運休による影響について

◆業務委託先の業務継続について

◆各課部の災害時病院機能維持について

②停電時の診療機能維持について

第３回

開催日：令和６年８月29日（木）

議　題：①台風10号接近に伴う病院機能維持について

◆職員の出退勤状況、日当直対応について

◆委託業務について

②休日の予定入院患者の対応について

③【時間外】停電発生緊急連絡網について

◆安否確認ツールの活用について

④その他懸念事項について

第４回

開催日：令和６年10月７日（火）

議　題：①新型インフルエンザ等感染症発生時における診療継続計画（BCP）について

②令和６年度消防訓練について（夜間における通報・避難・消火訓練）

消防訓練開催

第１回　　新入職員対象消防訓練

開催日：令和６年４月４日（木）９時05分～11時50分

目　的：新入職員に対し消火・避難訓練を行い自衛消防意識の向上を図る

内　容：①粉末ABC10型消火器（９本）を使用する消火訓練

②3人1組での屋内消火栓を使用する消火訓練

③担架や毛布を利用する搬送・避難誘導訓練

第２回　　全職員対象消防訓練（高槻北消防署予防係）

開催日：令和７年１月24日（金）15時00分～16時00分

目　的：当直体制下での通報・避難・消火訓練

想　定：夜間の出火を想定した総合訓練

内　容：①消防計画に基づく通報訓練

②少数での患者の避難誘導

③消火器及び消火栓を使用した模擬消火訓練

患者サービス向上委員会

目　的

患者サービス向上委員会は医療や患者へのサービスの充実を図り、患者の満足度や職員のモラルを高めることを目的とします。

委員会開催

原則月 1 回、第 4 水曜日 15 時開始

○第 60 回患者サービス向上委員会（今年度 1 回目）
令和 6 年 5 月 13 日（水）
外来待ち時間調査の結果について検討
今年度の計画・委員会の運営について検討

○第 61 回患者サービス向上委員会（2 回目）
令和 6 年 7 月 3 日（水）
外来待ち時間調査の結果について検討
令和 6 年度スケジュールについて検討

○第 62 回患者サービス向上委員会（3 回目）
令和 6 年 8 月 28 日（水）
令和 6 年度患者満足度調査について検討
令和 6 年度研修会内容について検討

○第 63 回患者サービス向上委員会（4 回目）
令和 6 年 9 月 26 日（水）
令和 6 年度研修会内容について検討
令和 6 年度入院・外来患者アンケートの実施方法について検討
令和 6 年度職員満足度調査について検討

○第 64 回患者サービス向上委員会（5 回目）
令和 6 年 10 月 30 日（水）
令和 6 年度研修会の役割分担について検討
令和 6 年度職員満足調査の実施方法について検討
キャンドルサービス実施について検討

○第 65 回患者サービス向上委員会（6 回目）
令和 6 年 11 月 27 日（水）
令和 6 年度研修会アンケート結果について報告
キャンドルサービス開催日・人員募集について検討

○第 66 回患者サービス向上委員会（7 回目）
令和 7 年 1 月 29 日（水）
令和 6 年度職員満足調査の結果について報告
検食の実施日程について報告

○第 67 回患者サービス向上委員会（8 回目）
令和 7 年 3 月 12 日（水）
令和 6 年度入院・外来患者アンケートの結果について結果報告
※日本ホスピタルアライアンス（NHA）事務局より説明
令和 6 年度職員満足調査の結果内容について検討

その他の活動実績
○患者満足度調査の実施
（入院）
調査期間　：令和 6 年 9 月 17 日（月）～300 部配布終了まで
調査対象者：令和 6 年 9 月 17 日以降に退院される患者に配布
（外来）
調査期間　：令和 6 年 9 月 17 日（月）～200 部配布終了まで（紙）
令和 6 年 9 月 17 日（月）～令和 6 年 10 月 15 日（火）（QR コード）
調査対象者：外来受診患者

○職員満足度調査の実施
調査期間　：令和 7 年 1 月 14 日（火）～令和 7 年 1 月 27 日（月）

○研修会の実施
開催日：令和 6 年 11 月 20 日(水)
内容　：高齢者疑似体験について

○キャンドルサービスの実施
開催日：令和 6 年 12 月 19 日（木）

病床管理運営委員会

理　念

病床は経営における重要な資源である。原則、全病床は全科共通のものであることを認識し医師及び看護師は常に効率的な入退院を心掛けなければならない。

目　的

病床を一元管理し、入院から退院まで円滑かつ効果的に運用することを目的とする。

委員会開催

日　時：令和６年４月11日(木)

1　一日平均入院稼動数について
2　入院患者延数日毎について
3　病棟別一日平均入院稼働数について
4　診療科別病床目標達成率について
5　一日平均新入院患者数について
6　診療科別新入院数について
7　診療科別一日平均新入院数について
8　平均在院日数について
9　クリーン病床の稼動について
10　HCU病床の稼動について
11　緩和ケア病床の稼動について
12　その他

日　時：令和６年５月９日(木)

1　一日平均入院稼動数について
2　入院患者延数日毎について
4　診療科別病床目標達成率について
5　一日平均新入院患者数について
6　診療科別新入院数について
7　平均在院日数について
8　クリーン病床の稼動について
9　HCU病床の稼動について
10　緩和ケア病床の稼動について
11　その他

日　時：令和６年６月13日(木)

1　一日平均入院稼動数について
2　入院患者延数日毎について
3　一日平均新入院患者数について
4　診療科別新入院数について
5　診療科別一日平均新入院数について
6　医師一人当たり診療科別一日平均新入院数について
7　診療科別病床目標達成率について
8　イントラ掲載病床目標達成色分け区分変更(案)について
9　クリーン病床の稼動について
10　HCU病床の稼動について
11　緩和ケア病床の稼動について
12　その他

日　時：令和６年７月11日(木)

1　一日平均入院稼動数について
2　入院患者延数日毎について
3　診療科別病床目標達成率について
4　一日平均新入院患者数について
5　診療科別日々の新入院数について
6　診療科別一日平均新入院数について
7　医師一人当たり診療科別一日平均新入院数について
8　クリーン病床の稼動について
9　HCU病床の稼動について
10　緩和ケア病床の稼動について
11　その他

日　時：令和６年８月

休会

日　時：令和６年９月12日(木)

1　診療科別病床目標達成率について
2　一日平均入院稼動数について
3　診療科別一日平均新入院数について
4　一日平均新入院患者数について
5　平均在院日数(月別)について
6　DPC退院情報について

7　診療科別DPC入院期間Ⅰ+Ⅱ割合について
8　クリーン病床の稼動について
9　HCU病床の稼動について
10　緩和ケア病床の稼動について
11　その他

日　時：令和６年10月10日(木)
1　診療科別病床目標達成率について
2　一日平均入院稼動数について
3　病棟別一日平均入院稼動数について
4　診療科別一日平均新入院数について
5　一日平均新入院患者数について
6　病棟別一日平均新入院患者数について
7　診療科別平均在院日数について
8　平均在院日数(月別)について
9　クリーン病床の稼動について
10　HCU病床の稼動について
11　緩和ケア病床の稼動について
12　その他

日　時：令和６年11月14日(木)
1　診療科別病床目標達成率について
2　一日平均入院稼動数について
3　病棟別一日平均入院稼動数について
4　診療科別一日平均新入院数について
5　一日平均新入院患者数について
6　病棟別一日平均新入院患者数について
7　診療科別平均在院日数について
8　平均在院日数(月別)について
9　クリーン病床の稼動について
10　HCU病床の稼動について
11　緩和ケア病床の稼動について
12　令和5年病院運営実態分析調査の概要データについて
13　その他

日　時：令和６年12月12日(木)

1　診療科別病床目標達成率について
2　一日平均入院稼動数について
3　病棟別一日平均入院稼動数について
4　一日平均新入院患者数について
5　平均在院日数(月別)について
6　クリーン病床の稼動について
7　HCU病床の稼動について
8　緩和ケア病床の稼動について
9　その他

日　時：令和７年１月９日(木)

1　診療科別病床目標達成率について
2　一日平均入院稼動数について
3　病棟別一日平均入院稼動数について
4　一日平均新入院患者数について
5　入院数と退院数について
6　平均在院日数(月別)について
7　クリーン病床の稼動について
8　HCU病床の稼動について
9　緩和ケア病床の稼動について
10　その他

日　時：令和７年２月６日(木)

1　入院患者延数日毎について
2　一日平均入院稼動数について
3　病棟別一日平均入院稼動数について
4　診療科別病床目標達成率について
5　一日平均新入院患者数について
6　日別入院数と退院数について
7　平均在院日数(月別)について
8　診療科別平均在院日数について
9　クリーン病床の稼動について
10　HCU病床の稼動について
11　緩和ケア病床の稼動について
12　その他

日　時：令和７年３月13日(木)

1　入院患者延数日毎について
2　一日平均入院稼動数について
3　病棟別一日平均入院稼動数について
4　診療科別病床目標達成率について
5　一日平均新入院患者数について
6　平均在院日数(月別)について
7　日別入院数と退院数について
8　クリーン病床の稼動について
9　HCU病床の稼動について
10　緩和ケア病床の稼動について
11　本社と病院との確認事項について
12　その他

病床再編成検討・検証委員会

目　的

当院の将来構想に基づき、短期・中期の病棟再編成を検討・検証する。

委員会開催

第 1 回

開催日：令和 7 年 2 月 28 日（金）

議　題：令和 6 年度医療施設等経営強化緊急支援事業に伴う病床数の再編について

活動実績

委員会開催（議題は以上のとおり）

教育・研修推進委員会

委員会開催

第１回：令和6年6月3日（月）

議　題：1. eラーニングツールの使用について

2. BLSの年間計画について

3. その他

第２回：令和7年3月3日（月）

議　題：1. 令和7年度 新規採用者研修について

2. 令和7年度 新規採用臨床研修医研修会について

3. 個人情報保護に関する誓約書について

4. BLS研修について

5. その他

病院機能評価受審委員会

目　的

病院機能評価を受審し、その認定を取得することにより病院機能の向上を図ることを目的とする

委員会開催

第 12 回

開催日：令和 6 年 4 月 26 日

議　題：1. 記録担当者及び SV 案内担当者について

2. 各領域の進捗状況について

3. 当日準備資料について

第 13 回

開催日：令和 6 年 6 月 5 日

議　題：1. 病院機能評価受審の総括及び今後の流れについて

第 14 回

開催日：令和 6 年 7 月 29 日

議　題：1. 病院機能評価に関する「中間的な結果報告」について

2.「中間的な結果報告」受領後の手続き及びスケジュールについて

活動実績

・令和 6 年 5 月 21 日～22 日　病院機能評価（一般病院 2 3rdG:Ver.3.0）を受審

・令和 6 年 7 月 24 日　「補充的な審査」を受審（書類等による審査）

・令和 6 年 12 月 6 日　病院機能評価（一般病院 2 3rdG:Ver.3.0）の認定取得

訪問看護ステーション運営委員会

目　的

訪問看護ステーションの健全な運営を推進すること、病院との連携を円滑に行うこと

委員会開催：２か月に１回開催

第１回：令和６年４月25日（木）

議　題：1. 現状報告

2. 診療報酬改定から今後の訪問看護ステーションの運営を説明

3. ステーションの困りごと・要望

4. その他：定例開催日時の決定

第２回：令和６年６月27日（木）

議　題：1. 現状報告

2. 2024年度の目標と戦略

3. その他：・Webサイトへの資料公開の承認・委員会の規定の変更

第３回：令和６年８月22日（木）

議　題：1. 現状報告

2. 個人情報保護に関する基本方針他、改正（案）について

3. その他：①オンライン認証・請求システム構築に係る進歩状況

②オンコール体制確保のための人員補充

③訪問看護ステーションの広報活動について

第４回：令和６年10月24日（木）

議　題：1. 現状報告

2. オンライン請求・オンライン資格確認について

3. その他：広報活動について：管理者が営業活動に出る

看護師の補充について

看護学生の実習受け入れについて

第５回：令和６年12月26日（木）

議　題：1. 現状報告

2. 人材確保について

3. その他：身体拘束適正化に関する指針・委員会等の整備について

オンライン認証・請求システム構築に係る進歩状況

年末年始の体制について

第６回：令和７年２月27日（木）

議　題：1. 現状報告

2. 身体拘束適正化のための体制整備について

3. その他： オンライン認証・請求システム構築に係る進歩状況

Ⅷ　誌上・講演発表

《誌　上》

血液・腫瘍内科

論文発表

著　者	題　名	誌名・巻(号):頁	発 行 日
Yoshikazu Ikoma, Nobuhiko Nakamura, Yuto Kaneda, Hiroyuki Takamori, Tomokazu Seki, Nobuhiro Hiramoto, Junichi Kitagawa, Junya Kanda, Kei Fujita, Tetsuji Morishita, Yotaro Ochi, Shigeru Chiba, Nana Sasaki, Michiko Ichii, Kazunori Imada, Mizuki Watanabe, Masakatsu Hishizawa, Yasuko Miyahara, Yoshitomo Maesako, Yasuhiro Tanaka, Satoko Oka, Masaaki Tsuji, Satoshi Yoshihara, Kinuko Mitani, Yasunori Ueda, Toshiyuki Kitano, Mitsumasa Watanabe, Nobuo Sezaki, Tadakazu Kondo, Senji Kasahara, Akifumi Takaori-Kondo, Nobuhiro Kanemura, Seishi Ogawa & Yasuhito Nannya	Impact of myelodysplasia-related gene mutations and residual mutations at remission in venetoclax	azacitidine for AML.Leukemia. 2025.Apr.	

消化器科

原　著

著　者	題　名	誌名・巻(号):頁	発 行 日
Munenori Kawai, Akihisa Fukuda, Ryo Otomo, Shunsuke Obata, Kosuke Minaga, Masanori Asada, Atsushi Umemura, Yoshito Uenoyama, Nobuhiro Hieda, Toshihiro Morita, Ryuki Minami, Saiko Marui, Yuki Yamauchi, Yoshitaka Nakai, Yutaka Takada, Kozo Ikuta, Takuto Yoshioka, Kenta Mizukoshi, Kosuke Iwane, Go Yamakawa, Mio Namikawa, Makoto Sono, Munemasa Nagao, Takahisa Maruno, Yuki Nakanishi, Mitsuharu Hirai, Naoki Kanda, Seiji Shio, Toshinao Itani, Shigehiko Fujii, Toshiyuki Kimura, Kazuyoshi Matsumura, Masaya Ohana, Shujiro Yazumi, Chiharu Kawanami, Yukitaka Yamashita, Hiroyuki Marusawa, Tomohiro Watanabe, Yoshito Ito, Masatoshi Kudo and Hiroshi Seno	Early detection of pancreatic cancer by comprehensive serum miRNA sequencing with automated machine learning	Britishi Journal of Cancer. 131(7):1158-1168	2024 年

呼吸器科

論　文

著　者	題　名	誌名・巻(号):頁	発 行 日
Nishi K, Nagasaki T, Matsumoto H, Oguma T, Terada S, Nomura N, Kogo M, Tashima N, Sunadome H, Murase K, Matsumoto T, Kawaguchi T, Tabara Y, Matsuda F, Sato S, Chin K, Hirai T	Increased blood eosinophils and airflow obstruction as new-onset asthma predictors in the elderly: The Nagahama study	Allergol Int. 2024 Apr; 73(2):236-242.	2024 年 4 月
Kamata H, Takamatsu K, Fukunaga K, Chubachi S, Nakagawara K, Namkoong H, Terai H, Tanaka K, Sato S, Hagiwara E, Takei R, Kondoh Y, Takazono T, Hashimoto M, Tasaka S, Ohrui T, Tanino Y, Mineshita M, Komase Y, Miyazaki K, Nishikawa M, Ando A, Kita H, Ichihara E, Ohshimo S, Murata Y, Ishida M, Kobayashi S, Uchida T, Tateno H, Ikari J, Terashima T, Kozu Y, Tateishi T, Shinkai M, Sagara H, To Y, Ito Y, Yamamoto M, Yamamoto Y, Kita T, Ito Y, Tomii K, Fujita Y, Funaki Y, Yatera K, Yamasue M, Komiya K, Kozawa S, Manabe H, Hozumi H, Horiguchi T, Kitajima T, Nakano Y, Nagaoka T, Hojo M, Ebihara A, Kobayashi M, Takayama K, Jinta T, Sawai T, Fukuda Y, Kaneko T, Chin K, Ogura T, Mukae H, Ishii M, Yokoyama A	Pulmonary function and chest CT abnormalities 3 months after discharge from COVID-19, 2020-2021: A nation-wide multicenter prospective cohort study from the Japanese respiratory society	Respir Investig. 2024 Jul; 62(4):572-579.	2024 年 7 月

著　　者	題　　名	誌名・巻(号):頁	発 行 日
Nomura N, Matsumoto H, Asano K, Hayashi Y, Yokoyama A, Nishimura Y, Hashimoto N, Sakagami T, Fukunaga K, Hizawa N, Yamasaki A, Nagase H, Hattori N, ondo M, Harada N, Sugiura H, Miki M, Kimura T, Toyoshima M, Matsuno O, Koh H, Kita T, Tomioka H, Tomii K, Ohnishi H, Takata S, Tobino K, Imokawa S, Sunadome H, Nagasaki T, Oguma T, Tanabe N, Hirai T; BEXAS study	Refractory phenotype of Aspergillus-sensitized asthma with bronchiectasis and allergic bronchopulmonary aspergillosis	J Allergy Clin Immunol Glob. 2024 Nov 1;4(1):100364.	2024 年 11 月 1 日
山本晴香、 三﨑裕美子、 日詰健太郎、 村山恒峻、 野溝岳、 深田寛子、 北英夫	COVID-19 と呼吸困難について ― 挿管例 44 例での検討 ―	日赤医学 第 73 巻 2 号 308-310	2024 年

執　　筆

著　　者	題　　名	誌名・巻(号):頁	発 行 日
北 英夫	吸入指導	Jmed 89 あなたも名医！ ひとりでできるアレルギー診療 日本医事新報社	
北 英夫	終夜睡眠ポリグラフ検査	みんなの呼吸器 Respica 呼吸の検査と評価 これ 1 冊 MC メディカ出版	
北 英夫	息切れ	スペシャリスト伝授 ジェネラリストが診る 専門外の外来患者対応 中山書店	

皮膚科

単行本（分担）

著　　者	題　　名	誌名・巻(号):頁	発 行 日
Fukumi Furukawa	The Pathogenesis of Cutaneous Lupus Erythematosus Revealed through the Therapeutic Effects of Hydroxychloroquine	Advancement and New Understanding in Medical Science Vol. 6, BP International	2024 年

単行本（編集）

著　　者	題　　名	誌名・巻(号):頁	発 行 日
古川福実 神人正寿	The Pathogenesis of Cutaneous Lupus Erythematosus Revealed through the Therapeutic Effects of Hydroxychloroquine	南江堂	2024 年

medical note記事

著　　者	題　　名	誌名・巻(号):頁	発 行 日
古川福実	爪囲炎	Medical Note	
古川福実	血清病	Medical Note	
古川福実	くも状血管腫	Medical Note	
古川福実	亜急性皮膚エリテマトーデス	Medical Note	
古川福実	蕁麻疹	Medical Note	
古川福実	慢性蕁麻疹	Medical Note	
古川福実	慢性特発性蕁麻疹	Medical Note	

研究報告書・雑報・挨拶など

著　　者	題　　名	誌名・巻(号):頁	発 行 日
Fukumi Furukawa	Celebrating Dr. Norris' 50 Year Legacy	COMMEMO ebook	2024 年
Fukumi Furukawa	The Nobel Prize in Physiology or Medicine 2023 was awarded for discoveries concerning base modifications that enabled the development of effective mRNA vaccines against COVID-19	Trends in immunotherapy Vol. 8 No1	
古川福実	浜松医科大学人物列伝	2022-2023 年度京都大学大学院医学研究科皮膚科学年報、8：144-147	

著　　者	題　　名	誌名・巻(号):頁	発 行 日
古川福実 島本純子	高槻赤十字病院	22022-2023 年度京都大学大学院医学研究科皮膚科学年報、8：112-117	2024 年
古川福実	十が戻りました ― 高槻赤字病院から高槻赤十字病院へ ―	浜松医科大学皮膚科同門会木公会業績集 木公 vol.18、12-15	2024 年
古川福実	「明日への道」関西ブロック版 50 周年記念号によせて	「明日への道」全国膠原病友の会関西ブロック版 50 周年記念号、114-115	2024 年
古川福実	賢弟愚兄	秀 道広教授退任記念誌、広島大学大学院医系科学研究科皮膚科学編、32	2024 年
古川福実	松中成浩先生の思い出	和歌山県皮膚科医会会誌第 17 号、5-8	2024 年
古川福実	令和 4 年度 Master of Dermatology(マルホ) を受賞して (後半)	和歌山県皮膚科医会会誌第 17 号、9-13	2024 年
古川福実	論説 美容医療を考える	大阪府病院協会ニュース 648:4-5	2024 年

神経内科

原　　著

著　　者	題　　名	誌名・巻(号):頁	発 行 日
細川恭子、大井和起、 人見健文、三枝隆博、 中川朋一、池田昭夫	Epstein-Barr ウイルス脳炎後に間欠的に「不思議の国のアリス症候群」を生じ、てんかん発作との鑑別を要した成人例	臨床神経学 /64/383-389	2024 年

看護部

総 説 等

著　　者	題　　名	誌名・巻(号):頁	発 行 日
今戸美奈子	呼吸困難のアセスメントとケア 1．呼吸困難のアセスメント	みんなの呼吸器 Respica・22（2）：188-194.	2024 年 4 月
今戸美奈子	呼吸困難のアセスメントとケア 1．呼吸困難のアセスメント	みんなの呼吸器 Respica・22（2）：195-199.	2024 年 4 月
今戸美奈子	その人らしい生活の「これまで」と「これから」をつなぐコラボレーション	日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌・33（1-3）：23-25.	2024 年 11 月
今戸美奈子	呼吸にまつわるスケール（略語）一覧	みんなの呼吸器 Respica 2024 年冬季増刊・通巻 263：10-11.	2024 年 12 月

原　著

著　者	題　名	誌名・巻(号):頁	発 行 日
坂井志麻、岡佳子、 東めぐみ、今戸美奈子、 富田真佐子、近藤ふさえ、 今井由佳、宮澤初美	外来医療から在宅医療への移行期における看護師による患者・家族への支援と多職種連携	日本慢性看護学会誌・18(1):53-63.	2024 年 12 月

著 書(編著)

著　者	題　名	誌名・巻(号):頁	発 行 日
佐藤晋 今戸美奈子	みんなの呼吸器 Respica 2024年冬季増刊 まるごと学びなおし 呼吸の検査と評価 これ1冊!	メディカ出版	2024 年 12 月

その他(editorial)

著　者	題　名	誌名・巻(号):頁	発 行 日
Minako Imado, Michiko Morimoto	Leading women in respiratory clinical sciences: Letter from Japan	Respirology.30(5):452-454.	2025 年 3 月

《講　　演》

緩和ケア科

特別講演

氏　　名	演　　題	発表場所	開催地	月　日
池永昌之 橋本典夫	苦痛緩和のための鎮静	第 33 回三島圏域がん研究会	大　阪	2024 年 9月 12 日

学会・一般講演等

氏　　名	演　　題	発表場所	開催地	分　類	月　日
橋本典夫	全人的苦痛に対する緩和ケア	第8回市立ひらかた病院 緩和ケア研修会	市立ひらかた 病院	一般演題	2024 年 6月 29 日
橋本典夫	全人的苦痛に対する緩和ケア	第 9 回北河内緩和ケア研修会	独立行政法人 地域医療機能 推進機構 星ヶ丘医療 センター	一般演題	2024 年 9月 28 日
橋本典夫	全人的苦痛に対する緩和ケア	第 1 回 佐藤病院緩和ケア研修会	佐藤病院	一般演題	2024 年 12 月 21 日

血液・腫瘍内科

学会・一般講演等

氏　　名	演　　題	発表場所	開催地	分　類	月　日
前迫善智	血液の病気について	第8回市立ひらかた病院 緩和ケア研修会	高槻・ハイブ リッド開催	講　演	2024 年 6月 15 日
前迫善智	血液のがんについて	第 4 回三島医療圏がん拠点 病院合同市民公開セミナー	高槻・ハイブ リッド開催	講　演	2024 年 11 月 16 日

消化器科

学会・一般講演等

氏　　名	演　　題	発表場所	開催地	分　類	月　日
二野宮功大、中森翔平 森英亜、平井美帆 矢倉伊織、奥野岳 松村大志朗、吉岡拓人 玉田尚、神田直樹	ADA 値が診断に有用であった 結核性腹膜炎の 1 例	第244回日本内科学会 近畿地方会	京　都	一般演題	2024 年 6月 29 日
森英亜、吉岡拓人 二野宮功大、髙木里沙 平井美帆、矢倉伊織 奥野岳、中森翔平 松村大志郎、玉田尚 神田直樹	慢性骨髄性白血病の治療中 に出現した多発性大腸 隆起性病変の 1 例	第 121 回消化器病学会 近畿支部例会	京　都	一般演題	2024 年 9月 28 日

氏　　名	演　　題	発表場所	開催地	分　類	月　日
二野宮功大、森英亜 平井美帆、髙木里沙 矢倉伊織、奥野岳 中森翔平、松村大志郎 吉岡拓人、玉田尚 神田直樹	盲腸 mucosa associated lymphoid tissue(MALT) リンパ腫を内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD) にて切除後、長期観察をしえた 1 例	第 121 回消化器病学会 近畿支部例会	京　都	一般演題	2024 年 9 月 28 日
平井美帆、二野宮功大 森英亜、矢倉伊織 奥野岳、中森翔平 松村大志郎、吉岡拓人 玉田尚、神田直樹	当院における全周性食道 ESD(Endoscopic Submucosal Dissection) の治療成績と狭窄発生率・拡張回数の検討	第 121 回消化器病学会 近畿支部例会	京　都	シンポジウム	2024 年 9 月 28 日
中森翔平、 神田直樹 玉田尚、吉岡拓人 松村大志郎、奥野岳 矢倉伊織、平井美帆	当院における胆道癌に対するゲムシタビン・シスプラチン・デュルバルマブ (GCD) 療法の治療成績と免疫介在有害事象についての検討	第 121 回消化器病学会 近畿支部例会	京　都	シンポジウム	2024 年 9 月 28 日
吉岡拓人、二野宮功大 森英亜、髙木里沙 平井美帆、奥野岳 矢倉伊織、中森翔平 松村大志郎、玉田尚 神田直樹	我が国で肝腫瘍穿刺焼灼療法時の人工胸腹水作成に使用される穿刺針の比較検討	第 26 回関西肝癌局所治療研究会	大　阪	一般演題	2025 年 3 月 1 日

呼吸器外科

学会・一般講演等

氏　　名	演　　題	発表場所	開催地	分　類	月　日
進藤友喜	術側肺動脈径と術後合併症との関連性	軽井沢プリンスホテル ウエスト	長　野	一般演題	2024 年 5 月 30 日
進藤友喜	正中切開後縦隔炎に対して大網充填術ガ奏功した一例	ホテル東日本宇都宮	栃　木	一般演題	2024 年 11 月 20 日

呼吸器科

座長・司会

氏　　名	演　　題	発表場所	開催地	分　類	月　日
北英夫	座長	Severe Asthma Symposium ～airway hyperresponsiveness～		座　長	2024 年 12 月 5 日
北英夫	座長	第 7 回がん免疫療法実践セミナー		座　長	2025 年 2 月 9 日
北英夫	座長	大阪呼吸ケア研究会	大　阪	座　長	2025 年 3 月 9 日

学会・一般講演等

氏　名	演　題	発表場所	開催地	分　類	月　日
野村奈都子、三﨑裕美子 日詰健太郎、山本晴香 深田寛子、中村保清 北英夫	当院における生物学的製剤使用喘息症例の臨床寛解に関する検討 / A survey of clinical remission of asthma with biologics in our hospital	第 64 回日本呼吸器学会 学術講演会	東　京	一般演題	2024 年 4 月 5 日
北英夫	Opening remarks	肺がん個別化医療を考える in MISHIMA	大　阪	開会挨拶	2024 年 5 月 18 日
野村奈都子、北英夫 三﨑裕美子、深田寛子 中村保清	当院における生物学的製剤使用難治性喘息症例の臨床的寛解に関する検討	第 32 回北摂 4 医師会医学会 総会	大　阪	一般演題	2025 年 6 月 8 日
北英夫	Opening remarks	肺がん治療のお困りごとを 解決する会	大　阪	開会挨拶	2024 年 6 月 30 日
三崎裕美子、野村奈都子 深田寛子、中村保清 北英夫	肺 Mycobacterium intracellulare 症経過中に肺食道瘻を発症した一例	第 103 回日本呼吸器学会 近畿地方会 第 7 回呼吸器ケア・リハビリテーション学会 近畿支部学術集会 合同学会	大　阪	一般演題	2025 年 6 月 8 日
野村奈都子、松本久子 浅野浩一郎、林優介 横山彰仁、西村善博、 砂留広伸、長崎忠雄 小熊毅、田辺直也 Bexas 研究班、平井豊博	気管支拡張症合併 Asperugillus fumigatus 感作喘息と ABPA における難治性フェノタイプ	第 73 回日本アレルギー学会 学術大会	京　都	一般演題	2024 年 10 月 18 日
三﨑裕美子	演題発表・ディスカッサント	Lung Cancer Up date Seminar		ディスカッサント	2024 年 11 月 16 日
三﨑裕美子	ディスカッサント	第 7 回 NextGeneration NSCLC Conference		ディスカッサント	2024 年 11 月 19 日
野村奈都子 三﨑裕美子	演題発表	第1回伏見MDD研究会	京　都	演題発表	2024 年 11 月 29 日
三﨑裕美子、野村奈都子 深田寛子、中村保清 北英夫	多発結節影を認めた Sarcoisosis の 2 例	第 104 回日本呼吸器学会 近畿地方会 第 8 回呼吸器ケア・リハビリテーション学会 近畿支部学術集会 合同学会	大　阪	一般演題	2024 年 11 月 29 日
北英夫	講師	三島医療圏COPD連携セミナー 特別講演II	大　阪	講　師	2024 年 11 月 30 日
北英夫	ディスカッサント	好酸球WEBシンポジウム ～アレルギー編～		ディスカッサント	2024 年 12 月 1 日
野村奈都子	ディスカッサント	Severe Asthma Symposium ～airway hyperresponsiveness～		ディスカッサント	2024 年 12 月 5 日
北英夫	opening remarks	POSEIDON masters Seminer		開会挨拶	2025 年 2 月 7 日
野村奈都子	講師	第7回がん免疫療法実践セミナー		講　師	2025 年 2 月 9 日

氏　　名	演　　題	発表場所	開催地	分　類	月　日
大西美帆、北英夫 三崎裕美子、野村奈都子 深田寛子、中村保清	術後横隔膜ヘルニアの２例	第 247 回日本内科学会 近畿地方会	京　都	一般演題	２０２５年 ３月８日
野村奈都子	講師・演題発表	第 22 回 Kinki Hokuriku Airway disease Conference	大　阪	演題発表	２０２５年 ３月 31 日
三崎裕美子、野村奈都子 深田寛子、中村保清 北英夫	多発結節影を認めた Sarcoisosis の２例	第 104 回日本呼吸器学会 近畿地方会 第８回呼吸器ケア ・リハビリテーション学会 近畿支部学術集会 合同学会	大　阪	一般演題	
古郷摩利子、佐藤 晋 室 繁郎、松本久子 林 優介、寺田 悟 西健太、野村奈都子 砂留広伸、長崎忠雄 村瀬公彦、高橋順美 高橋由光、川口 喬久 田原康玄、松田文彦 陳 和夫、平井豊博	Preserved ratio impaired spirometry における体脂肪 について	Nagahama cohort		一般演題	

外　科

座長・司会

氏　　名	演　　題	発表場所	開催地	分　類	月　日
平松昌子 共同座長:田尻達郎	司会 : 女性だからこそ外科医 を目指す－Sustainable な 外科診療のために－	第 124 回日本外科学会	常滑市	司　会	２０２４年 ４月 19 日
平松昌子 共同座長：岡住慎一	司会 : 食道	第 33 回日本癌病態治療研究会	唐津市	司　会	２０２４年 ５月 16 日
平松昌子	座長 : 食道・咽頭（診断 ・悪性度診断・手術治療）	JDDW 2024	神戸市	座　長	２０２４年 11 月１日
平松昌子 共同座長：島田光生	座長 : 働き方改革の導入から 新時代の外科へ タスクシフ ティング、チーム医療の 観点から（2）	第 86 回日本臨床外科学会	宇都宮市	座　長	２０２４年 11 月 21 日
平松昌子 共同座長：笠原幹司	座長 :「変えていかなあか ん！」医師の勤務環境改善 と男女共同参画（ダイバー シティ）の促進について	令和６年度 女性医師等の 勤務環境の整備に関する病院長、 病院開設者・管理者等への講習会	大阪市	座　長	２０２４年 12 月５日

特別講演

氏　　名	演　　題	発表場所	開催地	分　類	月　日
平松昌子	誰もが輝ける外科の未来へ 向けて	第45回同門会	高槻市	特別講演	２０２４年 12 月 22 日

学会・一般公演等

氏　名	演　題	発表場所	開催地	分　類	月　日
平松昌子	災害時におけるトリアージの実際	市立ひらかた病院 地域医療連携懇談会	枚方市		2024 年 5 月 25 日
平松昌子、池田徳彦 武富紹信、田尻達郎 掛地吉弘	ダイバーシティ推進への日本外科学会の取り組み	第 71 回日本麻酔学会	神戸市	シンポジウム	2024 年 6 月 7 日
園村純	小さな傷で治す鼠径ヘルニア	高槻赤十字病院 市民公開講座	高槻市		2024 年 6 月 15 日
小林稔弘 太田紅仁香 平松昌子	治療中乳癌の予後予測と好中球・リンパ球比 (NLR) 及びリンパ球絶対数 (ALC) 変化との関連性 / Neutrophil to lymphocyte ratio (NLR) and absolute lymphocyte count (ALC) as predictors of breast cancer prognosis	第 32 回日本乳癌学会	仙台市	ポスターディスカッション	2024 年 7 月 11 日
太田紅仁香 小林稔弘 平松昌子	肺転移を来した乳腺腺様嚢胞癌の一例	第 32 回日本乳癌学会	仙台市	e-Poster	2024 年 7 月 11 日 ～ 2024 年 7 月 13 日
園村純	手術ビデオ提示	第 15 回大阪医科薬科大学（OMPU）関連施設手術手技研究会	高槻市	一般講演	2024 年 7 月 20 日
平松昌子	災害大国日本で今、過去から学び未来に繋げる	令和 6 年度救急医療週間行事・記念講演会	枚方市	記念講演	2024 年 10 月 3 日
進藤友喜、石原宏弥 森田琢郎、河合俊哉 文元聰志、佐藤澄 平松昌子、花岡伸治 勝間田敬弘	正中切開後縦隔炎に対して大網充填術が奏功した一例	第 86 回日本臨床外科学会	宇都宮市	一般演題 32（口演）	2024 年 11 月 21 日
南裕樹、太田紅仁香 河合俊哉、園村純 恒松一郎、小林稔弘 平松昌子	2 方向からのアプローチ併用により虫垂切除とヘルニア修復術を 1 期的に施行した Amyand’ Hernia の一例	第 86 回日本臨床外科学会	宇都宮市	一般演題 28（口演）	2024 年 11 月 21 日
園村純、恒松一郎 小林稔弘、河合俊哉 太田紅仁香、南祐樹 平松昌子	単孔式 TEP 法における ProGripTM Laparoscopic Self-Fixating Mesh®（LPG）の使用経験と手術手技の工夫	第 86 回日本臨床外科学会	宇都宮市	一般演題 73（口演）	2024 年 11 月 22 日
河合俊哉、平松昌子 恒松一郎、小林稔弘 沼本諒、園村純 太田紅仁香	胃軸捻転を伴った成人 Bochdalek 孔ヘルニアの 1 例	第37回日本内視鏡外科学会	福岡市	ミニオーラル	2024 年 12 月 7 日
平松昌子	特別発言	第 61 回日本腹部救急医学会	名古屋市	パネルディスカッション	

皮膚科

座長・司会

氏　　名	演　　題	発表場所	開催地	分　類	月　日
西川深雪	座長: 夏に多い皮膚疾患	高槻茨木連携Webの会	高槻赤十字病院	座　長	2024 年 7 月 17 日

学会・一般公演等

氏　　名	演　　題	発表場所	開催地	分　類	月　日
西田美央、島本純子 深田寛、古川福実	免疫抑制患者に発症した Mycobacterium shigaense による皮膚非結核性抗酸菌症 の1例	第26回北摂皮膚科医会	ホテル グランビア大阪	一般演題	2024 年 4 月 20 日
西田美央、島本純子 古川福実	当院にて血管内大細胞型 B 細胞リンパ腫を疑いラン ダム皮膚生検を施行した 20 症例の臨床的検討	第 123 回日本皮膚科学会総会	京　都	一般演題	2024 年 6 月 6 日 ～ 2024 年 6 月 9 日
中村道子	夏に多いこどもの病気	高槻赤十字病院院内健康講座	高槻赤十字病院	講　演	2024 年 6 月 13 日
河上千尋	ドクター河上の熱中症のお話	高槻赤十字病院院内健康講座	高槻赤十字病院	講　演	2024 年 7 月 5 日
島本純子	夏に多い皮膚疾患	高槻茨木連携 Web の会	高槻赤十字病院	講　演	2024 年 7 月 17 日
大中玄彦	血圧の測り方	高槻赤十字病院院内健康講座	高槻赤十字病院	講　演	2024 年 9 月 6 日
島本純子	当院皮膚科での尋常性乾癬 の治療～アプレミラストの 使用経験を中心に～	オテズラ錠講演会	ホテル アベストグランデ 高槻	講　演	2024 年 10 月 3 日
古川福実	しみ・しわから美しい肌を 守るためのセルフケア	高槻赤十字病院院内健康講座	高槻赤十字病院	講　演	2024 年 10 月 4 日
西田美央、島本純子 古川福実	類天疱瘡様の皮疹を呈した 両側性下肢帯状疱疹	第 505 回日本皮膚学会 大阪地方会	オービックホール （ハイブリッド）	一般演題	2024 年 10 月 5 日
廣田智美、荒木孝一郎 坂口絵美、古川福実 渡邉千尋、太田紅仁香 小林稔浩	左腋下に発生した副乳癌の 一例	第 60 回日本赤十字社医学会 総会	仙台国際センター	一般演題	2024 年 10 月 16 日 ～ 2024 年 10 月 18 日
古川福実	しみ・しわから美しい肌を 守るためのセルフケア	第 51 回 命の科学フォーラム 市民公開講座	京都キャンパス プラザ京都	講　演	2024 年 12 月 15 日
古川福実、西田美央 島本純子、平井美帆	アトピー性皮膚炎に全結腸型 潰瘍性大腸炎が併発した 1 例	第 508 回日本皮膚学会 大阪地方会浅田教授退職記念	大阪市	一般演題	2025 年 3 月 2 日
村上能庸、川越愛以 細野貴行、西川有美 荻野文敏、馬場きみ江 谷口雅彦、古川福実	薄膜状基質を用いた室内環境 プロテアーゼ阻害化合物 の検討	日本薬学会第 145 年会	福岡国際会議場	一般演題	2025 年 3 月 26 日 ～ 2025 年 3 月 2 日

氏　　名	演　　題	発表場所	開催地	分　類	月　日
Ruth Ann Vleugels Francois Chasset Miriam Wittmann Fukumi Furukawa Joseph F Merola Teresa Tsakok Jessica Savage Ken Clark Marius Albulescu Nandana Prabhu Victoria Werth	Rationale and Study Design of the Phase 3 Trial of Anifrolumab in Adults With Cutaneous Lupus Erythematosus	American College of Rheumatology - ACR Convergence 2024		一般演題	

医療安全推進室

学会・一般講演等

氏　　名	演　　題	発表場所	開催地	分　類	月　日
中田祐二	当院の心理的安全と医療安全への取組み	日本赤十字社本社 医療安全管理者会議	東　京	発　表	2024 年 8 月 21 日
中田祐二	「踵のある靴をキチンと履こうキャンペーン」による転倒 3b 事例減少の試み	第 60 回日本赤十字社医学会総会	宮　城	一般演題	2024 年 10 月 18 日
中田祐二	医療安全研修会「医療安全におけるコミュニケーションの大切さとそのいくつかの方法」	水無瀬病院 医療安全研修会	大　阪	講　演	2025 年 2 月 19 日

看護部

学会・一般講演等

氏　　名	演　　題	発表場所	開催地	分　類	月　日
髙塚恵民 今戸美奈子	緩和ケア病棟看護師における STAS-J の認識とその活用の困難さ	第 29 回日本緩和医療学会学術大会 第 37 回日本サイコオンコロジー学会総会合同学術大会	神戸市	一般演題	2024 年 6 月 14 日
今戸美奈子	Nursing Skill で変わる !! 患者様の人生 - シームレスなより良いナーシングで患者様の well-being を支援しよう - 息切れとともに暮らすことにどう関わるか	第 6 回日本在宅医療連合学会大会	千　葉	シンポジウム	2024 年 7 月 20 日
西ひろみ、岸恵美 髙橋晶子	既卒看護師採用者の職場適応と定着に向けての支援	第 60 回日本赤十字社医学会総会	宮　城	一般演題	2024 年 10 月 27 日
今戸美奈子	在宅ハイフローセラピー導入の実際	三島医療圏 COPD 連携セミナー	大　阪	教育講演	2024 年 10 月 31 日
今戸美奈子	薬じゃない方法で息切れを緩和する! 呼吸困難への非薬物的アプローチ	第 35 回新潟呼吸ケアセミナー	新　潟	教育講演	2025 年 3 月 1 日

令和６年度　病院年報

発行日　令和８年３月
発行者　**高槻赤十字病院**
　　院長　玉田　　尚
　　〒569-1096
　　高槻市阿武野一丁目１番１号
　　☎（072）696-0571
編集者　経営企画課
印刷所　文祥堂株式会社